平成２６年度

自然共生調査（海生生物生育状況調査）

報　告　書

平成 26 年 9 月

いであ株式会社

目　　次

1 調査概要 1

1-1 調査名称 ---------- 1
1-2 目　的 ---------- 1
1-3 調査場所 ---------- 1
1-4 調査内容 ---------- 1
1-5 履行期間 ---------- 1
1-6 請負者 ---------- 1

2 調査方法 4

2-1 事前周知・手続き等 ---------- 4
2-2 坪刈りによる付着動植物調査 ---------- 4
2-3 目視による付着動植物調査 ---------- 7
2-4 遊泳魚類調査 ---------- 8
2-5 水質調査 ---------- 9
2-6 藻場分布調査 ---------- 10

3 調査結果 14

3-1 調査実施日 ---------- 14
3-2 坪刈りによる付着動植物調査 ---------- 15
3-2-1 植物（海藻） ---------- 15
(1) 神戸沖処分場 ---------- 15
(2) 大阪沖処分場 ---------- 16
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 17
3-2-2 動物（付着動物） ---------- 19
(1) 神戸沖処分場 ---------- 19
(2) 大阪沖処分場 ---------- 19
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 19
3-3 目視による付着動植物調査 ---------- 26
3-3-1 植物（海藻） ---------- 26
(1) 神戸沖処分場 ---------- 26
(2) 大阪沖処分場 ---------- 29
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 32
3-3-2 動物（付着動物） ---------- 36
(1) 神戸沖処分場 ---------- 36
(2) 大阪沖処分場 ---------- 39
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 42
3-4 遊泳魚類調査 ---------- 47
(1) 神戸沖処分場 ---------- 47
(2) 大阪沖処分場 ---------- 49
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 51

3-5 水質調査 ---------- 54
(1) 神戸沖処分場 ---------- 54
(2) 大阪沖処分場 ---------- 59
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 64
3-6 藻場分布調査 ---------- 69
3-6-1 代表地点における目視観察結果 ---------- 69
(1) 神戸沖処分場 ---------- 69
(2) 大阪沖処分場 ---------- 70
3-6-2 代表地点における定量採取結果 ---------- 72
(1) 神戸沖処分場 ---------- 72
(2) 大阪沖処分場 ---------- 74
3-6-3 藻場構成種等の化学組成（CNP）分析結果 ---------- 76
(1) 神戸沖処分場 ---------- 76
(2) 大阪沖処分場 ---------- 77
3-6-4 藻場分布状況 ---------- 78
(1) 神戸沖処分場 ---------- 78
(2) 大阪沖処分場 ---------- 106
4 結果のまとめ 134
4-1 付着動植物の状況 ---------- 134
(1) 神戸沖処分場 ---------- 134
(2) 大阪沖処分場 ---------- 138
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 142
4-2 遊泳魚類の状況 ---------- 146
(1) 神戸沖処分場 ---------- 146
(2) 大阪沖処分場 ---------- 146
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 146
4-3 水質等の状況 ---------- 147
(1) 神戸沖処分場 ---------- 147
(2) 大阪沖処分場 ---------- 147
(3) 泉大津沖処分場 ---------- 148
4-4 藻場分布の状況 ---------- 149
(1) 神戸沖処分場 ---------- 149
(2) 大阪沖処分場 ---------- 150
4-5 まとめ(要約) ---------- 151
4-5-1 神戸沖処分場 ---------- 151
4-5-2 大阪沖処分場 ---------- 152
4-5-3 泉大津沖処分場 ---------- 153

・資料編
・写真集

1 調査概要

1-1 調査名称

自然共生調査（海生生物生育状況調査）

1-2 目　的

本調査は、神戸沖処分場、大阪沖処分場及び泉大津沖処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として実施した。

1-3 調査場所

神戸沖処分場、大阪沖処分場及び泉大津沖処分場の護岸(図 1-1)

1-4 調査内容

調査内容を表 1-1 に示す。

表 1-1　調査内容

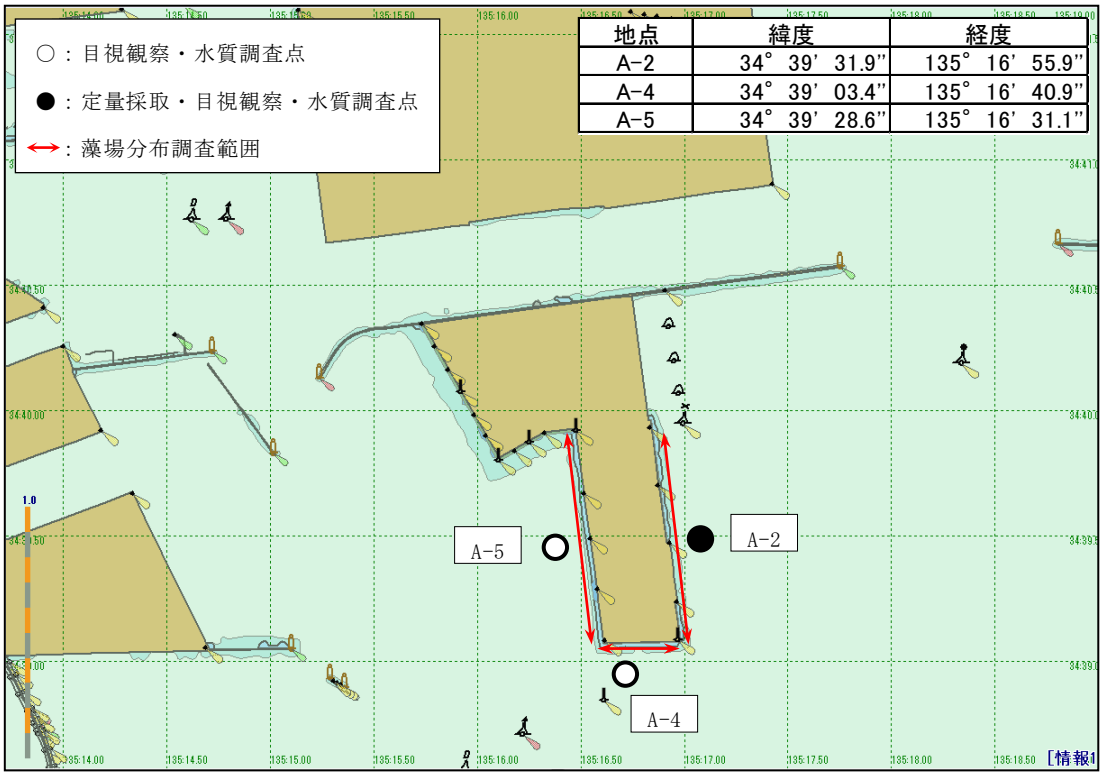
名　称	項　　目	単位	数量	摘　　要
計画・準備				
	計画準備	式	1	
調査実施				
	坪刈りによる付着動植物調査	地点	4	神戸、大阪 各 1 地点、泉大津 2 地点　1 回
	目視による付着動植物調査	地点	10	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 4 地点　1 回
	遊泳魚類調査	地点	10	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 4 地点　1 回
	水質調査	地点	9	神戸、大阪、泉大津 各 3 地点　1 回
	藻場分布調査	km	7.5	神戸 3.8km、大阪 3.7km　1 回
解析評価				
	調査結果等の解析評価	式	1	
	報告書の作成	式	1	

1-5 履行期間

自：平成 26 年 4 月 9 日　～　至：平成 26 年 9 月 30 日

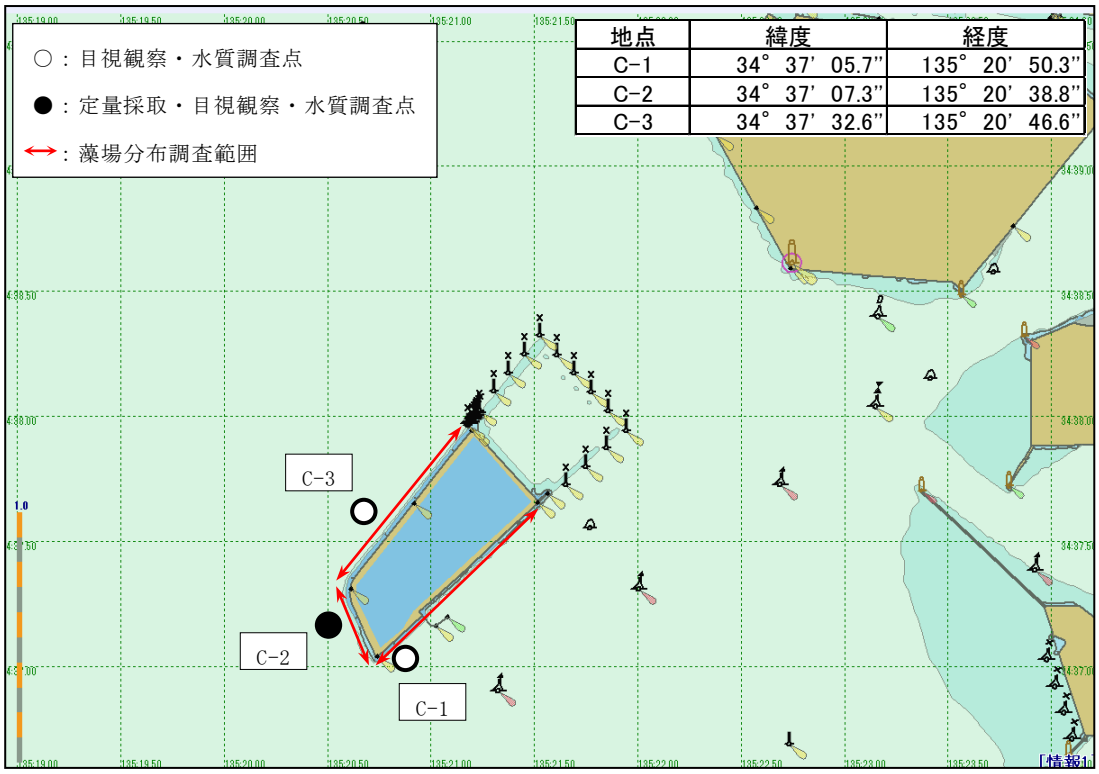
1-6 請負者

いであ株式会社　大阪支社



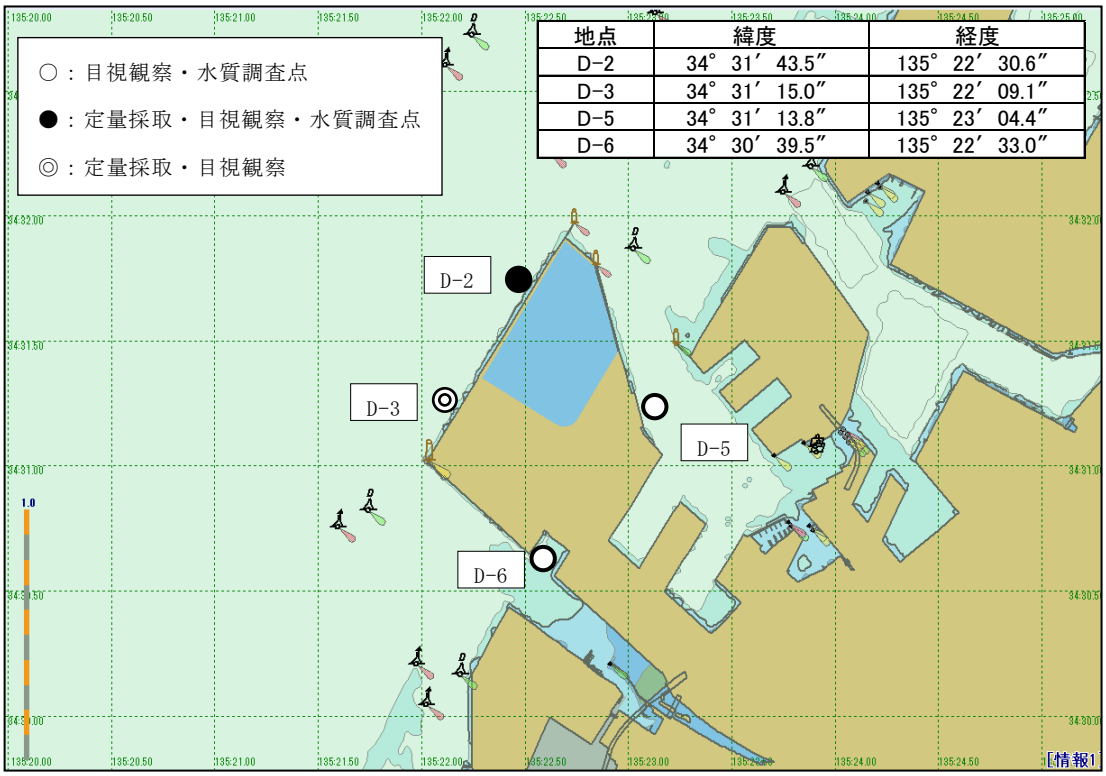
地点	緯度	経度
A-2	34° 39' 31.9"	135° 16' 55.9"
A-4	34° 39' 03.4"	135° 16' 40.9"
A-5	34° 39' 28.6"	135° 16' 31.1"

図 1-1（1）　調査位置図（神戸沖処分場）



地点	緯度	経度
C-1	34° 37' 05.7"	135° 20' 50.3"
C-2	34° 37' 07.3"	135° 20' 38.8"
C-3	34° 37' 32.6"	135° 20' 46.6"

図 1-1（2）　調査位置図（大阪沖処分場）



地点	緯度	経度
D-2	34° 31′ 43.5″	135° 22′ 30.6″
D-3	34° 31′ 15.0″	135° 22′ 09.1″
D-5	34° 31′ 13.8″	135° 23′ 04.4″
D-6	34° 30′ 39.5″	135° 22′ 33.0″

図 1-1（3）　調査位置図（泉大津沖処分場）

2 調査方法

2-1 事前周知・手続き等

関係機関に対して、調査実施に係る内容説明の周知を行った。また同時に、海上保安部（阪神港長宛）に対する港内作業許可申請、兵庫県および大阪府に対して特別採捕許可の申請を行った。

2-2 坪刈りによる付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖処分場 1 点（A-2）、大阪沖処分場 1 点（C-2）、泉大津沖処分場：2 点（D-2、D-3）の計 4 点において、坪刈りによる動植物の定量採取を行った。

各調査地点で鉛直方向の上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で、50cm×50cm の方形枠を設置し、水中カメラを用いて撮影後、採取した。現地で 1mm 目のフルイでふるい分けを行った後、試料容器に分取し持ち帰り、植物については種の同定、種類別湿重量の測定、CNP 組成分析、動物については種の同定、種類別個体数の計測、種類別湿重量の分析を行った。

表 2-1　坪刈りによる付着動植物調査　調査方法等

調査方法等		調査地点
植物（種の同定・種類別湿重量・CNP 組成） 動物（種の同定・種類別個体数・湿重量）	坪刈り水深（各点、3 層） 上層：平均海面±0m 中層：平均海面－2m 下層：平均海面－4m	神戸沖処分場：1 点（A-2） 大阪沖処分場：1 点（C-2） 泉大津沖処分場：2 点（D-2、D-3）

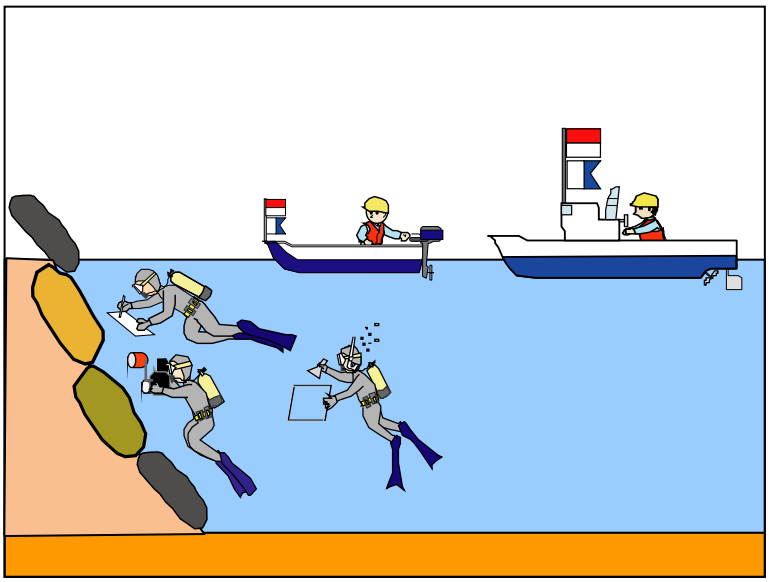
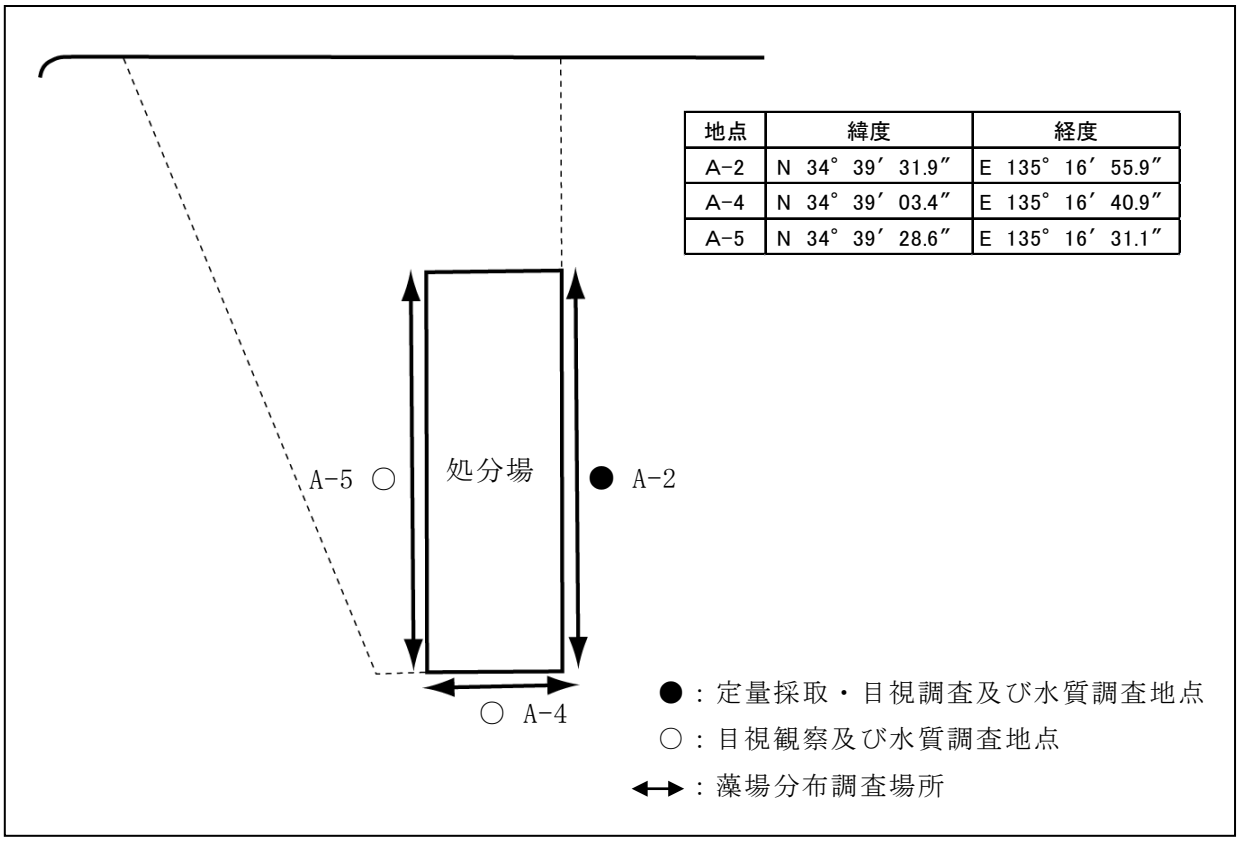
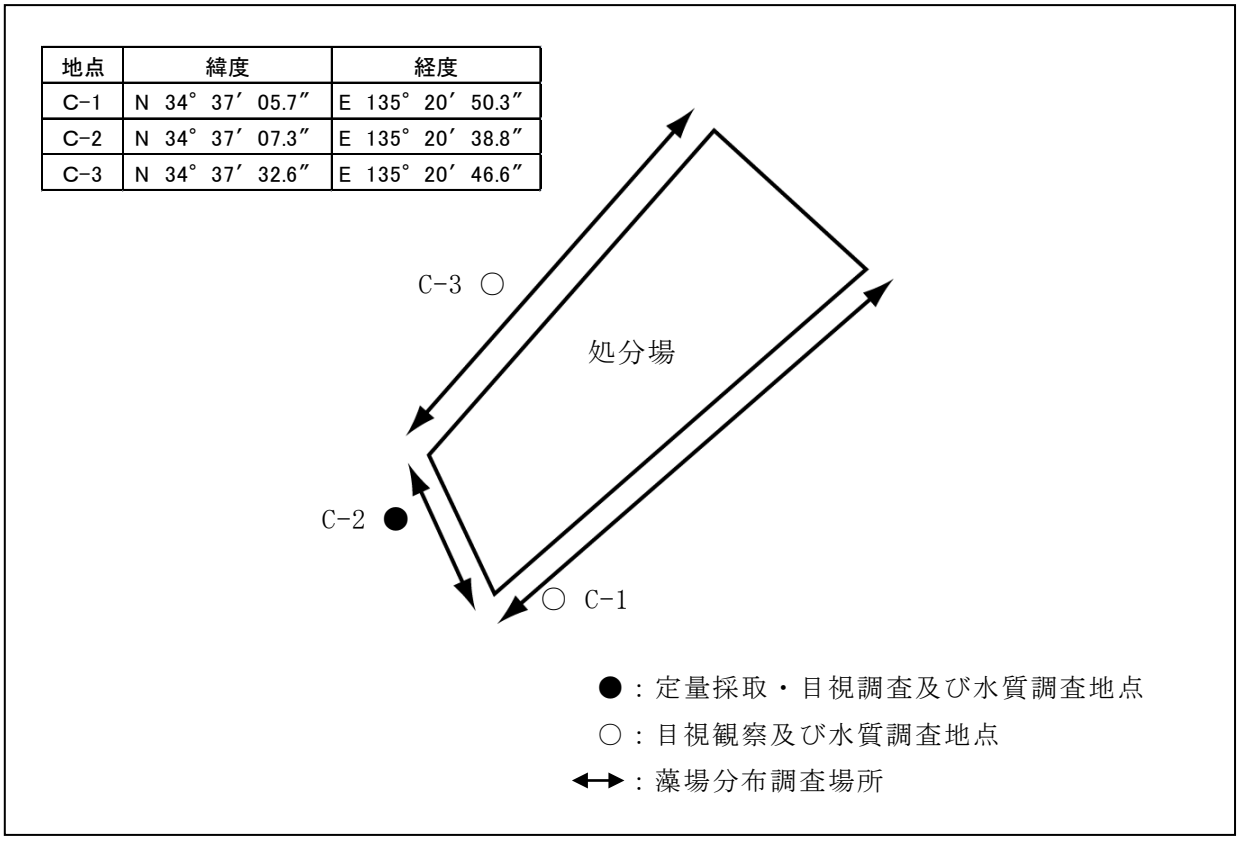


図 2-1　坪刈り、目視等潜水調査　実施状況模式図



地点	緯度	経度
A-2	N 34° 39′ 31.9″	E 135° 16′ 55.9″
A-4	N 34° 39′ 03.4″	E 135° 16′ 40.9″
A-5	N 34° 39′ 28.6″	E 135° 16′ 31.1″

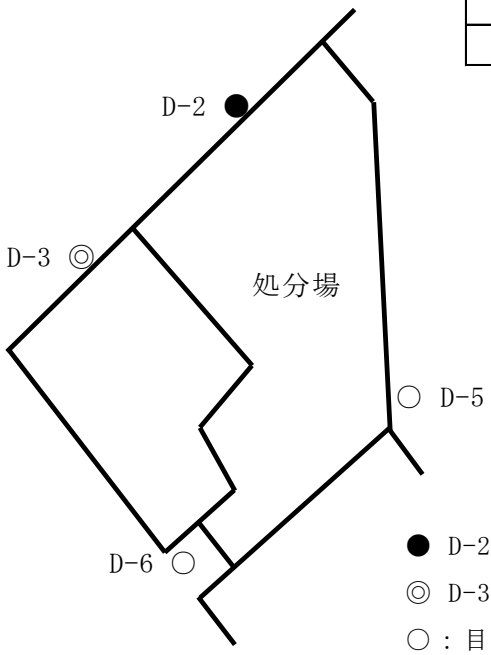
図 2-2(1)　現地調査地点等位置図（神戸沖処分場）



地点	緯度	経度
C-1	N 34° 37′ 05.7″	E 135° 20′ 50.3″
C-2	N 34° 37′ 07.3″	E 135° 20′ 38.8″
C-3	N 34° 37′ 32.6″	E 135° 20′ 46.6″

図 2-2(2)　現地調査地点等位置図（大阪沖処分場）

地点	緯度	経度
D-2	N 34° 31′ 43.5″	E 135° 22′ 30.6″
D-3	N 34° 31′ 15.0″	E 135° 22′ 09.1″
D-5	N 34° 31′ 13.8″	E 135° 23′ 04.4″
D-6	N 34° 30′ 39.5″	E 135° 22′ 33.0″



● D-2：定量採取・目視調査及び水質調査地点
◎ D-3：定量採取・目視観察
○：目視観察及び水質調査地点

図 2-2(3)　現地調査地点等位置図（泉大津沖処分場）

2-3 目視による付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖処分場 3 点（A-2、A-4、A-5）、大阪沖処分場 3 点（C-1、C-2、C-3）、泉大津沖処分場 4 地点（D-2、D-3、D-5、D-6）の計 10 点において、目視観察による動植物の観察を行った。

各調査地点で平均水面+1m から 1m 間隔で海底面まで、水深 1m 毎に 50×50cm の方形枠を設置し、枠内の植物（種類別被度）、動物（種類別被度または個体数）の観察を行った。泉大津沖処分場の 2 地点（D-5、D-6）については、エコ岸壁が設置されていたため、遊水室内の上面、側面、下面に分けて全対面の観察を実施した。また、観察箇所については写真撮影による記録を行った。

表 2-2　目視観察よる付着動植物調査　調査方法等

調査方法等		調査地点
目視観察 植物（種類別被度） 動物(種類別被度または個体数)	観察水深帯（各点、1 側線） 平均水面＋1m から 1m 間隔で海底面までを対象	神戸沖処分場：3 点 （A-2、A-4、A-5） 大阪沖処分場：3 点 （C-1、C-2、C-3） 泉大津沖処分場：4 地点 （D-2、D-3、D-5、D-6）

2-4 遊泳魚類調査

図 2-2 に示した、神戸沖処分場 3 点（A-2、A-4、A-5）、大阪沖処分場 3 点（C-1、C-2、C-3）、泉大津沖処分場 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）の計 10 点において、目視観察による遊泳魚類の観察を行った。

各調査地点の護岸周辺に生息している魚類を対象として、潜水目視観察を行い、種類別個体数の記録を行った。なお、個体数は CR 法（表 2-4）によって概略的に把握した。

表 2-3　遊泳魚類調査　調査方法等

調査方法等		調査地点
潜水目視観察による種類別個体数（CR 法※による）の記録	護岸周辺に生息する魚類	神戸沖処分場：3 点 （A-2、A-4、A-5） 大阪沖処分場：3 点 （C-1、C-2、C-3） 泉大津沖処分場：4 点 （D-2、D-3、D-5、D-6）

※：CR 法　目視観察により確認できた生物の量を段階的に cc（非常に多い）～rr（非常に少ない）の表記で示す目視観察調査結果の記録方法。

表 2-4　CR 法による個体数区分

記　号	個体数区分
rr	1～2 個体
r	3～10 個体
c	11～50 個体
cc	51 個体以上

2-5 水質調査

図 2-2 に示した、神戸沖処分場 3 点（A-2、A-4、A-5）、大阪沖処分場 3 点（C-1、C-2、C-3）、泉大津沖処分場 3 地点（D-2、D-5、D-6）の計 9 点において、多項目水質計（および光量子計）等による水質調査を行った。

調査船を GPS 測位により所定の位置に誘導した後、調査船上より透明度板を垂下して透明度を計測した。その後、多項目水質計、光量子計を用いて水温、塩分、ＤＯ、光量子束密度の鉛直測定（海面～海底まで 1m 間隔、海面下 0.5m、海底面上 1m）を行った。

また、調査時の一般気象・海象、水色の記録を行った。

水質調査の調査項目及び方法を表 2-5 に示した。

表 2-5　水質調査　調査方法等

<table>
<tr><th>調査項目</th><th colspan="2">調査方法等</th><th>調査地点</th></tr>
<tr><td>水温・塩分・ＤＯ</td><td rowspan="2">多項目水質計による鉛直測定</td><td rowspan="3">海面～海底まで 1m 間隔、海面下 0.5m 及び海底面+1.0m
透明度は船上から観測</td><td rowspan="3">神戸沖処分場：3 点
（A-2、A-4、A-5）
大阪沖処分場：3 点
（C-1、C-2、C-3）
泉大津沖処分場：3 点
（D-2、D-5、D-6）</td></tr>
<tr><td>光量子束密度</td></tr>
<tr><td>透明度</td><td>透明度板による測定</td></tr>
</table>

表 2-6　水質調査　使用機器

項　　目	使用機器
水温・塩分 溶存酸素（ＤＯ） 光量子束密度	多項目水質計　AAQ1183-PT （JFE アドバンテック社製　）

2-6 藻場分布調査

図 2-3 に示した、神戸沖処分場では陸揚げ桟橋の範囲と北護岸を除く護岸（3.8km）、大阪沖処分場では東護岸を除く護岸（3.7km）を調査対象として、藻場分布調査を実施した。

調査範囲の護岸に沿って、水中スクーター等を使用して移動しながら藻場の分布状況、構成種の目視観察を行った。

図 2-3、表 2-8 に示した各調査対象護岸で代表的な地点（各 10 地点）で、地点付近の藻場構成種の目視観察と水中写真撮影を行うとともに、方形枠（50 ㎝×50 ㎝）内の植物を採取し、持ち帰って種類別湿重量とＣＮＰ組成分析を行った。

藻場分布の分析項目及び分析内容を表 2-7 に示す。

これらの結果と付着動植物調査の結果から、護岸延長を 50m 毎、平均海面から法尻までを 1m 間隔で区切ったメッシュ状の藻場分布図を作成した。

表 2-7　藻場分布調査　調査方法等

調査方法等	分析内容等	調査地点（範囲）
藻場構成種の目視観察を各処分場 10 点(測線)で実施。測線間については、水中スクーターを使用して藻場分布範囲の目視確認を行った。坪刈り調査は、各処分場あたり、10 地点で実施した。	種の同定 種類別湿重量の測定 主要種 10～11 種の CNP 組成分析	神戸沖処分場：周囲 3.8km 大阪沖処分場：周囲 3.7km

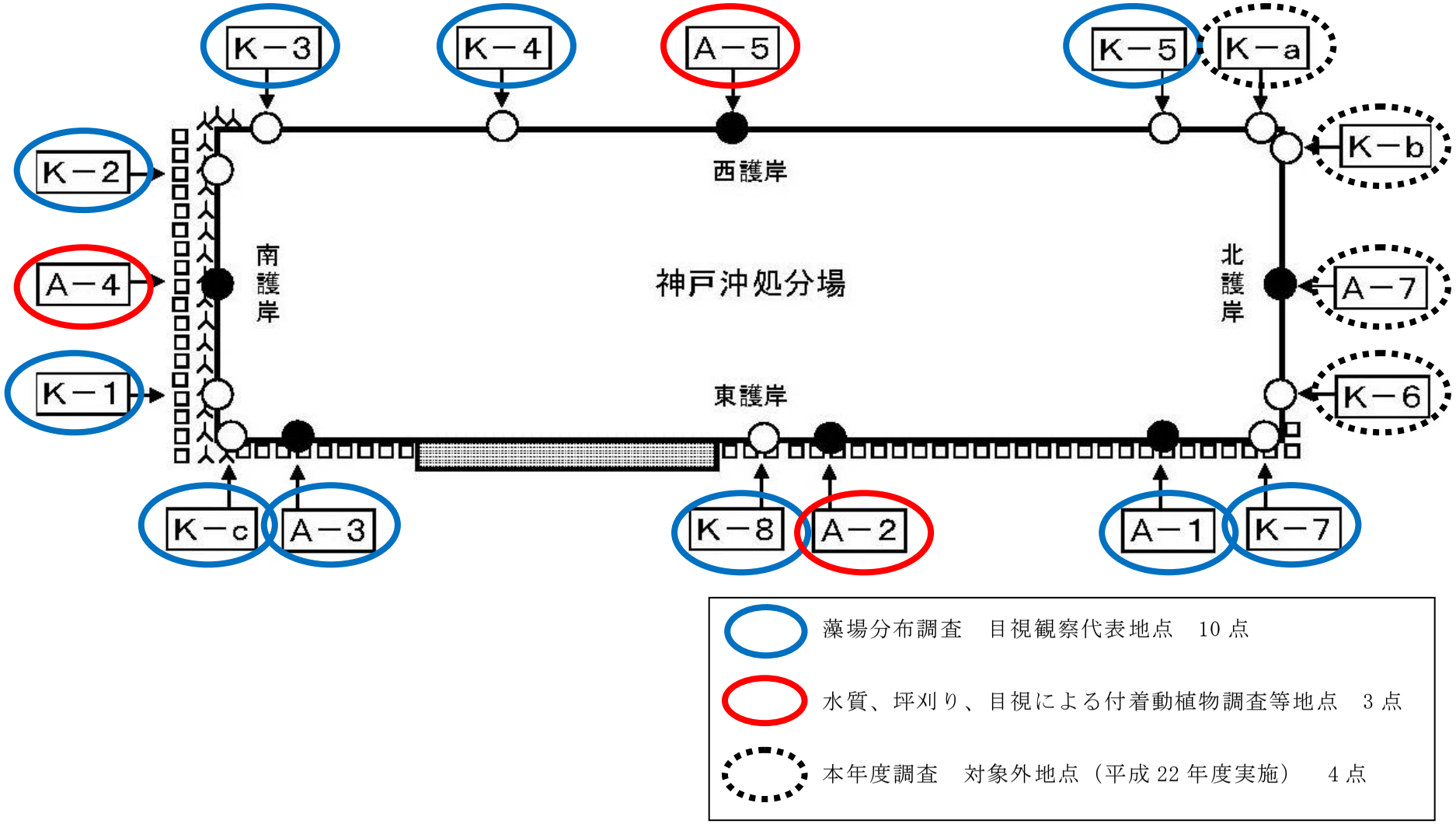


図 2-3（1）　藻場分布調査　目視観察　代表地点位置図　神戸沖処分場

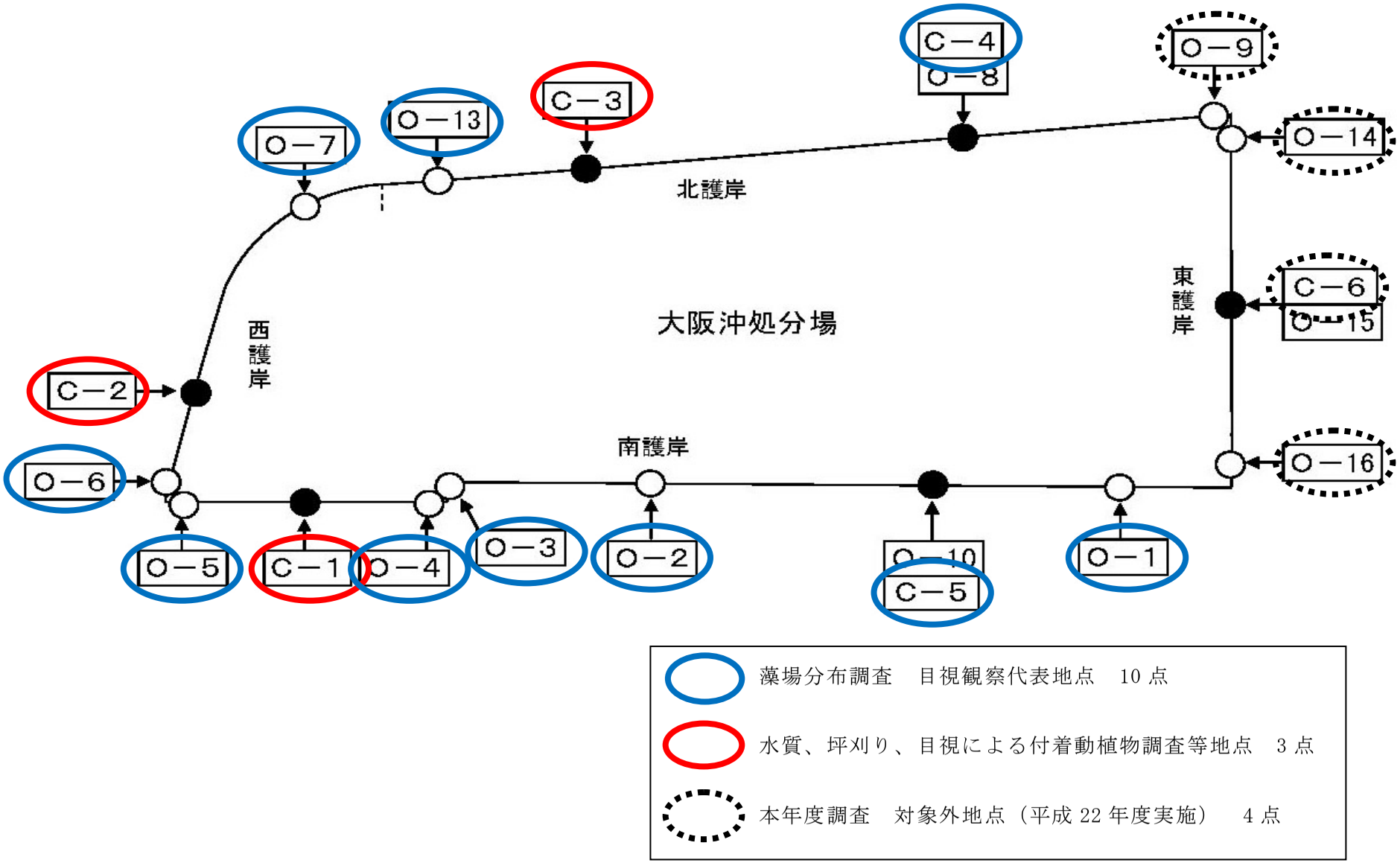


図 2-3（2）　藻場分布調査　目視観察　代表地点位置図　大阪沖処分場

表 2-8（1）　藻場分布調査　目視観察代表地点等位置　緯度経度　【神戸沖処分場】

地点	緯度	経度	備考
A－1	N 34° 39′ 53.7″	E 135° 16′ 51.7″	藻場分布調査　代表地点
A－2	N 34° 39′ 31.9″	E 135° 16′ 55.9″	水質、付着動植物等調査地点
A－3	N 34° 39′ 10.3″	E 135° 16′ 59.9″	藻場分布調査　代表地点
A－4	N 34° 39′ 03.4″	E 135° 16′ 40.9″	水質、付着動植物等調査地点
A－5	N 34° 39′ 28.6″	E 135° 16′ 31.1″	水質、付着動植物等調査地点
A－7	N 34° 39′ 58.2″	E 135° 16′ 39.1″	本年度調査対象外
K－1	N 34° 39′ 02.9″	E 135° 16′ 58.0″	藻場分布調査　代表地点
K－2	N 34° 39′ 03.4″	E 135° 16′ 36.2″	藻場分布調査　代表地点
K－3	N 34° 39′ 04.8″	E 135° 16′ 34.9″	藻場分布調査　代表地点
K－4	N 34° 39′ 09.4″	E 135° 16′ 33.4″	藻場分布調査　代表地点
K－5	N 34° 39′ 53.5″	E 135° 16′ 26.3″	藻場分布調査　代表地点
K－6	N 34° 39′ 59.2″	E 135° 16′ 50.2″	本年度調査対象外
K－7	N 34° 39′ 58.0″	E 135° 16′ 52.1″	藻場分布調査　代表地点
K－8	N 34° 39′ 31.6″	E 135° 16′ 55.4″	藻場分布調査　代表地点
K－a	N 34° 39′ 54.8″	E 135° 16′ 26.9″	本年度調査対象外
K－b	N 34° 39′ 58.2″	E 135° 16′ 28.9″	本年度調査対象外
K－c	N 34° 39′ 05.5″	E 135° 17′ 00.4″	藻場分布調査　代表地点

表 2-8（2）　藻場分布調査　目視観察代表地点等位置　緯度経度　【大阪沖処分場】

地点	緯度	経度	備考
C－1	N 34° 37′ 05.7″	E 135° 20′ 50.3″	水質、付着動植物等調査地点
C－2	N 34° 37′ 07.3″	E 135° 20′ 38.8″	水質、付着動植物等調査地点
C－3	N 34° 37′ 32.6″	E 135° 20′ 46.6″	水質、付着動植物等調査地点
C－4	N 34° 37′ 47.0″	E 135° 20′ 59.0″	藻場分布調査　代表地点
C－5	N 34° 37′ 29.2″	E 135° 20′ 20.1″	藻場分布調査　代表地点
C－6	N 34° 37′ 48.8″	E 135° 20′ 21.5″	本年度調査対象外
O－1	N 34° 37′ 35.6″	E 135° 20′ 28.7″	藻場分布調査　代表地点
O－2	N 34° 37′ 18.2″	E 135° 20′ 05.8″	藻場分布調査　代表地点
O－3	N 34° 37′ 11.9″	E 135° 20′ 59.3″	藻場分布調査　代表地点
O－4	N 34° 37′ 10.9″	E 135° 20′ 57.1″	藻場分布調査　代表地点
O－5	N 34° 37′ 01.9″	E 135° 20′ 45.2″	藻場分布調査　代表地点
O－6	N 34° 37′ 02.9″	E 135° 20′ 42.4″	藻場分布調査　代表地点
O－7	N 34° 37′ 19.0″	E 135° 20′ 34.8″	藻場分布調査　代表地点
O－9	N 34° 37′ 56.6″	E 135° 20′ 09.7″	本年度調査対象外
O－13	N 34° 37′ 25.8″	E 135° 20′ 39.4″	藻場分布調査　代表地点
O－14	N 34° 37′ 56.5″	E 135° 20′ 12.6″	本年度調査対象外
O－16	N 34° 37′ 40.2″	E 135° 20′ 30.6″	本年度調査対象外

3 調査結果

3-1 調査実施日

各現地調査は、関係機関との調整、港内作業および特別採捕の許可を受け（表 3-2)、表 3-1 に示す平成 26 年 6 月 1 日（神戸沖処分場)、平成 26 年 5 月 31 日（大阪沖処分場）および平成 26 年 6 月 2 日（泉大津沖処分場）に実施した。

表 3-1　現地調査実施日

調査箇所	調査実施日
神戸沖処分場	平成 26 年 6 月 1 日（日）
大阪沖処分場	平成 26 年 5 月 31 日（土）
泉大津沖処分場	平成 26 年 6 月 2 日（月）

表 3-2　現地調査に関する港内作業および特別採捕許可

種　別	調査箇所	海　域	許可者	許可日	許可番号等
港内作業許可	大阪沖	阪神港大阪区	阪神港長	平成 26 年 5 月 22 日	大第 281 号
	神戸沖	阪神港神戸区	阪神港長	平成 26 年 5 月 9 日	神第 227 号
	泉大津沖	阪神港堺泉北区	阪神港長	平成 26 年 5 月 16 日	堺第 156 号
特別採捕許可	大阪沖	大阪市地先	大阪府知事	平成 26 年 5 月 19 日	水 第1260-12 号 特 第 26-12 号
	泉大津沖	泉大津市地先			
	神戸沖	神戸市地先	兵庫県知事	平成 26 年 5 月 12 日	26 加特第 4 号

3-2 坪刈りによる付着動植物調査

3-2-1 植物（海藻）

(1) 神戸沖処分場

表 3-3 に神戸沖処分場(A-2)における坪刈り調査の結果を示した。上層(平均海面±0m)、中層（平均海面-2m)、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、湿重量および乾燥重量の計測とＣＮＰ組成分析(炭素含有量(Ｃ)、窒素含有量(Ｎ)、りん含有量（Ｐ)）を行った。図 3-1 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

神戸沖では、4～17 種の海藻が出現し、湿重量では 32.53～125.78（g/0. 25 ㎡）の海藻が採取され、中層で最も多くなっていた。

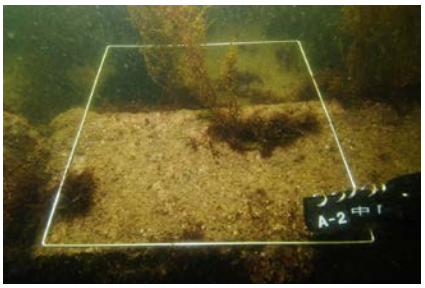
種別では上層ではアオサ属、中層ではムカデノリ、下層ではマクサが最も多く確認され、中層では藻場を形成する大型褐藻のタマハハキモクもみられた。

表 3-3　坪刈り調査結果　神戸沖処分場（A-2　海藻）

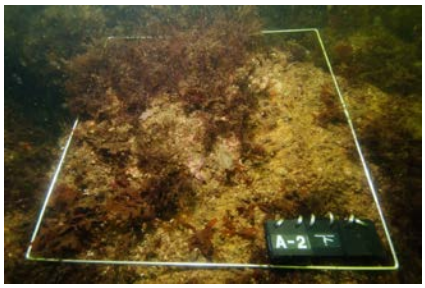
No.	門	綱	目	科	種名	項目	A-2-上 湿重量	A-2-中 湿重量	A-2-下 湿重量
					調査地点		神戸沖		
					枠番号		A-2-上	A-2-中	A-2-下
1	藍色植物	藍藻	-	-	Cyanophyceae	藍藻綱			
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属	+		
3	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属	32.51	0.04	
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	0.02	0.30	0.01
5	黄色植物	褐藻	ｶｾﾓﾒﾘ	ｶｾﾓﾒﾘ	Colpomenia sinuosa	ｲﾌｸﾛﾉﾘ		0.12	0.75
6	黄色植物	褐藻	ｶｾﾓﾒﾘ	ｶｾﾓﾒﾘ	Petalonia fascia	ｾｲﾖｳﾌｸﾛﾉﾘ			
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲﾒﾝ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ			
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		37.62	
9	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ		0.94	27.46
10	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiaceae	ﾃﾝｸﾞｻ科			
11	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾉﾓﾉｶﾜ	Caulacanthus ustulatus	ｲﾉﾀﾞﾝｿｳ	+	0.23	
12	紅色植物	紅藻	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ			4.27
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondracanthus sp.	ｽｷﾞﾉﾘ属			
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ｳﾐﾏﾂﾀﾞ属			
15	紅色植物	紅藻	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiatica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		75.53	19.39
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ		6.76	
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ			
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属		1.72	
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Halymeniaceae	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ科		+	
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲｳﾉｶｻﾞ	Peyssonneliaceae	ｲｳﾉｶｻﾞ科			
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵｷﾅﾜﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵｷﾅﾜﾉﾘ		0.83	2.44
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽｻｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽｻｺﾞ			0.33
23	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ			17.03
24	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria sp.	ｵｺﾞﾉﾘ属		0.18	
25	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾜﾂﾂｷﾞｿｳ	Lomentaria hakodatensis	ｺｽｼﾞﾌﾝﾂﾂｷﾞ			
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ			
27	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌｻﾂﾀﾞｻ属		0.52	0.03
28	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属		0.14	0.07
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Griffithsia sp.	ｶﾞｼﾞｭﾂﾀﾞ属			
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾀﾞ属			
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科		0.01	
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属		0.07	0.05
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia sp.	ｺｻﾞﾈﾓ属			
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Rhodomelaceae	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科		0.77	
					種類数		4	17	11
					湿重量(g)合計		32.53	125.78	71.83
					乾燥重量（g）合計		3.35	14.33	10.51
CNP組成					炭素含有量C(mg/g)		315.00	317.00	231.00
					窒素含有量N(mg/g)		36.20	30.20	23.40
					りん含有量P(mg/g)		1.71	1.10	1.40

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

上　層



中　層



下　層

図 3-1　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

(2) 大阪沖処分場

表 3-4 に大阪沖処分場（C-2）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m)、中層（平均海面-2m)、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、湿重量および乾燥重量の計測とＣＮＰ組成分析（炭素含有量（C)、窒素含有量（N)、りん含有量（P））を行った。図 3-2 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

大阪沖では、3～15 種の海藻が確認され、下層ほど種類数が多くなっていた。湿重量では 1.45～626.89（g/0. 25 ㎡）の海藻が採取され、ワカメが繁茂していた中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではアオサ属、中層ではワカメ、下層ではベニスナゴが最も多く、藻場を形成する大型褐藻として、中層、下層ででタマハハキモク、ワカメがみられた。

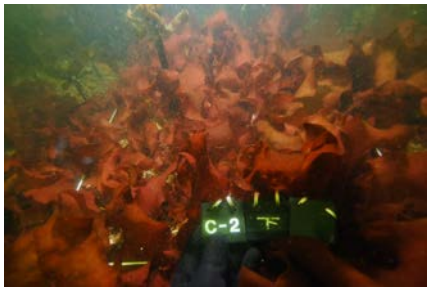
表 3-4　坪刈り調査結果　大阪沖処分場（C-2）

No.	門	綱	目	科	種名	項目	大阪沖 C-2-上 湿重量	C-2-中 湿重量	C-2-下 湿重量
1	藍色植物	藍藻	-	-	Cyanophyceae	藍藻綱	0.03		
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属			
3	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属	1.42	1.92	
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+	+	+
5	黄色植物	褐藻	ｶｷﾓﾉﾘ	ｶｷﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ｱｶﾛﾉﾘ		0.13	
6	黄色植物	褐藻	ｶｷﾓﾉﾘ	ｶｷﾓﾉﾘ	Petalonia fascia	ｾｲﾖｳﾊﾊﾞﾉﾘ			
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞﾒﾉﾘ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ		264.32	14.65
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		249.49	0.03
9	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ			1.25
10	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiaceae	ﾃﾝｸﾞｻ科			+
11	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾉﾓﾂｶ	Caulacanthus ustulatus	ｲﾉﾀﾞﾝﾂｳ			
12	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ			0.32
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondracanthus sp.	ｽｷﾞﾉﾘ属			
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属		17.94	4.16
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiatica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ		23.90	
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ		25.61	46.89
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属		39.84	1.10
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Halymeniaceae	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ科			
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾜﾂﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ﾜﾂﾉｶﾜ科			*
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵｷﾅﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵｷﾅﾉﾘ			0.03
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺ			293.58
23	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ			
24	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria sp.	ｵｺﾞﾉﾘ属			0.28
25	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ	Lomentaria hakodatensis	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷ		3.67	
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ			
27	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌｻﾂｶﾞｻﾈ属		+	
28	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属		+	
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Griffithsia sp.	ｶｻﾞｼﾞｸﾞｻ属			
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾈ属			
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科			+
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属		0.06	+
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia sp.	ｺｻﾞﾈ属		0.01	
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Rhodomelaceae	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科			
種類数							3	14	15
湿重量(g)合計							1.45	626.89	362.29
乾燥重量（g）合計							0.12	50.51	41.32
CNP組成	炭素含有量C(mg/g)						306.00	219.00	319.00
	窒素含有量N(mg/g)						55.20	20.40	29.80
	りん含有量P(mg/g)						1.62	1.61	1.52

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

上　層

中　層



下　層

図 3-2　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

(3) 泉大津沖処分場

表 3-5 に泉大津沖処分場の 2 点（D-2、D-3）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、湿重量および乾燥重量の計測とＣＮＰ組成分析（炭素含有量（C）、窒素含有量（N）、りん含有量（P））を行った。図 3-3 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

・地点 D-2

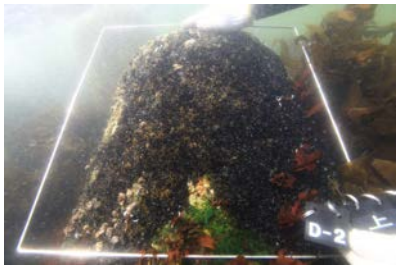
D-2 の地点では、11～17 種の海藻が確認され、中層で種類数が多くなっていた。湿重量では 19.88～475.51（g/0. 25 ㎡）の海藻が採取され、カバノリが繁茂していた下層で最も多くなっていた。

種別では上層ではムカデノリ属、中層ではワカメ、下層ではカバノリが多く、藻場を形成する大型褐藻として、中層、下層でワカメがみられた。

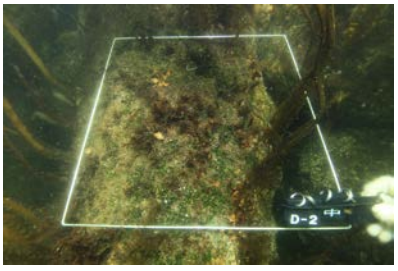
表 3-5（1）　坪刈り調査結果　泉大津沖処分場（D-2）

No.	門	綱	目	科	種名	項目	泉大津沖 D-2-上 湿重量	D-2-中 湿重量	D-2-下 湿重量
1	藍色植物	藍藻	-	-	Cyanophyceae	藍藻綱			
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属	0.01	+	+
3	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属	2.45	6.22	
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	0.30	0.03	0.01
5	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ｱﾌﾛﾉﾘ		0.12	
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Petalonia fascia	ｾｲﾖｳﾊﾞﾉﾘ	0.14		
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞﾒｲﾓ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ		207.40	158.63
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			
9	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ	0.03	4.31	
10	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiaceae	ﾃﾝｸﾞｻ科		1.24	
11	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾋﾞﾀｿｳ	Caulacanthus ustulatus	ｲﾜﾋﾞﾀﾞﾝｿｳ			
12	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ			
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondracanthus sp.	ｽｷﾞﾉﾘ属			10.86
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属		1.18	
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiatica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		11.36	0.48
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌｸﾞﾛｸ	6.75	0.20	
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ	0.11	0.23	1.28
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属	9.92	3.85	
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Halymeniaceae	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ科	0.06		
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲｸﾉｶｳ	Peyssonneliaceae	ｲｸﾉｶｳ科			
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵﾅｼﾞﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵﾅｼﾞﾉﾘ			
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		0.13	
23	紅色植物	紅藻	ﾓﾂﾉﾘ	ﾓﾂﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ		5.81	220.94
24	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria sp.	ｵｺﾞﾉﾘ属		0.72	
25	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ	Lomentaria hakodatensis	ｺﾏｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ			
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ｸｼｹﾞﾁﾞﾝｿｳ			83.19
27	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌｸｹﾞｶﾞｻｷ属			
28	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属	+		
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Griffithsia sp.	ｶｻﾞｼﾞｸｻ属			
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻｷ属			0.02
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科		+	0.09
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属	0.11	0.02	0.01
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia sp.	ｺｻﾞﾈﾓ属			
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Rhodomelaceae	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科			
種類数							11	17	11
湿重量(g)合計							19.88	242.82	475.51
乾燥重量 (g) 合計							2.14	23.98	37.70
CNP組成	炭素含有量C(mg/g)						313.00	336.00	271.00
	窒素含有量N(mg/g)						32.50	33.10	30.00
	りん含有量P(mg/g)						1.49	1.36	0.84

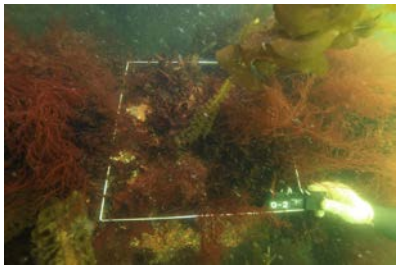
注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上　層



中　層



下　層

図 3-3（1）　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

・地点 D-3

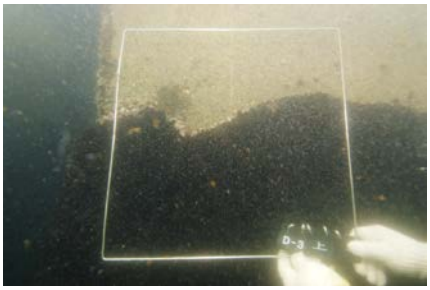
D-3 の地点では、2～8 種の海藻が確認され、中層で種類数が多くなっていた。湿重量では 0.04～475.27（g/0. 25 ㎡）の海藻が採取され、ワカメが繁茂していた中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではコスジフシツナギ、中層ではワカメ、下層ではタオヤギソウが多く、藻場を形成する大型褐藻として、中層でワカメがみられた。

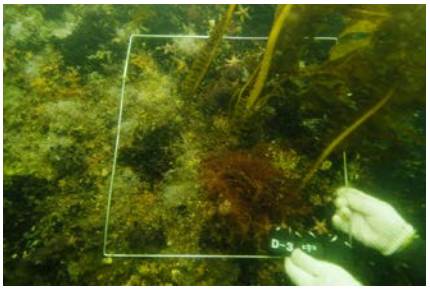
表 3-5（2）　坪刈り調査結果　泉大津沖処分場（D-3）

					調査地点	泉大津沖		
					枠番号	D-3-上	D-3-中	D-3-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	藍色植物	藍藻	-	-	Cyanophyceae	藍藻綱		
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属		
3	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属		
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+	0.01
5	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾌｸﾛﾉﾘ		
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Petalonia fascia	ｾｲﾖｳﾊﾞﾝﾉﾘ		
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ	445.62	
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾞﾊｷﾓｸ		
9	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ		
10	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiaceae	ﾃﾝｸﾞｻ科		
11	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲｿﾓｯｶ	Caulacanthus ustulatus	ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ		
12	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	1.03	2.72
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondracanthus sp.	ｽｷﾞﾉﾘ属		
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属		
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiatica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ		
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ		
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属		
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Halymeniaceae	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ科		
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ｲﾜﾉｶﾜ科		
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵｷﾅﾜﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵｷﾅﾜﾉﾘ		
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		
23	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ		
24	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria sp.	ｵｺﾞﾉﾘ属		
25	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾌｼﾂﾅｷﾞｿｳ	Lomentaria hakodatensis	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ	0.04	
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ		28.43	96.11
27	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌｼｳｶﾞｻﾈ属		0.01	0.05
28	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属		+	
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Griffithsia sp.	ｶｻﾞｼｸﾞｻ属		0.15	
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖｳｶﾞｻﾈ属			
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科		0.02	0.25
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属			+
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia sp.	ｺｻﾞﾈﾓ属			
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Rhodomelaceae	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科			+
種類数						2	8	6
湿重量(g)合計						0.04	475.27	99.13
乾燥重量（g）合計						0.004	31.57	3.43
CNP組成			炭素含有量C(mg/g)			283.00	251.00	232.00
			窒素含有量N(mg/g)			45.90	23.80	29.40
			りん含有量P(mg/g)			3.22	1.63	1.06

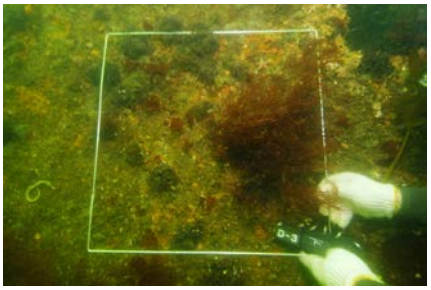
注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上　層



中　層



下　層

図 3-3（2）　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

3-2-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖処分場

表 3-6 に神戸沖処分場（A-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し分析した結果、17～92 種の付着動物が出現し、個体数では 3,401～7,175（個体/0.25 ㎡）、湿重量では 45.32～72.14（g/0. 25 ㎡）の付着動物が採取され、個体数は Caprella 属やキヌマトイガイが多数出現した下層で最も多く、湿重量はムラサキイガイが多く出現した上層で最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層ではキヌマトイガイ、下層では Caprella 属（ワレカラ科）が最も多く確認された。

(2) 大阪沖処分場

表 3-7 に大阪沖処分場（C-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し分析した結果、23～59 種の付着動物が出現し、個体数では 784～11,802（個体/0.25 ㎡）、湿重量では 22.98～653.98（g/0. 25 ㎡）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層ではマルエワレカラ、下層では Caprella 属（ワレカラ科）が最も多く確認された。上層で最も多かったムラサキイガイは、中層においても多数出現した。

(3) 泉大津沖処分場

表 3-8 に泉大津沖処分場の 3 点（D-2、D-3）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し、分析した。

D-2 の地点では、31～54 種の付着動物が出現し、個体数は 432～16,584（個体/0.25 ㎡）、湿重量では 30.13～1242.48（g/0. 25 ㎡）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

D-3 の地点では、35～92 種の付着動物が出現し、個体数は 7,910～38,999（個体/0.25 ㎡）、湿重量では 178.95～3736.04（g/0. 25 ㎡）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

表 3-6（1）　坪刈り調査結果　神戸沖処分場（A-2　付着動物）

調査地点							神戸沖					
枠番号							A-2-上		A-2-中		A-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱			*	0.39	*	1.08
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ﾊﾅｸﾗｹﾞ	ｴﾀﾞｳﾐﾋﾄﾞﾛ	Eudendriidae	ｴﾀﾞｳﾐﾋﾄﾞﾛ科						
3	刺胞動物	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	-	Actiniaria	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	1	0.13	8	0.08	7	0.06
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	Polycladida	多岐腸目			14	0.13	40	0.25
5	紐形動物	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門			25	0.14	69	0.36
6	軟体動物	多板	新ヒザﾗｶﾞｲ	ﾋﾋﾞｷﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Mopalliidae	ﾋﾋﾞｷﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科					5	0.37
7	軟体動物	多板	新ヒザﾗｶﾞｲ	ｸｻｽﾞﾘｶﾞｲ	Acanthopleura japonica	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ						
8	軟体動物	多板	新ヒザﾗｶﾞｲ	ｸﾊﾞﾀﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona sp.	Acanthochitona属						
9	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾖﾒｶﾞｶｻｶﾞｲ	Cellana toreuma	ﾖﾒｶﾞｶｻ						
10	軟体動物	腹足	ｺｻﾞｶｻｶﾞｲ	ｺｻﾞｶｻｶﾞｲ	Patelloida saccharina form lanx	ｳﾉｱｼ						
11	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ｺｻﾞｶｻｶﾞｲ	Lottia sp.	Lottia属						
12	軟体動物	腹足	古腹足	ﾆｼｷﾀｽﾞｶﾞｲ	Omphalius rusticus	ｺｼﾀﾞｶﾀﾝｶﾞﾗ						
13	軟体動物	腹足	古腹足	ｻｻﾞｴ	Turbo sp.	Turbo属					1	0.03
14	軟体動物	腹足	盤足	ﾀﾏｷﾋﾞ	Peasiella habei	ｺﾋﾞﾄｸﾗｳｽﾞｶﾞｲ						
15	軟体動物	腹足	盤足	ﾀﾏｷﾋﾞ	Littorina brevicula	ﾀﾏｷﾋﾞ	13	0.03				
16	軟体動物	腹足	盤足	ﾘﾝﾂﾎﾞ	Alvania concinna	ﾀﾏﾂﾎﾞ			2	+	19	0.06
17	軟体動物	腹足	盤足	ﾘﾝﾂﾎﾞ	Rissoidae	ﾘﾝﾂﾎﾞ科						
18	軟体動物	腹足	盤足	ｶﾘﾊﾞｶﾞｻｶﾞｲ	Crepidula onyx	ｼﾏﾒｸﾛｽｶﾞｲ			2	0.02	5	0.07
19	軟体動物	腹足	盤足	ｼﾗﾀﾏｶﾞｲ	Erato sp.	Erato属						
20	軟体動物	腹足	盤足	ﾊﾅｶﾞﾄｶﾞｲ	Velutinidae	ﾊﾅｶﾞﾄｶﾞｲ科						
21	軟体動物	腹足	翼舌	ｸﾘﾉﾛｹｼｶﾆﾓﾘ	Cerithiopsidae	ｸﾘﾉﾛｹｼｶﾆﾓﾘ科						
22	軟体動物	腹足	翼舌	ﾐﾂｸﾁﾓﾘｵﾚﾓﾘ	Triphoridae	ﾐﾂｸﾁﾓﾘｵﾚ科						
23	軟体動物	腹足	翼舌	ｲﾄﾏｷｶｻﾞｲ	Epitonium sp.	Epitonium属			1	0.01	1	0.01
24	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais bronni	ﾚｲｼｶﾞｲ						
25	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais clavigera	ｲﾎﾞﾆｼ						
26	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Muricidae	ｱｯｷｶﾞｲ科					8	0.48
27	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella bicincta	ﾑｷﾞｶﾞｲ			115	3.21	216	2.36
28	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella sp.	Mitrella属			1	0.08		
29	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra mitriformis	ﾌﾐﾆﾅﾓﾄﾞｷ					75	0.28
30	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra sp.	ﾌﾐﾆﾅ属						
31	軟体動物	腹足	異旋	ｸﾙﾏｶﾞｲ	Architectonicidae	ｸﾙﾏｶﾞｲ科					4	0.10
32	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Babella caelatior	ｸｻｽﾞﾘﾀｷﾚ						
33	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Pyramidellidae	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ科			33	0.06	143	0.39
34	軟体動物	腹足	異旋	ｲﾉﾌﾄﾞﾘ	Amathinidae	ｲﾉﾌﾄﾞﾘ科			1	+	1	+
35	軟体動物	腹足	頭楯	ｷﾋﾞｼｸｶﾞｲ	Philinidae	ｷﾋﾞｼｸｶﾞｲ科			4	0.05	3	0.06
36	軟体動物	腹足	頭楯	ｸﾞﾄﾞｳｶﾞｲ	Haloa japonica	ｸﾞﾄﾞｳｶﾞｲ			3	0.16	15	0.85
37	軟体動物	腹足	側鰓	ｳﾐｼﾞｸﾛｳ	Pleurobranchaea japonica	ｳﾐｼﾞｸﾛｳ					1	0.18
38	軟体動物	腹足	裸鰓	-	Nudibranchia	裸鰓目						
39	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria sirius	ｷｸﾉﾊｶﾞｲ						
40	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria japonica	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	4	1.50				
41	軟体動物	腹足	-	-	egg of GASTROPODA	腹足綱の卵						
42	軟体動物	二枚貝	ﾌﾅｶﾞｲ	ﾌﾅｶﾞｲ	Barbatia sp.	Barbatia属						
43	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Mytilus galloprovincialis	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	3,082	63.72	83	0.26	2	+
44	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Xenostrobus securis	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾞﾘｶﾞｲ	46	0.45				
45	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Modiolus sp.	Modiolus属			66	1.76	2	0.19
46	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Musculus cupreus	ｸﾏﾓｴｶﾞｲ			15	0.14	4	0.24
47	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Arcuatula senhousia	ﾎﾄﾄｷﾞｽｶﾞｲ			7	0.43		
48	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Lithophaga curta	ｲｼﾏﾃ					16	0.56
49	軟体動物	二枚貝	ﾐﾉｶﾞｲ	ﾐﾉｶﾞｲ	Limaria sp.	Limaria属			1	0.02	2	0.64
50	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ	Anomia chinensis	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ			2	0.90	2	1.75
51	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Ostrea sp.	Ostrea属	1	0.94				
52	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Crassostrea gigas	ﾏｶﾞｷ	19	4.31				
53	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Ostreidae	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科						
54	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ﾁﾘﾊｷﾞｶﾞｲ	Lasaeidae	ﾁﾘﾊｷﾞｶﾞｲ科					3	0.01
55	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	Irus sp.	Irus属					1	0.04
56	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Petricola sp. cf. lithophaga	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	1	0.07				
57	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Petricolidae	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科					1	0.04
58	軟体動物	二枚貝	ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷｽﾏﾄﾋｶﾞｲ	Hiatella orientalis	ｷｽﾏﾄﾋｶﾞｲ	2,419	25.51	1,294	17.35		
59	軟体動物	二枚貝	ｵｵﾉｶﾞｲ	ｸｸﾛｴｶﾞｲ	Gastrochaenidae	ｸｸﾛｴｶﾞｲ科					51	0.81
60	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Harmothoe imbricata	ﾏﾀﾞﾗｸﾛｺﾑｼ			45	0.26	99	0.18
61	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Halosydna brevisetosa	ﾐﾉｸﾛｺﾑｼ						
62	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Lepidonotus sp.	Lepidonotus属			1	0.05	22	0.18
63	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Nonparahalosydna sp.	Nonparahalosydna属						
64	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Polynoidae	ｸﾛｺﾑｼ科			1	0.01		
65	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	Eulalia sp.	Eulalia属						
66	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	Eumida sp.	Eumida属					1	0.01
67	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	Genetyllis sp.	Genetyllis属					2	0.01
68	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	Notophyllum sp.	Notophyllum属						
69	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	Phyllodocidae	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ科					12	0.07
70	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｷﾞﾎﾘ	Glycera sp.	Glycera属			4	0.40	5	0.12
71	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Ophiodromus sp.	Ophiodromus属					10	0.04
72	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Hesionidae	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ科			1	0.01	4	0.03
73	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis adamanteus kurilensis	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ	3	0.01				
74	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllinae	Syllinae亜科			25	0.11	69	0.40
75	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllidae	ｼﾘｽ科						
76	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis heterocirrata	ﾋﾞｹﾞﾌﾄｺﾞｶｲ						
77	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis multignatha	ﾏﾀｺﾞｺﾞｶｲ					2	+
78	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis neoneanthes	ｻｽﾘｺﾞｶｲ						
79	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Perinereis cultrifera	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ						
80	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis bicanaliculata	ﾌﾙﾋﾞｺﾞｶｲ					2	0.04
81	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis dumerilii	ｲﾜﾌﾙﾋﾞｺﾞｶｲ			2	0.01		
82	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis sp.	Platynereis属			1	+		
83	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Pseudonereis variegata	ﾃﾞﾝｶﾞｸｺﾞｶｲ	22	0.50	2	0.01		
84	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereididae	ｺﾞｶｲ科					2	+
85	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ﾀﾝｻﾞｸｺﾞｶｲ	Chrysopetalidae	ﾀﾝｻﾞｸｺﾞｶｲ科					24	0.07
86	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｲｿﾒ	Eunice sp.	Eunice属					37	3.77
87	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｾﾀﾞﾛｲｿﾒ	Arabella iricolor	ｾﾀﾞﾛｲｿﾒ						
88	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｼﾘｺｲｿﾒ	Schistomeringos sp.	Schistomeringos属			9	0.09	2	+
89	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Boccardiella sp.	Boccardiella属					4	0.01
90	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Dipolydora sp.	Dipolydora属						
91	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Polydora sp.	Polydora属			86	0.34	29	0.20
92	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulus sp.	Cirratulus属			9	1.65	98	5.57
93	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirriformia sp.	Cirriformia属						
94	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Dodecaceria sp.	Dodecaceria属			65	0.14	2	+
95	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Timarete sp.	Timarete属			6	0.27	37	1.48
96	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulidae	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科			12	0.03	25	0.13
97	環形動物	多毛	ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	Polyophthalmus pictus	ｶｽﾘｵﾌｪﾘｱ			3	0.12	6	0.04
98	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Streblosoma sp.	Streblosoma属					1	0.09
99	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Thelepus sp.	Thelepus属			16	0.44	13	1.18
100	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Amphitrite sp.	Amphitrite属						
101	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Nicolea sp.	Nicolea属			1	0.01		
102	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Terebella sp.	Terebella属			3	0.05	4	0.21
103	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Terebellidae	ﾌｻｺﾞｶｲ科					4	0.01

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-6（2）　坪刈り調査結果　神戸沖処分場（A-2　付着動物）

No.	門	綱	目	科	種名	項目	神戸沖 A-2-上 個体数	湿重量	A-2-中 個体数	湿重量	A-2-下 個体数	湿重量
104	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Branchiomma sp.	Branchiomma属						
105	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Sabellidae	ｹﾔﾘﾑｼ科			1	0.01		
106	環形動物	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Hydroides ezoensis	ｴｿﾞｶｻｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	1	0.01	31	0.42	37	1.00
107	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Pomatoleios kraussii	ｹﾔｯｶｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ						
108	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Protohydroides elegans	ｶｻｴｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ						
109	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirobranchus sp.	Spirobranchus属					2	0.17
110	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Serpulidae	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			15	0.07	40	1.23
111	節足動物	ｳﾐｸﾓ	-	-	PYCNOGONIDA	ｳﾐｸﾓ綱						
112	節足動物	顎脚	無柄	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Chthamalus challengeri	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	75	0.07				
113	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus amphitrite	ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ						
114	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus improvisus	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ						
115	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus rostratus	ｽﾐｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ						
116	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus trigonus	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			8	0.04	29	0.82
117	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾟﾉﾀｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Ampithoe sp.	Ampithoe属	13	0.25	37	0.21	6	0.04
118	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾟﾉﾀｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Ampithoidae	ﾋﾟﾉﾀｶﾞﾖｺｴﾋﾞ科						
119	節足動物	軟甲	端脚	ｺﾝﾎﾟﾝｿｺｴﾋﾞ	Grandidierella sp.	Grandidierella属			16	0.04	8	0.01
120	節足動物	軟甲	端脚	ｺﾝﾎﾟﾝｿｺｴﾋﾞ	Aoridae	ｺﾝﾎﾟﾝｿｺｴﾋﾞ科			90	0.08	74	0.07
121	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	Monocorophium sp.	Monocorophium属	1	+	51	0.04	754	1.02
122	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	Corophiinae	Corophiinae						
123	節足動物	軟甲	端脚	ｴﾝﾏﾖｺｴﾋﾞ	Paradexamine sp.	Paradexamine属						
124	節足動物	軟甲	端脚	ﾌｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Pontogeneiidae	ﾌｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ科					1	0.01
125	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾓﾉﾞﾖｺｴﾋﾞ	Hyale sp.	Hyale属						
126	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Ericthonius pugnax	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ			30	0.04	363	0.37
127	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Jassa sp.	Jassa属			43	0.06	24	0.03
128	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Elasmopus japonicus	ｲﾜﾖｺｴﾋﾞ						
129	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melitidae	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ科						
130	節足動物	軟甲	端脚	ﾃﾞﾘｿｺｴﾋﾞ	Stenothoe sp.	Stenothoe属						
131	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella equilibra	ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ						
132	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella penantis	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	1	0.01	813	3.79	16	0.03
133	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella scaura	ﾊｹﾞﾜﾚｶﾗ	2	+	542	1.70	651	3.00
134	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella simia	ｶﾏﾃﾞﾜﾚｶﾗ			7	0.02	213	0.81
135	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella sp.	Caprella属	3	0.01	261	0.23	1,561	1.66
136	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾅﾅﾌｼ	Paranthuridae	ｳﾐﾅﾅﾌｼ科						
137	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Dynoides dentisinus	ｼﾘﾝｳﾐｾﾐ						
138	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Dynoides sp.	Dynoides属						
139	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Holotelson tuberculatus	ﾁﾋﾞｳﾐｾﾐ						
140	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	Janiridae	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ科						
141	節足動物	軟甲	等脚	ﾑﾝﾅ	Munnidae	ﾑﾝﾅ科						
142	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	Zeuxo sp.	Zeuxo属			154	0.15	497	0.40
143	節足動物	軟甲	十脚	ｴﾋﾞｼﾞｬｺ	Crangonidae	ｴﾋﾞｼﾞｬｺ科					1	+
144	節足動物	軟甲	十脚	-	Caridea	ｴﾋﾞ亜目			1	0.02	10	0.03
145	節足動物	軟甲	十脚	ｶﾆﾀﾞﾏｼ	Porcellanidae	ｶﾆﾀﾞﾏｼ科						
146	節足動物	軟甲	十脚	ﾍﾝﾋﾞﾄﾞｶﾘ	Paguridae	ﾍﾝﾋﾞﾄﾞｶﾘ科			3	0.12	6	0.18
147	節足動物	軟甲	十脚	-	Anomura	ｾﾋﾞｶﾘ亜目					2	+
148	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	Cancer sp.	Cancer属			29	0.12	77	0.30
149	節足動物	軟甲	十脚	ﾒﾆｭｳﾍﾞ	Sphaerozius nitidus	ﾍﾞﾝﾍﾞﾝｵｳｷﾞｶﾞﾆ						
150	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｶﾞﾆ	Pugettia incisa	ｻﾊﾞﾓｶﾞﾆ						
151	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｶﾞﾆ	Pugettia quadridens	ｺｼﾊﾞﾓｶﾞﾆ						
152	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｶﾞﾆ	Pugettia sp.	Pugettia属			148	0.30	159	0.31
153	節足動物	軟甲	十脚	ｻﾜｶﾞﾆ	Hymenosomatidae	ｻﾜｶﾞﾆ科						
154	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	Pyromaia tuberculata	ｲｯｶｸｸﾓｶﾞﾆ					4	0.57
155	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus minutus	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ					4	0.25
156	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus sp.	Pilumnus属			13	0.05	32	0.42
157	節足動物	軟甲	十脚	ﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	Nanosesarma minutum	ﾋﾒﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ						
158	節足動物	軟甲	十脚	-	Megalopa of Brachyura	ｶﾆ亜目のﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生			4	0.01	15	0.04
159	節足動物	軟甲	十脚	-	Brachyura	ｶﾆ亜目			5	0.02	1	+
160	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ﾕｽﾘｶ	Chironomidae (larva)	ﾕｽﾘｶ科(幼虫)	114	0.20				
161	箒虫動物	-	ﾎｳｷﾑｼ	ﾎｳｷﾑｼ	Phoronis sp.	Phoronis属			35	0.18	46	0.47
162	腕足動物	舌殻	ｼｬﾐｾﾝｶﾞｲ	ｽｽﾞﾒｶﾞｲﾀﾞﾏｼ	Discinidae	ｽｽﾞﾒｶﾞｲﾀﾞﾏｼ科					1	+
163	触手動物	苔虫	櫛口	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ	Vesiculariidae	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ科						
164	触手動物	苔虫	唇口	ｲﾀｺｹﾑｼ	Calloporidae	ｲﾀｺｹﾑｼ科						
165	触手動物	苔虫	唇口	ﾌﾅｺｹﾑｼ	Bugulidae	ﾌﾅｺｹﾑｼ科						
166	触手動物	苔虫	唇口	ﾊｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾊｹﾞｺｹﾑｼ科			*	0.02		
167	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Watersipoda subovoidea	ﾁｺﾞｸﾑｼ			*	+		
168	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Schizoporellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科						
169	触手動物	苔虫	唇口	ｳｽｺｹﾑｼ	Microporellidae	ｳｽｺｹﾑｼ科			*	0.02		
170	触手動物	苔虫	唇口	ﾀﾐｺｹﾑｼ	Reteporidae	ﾀﾐｺｹﾑｼ科						
171	触手動物	苔虫	唇口	ﾊｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Smittinidae	ﾊｸﾞﾁｺｹﾑｼ科						
172	触手動物	苔虫	唇口	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Cryptosulidae	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科						
173	触手動物	苔虫	唇口	ｺｳﾞｺｹﾑｼ	Celleporinidae	ｺｳﾞｺｹﾑｼ科						
174	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｱｶﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	Asterina pectinifera	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ					1	1.04
175	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｱｶﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	Asterinidae	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ科						
176	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	Asterias amurensis	ｷﾋﾄﾃﾞ					4	6.53
177	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	-	-	ASTEROIDEA	ﾋﾄﾃﾞ綱					10	0.09
178	棘皮動物	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	-	-	OPHIUROIDEA	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ綱			1	0.01	9	0.03
179	棘皮動物	ｳﾆ	ﾎﾝｳﾆ	-	Echinoida	ﾎﾝｳﾆ目						
180	棘皮動物	ｳﾆ	-	-	ECHINOIDEA	ｳﾆ綱			1	+		
181	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ	Sclerodactylidae	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ科					1	0.03
182	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾏﾝｼﾞｭｳﾎﾞﾔ	Polyclinidae	ﾏﾝｼﾞｭｳﾎﾞﾔ科			*	0.03		
183	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｳｽﾎﾞﾔ	Didemnidae	ｳｽﾎﾞﾔ科					*	0.62
184	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	Perophoridae	ﾏﾎﾞﾔ科						
185	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾅﾂﾎﾞﾔ	Ascidiidae	ﾅﾂﾎﾞﾔ科					1	0.05
186	脊索動物	ﾎﾔ	ｲﾎﾞﾔ	ｲﾎﾞﾔ	Botryllidae	ｲﾎﾞﾔ科			*	0.10		
187	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styela plicata	ｼﾛﾎﾞﾔ						
188	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styelidae	ｼﾛﾎﾞﾔ科						
189	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA (colony)	ﾎﾔ綱(群体ﾎﾞﾔ類)						
190	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA	ﾎﾔ綱					2	0.11
				種類数			17		70		92	
				個体数・湿重量(g)合計			3,401	72.14	5,434	45.32	7,175	64.20

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-7（1）　坪刈り調査結果　大阪沖処分場（C-2　付着動物）

No.	門	綱	目	科	種名	項目	大阪沖 C-2-上 個体数	C-2-上 湿重量	C-2-中 個体数	C-2-中 湿重量	C-2-下 個体数	C-2-下 湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱					*	0.25
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ﾊﾅｳｸﾗｹﾞ	ｴﾀﾞｳﾐﾋﾄﾞﾛ	Eudendriidae	ｴﾀﾞｳﾐﾋﾄﾞﾛ科						
3	刺胞動物	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	-	Actiniaria	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	20	0.70	3	0.18	1	+
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	Polycladida	多岐腸目	4	0.04	11	0.06	2	0.02
5	紐形動物	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門	17	0.17			1	0.02
6	軟体動物	多板	新ヒザﾗｶﾞｲ	ﾋﾋﾞｷﾞﾗｶﾞｲ	Mopalliidae	ﾋﾋﾞｷﾞﾗｶﾞｲ科			2	0.01		
7	軟体動物	多板	新ヒザﾗｶﾞｲ	ｸｻｽﾞﾘｶﾞｲ	Acanthopleura japonica	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	1	7.30				
8	軟体動物	多板	新ヒザﾗｶﾞｲ	ｸﾊﾞﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona sp.	Acanthochitona属	7	0.29	19	1.41		
9	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾖﾒｶﾞｶｻｶﾞｲ	Cellana toreuma	ﾖﾒｶﾞｶｻ	2	3.03				
10	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ｺｷﾞｶｻｶﾞｲ	Patelloida saccharina form lanx	ｳﾉｱｼ	7	2.96				
11	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ｺｷﾞｶｻｶﾞｲ	Lottia sp.	Lottia属						
12	軟体動物	腹足	古腹足	ﾆｼｷﾀｽﾞｶﾞｲ	Omphalius rusticus	ｺｼﾀﾞｶﾀﾝｶﾞﾗ					1	4.36
13	軟体動物	腹足	古腹足	ｻｻﾞｴ	Turbo sp.	Turbo属						
14	軟体動物	腹足	盤足	ﾀｺｷﾋﾞ	Peasiella habei	ｺﾋﾞﾄｸﾗｳｽﾞｶﾞｲ						
15	軟体動物	腹足	盤足	ﾀﾏｷﾋﾞ	Littorina brevicula	ﾀﾏｷﾋﾞ						
16	軟体動物	腹足	盤足	ﾘﾝﾂﾎﾞ	Alvania concinna	ﾀﾏﾂﾎﾞ			1	+		
17	軟体動物	腹足	盤足	ﾘﾝﾂﾎﾞ	Rissoidae	ﾘﾝﾂﾎﾞ科					1	+
18	軟体動物	腹足	盤足	ｶﾘﾊﾞｶﾞｻｶﾞｲ	Crepidula onyx	ｼﾏﾒｸﾛｽｶｶﾞｲ					5	12.01
19	軟体動物	腹足	盤足	ﾋﾗﾀｶﾞｲ	Erato sp.	Erato属						
20	軟体動物	腹足	盤足	ﾊﾅｶﾞﾄｶﾞｲ	Velutinidae	ﾊﾅｶﾞﾄｶﾞｲ科						
21	軟体動物	腹足	翼舌	ｸﾘﾉﾋｹﾂｶﾆﾓﾘ	Cerithiopsidae	ｸﾘﾉﾋｹﾂｶﾆﾓﾘ科			7	0.05		
22	軟体動物	腹足	翼舌	ﾐﾂｸﾁﾓﾘｵﾚ	Triphoridae	ﾐﾂｸﾁﾓﾘｵﾚ科						
23	軟体動物	腹足	翼舌	ｲﾄﾏｷｶﾞｲ	Epitonium sp.	Epitonium属						
24	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais bronni	ﾚｲｼﾞｶﾞｲ			4	2.36	1	0.24
25	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais clavigera	ｲﾎﾞﾆｼ	2	3.49				
26	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Muricidae	ｱｯｷｶﾞｲ科						
27	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella bicincta	ﾑｷﾞｶﾞｲ			50	2.83	36	2.31
28	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella sp.	Mitrella属						
29	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra mitriformis	ﾉﾐﾆﾅﾓﾄﾞｷ					2	0.02
30	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra sp.	ﾉﾐﾆﾅ属			2	0.01		
31	軟体動物	腹足	異旋	ｸﾙﾏｶﾞｲ	Architectonicidae	ｸﾙﾏｶﾞｲ科						
32	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Babella caelatior	ｸｻｽﾞﾘｻﾓﾚ						
33	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Pyramidellidae	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ科			11	0.02	2	+
34	軟体動物	腹足	異旋	ｲﾉﾌﾄﾞﾘ	Amathinidae	ｲﾉﾌﾄﾞﾘ科						
35	軟体動物	腹足	頭楯	ｷﾋﾞｸﾁｶﾞｲ	Philinidae	ｷﾋﾞｸﾁｶﾞｲ科						
36	軟体動物	腹足	頭楯	ｸﾞﾄﾞｳｶﾞｲ	Haloa japonica	ｸﾞﾄﾞｳｶﾞｲ			17	0.32		
37	軟体動物	腹足	側鰓	ｳﾐｼﾞｸﾛｳ	Pleurobranchaea japonica	ｳﾐｼﾞｸﾛｳ					1	0.70
38	軟体動物	腹足	裸鰓	-	Nudibranchia	裸鰓目						
39	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria sirius	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	25	4.60				
40	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria japonica	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	9	2.51			3	0.04
41	軟体動物	腹足	-	-	egg of GASTROPODA	腹足綱の卵	*	1.65				
42	軟体動物	二枚貝	ﾌﾅｶﾞｲ	ﾌﾅｶﾞｲ	Barbatia sp.	Barbatia属						
43	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Mytilus galloprovincialis	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	11,035	625.44	1,620	19.18	2	+
44	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Xenostrobus securis	ｺｳﾛｴﾝｶﾜｴﾊﾞﾘｶﾞｲ	3	0.05				
45	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Modiolus sp.	Modiolus属			10	0.51		
46	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Musculus cupreus	ｸﾏｴｶﾞｲ			93	1.88		
47	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Arcuatula senhousia	ﾎﾄﾄｷﾞｽｶﾞｲ			8	0.02		
48	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Lithophaga curta	ｲｼﾏﾃ						
49	軟体動物	二枚貝	ﾐﾉｶﾞｲ	ﾐﾉｶﾞｲ	Limaria sp.	Limaria属						
50	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ	Anomia chinensis	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ						
51	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Ostrea sp.	Ostrea属						
52	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Crassostrea gigas	ﾏｶﾞｷ						
53	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Ostreidae	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	7	0.37				
54	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ﾁﾘﾊｷﾞｶﾞｲ	Lasaeidae	ﾁﾘﾊｷﾞｶﾞｲ科						
55	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	Irus sp.	Irus属						
56	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Petricola sp. cf. lithophaga	ｳｽｶﾗｼｵｶﾞｲ						
57	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Petricolidae	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科			1	0.01		
58	軟体動物	二枚貝	ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷｽﾏﾄｲｶﾞｲ	Hiatella orientalis	ｷｽﾏﾄｲｶﾞｲ			860	5.83	17	0.14
59	軟体動物	二枚貝	ｵｵﾉｶﾞｲ	ｸｸﾛｴｶﾞｲ	Gastrochaenidae	ｸｸﾛｴｶﾞｲ科						
60	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Harmothoe imbricata	ﾏﾀﾞﾗﾝｸﾛｺﾑｼ			21	0.11	18	0.04
61	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Halosydna brevisetosa	ﾐﾄﾞﾘｸﾛｺﾑｼ			17	1.20		
62	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Lepidonotus sp.	Lepidonotus属			12	0.09		
63	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Nonparahalosydna sp.	Nonparahalosydna属						
64	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｸﾛｺﾑｼ	Polynoidae	ｸﾛｺﾑｼ科			4	0.04	1	+
65	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	Eulalia sp.	Eulalia属						
66	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	Eumida sp.	Eumida属						
67	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	Genetyllis sp.	Genetyllis属						
68	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	Notophyllum sp.	Notophyllum属						
69	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	Phyllodocidae	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ科			2	0.09		
70	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ﾁﾛﾘ	Glycera sp.	Glycera属						
71	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Ophiodromus sp.	Ophiodromus属			2	0.02		
72	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Hesionidae	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ科						
73	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis adamanteus kurilensis	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ	8	0.09				
74	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllinae	Syllinae亜科	18	0.05	23	0.14	1	0.01
75	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllidae	ｼﾘｽ科						
76	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis heterocirrata	ﾋﾍﾞﾌﾄｺﾞｶｲ						
77	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis multignatha	ﾏﾀｺﾞｺﾞｶｲ			6	0.05		
78	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis neoneanthes	ｻｽﾘｺﾞｶｲ			10	1.75		
79	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Perinereis cultrifera	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ			6	0.06		
80	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis bicanaliculata	ﾌﾙﾋﾍﾞｺﾞｶｲ			8	0.19		
81	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis dumerilii	ｲﾜﾌﾙﾋﾍﾞｺﾞｶｲ			4	0.06	1	+
82	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis sp.	Platynereis属			4	+		
83	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Pseudonereis variegata	ﾃﾞﾝｶﾞｸｺﾞｶｲ	20	0.29				
84	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereididae	ｺﾞｶｲ科						
85	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞﾝｺﾞｶｲ	ﾀﾝｻﾞｸｺﾞｶｲ	Chrysopetalidae	ﾀﾝｻﾞｸｺﾞｶｲ科					3	0.01
86	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｲｿﾒ	Eunice sp.	Eunice属						
87	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｾﾀﾞﾛｲｿﾒ	Arabella iricolor	ｾﾀﾞﾛｲｿﾒ			2	0.21		
88	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｿﾘｺｲｿﾒ	Schistomeringos sp.	Schistomeringos属						
89	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Boccardiella sp.	Boccardiella属						
90	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Dipolydora sp.	Dipolydora属						
91	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Polydora sp.	Polydora属					8	0.03
92	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulus sp.	Cirratulus属			3	0.65	3	0.13
93	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirriformia sp.	Cirriformia属						
94	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Dodecaceria sp.	Dodecaceria属					3	0.01
95	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Timarete sp.	Timarete属					2	0.01
96	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulidae	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科			6	0.04		
97	環形動物	多毛	ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	Polyophthalmus pictus	ｶｽﾘｵﾌｪﾘｱ			3	0.06		
98	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Streblosoma sp.	Streblosoma属						
99	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Thelepus sp.	Thelepus属			11	0.28	1	0.20
100	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Amphitrite sp.	Amphitrite属						
101	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Nicolea sp.	Nicolea属						
102	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Terebella sp.	Terebella属					1	0.03
103	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Terebellidae	ﾌｻｺﾞｶｲ科			5	0.05		

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-7（2）　坪刈り調査結果　大阪沖処分場（C-2　付着動物）

No.	門	綱	目	科	種名	項目	大阪沖 C-2-上 個体数	C-2-上 湿重量	C-2-中 個体数	C-2-中 湿重量	C-2-下 個体数	C-2-下 湿重量
104	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Branchiomma sp.	Branchiomma属					1	0.08
105	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Sabellidae	ｹﾔﾘﾑｼ科						
106	環形動物	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Hydroides ezoensis	ｴｿﾞｶｻｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ			37	1.84	13	0.66
107	環形動物	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Pomatoleios kraussii	ｹﾞｯｺｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	1	0.01				
108	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Protohydroides elegans	ｶｻｴｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ						
109	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirobranchus sp.	Spirobranchus属						
110	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Serpulidae	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			1	0.06	13	0.39
111	節足動物	ｳﾐｸﾓ	-	-	PYCNOGONIDA	ｳﾐｸﾓ綱			1	+		
112	節足動物	顎脚	無柄	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Chthamalus challengeri	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	606	0.89				
113	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus amphitrite	ｸﾛﾌｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	1	0.01				
114	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus improvisus	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ						
115	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus rostratus	ｽﾐﾅｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ						
116	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus trigonus	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			1	0.02		
117	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾟﾚﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Ampithoe sp.	Ampithoe属						
118	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾟﾚﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Ampithoidae	ﾋﾟﾚﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ科						
119	節足動物	軟甲	端脚	ｺﾝﾎﾟﾂｺｴﾋﾞ	Grandidierella sp.	Grandidierella属						
120	節足動物	軟甲	端脚	ｺﾝﾎﾟﾂｺｴﾋﾞ	Aoridae	ｺﾝﾎﾟﾂｺｴﾋﾞ科			3	+	56	0.03
121	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	Monocorophium sp.	Monocorophium属			29	0.02	12	0.01
122	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	Corophiinae	Corophiinae						
123	節足動物	軟甲	端脚	ｴﾝﾏﾖｺｴﾋﾞ	Paradexamine sp.	Paradexamine属						
124	節足動物	軟甲	端脚	ﾌｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Pontogeneiidae	ﾌｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ科						
125	節足動物	軟甲	端脚	ﾓｸﾞﾖｺｴﾋﾞ	Hyale sp.	Hyale属	4	0.01				
126	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Ericthonius pugnax	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ					7	0.01
127	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Jassa sp.	Jassa属			399	0.60	22	0.03
128	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Elasmopus japonicus	ｲﾜﾖｺｴﾋﾞ						
129	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melitidae	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ科						
130	節足動物	軟甲	端脚	ｽﾃﾉｿｺｴﾋﾞ	Stenothoe sp.	Stenothoe属						
131	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾚｶﾗ	Caprella equilibra	ｸﾋﾞﾅｶﾞﾌﾚｶﾗ						
132	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾚｶﾗ	Caprella penantis	ﾏﾙｴﾗﾌﾚｶﾗ			2,585	8.58	14	0.04
133	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾚｶﾗ	Caprella scaura	ﾊｹﾞﾌﾚｶﾗ			69	0.23	90	0.28
134	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾚｶﾗ	Caprella simia	ｶﾏﾃﾞﾌﾚｶﾗ					43	0.13
135	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾚｶﾗ	Caprella sp.	Caprella属			320	0.64	328	0.26
136	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾅﾅﾌｼ	Paranthuridae	ｳﾐﾅﾅﾌｼ科			11	0.07	2	0.01
137	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Dynoides dentisinus	ｼﾘﾝｳﾐﾑｼ	1	0.02				
138	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Dynoides sp.	Dynoides属	4	0.01				
139	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Holotelson tuberculatus	ﾁﾋﾞｳﾐﾑｼ						
140	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾑｼﾞﾑｼ	Janiridae	ｳﾐﾑｼﾞﾑｼ科					14	0.01
141	節足動物	軟甲	等脚	ﾑﾝﾅ	Munnidae	ﾑﾝﾅ科					11	0.01
142	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	Zeuxo sp.	Zeuxo属			27	0.01	10	0.01
143	節足動物	軟甲	十脚	ｴﾋﾞｼﾞｬｺ	Crangonidae	ｴﾋﾞｼﾞｬｺ科						
144	節足動物	軟甲	十脚	-	Caridea	ｺｴﾋﾞ亜目					6	0.02
145	節足動物	軟甲	十脚	ｶﾆﾀﾞﾏｼ	Porcellanidae	ｶﾆﾀﾞﾏｼ科			1	0.02		
146	節足動物	軟甲	十脚	ﾍﾝﾄﾞﾋﾞｶﾘ	Paguridae	ﾍﾝﾄﾞﾋﾞｶﾘ科					2	0.11
147	節足動物	軟甲	十脚	-	Anomura	ｶﾘﾋﾞｶﾘ亜目						
148	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	Cancer sp.	Cancer属			4	0.01	2	0.02
149	節足動物	軟甲	十脚	ﾒﾆｭｳﾍﾞ	Sphaerozius nitidus	ｽﾍﾟｽﾍﾟｵｳｷﾞｶﾞﾆ			1	0.04		
150	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia incisa	ｻﾊﾞﾓｸﾞﾆ						
151	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia quadridens	ｺｿﾞﾊﾓｸﾞﾆ						
152	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia sp.	Pugettia属			75	0.15	15	0.03
153	節足動物	軟甲	十脚	ｻﾜｶﾞﾆ	Hymenosomatidae	ｻﾜｶﾞﾆ科						
154	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳﾃﾞｽ	Pyromaia tuberculata	ｲｯｶｸｴﾓｶﾞﾆ						
155	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶﾞﾆ	Pilumnus minutus	ﾋﾒｹﾌﾞｶﾞﾆ						
156	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶﾞﾆ	Pilumnus sp.	Pilumnus属			2	0.06	1	0.01
157	節足動物	軟甲	十脚	ﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	Nanosesarma minutum	ﾋﾒﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ						
158	節足動物	軟甲	十脚	-	Megalopa of Brachyura	ｶﾆ亜目のﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生					3	+
159	節足動物	軟甲	十脚	-	Brachyura	ｶﾆ亜目						
160	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ﾕｽﾘｶ	Chironomidae (larva)	ﾕｽﾘｶ科(幼虫)						
161	箒虫動物	-	ﾎｳｷﾑｼ	ﾎｳｷﾑｼ	Phoronis sp.	Phoronis属						
162	腕足動物	舌殻	ｼｬﾐｾﾝｶﾞｲ	ｽｽﾞﾒｶﾞｲﾀﾞﾏｼ	Discinidae	ｽｽﾞﾒｶﾞｲﾀﾞﾏｼ科						
163	触手動物	苔虫	櫛口	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ	Vesiculariidae	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ科						
164	触手動物	苔虫	唇口	ｲﾀｺｹﾑｼ	Calloporidae	ｲﾀｺｹﾑｼ科						
165	触手動物	苔虫	唇口	ﾌﾅｺｹﾑｼ	Bugulidae	ﾌﾅｺｹﾑｼ科					*	+
166	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾟｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾋﾟｹﾞｺｹﾑｼ科			*	0.56	*	0.01
167	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Watersipoda subovoidea	ﾁｺﾞｸﾑｼ			*	0.04	*	+
168	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Schizoporellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科					*	0.01
169	触手動物	苔虫	唇口	ｳｽｺｹﾑｼ	Microporellidae	ｳｽｺｹﾑｼ科						
170	触手動物	苔虫	唇口	ﾀﾐｺｹﾑｼ	Reteporidae	ﾀﾐｺｹﾑｼ科			*	0.01	*	0.01
171	触手動物	苔虫	唇口	ﾊｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Smittinidae	ﾊｸﾞﾁｺｹﾑｼ科						
172	触手動物	苔虫	唇口	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Cryptosulidae	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科						
173	触手動物	苔虫	唇口	ｺｳﾞｺｹﾑｼ	Celleporinidae	ｺｳﾞｺｹﾑｼ科						
174	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｱｶﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	Asterina pectinifera	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ						
175	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｱｶﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	Asterinidae	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ科					1	0.19
176	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	Asterias amurensis	ｷﾋﾄﾃﾞ						
177	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	-	-	ASTEROIDEA	ﾋﾄﾃﾞ綱			1	+		
178	棘皮動物	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	-	-	OPHIUROIDEA	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ綱			1	0.16		
179	棘皮動物	ｳﾆ	ﾎﾝｳﾆ	-	Echinoida	ﾎﾝｳﾆ目					1	0.03
180	棘皮動物	ｳﾆ	-	-	ECHINOIDEA	ｳﾆ綱						
181	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ	Sclerodactylidae	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ科						
182	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾙﾎﾞﾔ	ﾏﾝｼﾞｭｳﾎﾞﾔ	Polyclinidae	ﾏﾝｼﾞｭｳﾎﾞﾔ科						
183	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾙﾎﾞﾔ	ｳｽﾎﾞﾔ	Didemnidae	ｳｽﾎﾞﾔ科						
184	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾙﾎﾞﾔ	ﾏﾙﾎﾞﾔ	Perophoridae	ﾏﾙﾎﾞﾔ科						
185	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾙﾎﾞﾔ	ﾅﾂﾐﾎﾞﾔ	Ascidiidae	ﾅﾂﾐﾎﾞﾔ科						
186	脊索動物	ﾎﾔ	ｲﾀﾎﾞﾔ	ｲﾀﾎﾞﾔ	Botryllidae	ｲﾀﾎﾞﾔ科						
187	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styela plicata	ｼﾛﾎﾞﾔ						
188	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styelidae	ｼﾛﾎﾞﾔ科						
189	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA (colony)	ﾎﾔ綱(群体ﾎﾞﾔ類)						
190	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA	ﾎﾔ綱			1	0.19		
					種類数		23		59		54	
					個体数・湿重量(g)合計		11,802	653.98	6,437	53.08	784	22.98

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-8（1）　坪刈り調査結果　泉大津沖処分場（D-2、D-3　付着動物）

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点	泉大津沖											
						枠番号	D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱					*	0.22			*	0.57		
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ハナクラゲ	エダクシミドロモドキ	Eudendridae	エダクシミドロモドキ科			*	0.01					*	0.01	*	0.02
3	刺胞動物	花虫	イソギンチャク	-	Actiniaria	イソギンチャク目	4	0.01	2	0.02			26	1.85	4	0.11	6	0.09
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	Polycladida	多岐腸目	3	0.02	6	0.05	2	0.01	14	3.68	10	0.97	75	1.65
5	紐形動物	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門	8	0.08	16	0.09	5	0.01	58	0.90	13	0.07	29	0.26
6	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒザラヒザラガイ	Mopalidae	ヒザラヒザラガイ科			1	+								
7	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	クサズリガイ	Acanthopleura japonica	ヒザラガイ	1	0.02					4	0.76				
8	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	Acanthochitona sp.	Acanthochitona属	37	6.64	4	0.15			43	2.76	1	+		
9	軟体動物	腹足	カサガイ	ヨメガカサガイ	Cellana toreuma	ヨメガカサ												
10	軟体動物	腹足	カサガイ	ユキノカサガイ	Patelloida saccharina form lanx	ウノアシ							2	0.26				
11	軟体動物	腹足	カサガイ	ユキノカサガイ	Lottia sp.	Lottia属							12	0.29				
12	軟体動物	腹足	古腹足	ニシキウズガイ	Omphalius rusticus	コシダカガンガラ					3	12.05						
13	軟体動物	腹足	古腹足	サザエ	Turbo sp.	Turbo属												
14	軟体動物	腹足	腹足	タマキビ	Peasiella habei	コビトウラウズガイ											1	+
15	軟体動物	腹足	腹足	タマキビ	Littorina brevicula	イボキビ												
16	軟体動物	腹足	異足	ソリマチ	Alvania concinna	タエガチ											5	0.02
17	軟体動物	腹足	腹足	ソリマチ	Rissoidae	ソリマチ科												
18	軟体動物	腹足	腹足	ホソヘビガラガイ	Crepidula onyx	シマメノウフネガイ	1	0.05	1	0.01	9	0.31	8	0.32	3	6.44	8	0.12
19	軟体動物	腹足	腹足	ビラセガイ	Erato sp.	Erato属											1	0.10
20	軟体動物	腹足	腹足	ハナブトガイ	Velutinidae	ハナブトガイ科											1	0.86
21	軟体動物	腹足	翼舌	クリイロセンカニモリ	Cerithiopsidae	クリイロセンカニモリ科									26	0.11	11	0.06
22	軟体動物	腹足	異足	ミツウロコモリガイ	Triphoridae	ミツウロコモリガイ科					1	+						
23	軟体動物	腹足	翼舌	イトカケガイ	Epitonium sp.	Epitonium属			1	+								
24	軟体動物	腹足	新腹足	アッキガイ	Thais bronni	レイシガイ			2	2.90	1	1.92			30	2.51	14	7.59
25	軟体動物	腹足	新腹足	アッキガイ	Thais clavigera	イボニシ	58	64.71	3	0.55			46	38.67			1	1.21
26	軟体動物	腹足	新腹足	アッキガイ	Muricidae	アッキガイ科			2	0.06	1	0.02						
27	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Mitrella bicincta	ムギガイ			7	0.05	8	0.31			1	0.01	10	0.25
28	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Mitrella sp.	Mitrella属												
29	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Zafra mitriformis	ノミニナモドキ					13	0.03			3	0.01	151	0.49
30	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Zafra sp.	ノミニナ属									3	0.01		
31	軟体動物	腹足	帯腹	クルマガイ	Architectonicidae	クルマガイ科									2	0.08	2	0.05
32	軟体動物	腹足	異旋	ヒゲガタガイ	Babelia caelatior	ウザイリフチキレ					9	0.02					3	0.01
33	軟体動物	腹足	異旋	トウガタガイ	Pyramidellidae	トウガタガイ科					3	0.01					6	0.02
34	軟体動物	腹足	異旋	イソチドリ	Amathinidae	イソチドリ科									2	0.01	2	0.01
35	軟体動物	腹足	頭楯	キセワタガイ	Philinidae	キセワタガイ科									10	0.14	4	0.05
36	軟体動物	腹足	頭楯	ブドウガイ	Haloa japonica	ブドウガイ					1	0.02			1	0.08		
37	軟体動物	腹足	側鰓	ウミフクロウ	Pleurobranchaea japonica	ウミフクロウ												
38	軟体動物	腹足	裸鰓	-	Nudibranchia	裸鰓目											2	0.14
39	軟体動物	腹足	基眼	カラマツガイ	Siphonaria sirius	キクノハナガイ	2	0.60										
40	軟体動物	腹足	基眼	カラマツガイ	Siphonaria japonica	カラマツガイ	2	0.11					9	0.11				
41	軟体動物	腹足	-	-	egg of GASTROPODA	腹足綱の卵	*	0.02										
42	軟体動物	二枚貝	フネガイ	フネガイ	Barbatia sp.	Barbatia属							1	0.02				
43	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Mytilus galloprovincialis	ムラサキイガイ	16,394	1,169.70	1,197	25.88	9	0.03	38,420	3,655.74	10	8.72	716	27.69
44	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Xenostrobus securis	ユウロンカワヒバリガイ												
45	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Modiolus sp.	Modiolus属			2	0.16	5	0.26	5	0.12	3	0.41	2	0.23
46	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Musculus cupreus	タマエガイ			15	0.14			17	0.17	150	6.36	36	1.59
47	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Arcuatula senhousia	ホトトギスガイ			1	0.04					1	+	1	0.01
48	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Lithophaga curta	イシマテ												
49	軟体動物	二枚貝	ミノガイ	ミノガイ	Limaria sp.	Limaria属					3	1.04						
50	軟体動物	二枚貝	ハネ	ナミマガシワ	Anomia chinensis	ナミマガシワ												
51	軟体動物	二枚貝	カキ	イタボガキ	Ostrea sp.	Ostrea属							1	25.86				
52	軟体動物	二枚貝	カキ	イタボガキ	Crassostrea gigas	マガキ												
53	軟体動物	二枚貝	カキ	イタボガキ	Ostreidae	イタボガキ科	1	0.07										
54	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	モシロハチガイ	Lasaeidae	モシロハチガイ科												
55	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	マルスダレガイ	Irus sp.	Irus属												
56	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	イワホリガイ	Petricola sp. cf. lithophaga	ウスカラシオガイ					6	0.05	26	0.36				
57	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	イワホリガイ	Petricolidae	イワホリガイ科												
58	軟体動物	二枚貝	オオノガイ	キヌマトイガイ	Mytella orientalis	ナガマドイガイ	15	0.08	491	3.70	103	0.65	164	0.97	3,018	38.88	1,291	12.63
59	軟体動物	二枚貝	オオノガイ	ツクエガイ	Gastrochaenidae	ツクエガイ科												
60	環形動物	多毛	サンゴムシ	クロコムシ	Marmotroe imbricata	ウキヌタクロコムシ			20	0.04	26	0.13			75	0.51	378	1.35
61	環形動物	多毛	サンゴムシ	クロコムシ	Halosydna brevisetosa	ヨロイクロコムシ							6	0.79	2	0.05		
62	環形動物	多毛	サンゴムシ	クロコムシ	Lepidonotus sp.	Lepidonotus属	8	0.14	1	0.01			40	0.86				
63	環形動物	多毛	サンゴムシ	クロコムシ	Nonparahalosydna sp.	Nonparahalosydna属									3	0.08	32	0.11
64	環形動物	多毛	サンゴムシ	クロコムシ	Polynoidae	クロコムシ科									24	0.10	21	0.03
65	環形動物	多毛	サンゴムシ	サンゴムシ	Eulalia sp.	Eulalia属	2	0.02					19	0.21	6	0.06	2	0.05
66	環形動物	多毛	サンゴムシ	サンゴムシ	Eumida sp.	Eumida属												
67	環形動物	多毛	サンゴムシ	サンゴムシ	Genetyllis sp.	Genetyllis属	1	0.01					3	0.02				
68	環形動物	多毛	サンゴムシ	サンゴムシ	Notophyllum sp.	Notophyllum属											1	0.06
69	環形動物	多毛	サンゴムシ	サンゴムシ	Phyllodocidae	サンゴムシ科											3	0.03
70	環形動物	多毛	チロリ	チロリ	Glycera sp.	Glycera属												
71	環形動物	多毛	オトヒメゴカイ	オトヒメゴカイ	Ophiodromus sp.	Ophiodromus属	1	+	3	0.01					67	0.26	21	0.06
72	環形動物	多毛	オトヒメゴカイ	オトヒメゴカイ	Hesionidae	オトヒメゴカイ科												
73	環形動物	多毛	シリス	シリス	Typosyllis adamanteus kurilensis	シロマダラシリス	2	0.02										
74	環形動物	多毛	シリス	シリス	Syllinae	Syllinae亜科	6	0.04	52	0.21	13	0.06	33	0.19	66	0.33	34	0.15
75	環形動物	多毛	シリス	シリス	Syllidae	シリス科									4	0.02		
76	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Nereis heterocirrata	ヒゼンイトユカイ											2	0.01
77	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Nereis multignatha	マサゴゴカイ									5	0.01	15	0.09
78	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Nereis neoneanthes	ヤスリゴカイ												
79	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Perinereis cultrifera	クマドリゴカイ											4	0.03
80	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Platynereis bicanaliculata	ツルヒゲゴカイ												
81	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Platynereis dumerilii	イソツルヒゲゴカイ									1	+	1	0.01
82	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Platynereis sp.	Platynereis属			1	+					1	+	1	+
83	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Pseudoneris variegata	ヒメカクゴカイ	2	0.01							5	0.01	14	0.09
84	環形動物	多毛	ゴカイ	ゴカイ	Nereididae	ゴカイ科									4	+		
85	環形動物	多毛	タンザクゴカイ	タンザクゴカイ	Chrysopetalidae	タンザクゴカイ科			9	0.02	6	0.02			1	+	2	+
86	環形動物	多毛	イソメ	イソメ	Eunice sp.	Eunice属					1	0.03						
87	環形動物	多毛	イソメ	ヒガロイソメ	Arabella iricolor	ヒガロイソメ							4	0.57	4	0.02	1	0.02
88	環形動物	多毛	イソメ	ソリコイソメ	Schistomeringos sp.	Schistomeringos属					2	+			5	0.02		
89	環形動物	多毛	スピオ	スピオ	Boccardiella sp.	Boccardiella属												
90	環形動物	多毛	スピオ	スピオ	Dipolydora sp.	Dipolydora属									1	+	11	0.07
91	環形動物	多毛	スピオ	スピオ	Polydora sp.	Polydora属									22	0.07	32	0.08
92	環形動物	多毛	スピオ	ミスビキコガイ	Cirratulus sp.	Cirratulus属												
93	環形動物	多毛	スピオ	ミスビキコガイ	Cirriformia sp.	Cirriformia属									9	0.10		
94	環形動物	多毛	スピオ	ミスビキコガイ	Dodecaceria sp.	Dodecaceria属			6	0.01					955	7.07	7	0.04
95	環形動物	多毛	スピオ	ミスビキコガイ	Timarete sp.	Timarete属			4	0.02								
96	環形動物	多毛	スピオ	ミスビキコガイ	Cirratulidae	ミスビキコガイ科					1	+			1	0.02	6	0.03
97	環形動物	多毛	オフェリアコガイ	オフェリアコガイ	Polyophthalmus pictus	カスリオフェリア	2	0.05			2	0.03						
98	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Streblosoma sp.	Streblosoma属									16	0.55	1	0.05
99	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Thelepus sp.	Thelepus属									21	0.35		
100	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Amphitrite sp.	Amphitrite属									5	0.27	2	0.06
101	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Nicolea sp.	Nicolea属												
102	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Terebella sp.	Terebella属			1	0.01								
103	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Terebellidae	フサゴカイ科												

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-8（2）　坪刈り調査結果　泉大津沖処分場（D-2、D-3　付着動物）

No.	門	綱	目	科	種名		調査地点	泉大津沖											
							枠番号	D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
							項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
104	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Branchiomma sp.	Branchiomma属													
105	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Sabellidae	ｹﾔﾘﾑｼ科				4	0.09					69	1.78	5	0.05
106	環形動物	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Hydroides ezoensis	ｴｿﾞｶｻｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ				9	0.48	14	0.35	12	0.24	78	3.11	23	0.95
107	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Pomatoleios kraussii	ｹﾔﾘｺﾖﾛｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ								1	0.02				
108	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Protohydroides elegans	ｶｻﾞｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ										12	0.09	112	0.58
109	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirobranchus sp.	Spirobranchus属												1	0.12
110	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Serpulidae	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科				3	0.14	10	0.20	13	0.15	5	0.24	85	0.42
111	節足動物	ｳﾐｸﾓﾘﾑｼ	-	-	PYCNOGONIDA	ｳﾐｸﾓﾘﾑｼ		1	0.01	2	+					1	0.01		
112	節足動物	顎脚	無柄	ｲｿﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Chthamalus challengeri	ｲｿﾌｼﾞﾂﾎﾞ													
113	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus amphitrite	ｸﾛｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ								1	0.05				
114	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus improvisus	ﾖｺｽｶﾌﾞﾂﾎﾞ				15	0.47	50	0.16						
115	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus rostratus	ﾐﾅﾄﾌﾞﾂﾎﾞ										1	0.38		
116	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus trigonus	ｻﾝｶｸﾌﾞﾂﾎﾞ				1	0.01	5	0.05	1	0.05	9	0.85	75	1.91
117	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾒﾄﾞｶﾞﾐｴﾋﾞ	Ampithoe sp.	Ampithoe属				28	0.20					1	0.02		
118	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾒﾄﾞｶﾞﾐｴﾋﾞ	Ampithoidae	ﾋﾒﾄﾞｶﾞﾐｴﾋﾞ科						1	+						
119	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿﾛｴﾋﾞ	Grandidierella sp.	Grandidierella属													
120	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿﾛｴﾋﾞ	Aoridae	ﾕﾝﾎﾞｿﾛｴﾋﾞ科		6	+	90	0.06	11	0.01			16	0.01	324	0.20
121	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｶﾞﾑｼ	Monoporophium sp.	Monoporophium属				3	+			3	+	4	+	18	0.02
122	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｶﾞﾑｼ	Corophiinae	Corophiinae								1	+				
123	節足動物	軟甲	端脚	ﾋﾒﾝﾌﾞﾀﾖｺｴﾋﾞ	Paradexamine sp.	Paradexamine属						4	0.01					1	+
124	節足動物	軟甲	端脚	ﾌｺﾞﾆｱﾆﾀﾞﾖｺｴﾋﾞ	Pontogeneiidae	ﾌｺﾞﾆｱﾆﾀﾞﾖｺｴﾋﾞ科													
125	節足動物	軟甲	端脚	ﾋｹﾞﾖｺｴﾋﾞ	Hyale sp.	Hyale属		4	0.03					1	+				
126	節足動物	軟甲	端脚	ﾊﾏｴﾋﾞﾖｺｴﾋﾞ	Eriopthonius pugnax	ﾊﾏｴﾋﾞﾖｺｴﾋﾞ						6	0.01			12	0.03	86	0.14
127	節足動物	軟甲	ﾀﾏﾂﾉﾑｼ	ﾀﾏﾂﾉﾑｼ	Jassa sp.	Jassa属		1	+	27	0.03	36	0.04			33	0.05	119	0.14
128	節足動物	軟甲	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Elasmopus japonicus	ﾒｲﾌﾞﾖｺｴﾋﾞ										3	0.01		
129	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melitidae	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ科		1	+										
130	節足動物	軟甲	端脚	ｽﾃﾉｿｴﾋﾞ	Stenothoe sp.	Stenothoe属										20	0.02	5	+
131	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ	Caprella equilibra	ｳﾋﾞﾅｶﾞﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ		1	0.01							13	0.03	1	0.01
132	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ	Caprella penantis	ﾏﾙﾋﾒﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ		15	0.02	133	0.25	15	0.02			484	1.20	595	1.43
133	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ	Caprella scaura	ﾊﾅﾌﾞﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ						3	+			13	0.01	203	0.61
134	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ	Caprella simia	ｶﾎﾞﾁﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ												9	0.04
135	節足動物	軟甲	端脚	ﾌﾜﾙｶﾌﾞﾗ	Caprella sp.	Caprella属		1	+	5	+	9	0.01			118	0.11	794	0.61
136	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾅﾅﾌｼﾑｼ	Paranthuridae	ｳﾐﾅﾅﾌｼ科													
137	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾌﾞﾌﾞﾑｼ	Dynoides dentisinus	ｼﾊﾞﾔﾝｺﾞﾐｷﾐ													
138	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾌﾞﾌﾞﾑｼ	Dynoides sp.	Dynoides属		1	+					2	0.01				
139	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾌﾞﾌﾞﾑｼ	Holotelson tuberculatus	ｺﾌﾞﾋﾞｳﾐﾐｷﾐ										4	0.02	1	+
140	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	Janiridae	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ科		3	0.01	11	0.01			1	+	75	0.08	216	0.23
141	節足動物	軟甲	等脚	ﾑﾝﾅ	Munnidae	ﾑﾝﾅ科													
142	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	Zeuxo sp.	Zeuxo属				23	0.02	11	0.01			19	0.01	130	0.14
143	節足動物	軟甲	十脚	ｴﾋﾞｼﾞﾔｺ	Crangonidae	ｴﾋﾞｼﾞﾔｺ科													
144	節足動物	軟甲	十脚	-	Caridea	ｺｴﾋﾞ亜目						4	0.01			3	0.01	4	0.01
145	節足動物	軟甲	十脚	ｶﾆﾀﾞﾏｼ	Porcellanidae	ｶﾆﾀﾞﾏｼ科												1	+
146	節足動物	軟甲	十脚	ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	Paguridae	ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ科						2	0.04			2	0.03	6	0.08
147	節足動物	軟甲	十脚	-	Anomura	ﾔﾄﾞｶﾘ亜目													
148	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	Cancer sp.	Cancer属				27	0.12	4	0.02			5	0.03	3	0.01
149	節足動物	軟甲	十脚	ﾒﾀﾞﾏｶﾞﾆ	Sphaerozius nitidus	ｽﾍﾞｽﾍﾞｵｳﾅｷﾞｶﾞﾆ										1	0.07	1	0.07
150	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia incisa	ｹﾔﾊﾞﾓｸﾞﾆ												1	0.17
151	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia quadridens	ﾖﾂﾊﾓｸﾞﾆ										2	1.17		
152	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia sp.	Pugettia属				50	0.14	1	+			211	0.58	1,988	3.88
153	節足動物	軟甲	十脚	ﾋﾒｱﾌﾞｶﾞﾆ	Hymenosomatidae	ﾋﾒｱﾌﾞｶﾞﾆ科				1	0.01							1	0.01
154	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｲﾁﾞｽ	Pyromaia tuberculata	ｲﾁｮｳｶﾌﾞﾗﾓｶﾞﾆ						4	0.33			1	0.10	3	0.30
155	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶﾞﾆ	Pilumnus minutus	ﾋﾒｹﾌﾞｶﾞﾆ						4	0.29			22	1.32	76	2.83
156	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶﾞﾆ	Pilumnus sp.	Pilumnus属				2	0.03	2	0.03			37	0.62	24	0.31
157	節足動物	軟甲	十脚	ﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	Nanosesarma minutum	ﾋﾒﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ								2	0.02				
158	節足動物	軟甲	十脚	-	Megalopa of Brachyura	ｶﾆ亜目のﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生				2	+	2	+						
159	節足動物	軟甲	十脚	-	Brachyura	ｶﾆ亜目													
160	節足動物	昆虫	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ	Chironomidae(larva)	ﾕｽﾘｶ科(幼虫)													
161	触角動物	-	ﾎｳﾓﾝﾑｼ	ﾎｳﾓﾝﾑｼ	Phoronis sp.	Phoronis属										8,018	43.48	1	+
162	節足動物	昆殻	ｼｬﾐｾﾝｶﾞｲ	ｽｽﾞﾒｶﾞｲﾀﾞﾏｼ	Dipsinidae	ｽｽﾞﾒｶﾞｲﾀﾞﾏｼ科												3	0.02
163	触毛動物	苔虫	唇口	ﾌﾟﾛﾎﾟｺﾌﾞﾑｼ	Vesiculariidae	ﾌﾟﾛﾎﾟｺﾌﾞﾑｼ科											0.06		
164	触手動物	苔虫	唇口	ｲﾀﾎﾞｺﾌﾞﾑｼ	Celloporidae	ｲﾀﾎﾞｺﾌﾞﾑｼ科						*	0.01						
165	触手動物	苔虫	唇口	ﾌｻﾞﾎﾟｺﾌﾞﾑｼ	Bugulidae	ﾌｻﾞﾎﾟｺﾌﾞﾑｼ科										*	28.61	*	59.42
166	触毛動物	苔虫	唇口	ﾋﾀﾞﾎﾞｺﾌﾞﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾋﾀﾞﾎﾞｺﾌﾞﾑｼ科												*	2.18
167	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾓｺﾌﾞﾑｼ	Watersipoda subovoidea	ﾁﾋﾞｺﾌﾞﾑｼ													
168	触毛動物	苔虫	唇口	ﾋﾓｺﾌﾞﾑｼ	Schizoporellidae	ﾋﾓｺﾌﾞﾑｼ科				*	0.31	*	8.22					*	1.27
169	触手動物	苔虫	唇口	ｳｽｺﾌﾞﾑｼ	Microporellidae	ｳｽｺﾌﾞﾑｼ科													
170	触手動物	苔虫	唇口	ﾌﾞﾕｺﾌﾞﾑｼ	Meteoridae	ﾌﾞﾕｺﾌﾞﾑｼ科												*	4.95
171	触毛動物	苔虫	唇口	ﾊﾞｿﾞﾓｺﾌﾞﾑｼ	Smittinidae	ﾊﾞｿﾞﾓｺﾌﾞﾑｼ科				*	0.30	*	1.11			*	0.07	*	23.99
172	触手動物	苔虫	唇口	ﾓﾝﾋﾞﾓｺﾌﾞﾑｼ	Cryptosulidae	ﾓﾝﾋﾞﾓｺﾌﾞﾑｼ科				*	0.37			*	0.02	*	0.09		
173	触手動物	苔虫	唇口	ｺﾌﾞｺﾌﾞﾑｼ	Celleporiridae	ｺﾌﾞｺﾌﾞﾑｼ科						*	0.28			*	0.18	*	2.78
174	棘皮動物	ﾋﾄﾞﾃﾞ	ｱｶﾋﾄﾞﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾞﾃﾞ	Asterina pectinifera	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾞﾃﾞ													
175	棘皮動物	ﾋﾄﾞﾃﾞ	ｱｶﾋﾄﾞﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾞﾃﾞ	Asterinidae	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾞﾃﾞ科				1	0.15	1	0.10						
176	棘皮動物	ﾋﾄﾞﾃﾞ	ｷﾋﾄﾞﾃﾞ	ｷﾋﾄﾞﾃﾞ	Asterias amurensis	ﾏﾋﾄﾞﾃﾞ						4	0.71			4	9.10	5	2.88
177	棘皮動物	ﾋﾄﾞﾃﾞ	-	-	ASTEROIDEA	ﾋﾄﾞﾃﾞ綱													
178	棘皮動物	ｸﾓﾋﾄﾞﾃﾞ	-	-	OPHIUROIDEA	ｸﾓﾋﾄﾞﾃﾞ綱										2	0.01		
179	棘皮動物	ｳﾆ	ﾎﾝｳﾆ	-	Echinoida	ﾎﾝｳﾆ目				1	0.06								
180	棘皮動物	ｳﾆ	-	-	ECHINOIDEA	ｳﾆ綱													
181	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ	Sclerodactylidae	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ科				3	0.24					2	0.81	2	0.48
182	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾏﾝｼﾞｭｳﾎﾞﾔ	Polyclinidae	ﾏﾝｼﾞｭｳﾎﾞﾔ科										*	1.37		
183	脊索動物	ﾎﾔ	ｵｳﾎﾞﾔ	ｳｽﾎﾞﾔ	Didemnidae	ｳｽﾎﾞﾔ科						*	0.80						
184	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	Perophoridae	ﾏﾎﾞﾔ科										*	2.52		
185	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾅﾏｺﾞﾎﾞﾔ	Ascidiidae	ﾅﾏｺﾞﾎﾞﾔ科												10	0.11
186	脊索動物	ﾎﾔ	ｲﾀﾎﾞﾔ	ｲﾀﾎﾞﾔ	Botrylliidae	ｲﾀﾎﾞﾔ科				*	0.19								
187	脊索動物	ﾎﾔ	ﾎﾞﾔ	ｼﾝﾎﾞﾔ	Styela plicata	ｼﾝﾎﾞﾔ										1	10.95		
188	脊索動物	ﾎﾔ	ﾎﾞﾔ	ｼﾝﾎﾞﾔ	Styelidae	ｼﾝﾎﾞﾔ科										43	23.72	5	4.06
189	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA(colony)	ﾎﾔ綱(群体ﾎﾞﾔ類)				*	0.10	*	0.08			*	7.69	*	3.91
190	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA	ﾎﾔ綱												4	0.06
種類数								31		53		54		35		89		92	
個体数・湿重量(g)合計								16,584	1,242.48	2,425	37.92	432	30.13	38,999	3,736.04	13,938	216.08	7,910	178.95

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

3-3 目視による付着動植物調査

3-3-1 植物（海藻）

(1) 神戸沖処分場

表 3-9 に神戸沖処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における植物の目視観察結果を示した。図 3-4 には、調査側線における代表的な箇所を示した。

・地点 A-2

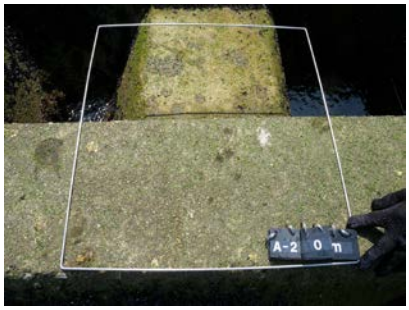
A-2 の地点では、各水深帯で 0～10 種、全体で 22 種の海藻類が目視観察によって確認された。-11m では海藻は確認できず、-2～-3m で種類数が多くなる傾向がみられた。±0m ではアオサ属、-4m で紅藻のマクサの被度が高くなっていた。また、-2～3m では藻場構成種（大型褐藻）であるタマハハキモクが確認された。

表 3-9（1）　植物　目視観察結果　（　神戸沖処分場　A-2　）

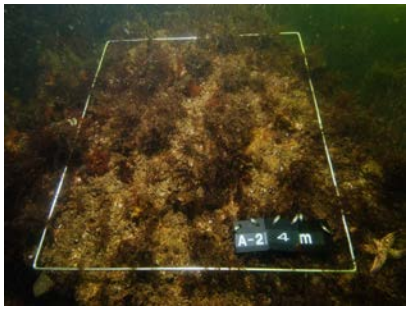
調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	転石	転石	転石	転石	転石	転石	砂泥
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵﾉﾘ属	5	+				+							
		ｱｵｻ属		30	+	+									
		ｼﾞｭｽﾞﾓ属					+								
		ｼｵｸﾞｻ属				+	+								
		ｼﾙ			5										
黄色植物門	褐藻綱	ﾌｸﾛﾉﾘ			+		+		+						
		ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ				20	20								
紅色植物門	紅藻綱	ﾏｸｻ				+	20	30	+	5	+				
		ｲﾜﾉｶﾜ科											+		
		ｻﾋﾞ亜科								+	+				
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			+	20	+	+	10	+	+				
		ﾂﾙﾂﾙ				+									
		ﾌﾀﾞﾗｸ					+								
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ						+	+	+					
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ											+		
		ｶﾊﾞﾉﾘ				10	20	10	5	5					
		ｵｷﾂﾉﾘ						5	+						
		ﾂﾉﾏﾀ			+	+									
		ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ			+										
		ｲｷﾞｽ科			+	+	+								
		ｲﾄｸﾞｻ属						+	10	10	+	+		+	
藍色植物門	藍藻綱	藍藻綱				+									
出現種類数			1	2	7	10	9	7	7	6	4	1	2	1	0

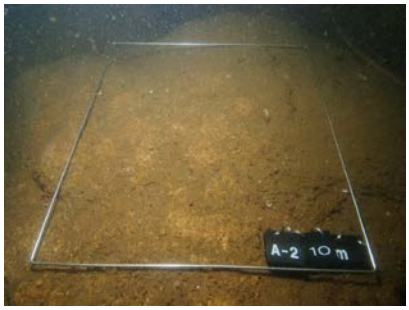
注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面±0m



平均水面-4.0m



平均水面-10.0m

図 3-4（1）　代表的な調査箇所の状況（A-2）

・地点 A-4

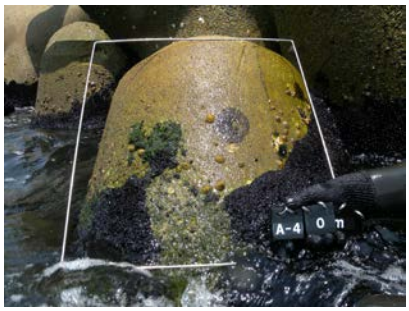
A-4 の地点では、各水深帯で 0～11 種、全体で 20 種の海藻類が目視観察よって確認された。+1m では海藻類は確認できず、-5m で種類数が最も多くなっていた。-2～-5m ではタマハハキモク、-3～-4m ではワカメ、-5m でシダモク、ヨレモクモドキなどの藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-9（2）　植物　目視観察結果　（　神戸沖処分場　A-4　）

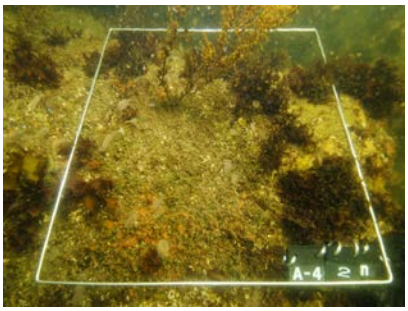
調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	砂泥
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵｻ属		5	+	10	+								
		ｼｵｸﾞｻ属			+	+	+								
黄色植物門	褐藻綱	ﾌｸﾛﾉﾘ				+									
		ﾜｶﾒ					20	20							
		ｼﾀﾞﾓｸ							5						
		ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ				10	10	10	5						
		ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ							+						
	珪藻綱	珪藻綱										+	+	+	+
紅色植物門	紅藻綱	ﾏｸｻ					+	+	+	10					
		ｻﾋﾞ亜科						+	5	+	+	+			
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ					+	+	+						
		ﾌﾀﾞﾗｸ			10	10									
		ｶﾊﾞﾉﾘ					20	10	5	+	+				
		ｵｷﾂﾉﾘ				+									
		ﾂﾉﾏﾀ			+	20									
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ							+	+	+	+			
		ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ			+	+	+		+						
		ｲｷﾞｽ科						+	+	+					
		ｲﾄｸﾞｻ属							+	+	+	+	+	+	
藍色植物門	藍藻綱	藍藻綱		5		+									
		出現種類数	0	2	5	9	8	7	11	6	4	4	2	2	1

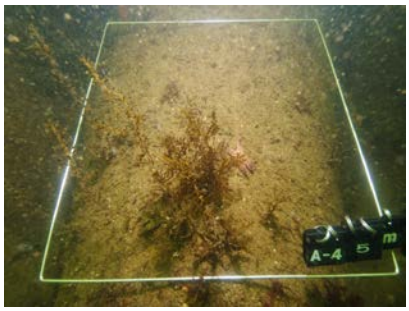
注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面±0.0m



平均水面-2.0m



平均水面-5.0m

図 3-4（2）　代表的な調査箇所の状況（A-4）

・地点 A-5

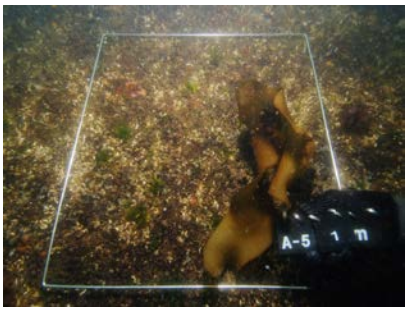
A-5 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 15 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、±0m と-11m では海藻類は確認できず、-4～-5m で種類数が多くなっていた。-2～-7m の広い範囲で紅藻のベニスナゴの被度が高くなっており、同じく紅藻のサビ亜科も-8m で被度が高かった。また、-4m で藻場構成種（大型褐藻）であるシダモクが確認された。

表 3-9（3）　植物　目視観察結果　（　神戸沖処分場　A-5　）

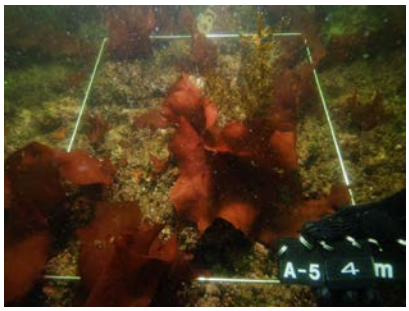
調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	巨礫 大礫	砂泥
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵﾉﾘ属			+										
		ｱｵｻ属			10	5	+	+	+	+					
		ﾐﾙ			+										
黄色植物門	褐藻綱	ｼﾀﾞﾓｸ						10							
紅色植物門	紅藻綱	ﾏｸｻ					+	+	+						
		ｲﾜﾉｶﾜ科					+	+	+	+	+				
		ｻﾋﾞ亜科					+	10	10	20	20	30	20	+	
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ						+							
		ﾌﾀﾞﾗｸ			10										
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ				30	30	30	50	40	40				
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ									+	+	+	10	
		ｵｷﾂﾉﾘ			+										
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ							+						
		ｲｷﾞｽ科			+	+	+	+	+	+					
		ｲﾄｸﾞｻ属							+	+	+	+	+		
出現種類数			0	0	6	3	6	8	8	6	5	3	3	2	0

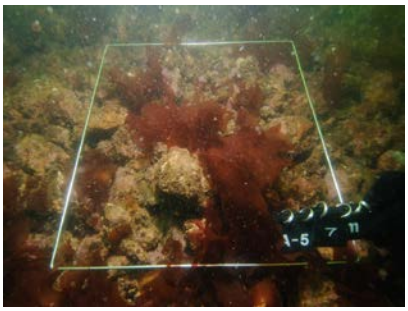
注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面-1.0m



平均水面-4.0m



平均水面-7.0m

図 3-4（3）　代表的な調査箇所の状況（A-5）

(2) 大阪沖処分場

表 3-10 に大阪沖処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における植物の目視観察結果を示した。図 3-5 には、調査側線における代表的な箇所を示した。

・地点 C-1

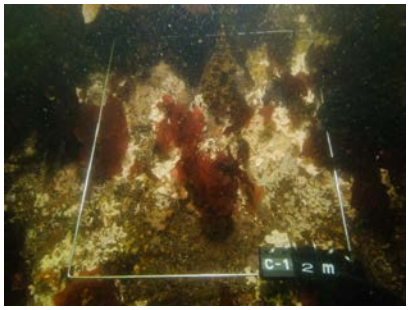
C-1 の地点では、各水深帯で 0～12 種、全体で 16 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-5m で種類数が最も多くなっていた。-1、-3～-4m でフダラク、-6～-7m でベニスナゴ、-8m でススカケベニなどの紅藻の被度が高くなっていた。また、-4～-5m でシダモク、-2～-3、-5m でワカメなどの藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-10（1）　植物　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-1　）

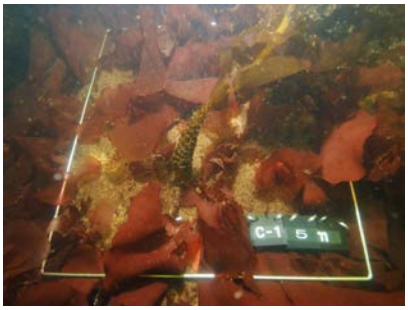
調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵﾉﾘ属		+	+									
		ｱｵｻ属		+										
黄色植物門	褐藻綱	ﾜｶﾒ				10	10		20					
		ｼﾀﾞﾓｸ						10	+					
紅色植物門	紅藻綱	ｻﾋﾞ亜科					+	5	10	+	+	+	+	+
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ						+	+	+	+			
		ﾂﾙﾂﾙ						10	+	+	+	+		
		ﾌﾀﾞﾗｸ			40	20	40	30	20	+				
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ						20	20	40	60	+		
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ							+	+	+	30	10	+
		ｶﾊﾞﾉﾘ				+		+	+	+	+	+		
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ								20	5			
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ							+		+			
		ｲｷﾞｽ科			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		ｲﾄｸﾞｻ属							10	10	5			
藍色植物門	藍藻綱	藍藻綱		+										
		出現種類数	0	3	3	4	4	8	12	10	10	6	3	3

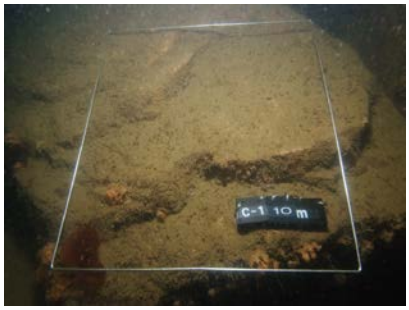
注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面-2.0m



平均水面-5.0m



平均水面-10.0m

図 3-5（1）　代表的な調査箇所の状況（C-1）

・地点 C-2

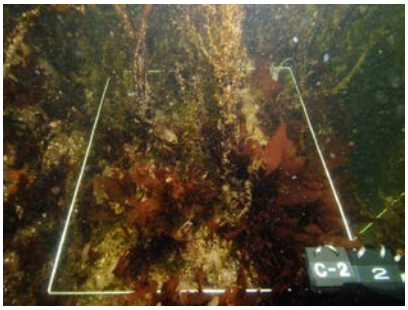
C-2 の地点では、各水深帯で 0～11 種、全体で 19 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-6m で種類数が最も多くなっていた。-1m と-3m でフダラク、-3m でオオツバマタ、-4～-7m でベニスナゴ、-7～-10m でサビ亜科などの紅藻の被度が高くなっていた。また、-1～-4m でワカメ、-2m でタマハハキモク、-5～-6m でシダモクなどの藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-10（2）　植物　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-2　）

調査日：平成26年5月31日

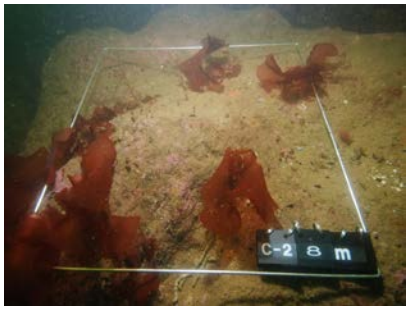
平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵｻ属		+	5	5								
		ｼｵｸﾞｻ属		+	+	+								
黄色植物門	褐藻綱	ﾜｶﾒ			20	10	20	+						
		ｼﾀﾞﾓｸ							+	10				
		ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ				30								
紅色植物門	紅藻綱	ﾏｸｻ							+	+				
		ｲﾜﾉｶﾜ科						10	10	5	20	10	20	20
		ｻﾋﾞ亜科					+	20	20	10	30	30	30	40
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ					+	+		+				
		ﾌﾀﾞﾗｸ			40	10	30							
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ						60	60	50	40	+	+	
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ								+	+	20	10	+
		ｶﾊﾞﾉﾘ				5	+	+	10	+	+			
		ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ			20	5	30							
		ﾂﾉﾏﾀ			10									
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ								10				
		ﾖｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ			+	+								
		ｲｷﾞｽ科			+	+	+	+	+	+	+			
		ｲﾄｸﾞｻ属								10	+	+	+	
		出現種類数	0	2	8	9	7	7	7	11	7	5	5	3

注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面-2.0m

平均水面-6.0m



平均水面-8.0m

図 3-5（2）　代表的な調査箇所の状況（C-2）

・地点 C-3

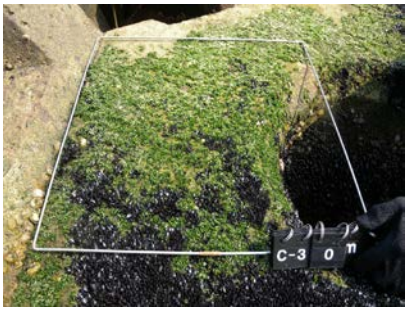
C-3 の地点では、各水深帯で 0～10 種、全体で 21 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-4m で種類数が最も多くなっていた。±0m ではアオサ属、-1m ではフダラク、-2m でツルツル、-5～7m ではベニスナゴ、-7 と 9m ではサビ亜科などの紅藻の被度が高くなっていた。また、-3m ではタマハハキモク、-4m ではワカメ、シダモクなどの藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-10（3）　植物　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-3　）

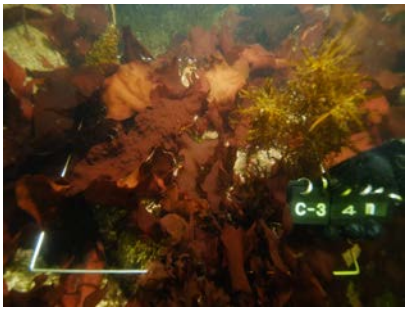
調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵｻ属		60	5									
		ｼｵｸﾞｻ属		+	+	10								
		ﾐﾙ				+								
黄色植物門	褐藻綱	ﾜｶﾒ						10						
		ｼﾀﾞﾓｸ						10						
		ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ					10							
紅色植物門	紅藻綱	ﾏｸｻ					+	+	+	+	+			
		ｲﾜﾉｶﾜ科							5	10	10	10	+	
		ｶﾆﾉﾃ属						+						
		ｻﾋﾞ亜科					+	5	10	10	30	20	30	+
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ						+						
		ﾂﾙﾂﾙ			10	50	10	20						
		ﾌﾀﾞﾗｸ			60	10	20							
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ						20	60	60	50	20	5	
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ											+	5
		ｶﾊﾞﾉﾘ					10	10						
		ｵｷﾂﾉﾘ							+	+				
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ								+		+		
		ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ			+	+								
		ｲｷﾞｽ科				+	+	+	+					
		ｲﾄｸﾞｻ属									+	+	+	+
		出現種類数	0	2	5	6	7	10	6	6	5	5	5	3

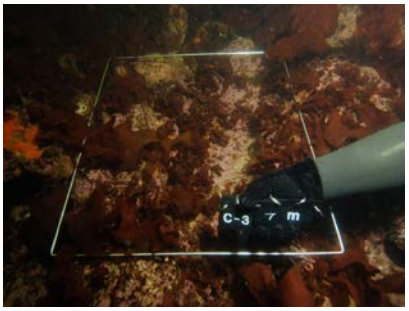
注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面±0.0m



平均水面-4.0m



平均水面-7.0m

図 3-5（3）　代表的な調査箇所の状況（C-3）

(3) 泉大津沖処分場

表 3-11 に泉大津沖処分場の 3 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における植物の目視観察結果を示した。図 3-6 には、調査側線における代表的な箇所を示した。

・地点 D-2

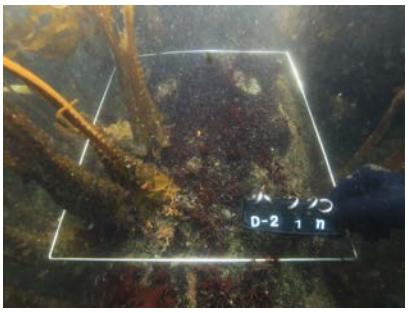
D-2 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 12 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、-13m では海藻が確認されず、-3m 付近で種類数が最も多くなっていた。-4～-6m でカバノリ、-3～7m ではタオヤギソウなどの紅藻の被度が高くなっていた。また、-1～-4m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-11（1）　植物　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-2　）

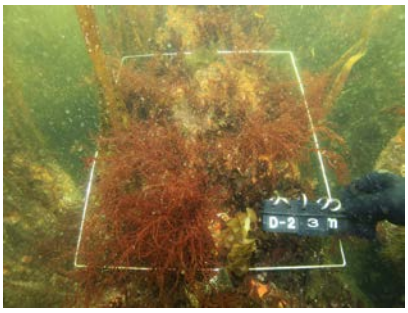
調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 転石	巨礫	泥
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵｻ属			+	20	+										
		ｼｵｸﾞｻ属		20	+												
黄色植物門	褐藻綱	ﾜｶﾒ			30	20	10	10									
	珪藻綱	珪藻綱		+	+	+											
紅色植物門	紅藻綱	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			+	10	+	+	+								
		ﾌﾀﾞﾗｸ		+	10												
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ					+				+	10	5	+	+		
		ｶﾊﾞﾉﾘ				10	20	40	70	60	20	10					
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ					30	30		30	30	5					
		ｲｷﾞｽ科		+	+	+	+	+	+	+	+						
		ﾀﾞｼﾞｱ科												+			
		ｲﾄｸﾞｻ属				5	+	+	+	5	10	10	10	5	+	+	
出現種類数			0	4	7	7	8	6	4	4	5	4	2	3	2	1	0

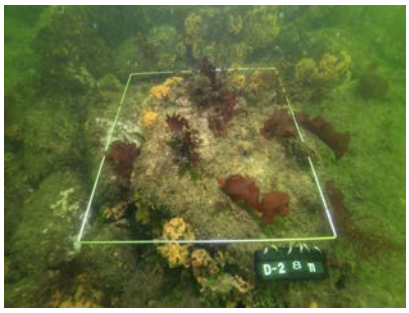
注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面-1.0m



平均水面-3.0m



平均水面-8.0m

図 3-6（1）　代表的な調査箇所の状況（D-2）

・地点 D-3

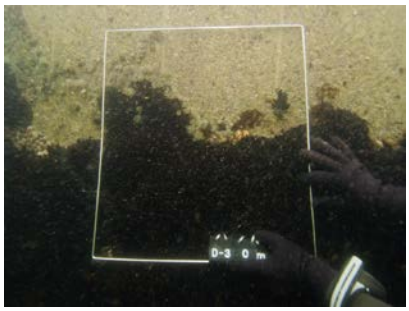
D-3 の地点では、各水深帯で 0～4 種、全体で 10 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、-13m では海藻が確認されず、-7～8m で種類数が多くなる傾向がみられた。-4m では紅藻のタオヤギソウの被度が高くなっていた。また、-2～-3m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-11（2）　植物　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-3　）

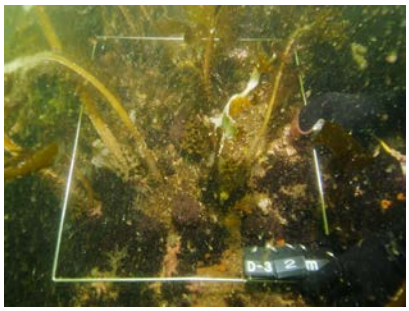
調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵﾉﾘ属		+													
		ｱｵｻ属		+													
		ｼｵｸﾞｻ属			+												
		ﾐﾙ										+					
黄色植物門	褐藻綱	ﾜｶﾒ				40	5										
紅色植物門	紅藻綱	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ					+	5	+	+	20	20	10	+			
		ｶﾊﾞﾉﾘ									20	+					
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ					20	30	10	5	20						
		ｲﾄｸﾞｻ属									10	10	20	10	10	+	
藍色植物門	藍藻綱	藍藻綱		+													
出現種類数			0	3	1	1	3	2	2	2	4	4	2	2	1	1	0

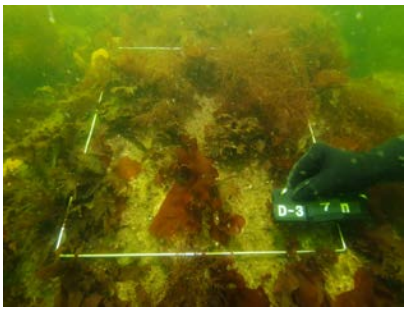
注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面±0.0m



平均水面-2.0m



平均水面-7.0m

図 3-6（2）　代表的な調査箇所の状況（D-3）

・地点 D-5

D-5 の地点では、+1m で藍藻綱 1 種が確認されたのみであった。

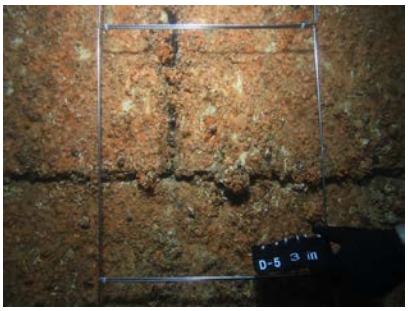
表 3-11（3）　植物　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-5　）

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			エコ岩壁							
			壁面					遊水室		
			+1	0	-1	-2	-3			
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	石綱	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
藍色植物門	藍藻綱	藍藻綱	30							
出現種類数			1	0	0	0	0	0	0	0

注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。

平均水面+1.0m



平均水面-3.0m

遊水室上面

図 3-6（3）　代表的な調査箇所の状況（D-5）

・地点 D-6

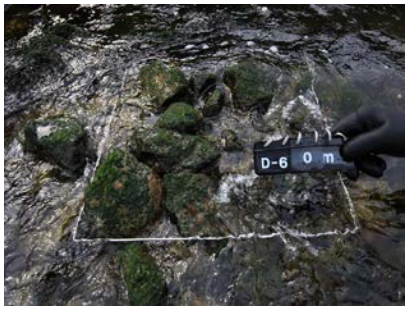
D-6 の地点では、各水深帯で 0～7 種類、全体で 8 種類の海藻類が目視観察によって確認された。+1m と遊水室の上面、側面では海藻が確認されず、-3m で最も種類数が多くなっていた。±0m ではアオサ属の被度が高くなっていた。また、-1～-5m で、藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-11（4）　植物　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-6　）

調査日：平成26年6月2日

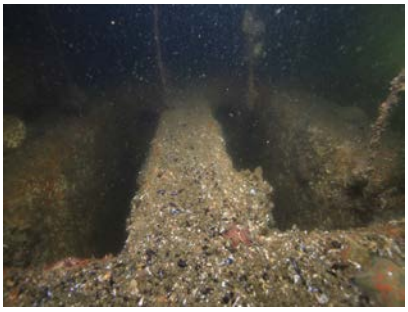
平均水面からの高さ（m）			エコ岩壁													
			壁面							遊水室						
			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室			
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑色植物門	緑藻綱	ｱｵｻ属		30			5								
		ｼｵｸﾞｻ属			+	+	+								
黄色植物門	褐藻綱	ﾜｶﾒ			5	+	10	30	5						
紅色植物門	紅藻綱	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			+	5	+					+			
		ﾂﾙﾂﾙ			10	+	+					+			
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ						+	10						+
		ｶﾊﾞﾉﾘ					+								+
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ					20	20							+
出現種類数			0	1	4	4	7	3	2	0	0	2	0	0	3

注．数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。



平均水面±0.0m

平均水面-4.0m



遊水室上室下面

図 3-6（4）　代表的な調査箇所の状況（D-6）

3-3-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖処分場

表 3-12 に神戸沖処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場、泉大津沖処分場における主な確認種を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 21 種の付着動物が目視観察によって確認された。-11m では付着生物は確認されず、-5m で種類数が最も多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m でイワフジツボ、±0～-1m で二枚貝のムラサキイガイ、-3～-4m でカンザシゴカイ科、-5m で苔虫綱の被度が高くなっていた。

表 3-12（1）　動物　目視観察結果　（　神戸沖処分場　A-2　）

調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	転石	転石	転石	転石	転石	転石	砂泥
海綿動物門	－	海綿動物門						+	+	+					
刺胞動物門	花虫綱	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目							+			+	+	+	
軟体動物門	腹足綱	ｳﾉｱｼ		(1)											
		ﾀﾏｷﾋﾞ	(2)												
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(132)												
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(1)										
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(4)											
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		10	50										
		ﾏｶﾞｷ		+	+										
環形動物門	多毛綱	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科				+	+								
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	5	10	10	5	+	+	+	+	+	
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	10											
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			+	+	+								
	軟甲綱	ﾔﾄﾞｶﾘ上科				(1)			(1)						
箒虫動物門	ﾎｳｷﾑｼ綱	ﾎｳｷﾑｼ科					+								
触手動物門	苔虫綱	ﾁｺﾞｹﾑｼ						+							
		苔虫綱						5	10	+	+	+	+	+	
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｷﾋﾄﾃﾞ					(1)		(2)	(1)	(4)			(1)	
	ﾅﾏｺ綱	ﾏﾅﾏｺ						(1)							
原索動物門	ﾎﾔ綱	ﾎﾔ綱(群体性)				+	+	5	+	+	+	+			
－	－	泥巣				10	10	10	5	+	+	+	+	+	
		出現種類数	3	5	5	6	7	7	8	6	5	5	4	5	0

注．1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2）（　）内の数値は個体数を示す。
3）泥巣は、マット状のヨコエビ類または多毛類の生息巣を示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、各水深帯で 1～8 種、全体で 21 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3～-4m で種類数が多くなる傾向がみられた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m では同じく巻貝のキクノハナガイが多くみられた。±0m でイワフジツボ、±0～-1m で二枚貝のムラサキイガイ、-2～-3m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。

表 3-12（2） 動物 目視観察結果 （ 神戸沖処分場 A-4 ）

調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	砂泥
海綿動物門	―	海綿動物門			+	10	+	+							
刺胞動物門	花虫綱	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+											
軟体動物門	腹足綱	ﾖﾒｶﾞｶｻ		(1)											
		ｳﾉｱｼ		(2)											
		ﾀﾏｷﾋﾞ	(4)												
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(192)												
		ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ					(1)								
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(2)											
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(33)											
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		30	20	5	5								
		ﾏｶﾞｷ		+											
環形動物門	多毛綱	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科					+	+							
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	10	20	+	+	+	+	+	+		
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	10											
		ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ			+										
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			+	+									
触手動物門	苔虫綱	苔虫綱			+	+	+	+	+	+	+				
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｷﾋﾄﾃﾞ						(1)	(1)		(2)		(1)		(2)
	ｳﾆ綱	ｻﾝｼｮｳｳﾆ						(1)							
原索動物門	ﾎﾔ綱	ﾎﾔ綱(群体性)				+	+	+	+	+					
―	―	泥巣				20	20	10	+	+	10	+		+	
		出現種類数	3	8	6	7	8	8	5	4	4	2	2	1	1

注. 1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2）（ ）内の数値は個体数を示す。
3）泥巣は、マット状のヨコエビ類または多毛類の生息巣を示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、各水深帯で 1～13 種、全体で 31 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3～-6m 付近で種類数が多くなる傾向がみられた。-1～-2m で巻貝のレイシガイが多くみられ、±0m ではイワフジツボ、-1～-2m で二枚貝のムラサキイガイ、-1～-4m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、イトマキヒトデ、キヒトデが-2～-11m の広い範囲でみられた。

表 3-12（3） 動物 目視観察結果 （ 神戸沖処分場 A-5 ）

調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	巨礫 大礫	砂泥
海綿動物門	－	海綿動物門			+	+	+	+	+	+					
刺胞動物門	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱						+	+	+	+	+	+	+	
	花虫綱	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+											
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目				+	+								
軟体動物門	腹足綱	ﾖﾒｶﾞｶｻ		(3)											
		ｺﾓﾚﾋﾞﾖｶﾞﾓｶﾞｲ		(4)											
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(3)												
		ｶｺﾞﾒｶﾞｲ							(1)	(1)		(1)			
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(23)	(18)	(2)	(1)							
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(3)											
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(2)											
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		+	30	20									
		ﾏｶﾞｷ		5											
環形動物門	多毛綱	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科						+	+	+	+				
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			40	30	5	10	+	+	+	+	+	+	
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		60											
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					+	5	5	5	+	+	+	+	
		ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		5											
箒虫動物門	ﾎｳｷﾑｼ綱	ﾎｳｷﾑｼ科					+								
触手動物門	苔虫綱	ﾌｻｺｹﾑｼ科					+								
		ﾁｺﾞｹﾑｼ			+	5	+								
		ｱﾐｺｹﾑｼ科					+	+	+	+	+	+	+	+	
		苔虫綱				+	10	+	+	+	+			+	
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ				(1)		(4)	(2)	(1)	(2)		(1)		
		ｷﾋﾄﾃﾞ				(2)	(1)		(2)	(3)					(1)
	ﾅﾏｺ綱	ﾏﾅﾏｺ						(1)							
原索動物門	ﾎﾔ綱	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ						+	+	+	+				
		ｴﾎﾞﾔ			+	+									
		ﾎﾔ綱(群体性)			5	5	+	+	+	+	+				
		ﾎﾔ綱(単体性)			+	+									
－	－	泥巣					10	10	5	5	+	+	+	+	
		出現種類数	1	9	8	12	13	13	13	13	10	6	6	6	1

注. 1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2）（ ）内の数値は個体数を示す。
3）泥巣は、マット状のヨコエビ類または多毛類の生息巣を示す。

(2) 大阪沖処分場

表 3-13 に大阪沖処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場、泉大津沖処分場における主な確認種を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、各水深帯で 2～9 種、全体で 23 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m では同じく巻貝のキクノハナガイが多くみられ、イワフジツボの被度が高くなっていた。また、±0～-1m でムラサキイガイ、-1～-3m でカンザシゴカイ科、ホヤ綱（群体性）の被度が高くなっていた。

表 3-13（1）　動物　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-1　）

調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	－	海綿動物門			+	+	+	+	+	+	+			
軟体動物門	腹足綱	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(2)										
		ｳﾉｱｼ		(1)										
		ﾀﾏｷﾋﾞ	(2)											
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(287)	(9)										
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(3)	(1)								
		ﾑｷﾞｶﾞｲ							(1)					
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(1)										
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(11)										
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		30	10	+	+							
		ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ科							(1)					
環形動物門	多毛綱	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		+	30	20	20	+						
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	20										
	軟甲綱	ﾔﾄﾞｶﾘ上科							(1)					
触手動物門	苔虫綱	ﾌｻｺｹﾑｼ科			+		+	+						
		ﾁｺﾞｹﾑｼ			+	+	+							
		ｱﾐｺｹﾑｼ科										+	+	+
		苔虫綱			+	+	+	+	+	+	5	+	+	+
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ										(2)		
		ｷﾋﾄﾃﾞ					(1)					(1)	(3)	
原索動物門	ﾎﾔ綱	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ					+							
		ｼﾛﾎﾞﾔ				+								
		ﾎﾔ綱(群体性)			10	40	20	5	+	+	+			
出現種類数			3	8	8	8	9	5	6	3	3	4	3	2

注．1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
　　2）（　）内の数値は個体数を示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、各水深帯で 1～10 種、全体で 27 種の付着動物が目視観察によって確認され、±0m、-3m で種類数が多くなっていた。+1m でアラレタマキビ、±0m でヨメガカサ、ウノアシ、キクノハナガイなどの巻貝が多くみられ、ムラサキイガイやイワフジツボの被度が高くなっていた。また、-1m で巻貝のレイシガイが多くみられ、-2～-3m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。

表 3-13（2） 動物 目視観察結果 （ 大阪沖処分場 C-2 ）

調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	―	海綿動物門			+	+	+							
刺胞動物門	花虫綱	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+										
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目					+							
軟体動物門	腹足綱	ﾖﾒｶﾞｶｻ		(41)										
		ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(1)										
		ｳﾉｱｼ		(16)										
		ｻｻﾞｴ					(1)							
		ﾀﾏｷﾋﾞ	(1)											
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(21)	(1)										
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(21)	(2)	(1)							
		ｲﾎﾞﾆｼ			(1)									
		ﾑｷﾞｶﾞｲ				(6)	(2)	(2)		(1)	(2)			
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(2)										
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(26)										
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		10	5									
		ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ科							(1)					
		ﾏｶﾞｷ		+										
環形動物門	多毛綱	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	10	10	5	+					
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	20										
	軟甲綱	ﾔﾄﾞｶﾘ上科					(1)				(1)			
触手動物門	苔虫綱	ﾁｺﾞｹﾑｼ					+							
		ｱﾐｺｹﾑｼ科												+
		苔虫綱			+	+	+	+	+	+	5	+	+	+
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ										(1)		
		ｷﾋﾄﾃﾞ												(1)
原索動物門	ﾎﾔ綱	ﾎﾔ綱(群体性)			+	+	+	+	+					
―	―	泥巣				+								
		出現種類数	3	10	7	7	10	4	4	2	3	2	1	3

注．1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2）（ ）内の数値は個体数を示す。
3）泥巣は、マット状のヨコエビ類または多毛類の生息巣を示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、各水深帯で 3～9 種、全体で 22 種の付着動物が目視観察によって確認され、-2m で種類数が最も多くなっていた。±0～-1m では二枚貝のムラサキイガイ、-2～-4m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、-1～-10m の広い範囲で苔虫綱が確認され、特に-3m、-8～-9m で被度が高くなっていた。

表 3-13（3）　動物　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-3　）

調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	―	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+										
軟体動物門	多板綱	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科				(1)								
	腹足綱	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ			(1)	(1)			(1)					
		ﾀﾏｷﾋﾞ	(1)											
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(1)											
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(11)		(1)	(2)						
		ｲﾎﾞﾆｼ		(5)	(2)									
		ﾑｷﾞｶﾞｲ							(1)	(1)				
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(2)										
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(1)										
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		20	10									
		ﾏｶﾞｷ		+										
環形動物門	多毛綱	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	10	10	20	+	+	+	+	+	+
節足動物門	顎足綱	ｲｿﾜｼﾞﾂﾎﾞ	+											
	軟甲綱	ﾔﾄﾞｶﾘ上科					(1)			(1)				
触手動物門	苔虫綱	ﾌｻｺｹﾑｼ科				+	+	+	+					
		ﾁｺﾞｹﾑｼ				+	+	+						
		ｱﾐｺｹﾑｼ科								+	+	+	+	10
		苔虫綱			+	5	10	+	5	5	5	20	10	+
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ				(1)	(1)		(1)					
原索動物門	ﾎﾔ綱	ｼﾛﾎﾞﾔ				+		+						
		ﾎﾔ綱(群体性)				5	+	+	+					
		出現種類数	3	6	6	9	8	7	7	5	3	3	3	3

注. 1) 数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2) (　)内の数値は個体数を示す。

(3) 泉大津沖処分場

表 3-14 に泉大津沖処分場の 3 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場、泉大津沖処分場における主な確認種を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、各水深帯で 0～10 種、全体で 26 種の付着動物が目視観察によって確認された。-13m では付着動物は確認されず、-6m で最も種類数が多かった。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0～-1m で二枚貝のムラサキイガイ、-2～-4m でカンザシゴカイ科、-3～-5m で苔虫綱、-8～-12m のでアミコケムシ科の被度が高くなっていた。

表 3-14（1）　動物　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-2　）

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 転石	巨礫	泥
刺胞動物門	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱			+	+	+	+	+								
	花虫綱	花虫綱							+				+	+	+	+	
軟体動物門	腹足綱	ﾖﾒｶﾞｶｻﾞ		(4)													
		ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ					(1)	(4)		(2)	(1)						
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(131)														
		ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ								(3)							
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(1)												
		ｲﾎﾞﾆｼ		(3)	(3)												
		ﾑｷﾞｶﾞｲ					(1)			(1)							
		ｳﾐﾌｸﾛｳ												(1)	(1)		
		ｸﾛｼﾀﾅｼｳﾐｳｼ													(1)		
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(2)													
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		50	50	5											
環形動物門	多毛綱	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	10	5	10	+	+	+	+	+	+			
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+														
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ						+	+	+	+	+	+				
	軟甲綱	ﾔﾄﾞｶﾘ上科					(1)										
箒虫動物門	ﾎｳｷﾑｼ綱	ﾎｳｷﾑｼ科			+												
触手動物門	苔虫綱	ﾌｻｺｹﾑｼ科						+						+			
		ｱﾐｺｹﾑｼ科								+	+	10	10	20	20	20	
		苔虫綱			+	5	30	10	20	5	+	+	+	+	+		
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ				(2)		(1)		(1)							
		ｷﾋﾄﾃﾞ									(1)	(1)		(5)	(7)	(2)	
	ｳﾆ綱	ｻﾝｼｮｳｳﾆ														(1)	
	ﾅﾏｺ綱	ﾏﾅﾏｺ						(2)	(1)	(1)				(1)	(1)		
原索動物門	ﾎﾔ綱	ﾎﾔ綱(群体性)			+	+	+	+	+	+			+				
		出現種類数	2	4	8	6	7	9	7	10	6	5	6	8	7	4	0

注. 1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2）（　）内の数値は個体数を示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、各水深帯で 0～14 種、全体で 28 種の付着動物が目視観察によって確認された。-13m では付着動物は確認されず、-6m で最も種類数が多かった。+1m でアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m ではコモレビコガモガイ、-2m でレイシガイなどの巻貝が多くみられた。±0～-2m では二枚貝のムラサキイガイの被度が非常に高く、±0m ではイワフジツボ、-3～-4m ではフサコケムシ科、ホヤ綱(群体性)、-4～-6m で苔虫綱、-10～-12m ではアミコケムシ科の被度が高くなっていた。また、-1～-12m の広い範囲でキヒトデがみられ、-6m で多く出現した。

表 3-14 (2)　動物　目視観察結果　(　泉大津沖処分場　D-3　)

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
海綿動物門	ー	海綿動物門			+	10	+	+	+	+						+	
刺胞動物門	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	花虫綱	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		10													
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目				+	+										
		花虫綱											+	+	+		
軟体動物門	腹足綱	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(18)													
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(289)														
		ｶｺﾞﾒｶﾞｲ							(1)	(1)							
		ﾚｲｼｶﾞｲ				(12)	(1)	(1)		(2)							
		ｲﾎﾞﾆｼ		(7)	(3)					(3)							
		ｳﾐﾌｸﾛｳ								(1)					(1)	(1)	
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(6)													
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(3)													
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		80	90	20	5	+	+								
環形動物門	多毛綱	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	10	5	5	10	+	+	+	+	+	+	+	
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	10													
箒虫動物門	ﾎｳｷﾑｼ綱	ﾎｳｷﾑｼ科				+	+	+									
触手動物門	苔虫綱	ﾌｻｺｹﾑｼ科				5	20	20				+					
		ｱﾐｺｹﾑｼ科						+	+	+	+	+	+	20	30	10	
		苔虫綱			+	5	5	20	40	30							
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ								(2)							
		ｷﾋﾄﾃﾞ			(1)	(3)	(2)	(1)		(13)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(2)	
	ｳﾆ綱	ｻﾝｼｮｳｳﾆ								(1)	(1)		(1)				
	ﾅﾏｺ綱	ﾏﾅﾏｺ								(1)						(2)	
原索動物門	ﾎﾔ綱	ｴｿﾚｲﾎﾞﾔ							+								
		ｼﾛﾎﾞﾔ				+								+			
		ﾎﾔ綱(群体性)				5	20	20	+	+							
		ﾎﾔ綱(単体性)						+									
		出現種類数	2	7	7	12	11	12	9	14	5	5	6	6	6	7	0

注. 1) 数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2) (　)内の数値は個体数を示す。

・地点 D-5

D-5 の地点では、各水深帯で 1～11 種、全体で 20 種の付着動物が目視観察によって確認され、-2～-3m 付近や遊水室の下面で種類数が多くなる傾向がみられた。+1m ではアラレタマキビ、±0m ではイボニシなどの巻貝が多くみられ、-1m では同じく巻貝のレイシガイが非常に多くみられた。また、±0～-1m では二枚貝のムラサキイガイ、±0～-3m ではカンザシゴカイ科、-2～-3m では苔虫綱の被度が高くなっていた。なお、遊水室内ではムラサキイガイや苔虫綱の被度が高く、レイシガイ、イトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなども多数みられた。

表 3-14（3）　動物　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-5　）

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			エコ岩壁							
			壁面					遊水室		
			+1	0	-1	-2	-3			
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
海綿動物門	―	海綿動物門				+	+	+	+	+
刺胞動物門	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱						+	+	+
	花虫綱	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+						
軟体動物門	腹足綱	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(21)							
		ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ					(7)			
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(232)	(5)	(4)			cc
		ｲﾎﾞﾆｼ		(17)	(3)					
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		50	10			+	+	30
環形動物門	多毛綱	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科				+	+			
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		40	30	50	10	+	5	+
箒虫動物門	ﾎｳｷﾑｼ綱	ﾎｳｷﾑｼ科				+	+			
触手動物門	苔虫綱	ﾌｻｺｹﾑｼ科				+	+	+	+	+
		ﾁｺﾞｹﾑｼ					+			
		ｱﾐｺｹﾑｼ科			+	5	40	+		
		苔虫綱		+	10	30	30	60	60	+
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ			(1)	(2)		cc	cc	cc
		ｷﾋﾄﾃﾞ			(5)	(1)		cc	cc	cc
	ﾅﾏｺ綱	ﾏﾅﾏｺ								cc
原索動物門	ﾎﾔ綱	ﾎﾔ綱(群体性)			+	+	+	+		
―	―	泥巣								30
		出現種類数	1	5	9	11	11	10	8	11

注．1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。
2）（　）内の数値は個体数を示す。
3）遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法で概数を把握し、以下に個体数区分を示す。
rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上
4）泥巣は、マット状のヨコエビ類または多毛類の生息巣を示す。

・地点 D-6

D-6 の地点では、各水深帯で 2～14 種、全体で 23 種の付着動物が目視観察によって確認され、遊水室内で種類数が多くなる傾向がみられた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、イワフジツボの被度が高くなっていた。また、-1m で二枚貝のムラサキイガイ、±0～-5m でカンザシゴカイ科、-1～-5m で苔虫綱の被度が高くなっていた。また、-4m でキヒトデが多くみられた。遊水室内では上室、下室ともにカンザシゴカイ科や苔虫綱の被度が高く、シマメノウフネガイやレイシガイなどの巻貝、イトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなどが多数みられた。

表 3-14（4）　動物　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-6　）

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			エコ岩壁												
			壁面							遊水室					
			1	0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
海綿動物門	－	海綿動物門					+		+	+	+	+	+	+	+
刺胞動物門	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱					+	+	+	+	+	+	+	+	+
軟体動物門	多板綱	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科		(1)											
	腹足綱	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ					(1)								r
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(135)												
		ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ										cc			cc
		ﾚｲｼｶﾞｲ								cc	cc	cc	c	cc	cc
		ｲﾎﾞﾆｼ		(6)											
		ｳﾐﾌｸﾛｳ						(1)							
	二枚貝綱	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ			10	+				5	+	5	+	+	+
		ﾅﾐﾏｶﾞｼﾘ科										rr			rr
		ﾏｶﾞｷ		+											
環形動物門	多毛綱	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科				+	+		+						
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		20	+	10	10	10	10	50	5	+	10	5	+
節足動物門	顎足綱	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	20												
		ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ			+										
箒虫動物門	ﾎｳｷﾑｼ綱	ﾎｳｷﾑｼ科				+	+			+	+				
触手動物門	苔虫綱	ﾌｻｺｹﾑｼ科				+	+		+	+	+	+	+	+	+
		苔虫綱			70	60	40	10	10	30	70	20	40	70	10
棘皮動物門	ﾋﾄﾃﾞ綱	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ			(3)		(1)	(3)	(2)	cc	c	cc	c	c	cc
		ｷﾋﾄﾃﾞ			(5)			(12)	(3)	cc	c	cc	rr	rr	cc
	ﾅﾏｺ綱	ﾏﾅﾏｺ						(1)	(1)			c			c
原索動物門	ﾎﾔ綱	ﾎﾔ綱(群体性)			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		出現種類数	2	4	7	7	10	8	10	11	11	13	10	10	14

注. 1）数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す。

2）（　）内の数値は個体数を示す。

3）遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法で概数を把握し、以下に個体数区分を示す。

rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上

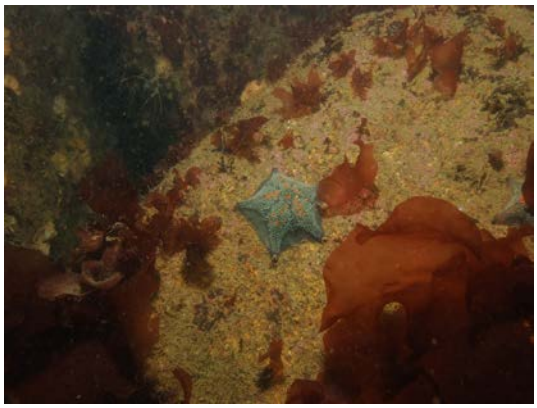
アラレタマキビ

カラマツガイ・ムラサキイガイ

イボニシ

アミコケムシ科

マナマコ



イトマキヒトデ

図 3-7　目視調査における主な付着動物の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖処分場）

3-4 遊泳魚類調査

(1) 神戸沖処分場

表 3-15 に神戸沖処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における遊泳魚類の目視観察結果を示した。図 3-8 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場、泉大津沖処分場における主な確認種を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、ホシササノハベラ、スズメダイ、クロダイ、メバル、カサゴの 5 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。メバルは-2～-3m の水深帯で 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-15（1）　遊泳魚類　目視観察結果　（　神戸沖処分場　A-2　）

調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	転石	転石	転石	転石	転石	転石	砂泥
脊椎動物門	硬骨魚綱	ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ (8)				rr									
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ (10～15)										r			
		ｸﾛﾀﾞｲ (30)				rr									
		ﾒﾊﾞﾙ (4)				c									
		ｶｻｺﾞ (10)				rr									
出現種類数			0	0		4		0		0		1		0	

注．1）rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
　　2）種名欄の（　）内の数値は全長(cm)を示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、キュウセン、ホシササノハベラ、コブダイ、スズメダイ、メバル、カサゴ、ウマヅラハギの 7 種が目視観察で確認された。-4～5m の水深帯でメバルが、-8～-9m でスズメダイが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-15（2）　遊泳魚類　目視観察結果　（　神戸沖処分場　A-4　）

調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	砂泥
脊椎動物門	硬骨魚綱	ｷｭｳｾﾝ (10～15)						rr							
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ (25)						rr							
		ｺﾌﾞﾀﾞｲ (20)				rr									
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ (10～15)						r		r		c		r	
		ﾒﾊﾞﾙ (4～15)				r		c							
		ｶｻｺﾞ (5～15)				rr		rr		rr		rr			
		ｳﾏﾂﾞﾗﾊｷﾞ (30)				rr									
出現種類数			0	0		4		5		2		2		1	

注．1）rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
　　2）種名欄の（　）内の数値は全長(cm)を示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、メジナ、ホシササノハベラ、スズメダイ、アイナメ、メバル、カサゴの 6 種が目視観察によって確認された。-4～5m の水深帯では 6 種全種が確認され、メジナが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-15（3）　遊泳魚類　目視観察結果　（　神戸沖処分場　A-5　）

調査日：平成26年6月1日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	巨礫 大礫	砂泥
脊椎動物門	硬骨魚綱	ﾒｼﾞﾅ (15～30)						c							
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ (8)						rr							
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ (10)				r		r							
		ｱｲﾅﾒ (20)						rr							
		ﾒﾊﾞﾙ (4～15)						r							
		ｶｻｺﾞ (4～15)						rr		rr		rr		rr	
出現種類数			0	0		1		6		1		1		1	

注. 1) rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
2) 種名欄の(　)内の数値は全長(cm)を示す。

(2) 大阪沖処分場

表 3-16 に大阪沖処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における遊泳魚類の目視観察結果を示した。図 3-8 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場、泉大津沖処分場における主な確認種を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、ボラ、キュウセン、コブダイ、スズメダイ、アイナメ、メバルの 6 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-4～-5m の水深帯ではほとんどの種が確認され、メバルが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた

表 3-16（1）　遊泳魚類　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-1　）

調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊椎動物門	硬骨魚綱	ﾎﾞﾗ (40)						rr						
		ｷｭｳｾﾝ (12～15)						rr						
		ｺﾌﾞﾀﾞｲ (20)						rr						
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ (10)								r				
		ｱｲﾅﾒ (18)						rr						
		ﾒﾊﾞﾙ (4～12)						c						
出現種類数			0	0		0		5		1		0		0

注．1）rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
　　2）種名欄の（　）内の数値は全長(cm)を示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、各水深帯で 0～7 種が目視観察で確認され、-4～-5m で種類数が多くなる傾向がみられた。-2～-5m でスズメダイ、メバルが 11～50 個体（c）と比較的多く確認された。

表 3-16（2）　遊泳魚類　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-2　）

調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊椎動物門	硬骨魚綱	ﾎﾞﾗ (40)						rr						
		ｷｭｳｾﾝ (10～15)						r						
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ (20)						rr						
		ｺﾌﾞﾀﾞｲ (15)						rr						
		ｲｼﾀﾞｲ (20)				rr								
		ｽｽﾞｷ (60)						rr						
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ (10)				c		c		r				
		ｱｲﾅﾒ (20)				rr								
		ﾒﾊﾞﾙ (3～15)				c		c						
出現種類数			0	0		4		7		1		0		0

注．1）rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
　　2）種名欄の（　）内の数値は全長(cm)を示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、キュウセン、スズメダイ、クロダイ、アイナメ、メバル、カサゴの 6 種が目視観察によって確認された。-4～-5m の水深帯でスズメダイが 11～50 個体（cc）と比較的多くみられた。

表 3-16（3）　遊泳魚類　目視観察結果　（　大阪沖処分場　C-3　）

調査日：平成26年5月31日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊椎動物門	硬骨魚綱	ｷｭｳｾﾝ (10～15)						r						
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ (10)						c		r				
		ｸﾛﾀﾞｲ (30)								rr				
		ｱｲﾅﾒ (15～20)						r						
		ﾒﾊﾞﾙ (3～20)					r	r		r				
		ｶｻｺﾞ (15)						rr		rr				
出現種類数			0	0		1		5		4		0		0

注. 1) rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
2) 種名欄の(　)内の数値は全長(cm)を示す。

(3) 泉大津沖処分場

表 3-17 に大阪沖処分場の 3 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における遊泳魚類の目視観察結果を示した。図 3-8 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場、泉大津沖処分場における主な確認種を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、ウミタナゴ、ホシササノハベラ、スズメダイ、クロダイ、クジメ、アイナメ、メバルの 7 種が目視観察によって確認された。-4～-5m の水深帯で最も種類数が多く、メバルが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-17（1）　遊泳魚類　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-2　）

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種名 ＼ 基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 転石	巨礫	泥
脊椎動物門	硬骨魚綱	ｳﾐﾀﾅｺﾞ (20)								rr							
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ (10)						rr									
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ (10～15)						r									
		ｸﾛﾀﾞｲ (30)						rr				r					
		ｸｼﾞﾒ (15)						rr									
		ｱｲﾅﾒ (20)								rr							
		ﾒﾊﾞﾙ (4～5)						c									
出現種類数			0	0		0		5		2		1		0		0	

注. 1) rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
2) 種名欄の(　)内の数値は全長(cm)を示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、キュウセン、クロダイ、アイナメ、メバルの 4 種が目視観察によって確認された。-6～-7m の水深帯でメバルが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-17（2）　遊泳魚類　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-3　）

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種名 ＼ 基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
脊椎動物門	硬骨魚綱	ｷｭｳｾﾝ (8～15)								r							
		ｸﾛﾀﾞｲ (40)				rr											
		ｱｲﾅﾒ (20)								rr							
		ﾒﾊﾞﾙ (4～5)								c				rr			
出現種類数			0	0		1		0		3		0		1		0	

注. 1) rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
2) 種名欄の(　)内の数値は全長(cm)を示す。

・地点 D-5

D-3 の地点では、メジナ、キュウセン、スズメダイ、キジハタ、クロダイ、アイナメ、メバル、カサゴの 8 種が目視観察によって確認された。エコ岸壁周辺においてほとんどの種類が確認され、メバルが 51 個体以上（cc）と多くみられた。

表 3-17（3）　遊泳魚類　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-5　）

調査日：平成26年6月2日

平均水面からの高さ（m）			エコ岩壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	種名　＼　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
脊椎動物門	硬骨魚綱	ﾒｼﾞﾅ　(10～25)		c	
		ｷｭｳｾﾝ　(10～15)		c	
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ　(10～15)		c	
		ｷｼﾞﾊﾀ　(15)		rr	
		ｸﾛﾀﾞｲ　(20)		rr	
		ｱｲﾅﾒ　(20)		r	
		ﾒﾊﾞﾙ　(4～5)		cc	
		ｶｻｺﾞ　(20)			rr
出現種類数			0	7	1

注．1）rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
　　2）種名欄の（　）内の数値は全長(cm)を示す。

・地点 D-6

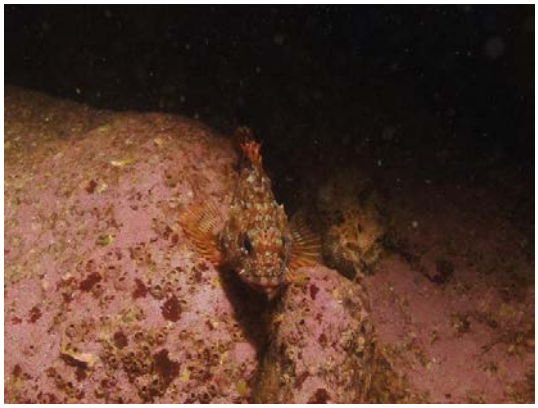
D-3 の地点では、キュウセン、スズキ、クロダイ、アイナメ、メバルの 5 種類が目視観察によって確認された。エコ岸壁周辺においてメバルが 11～50 個体（c）と比較的おおく観察された。

表 3-17（4）　遊泳魚類　目視観察結果　（　泉大津沖処分場　D-6　）

調査日：平成26年6月2日

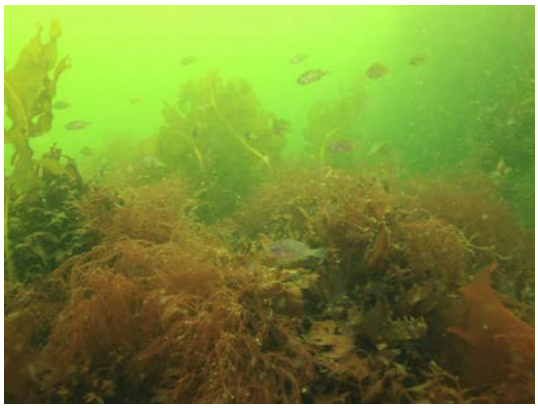
平均水面からの高さ（m）			エコ岩壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	種名　＼　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
脊椎動物門	硬骨魚綱	ｷｭｳｾﾝ　(10～20)		r	
		ｽｽﾞｷ　(50)	rr		
		ｸﾛﾀﾞｲ　(40)	r		
		ｱｲﾅﾒ　(15)		r	
		ﾒﾊﾞﾙ　(4～5)		c	r
出現種類数			2	3	1

注．1）rr：1～2個体、r：3～10個体、c：11～50個体、cc：51個体以上を示す。
　　2）種名欄の（　）内の数値は全長(cm)を示す。

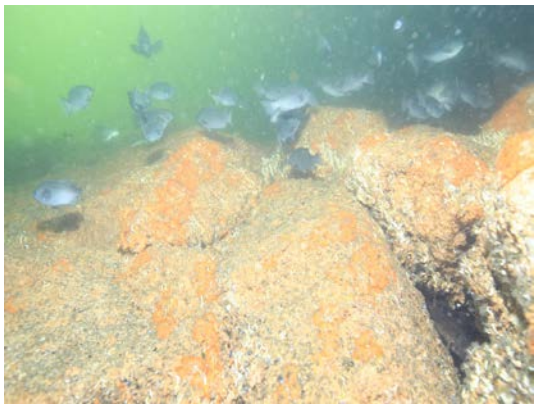


カサゴ

スズメダイ



メバル



メジナ

キュウセン

スズキ

図 3-8　目視調査における主な遊泳魚類の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖処分場）

3-5 水質調査

(1) 神戸沖処分場

表 3-18 に神戸沖処分場 3 点（A-2、A-4、A-5）における水質調査結果を示した。図 3-9 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 A-2

A-2 の調査時（平成 26 年 6 月 1 日　16：11）の天候は晴れ、作業船上での気温は 26.4℃、南の風 2.2m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は grayish olive green、透明度は 1.8m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 15.96～21.96℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 24.11～32.23 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 3.83～11.72 mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 10m 以浅で 4 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、8m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-18（1）　水質調査結果　（　神戸沖処分場　A-2　）

調査日：平成 26 年 6 月 1 日

調査地点　A-2		調査時刻　16:11		天候　晴	気温　26.4℃
風向　S		風速　2.2m/s		雲量　2	風浪階級　1
水深　15.7m		透明度　1.8m	水色　grayish olive green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	21.96	24.11	1163.0	100.0	11.72
0.5	21.92	28.09	738.9	63.5	11.70
1	21.74	28.09	391.5	33.7	11.71
2	20.70	29.02	176.7	15.2	10.57
3	19.31	29.69	98.6	8.5	8.98
4	18.65	30.29	53.5	4.6	7.85
5	17.87	30.75	33.4	2.9	5.96
6	17.39	31.37	18.8	1.6	5.21
7	17.17	31.47	12.8	1.1	5.25
8	17.11	31.56	7.7	0.7	5.31
9	16.48	32.00	4.8	0.4	4.85
10	16.45	32.23	3.4	0.3	4.63
11	16.44	32.13	2.5	0.2	4.87
12	16.32	32.18	1.5	0.1	4.68
13	16.15	32.10	1.0	0.1	4.45
14	16.03	32.14	0.5	0.0	4.22
15	15.96	32.14	0.2	0.0	3.83

・地点 A-4

A-4 の調査時（平成 26 年 6 月 1 日　13：51）の天候は晴れ、作業船上での気温は 26.2℃、南西の風 2.9m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green、透明度は 3.0m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.46～24.54℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 25.54～32.22 の範囲にあり、水深 4m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 4.31～11.56mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 11m 以浅では 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 0.5m 以深で急激に低下し、9m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-18（2）　水質調査結果　（　神戸沖処分場　A-4　）

調査日：平成 26 年 6 月 1 日

調査地点　A-4		調査時刻　13:51		天候　晴	気温　26.2℃
風向　SW		風速　2.9m/s		雲量　2	風浪階級　1
水深　16.3m		透明度　3.0m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	23.34	25.54	2086.2	100.0	7.29
0.5	24.54	25.86	95.8	4.6	11.56
1	24.13	26.43	64.0	3.1	11.46
2	23.52	27.11	47.1	2.3	11.29
3	22.35	27.99	40.7	2.0	10.92
4	20.97	29.33	39.1	1.9	10.31
5	19.47	30.24	38.9	1.9	9.17
6	18.79	30.63	34.8	1.7	7.83
7	17.93	31.31	29.1	1.4	6.77
8	17.50	31.76	22.0	1.1	6.25
9	17.16	32.00	16.2	0.8	5.65
10	16.93	32.22	10.4	0.5	5.34
11	16.79	32.18	3.7	0.2	5.18
12	16.64	32.17	1.8	0.1	4.90
13	16.53	32.18	0.9	0.0	4.59
14	16.49	32.21	0.5	0.0	4.42
15	16.48	32.21	0.3	0.0	4.35
16	16.46	32.21	0.1	0.0	4.31

・地点 A-5

A-5 の調査時（平成 26 年 6 月 1 日　10：38）の天候は晴れ、作業船上での気温は 24.9℃、南西の風 1.8m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green で、透明度は 5.5m で、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.81～21.55 ℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 29.40～32.23 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 4.70～9.21 mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 10m 以浅では 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 4m 以深で急激に低下し、11m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-18（3）　水質調査結果　（　神戸沖処分場　A-5　）

調査日：平成 26 年 6 月 1 日

調査地点　A-5		調査時刻　10:38		天候　晴	気温　24.9℃
風向　SW		風速　1.8m/s		雲量　3	風浪階級　1
水深　14.2m		透明度　5.5m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	21.41	29.41	1837.3	100.0	8.70
0.5	21.55	29.40	1041.7	56.7	8.82
1	21.33	29.40	794.9	43.3	8.85
2	20.88	29.86	557.5	30.3	8.81
3	20.59	29.89	330.0	18.0	9.21
4	20.02	30.21	202.1	11.0	9.15
5	19.86	30.25	127.2	6.9	8.99
6	19.34	30.38	86.9	4.7	8.24
7	18.20	31.18	59.3	3.2	6.86
8	17.56	31.69	42.9	2.3	5.81
9	17.24	31.89	32.0	1.7	5.56
10	16.92	32.17	20.9	1.1	5.29
11	16.86	32.18	9.7	0.5	5.10
12	16.81	32.19	3.7	0.2	4.70
13	16.86	32.23	1.2	0.1	4.84
14	16.87	32.19	0.3	0.0	5.00

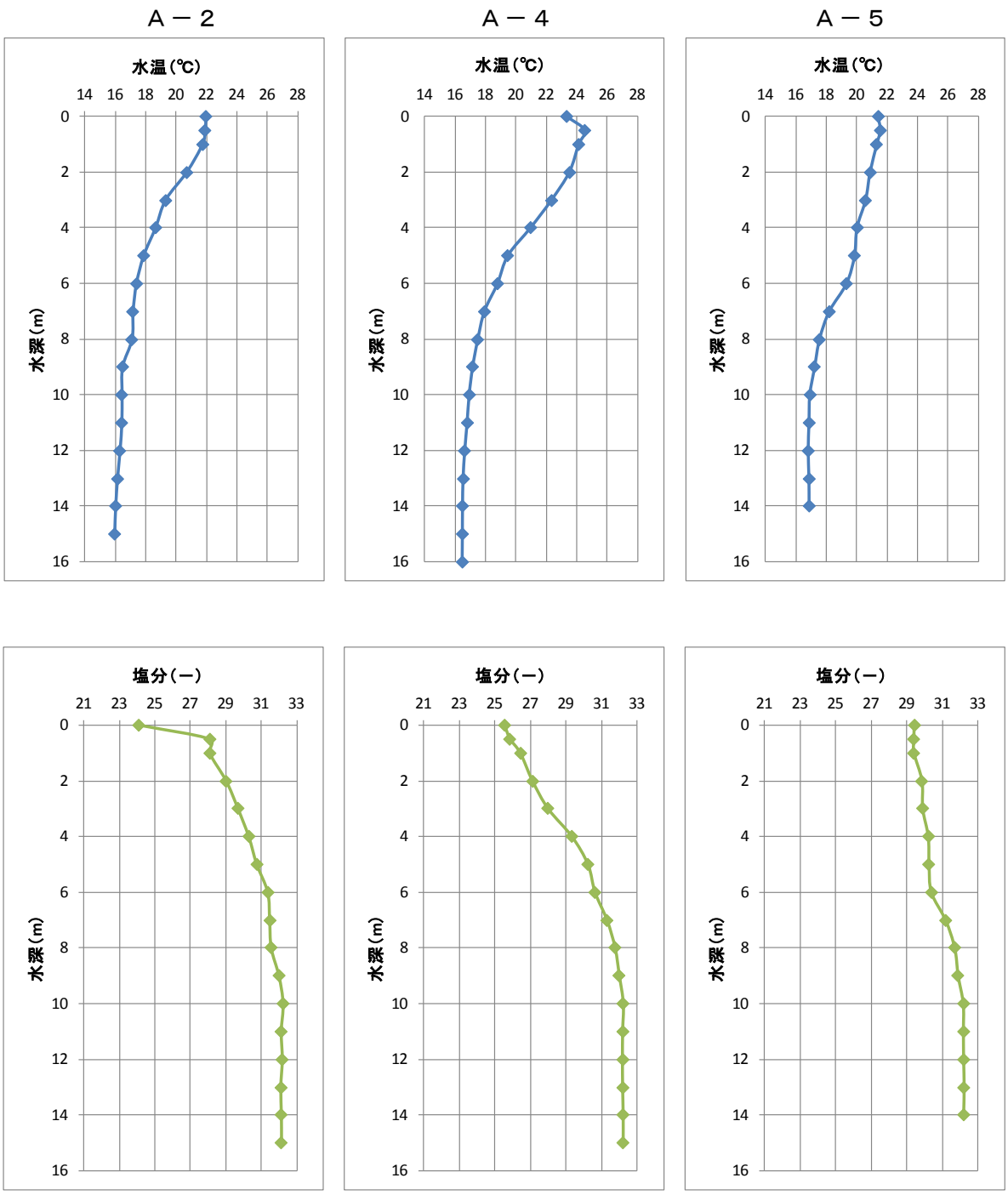


図 3-9（1）　水質の鉛直分布　（　神戸沖処分場　水温　塩分　）

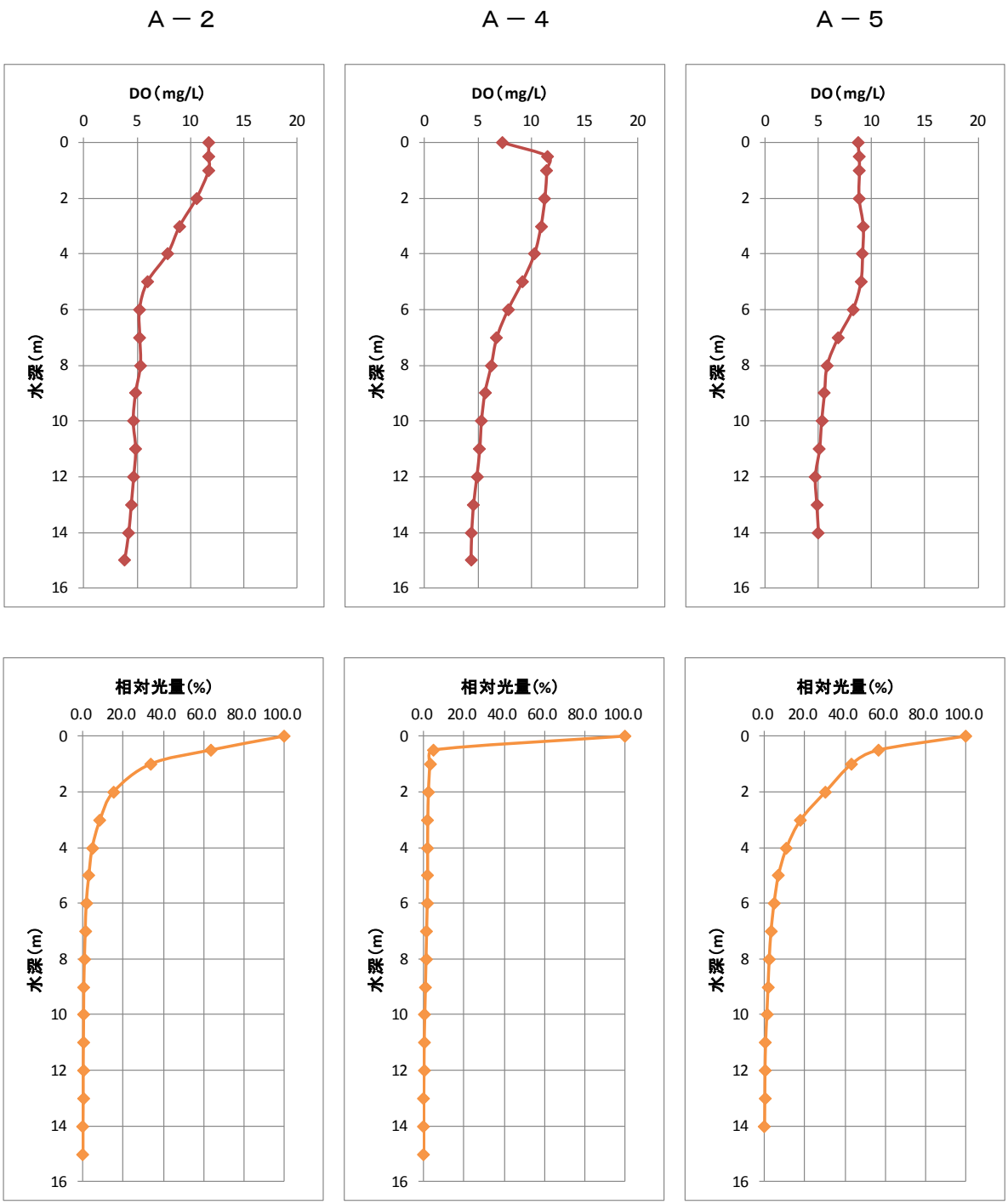


図 3-9（2）　水質の鉛直分布　（　神戸沖処分場　ＤＯ　相対光量　）

(2) 大阪沖処分場

表 3-19 に大阪沖処分場 3 点（C-1、C-2、C-3）における水質調査結果を示した。図 3-10 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 C-1

C-1 の調査時（平成 26 年 5 月 31 日　11：54）の天候は曇り、作業船上での気温は 24.0℃、西の風 2.0m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green で、透明度は 2.3m とやや低い値であったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.26～23.23 ℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 26.15～32.22 の範囲にあり、水深 4m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 3.92～11.64 mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 10m 以浅で 5 mg/L 以上であった。

相対光量は 2m 以深で急激に低下し、水深 6m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-19（1）　水質調査結果　（　大阪沖処分場　C-1　）

調査日：平成 26 年 5 月 31 日

調査地点　C-1		調査時刻　11:54		天候　晴	気温　24.0℃
風向　W		風速　2.0m/s		雲量　4	風浪階級　1
水深　13.8m		透明度　2.3m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	23.23	26.15	1857.7	100.0	11.64
0.5	22.80	26.68	468.3	25.2	11.54
1	22.42	27.12	331.9	17.9	11.34
2	21.74	27.74	165.5	8.9	11.00
3	20.75	28.76	67.7	3.6	11.54
4	19.14	29.96	49.5	2.7	9.67
5	18.47	30.51	26.6	1.4	7.65
6	18.07	30.74	15.6	0.8	7.09
7	17.49	31.15	11.7	0.6	6.40
8	17.16	31.35	7.8	0.4	5.91
9	16.95	31.52	5.1	0.3	5.44
10	16.66	31.78	3.5	0.2	5.04
11	16.44	31.99	2.5	0.1	4.50
12	16.33	32.11	1.3	0.1	4.19
13	16.26	32.22	0.5	0.0	3.92

・地点 C-2

C-2 の調査時（平成 26 年 5 月 31 日　15：19）の天候は晴れ、作業船上での気温は 24.9℃、南西の風 2.0m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green で、透明度は 2.5m とやや低い値であったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.53～24.46℃の範囲にあり、水深 2～3m に水温躍層はみられた。

塩分は 26.48～31.98 の範囲にあり、水深 4m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 4.98～12.36 mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 10m 以浅では 5 mg/L 以上であった。

相対光量は、水深 7m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-19（2）　水質調査結果　（　大阪沖処分場　C-2　）

調査日：平成 26 年 5 月 31 日

調査地点　C-2		調査時刻　15:19		天候　晴	気温　24.9℃
風向　SW		風速　2.0m/s		雲量　4	風浪階級　1
水深　11.5m		透明度　2.5m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	24.33	26.70	1231.4	100.0	12.00
0.5	24.46	26.48	490.4	39.8	12.20
1	24.30	26.72	318.3	25.8	12.24
2	24.06	26.95	137.4	11.2	12.36
3	22.37	28.02	72.0	5.8	11.96
4	19.89	29.71	36.8	3.0	10.59
5	18.56	30.72	21.8	1.8	8.73
6	18.03	30.89	16.9	1.4	7.49
7	17.48	31.20	11.6	0.9	6.60
8	17.27	31.37	7.8	0.6	5.84
9	16.98	31.57	5.0	0.4	5.48
10	16.83	31.70	3.3	0.3	5.21
11	16.53	31.98	1.9	0.2	4.98

・地点 C-3

C-3 の調査時（平成 26 年 5 月 31 日　17：06）の天候は晴れ、作業船上での気温は 26.2℃、南西の風 2.0m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green で、透明度は 2.5m とやや低い値であったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.12～24.36 ℃の範囲にあり、水深 3～4m で顕著な水温躍層はみられた。

塩分は 26.84～32.23 の範囲にあり、水深 5m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 3.37～12.64mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 10m 以浅では 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 6m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-19（3）　水質調査結果　（　大阪沖処分場　C-3　）

調査日：平成 26 年 5 月 31 日

調査地点　C-3		調査時刻　17:06		天候　晴	気温　26.2℃
風向　SW		風速　2.0m/s		雲量　4	風浪階級　1
水深　14.0m		透明度　2.5m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	24.35	26.92	468.7	100.0	12.64
0.5	24.33	26.88	162.0	34.6	12.63
1	24.36	26.84	107.2	22.9	12.64
2	24.27	27.03	49.2	10.5	12.55
3	24.02	27.15	22.7	4.8	12.30
4	22.58	28.20	11.9	2.5	11.53
5	21.19	29.37	6.9	1.5	10.89
6	19.55	30.00	4.8	1.0	9.31
7	18.32	31.12	3.0	0.6	7.18
8	18.08	31.33	2.2	0.5	7.03
9	17.36	31.40	1.6	0.3	6.38
10	16.82	31.69	1.2	0.3	5.31
11	16.23	32.13	0.6	0.1	4.10
12	16.14	32.20	0.2	0.0	3.63
13	16.13	32.21	0.1	0.0	3.46
14	16.12	32.23	0.1	0.0	3.37

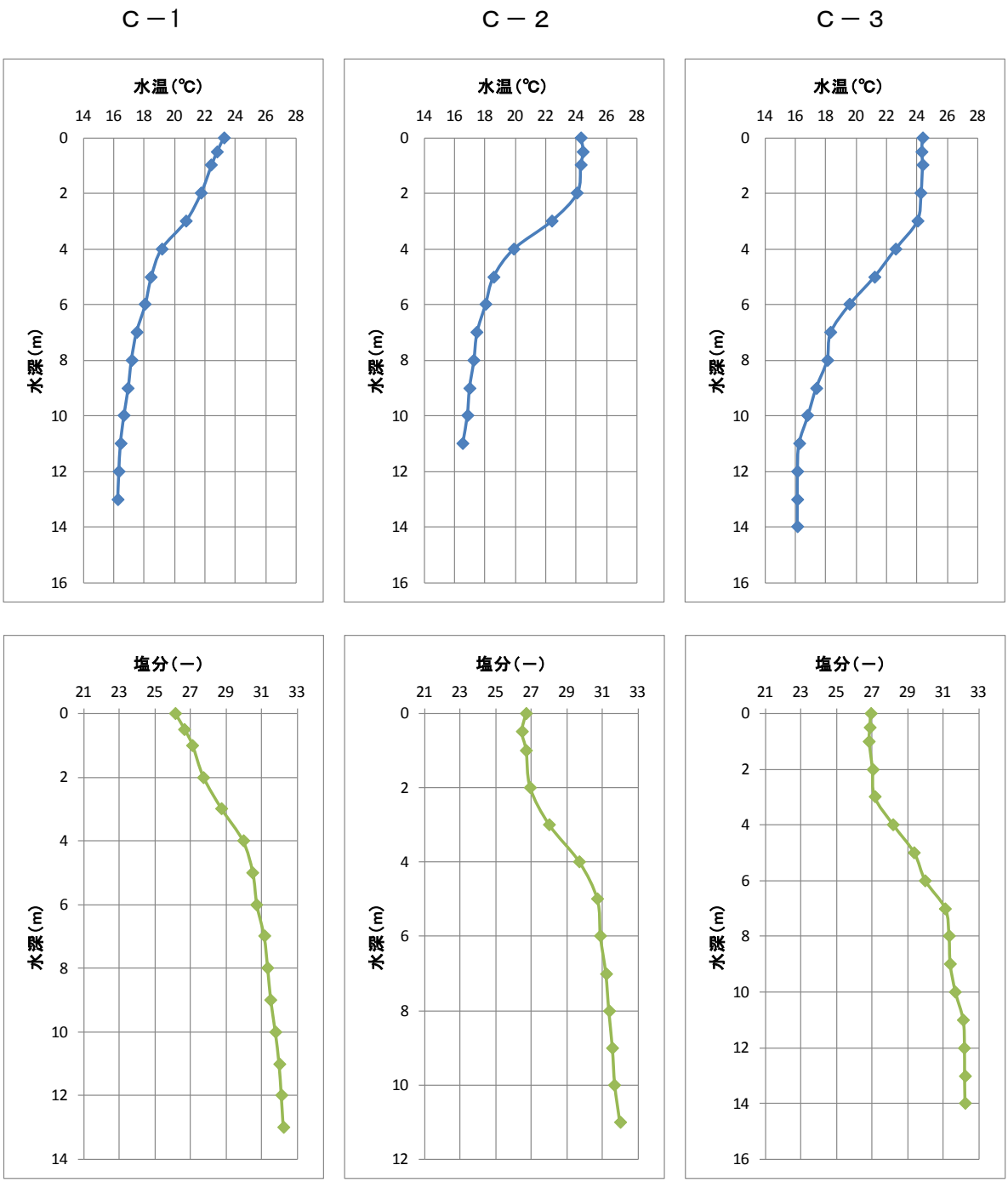


図 3-10（1）　水質の鉛直分布　（　大阪沖処分場　水温　塩分　）

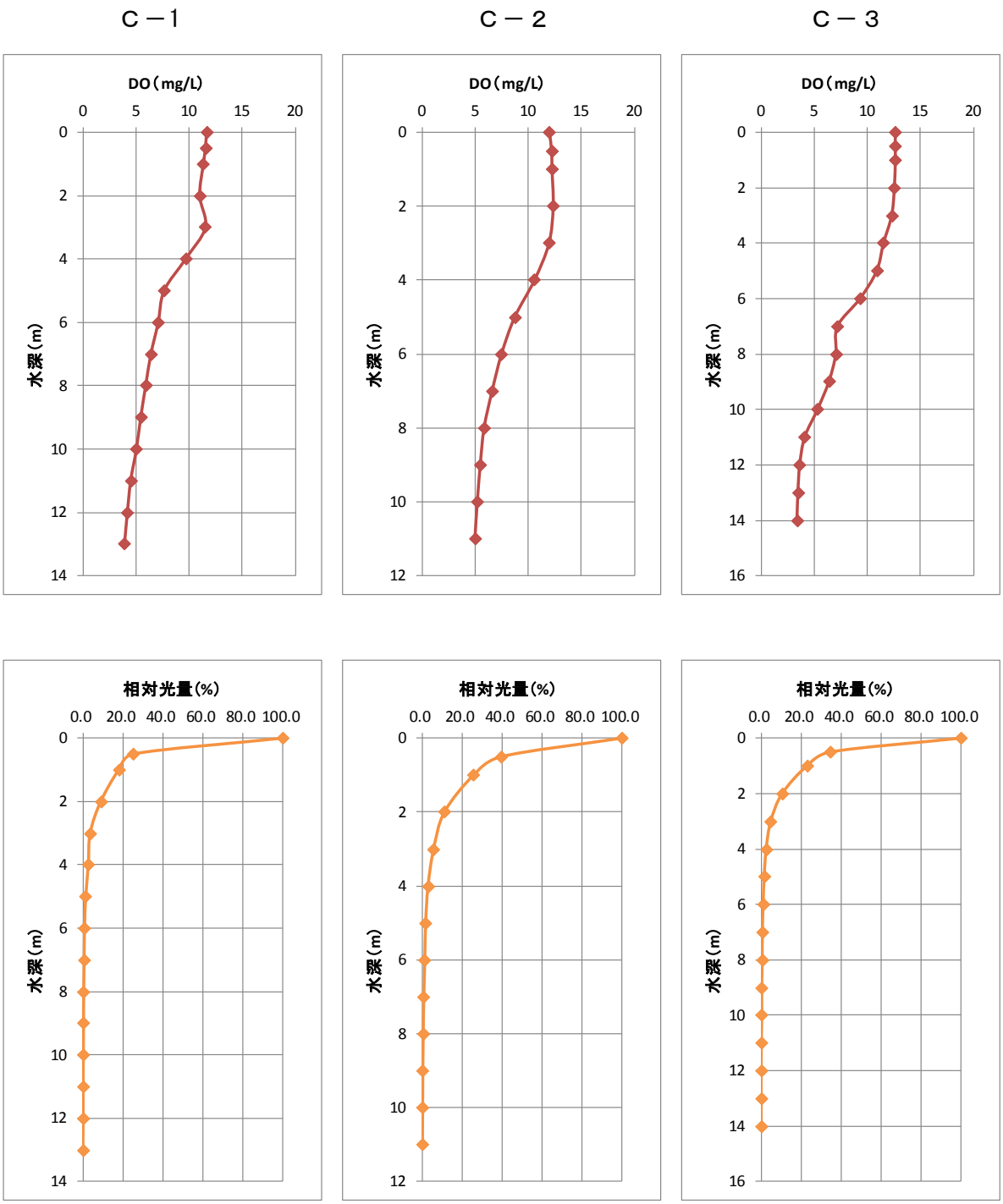


図 3-10（2）　水質の鉛直分布　（　大阪沖処分場　ＤＯ　相対光量　）

(3) 泉大津沖処分場

表 3-20 に大阪沖処分場 3 点（D-2、D-5、D-6）における水質調査結果を示した。図 3-11 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 D-2

D-2 の調査時（平成 26 年 6 月 2 日　12：51）の天候は晴れ、作業船上での気温は 26.1℃、南西の風 2.4m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green で、透明度は 2.8m とやや低かったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.57～24.31℃の範囲にあり、水深 2～4m で顕著な水温躍層がみられた。

塩分は 29.03～32.10 の範囲にあり、水深 2m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 3.17～12.54mg/L の範囲にあり、海底付近の推進 12m においても海藻はみられたが、3.17 mg/L と低い値となっていた。

相対光量は、水深 10m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-20（1）　水質調査結果　（　泉大津沖処分場　D-2　）

調査日：平成 26 年 6 月 2 日

調査地点　D-2		調査時刻　12:51		天候　晴	気温　26.1℃
風向　SW		風速　2.4m/s		雲量　3	風浪階級　1
水深　12.4m		透明度　2.8m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	24.28	29.05	262.3	100.0	12.54
0.5	24.31	29.03	95.6	36.4	12.50
1	24.29	29.03	46.8	17.8	12.51
2	23.93	29.15	24.2	9.2	11.99
3	21.04	30.27	13.2	5.0	10.08
4	19.44	31.00	10.4	4.0	8.07
5	18.90	31.36	9.4	3.6	7.08
6	18.79	31.40	8.2	3.1	7.33
7	18.51	31.55	7.6	2.9	6.92
8	18.23	31.59	6.0	2.3	6.57
9	17.75	31.69	4.5	1.7	5.80
10	17.21	31.88	2.7	1.0	4.57
11	16.84	31.98	1.1	0.4	4.04
12	16.57	32.10	1.1	0.4	3.17

・地点 D-5

D-5 の調査時（平成 26 年 6 月 2 日　14：07）の天候は曇り、作業船上での気温は 26.0℃、南西の風 2.4m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green で、透明度は 2.4m、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.46～21.91 ℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 30.23～32.01 の範囲にあった。

溶存酸素量（ＤＯ）は 2.59～9.37 mg/L の範囲にあり、水深 7m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値となっていた。

相対光量は、海底付近の水深 11m で最低値 1.6%であった。

表 3-20（2）　水質調査結果　（　泉大津沖処分場　D-5　）

調査日：平成 26 年 6 月 2 日

調査地点　D-5		調査時刻　14:07		天候　曇	気温　26.0℃
風向　SW		風速　2.4m/s		雲量　10	風浪階級　1
水深　11.6m		透明度　3.2m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	21.91	30.37	182.9	100.0	9.37
0.5	21.65	30.23	161.0	88.0	9.34
1	21.31	30.34	107.3	58.7	9.24
2	20.96	30.44	70.0	38.3	8.70
3	20.69	30.56	44.1	24.1	8.27
4	19.50	30.93	31.3	17.1	7.44
5	19.09	31.04	23.0	12.6	6.59
6	18.09	31.31	16.5	9.0	5.93
7	17.58	31.61	12.6	6.9	4.77
8	17.31	31.67	9.1	5.0	4.45
9	16.82	31.77	6.6	3.6	3.96
10	16.55	31.96	4.4	2.4	3.11
11	16.46	32.01	3.0	1.6	2.59

・地点 D-6

D-6 の調査時（平成 26 年 6 月 2 日　15：40）の天候は曇り、作業船上での気温は 26.0℃、南西の風 2.8m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark yellowish green で、透明度は 2.5m と低かったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 17.25～25.83℃の範囲にあり、水深 4～6m で顕著な水温躍層がみられた。

塩分は 25.49～31.63 の範囲にあり、水深 5m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 3.38～11.27 mg/L の範囲にあり、水深 8m 以浅で 5 mg/L となっていた。

相対光量は、水深 9m で 0.1%となっていた。

表 3-20（3）　水質調査結果　（　泉大津沖処分場　D-6　）

調査日：平成 26 年 6 月 2 日

調査地点　D-6		調査時刻　15:40		天候　曇	気温　26.0℃
風向　SW		風速　2.8m/s		雲量 9	風浪階級　1
水深　9.0m		透明度　2.5m	水色　dark yellowish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(-)	光量子 (μmol/cm²・s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	25.83	25.49	178.3	100.0	9.85
0.5	25.82	25.88	120.4	67.5	9.77
1	25.64	26.81	88.0	49.4	9.59
2	25.50	28.08	41.6	23.3	10.28
3	25.41	28.70	27.9	15.6	11.23
4	24.99	29.07	15.9	8.9	11.27
5	23.31	29.60	8.7	4.9	10.85
6	20.81	30.56	3.8	2.1	10.01
7	18.74	31.36	2.6	1.5	7.14
8	17.59	31.63	1.8	1.0	5.64
9	17.25	31.62	0.2	0.1	3.38

Ｄ－２　　Ｄ－５　　Ｄ－６

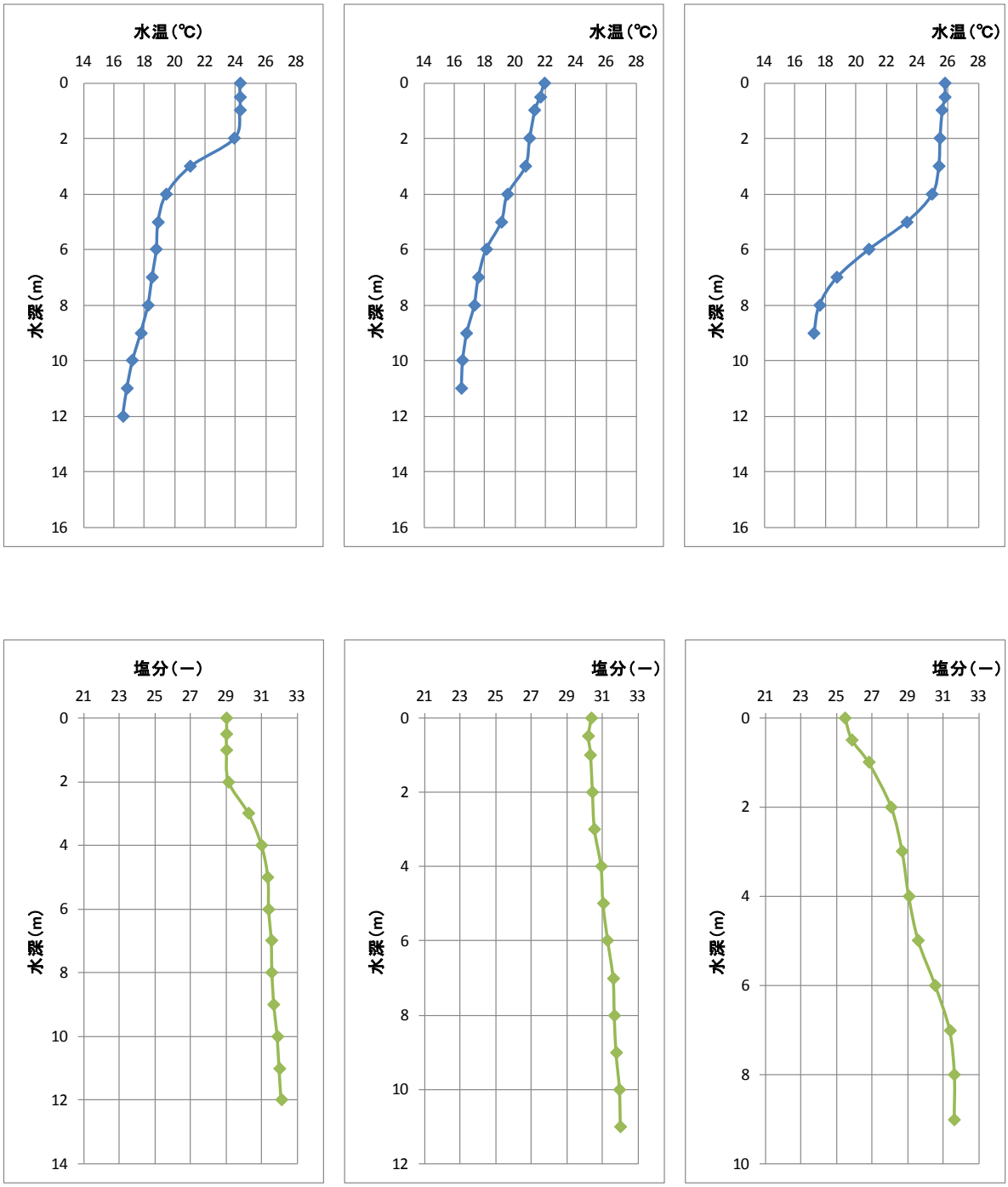


図 3-11（1）　水質の鉛直分布　（　泉大津沖処分場　水温　塩分　）

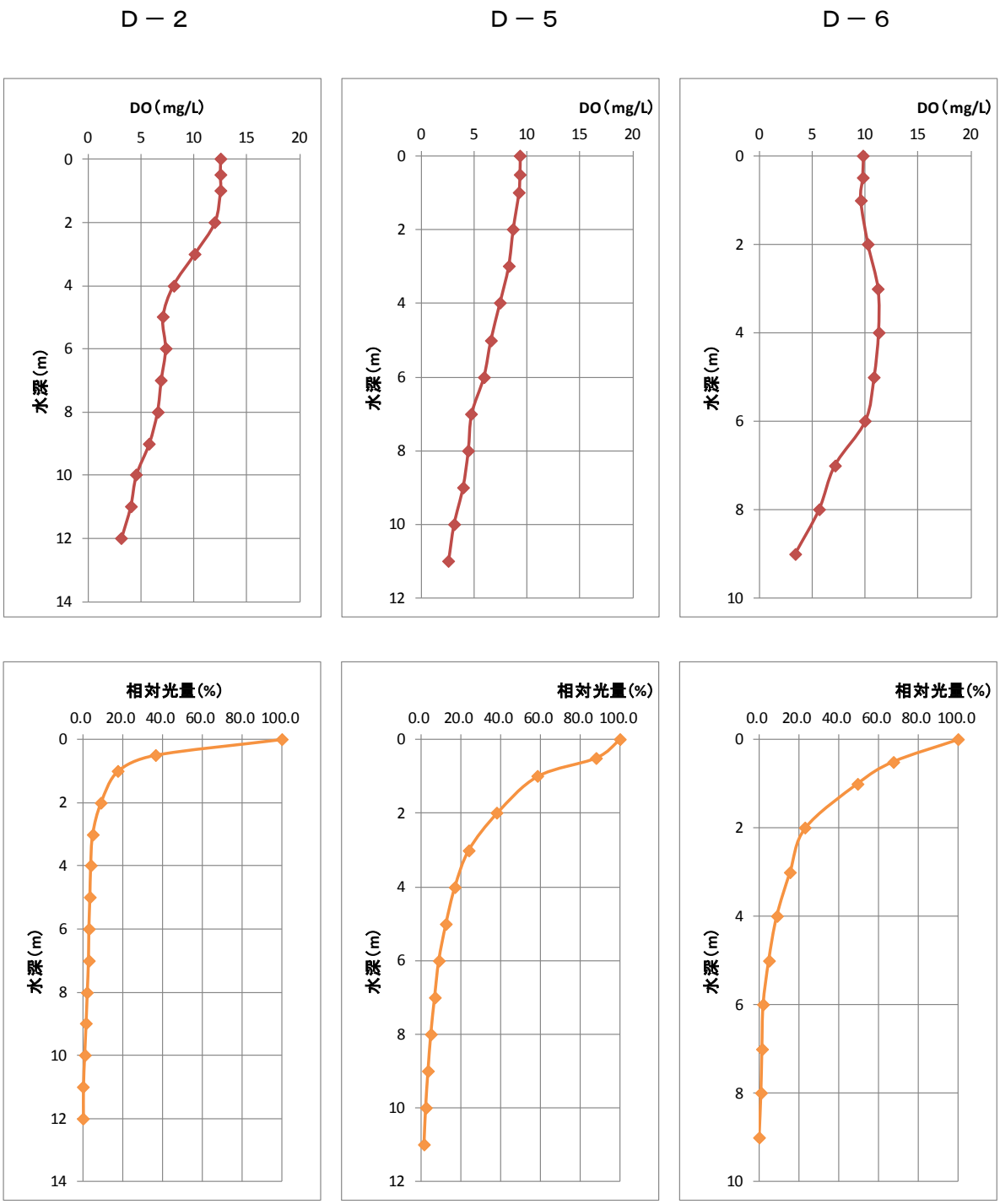


図 3-11（2）　水質の鉛直分布　（　泉大津沖処分場　ＤＯ　相対光量　）

3-6 藻場分布調査

3-6-1 代表地点における目視観察結果

(1) 神戸沖処分場

表 3-21 に神戸沖処分場周囲の代表地点 10 点（p. 11　図 2-3（1））における藻場構成種（植物）の目視観察結果を示した。図 3-12 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場における主な確認種を示した。

4～9 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（4 地点）、シダモク（5 地点）、タマハハキモク（8 地点）、ヨレモクモドキ（1 地点）の 4 種が確認された。確認地点でのワカメの被度は 5%未満～100%、シダモクは 5%未満、タマハハキモクは 5%未満～25%、ヨレモクモドキは 5%未満であった。

表 3-21　藻場構成種の目視観察結果　（神戸沖処分場　10 地点）

調査日：平成26年6月1日

調査地点		A－1										A－3										K－1										K－2									
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属	1		1	1		1						1		1	1								1	1	1									1		1	1							
褐藻綱	ﾜｶﾒ															1	2	1						2	3	5	5	4	1								1	2							
	ｼﾀﾞﾓｸ																											1											1						
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		1	2	1										2	2	1									1	1	1								1	2	2	1	1					
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ																																						1						
紅藻綱	ﾏｸｻ		1	1	1	2	1	1							1	2	1																							1	1				
	ﾌﾙﾌﾙ			1	1	1																																							
	ｼﾀﾞﾗｸﾗ	1	1	1	1	1							2	1	1									2	2	1	1	1							2	1	1	1	1						
	ﾍﾞﾆｽｶｺﾞ					1	1										1	1								1	1																		
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ					1	1	1	1																																				
	ｶﾊﾞﾉﾘ		1	1	1																				1	1	1											1	1						

調査地点		K－3										K－4										K－5									
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属		1	1	1	1	1	1						1	1	1	1								1	1	1	1	3	1				
褐藻綱	ﾜｶﾒ																																	
	ｼﾀﾞﾓｸ						1										1											1						
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ																											1						
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ																																	
紅藻綱	ﾏｸｻ			1	1	1	1	1									1	1										1	1					
	ﾌﾙﾌﾙ																									1	1							
	ｼﾀﾞﾗｸﾗ		1	1	1	1																			1	1	1	1						
	ﾍﾞﾆｽｶｺﾞ				1	1	2	1							1	1	1	1	1	1						1	1	1	2	1	1	1		
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ								1									2	1	1	1	1	1					1	3	3	2	1	1	
	ｶﾊﾞﾉﾘ					1												1									1	1	1	1	1			

調査地点		K－7										K－8										K－9									
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属	1	1	1									1	1	1									1	1	1								
褐藻綱	ﾜｶﾒ																								3	4	3	2						
	ｼﾀﾞﾓｸ																																	
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			1	1										2	1											1	1						
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ				1																													
紅藻綱	ﾏｸｻ		1	1	1	1	1	1						1	1	2	1	1	1															
	ﾌﾙﾌﾙ																																	
	ｼﾀﾞﾗｸﾗ												1	1	1	1	1							3	2	1	1							
	ﾍﾞﾆｽｶｺﾞ															1	1								1	1	1	1	1					
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																1																	
	ｶﾊﾞﾉﾘ			1	1									1	1	1	1	1								1	1							

（被度区分）
5：76～100%
4：51～75%
3：26～50%
2：5～25%
1：5%未満

(2) 大阪沖処分場

表 3-22 に大阪沖処分場周囲の代表地点 10 点（p. 12　図 2-3（2））における藻場構成種（植物）の目視観察結果を示した。図 3-12 には、神戸沖処分場、大阪沖処分場における主な確認種を示した。

代表地点では 5～9 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（6 地点）、シダモク（10 地点）、タマハハキモク（8 地点）の 3 種が確認された。確認地点でのワカメの被度は 5%未満～50%、シダモクの被度は 5%未満～50%、タマハハキモクは 5%未満～25%であった。

表 3-22　藻場構成種の目視観察結果　（大阪沖処分場　10 地点）

調査日：平成26年5月31日

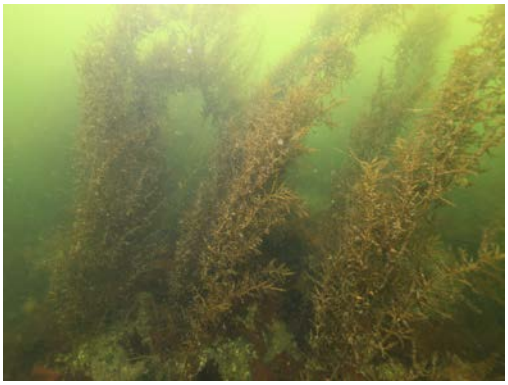
調査地点		C－4										C－5										Q－1										Q－2									
出現種 ＼	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属	3	1												1	1																											
褐藻綱	ﾜｶﾒ		1	2	2																																						
	ｼﾀﾞﾓｸ			2	2												2											1	1	1												1		
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		1	2	1												2											1																
紅藻綱	ﾂﾙﾂﾙ	2	3	2	1	1																																					
	ﾌｸﾞﾗｸ	4	3	1	1									1	1	1									1	1	1	1								1	1	1						
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		1	1	3	4	3	2	1								1	4	2	1							1	1	4	2							1	1	1	1	3	1		
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ				1	1	1	2	2	1	1				1	1	2	4	3	2	1						1	2	4	3	2	1	1				1	2	3	3	3	1		
	ｶﾊﾞﾉﾘ				2										1	1	1								1	1	1	2														1			

調査地点		Q－3										Q－4										Q－5										Q－6									
出現種 ＼	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属												1											1											1	2	2								
褐藻綱	ﾜｶﾒ																1								2	3	2	1							2	3	3	2	1	1	1			
	ｼﾀﾞﾓｸ					1											1	1										3	1								1	1	1	1					
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ																1											1							1		1								
紅藻綱	ﾂﾙﾂﾙ																1	1																										
	ﾌｸﾞﾗｸ		1	1	1								2	3	3	1	1							1	2	3	1	1							2	1	1	1							
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ				1	3	2	1	1						1	2	4	4	3	1						1	1	4	4	3	1					2	3	4	4	3	2	1		
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ				1	2	3	3	2	1					1	1	1	1	3	3	1	1				1	2	2	2	3	3	1	1			2	3	1	1	1	2	2	1	1
	ｶﾊﾞﾉﾘ				1	1									1	1	1									1												1	1	1				

調査地点		Q－7										Q－13									
出現種 ＼	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属	1	1										3	2									
褐藻綱	ﾜｶﾒ				1	1										1							
	ｼﾀﾞﾓｸ				1	1									2	2							
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			1	1										1	1							
紅藻綱	ﾂﾙﾂﾙ		2	2	1	1								3	2	1	1						
	ﾌｸﾞﾗｸ	2	2	2	1								3	3	3	1							
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ			2	3	4	3	3	2	1					1	3	5	3	2	1			
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ			1	1	1	1	2	2	2	1	1			1	1	1	1	1	2	1	1	
	ｶﾊﾞﾉﾘ				1	1										1							

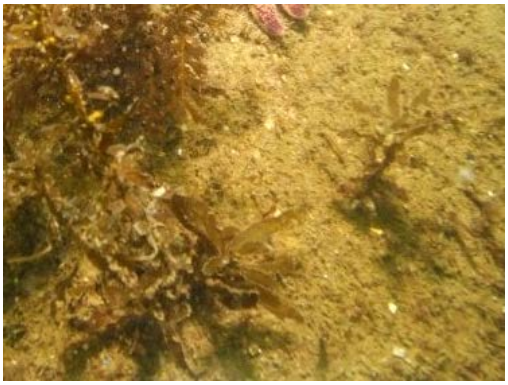
（被度区分）
5：76～100%
4：51～75%
3：26～50%
2：5～25%
1：5%未満

タマハハキモク



シダモク

ワカメ



ヨレモクモドキ

図 3-12　代表的な藻場構成種の状況（神戸沖・大阪沖処分場）

3-6-2 代表地点における定量採取結果

(1) 神戸沖処分場

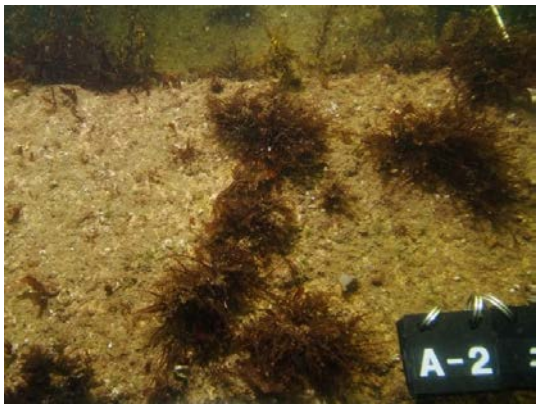
表 3-23 に神戸沖処分場周囲の代表地点 10 点（p.11　図 2-3（1））において坪刈り採取した藻場構成種（植物）の分析結果（種別湿重量）を示した。

10 地点全体で 22 種の海藻類が確認され、各地点では 6～13 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（3 地点）、シダモク（3 地点）、タマハハキモク（6 地点）の 3 種が確認され、ワカメの湿重量は 162.00～588.00 g/0.25 ㎡、シダモクの湿重量は 8.50～180.80 g/0.25 ㎡、タマハハキモクは 17.90～630.70 g/0.25 ㎡であった。

藻場構成種以外では、ムカデノリ、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻の湿重量が多くなっていた（図 3-13）。

ベニスナゴ



ムカデノリ

図 3-13　藻場構成種以外の主な海藻類　（　神戸沖処分場　）

表 3-23　定量採取分析結果　神戸沖処分場　代表地点 10 点　海藻類湿重量

						調査地点	神戸沖									
						枠番号	A-1	A-3	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	K-7	K-8	K-C
No.	門	綱	目	科	種名 /	項目	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱﾅｻ	ｱﾅｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属							70.00			
2	緑色植物	緑藻	ｱﾅｻ	ｱﾅｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属	0.40				4.70	0.20				
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+	+	+					+	+	
4	緑色植物	緑藻	ﾐﾙ	ﾐﾙ	Codium fragile	ﾐﾙ										1.00
5	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾜｸﾛﾉﾘ										
6	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲﾜ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ		162.00	588.00							314.70
7	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ			8.50	180.80						15.60
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾉﾊｷﾓｸ	125.70	91.90		630.70	17.90		72.70		336.50	
9	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Amphiroa sp.	ｶﾆﾉﾃ属										
10	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Corallinaceae	ｻﾝｺﾞﾓ科										
11	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ	14.60	5.50		0.20		5.70	10.00	12.40	4.20	
12	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ							0.50			
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ			0.40	8.60						0.50
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ	1.70				0.50					
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属										
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiatica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	167.10	5.70	37.00	7.10	55.70		7.50	4.80	15.90	13.50
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia elliptica	ﾀﾝﾊﾞﾉﾘ										4.60
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾜﾀﾞﾗｸ	5.00	4.10		22.50	1.90				2.60	1.30
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ	1.50	0.40			2.60			0.10	0.90	
1	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ｲﾜﾉｶﾜ科										
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵｷﾅﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵｷﾅﾉﾘ					1.60		1.30			
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	9.10		0.10	2.00		83.30	60.70		1.00	0.20
22	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ	41.60	12.90	18.10	0.70		0.10	1.70	4.60	14.50	7.30
23	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾌｼﾂﾅｷﾞ	Lomentaria hakodatensis	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ										
24	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ｸｵﾔｷﾞｿｳ										
25	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ			3.90	0.30						
26	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属	+	+	+	+	+	+	+	+	0.30	+
27	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾈ属										
28	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科	+	+	+	+	+		+	+	+	+
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属	+				+	+		+	0.30	+
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia linearis	ﾎﾝﾌｼﾞﾈﾓ										
					種類数		13	10	10	11	10	6	10	8	11	12
					湿重量(g)合計		366.70	282.50	656.00	852.90	84.90	89.30	224.40	21.90	376.20	358.70

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

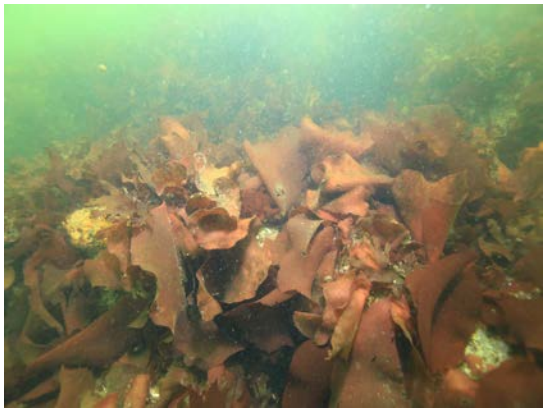
(2) 大阪沖処分場

表 3-24 に大阪沖処分場周囲の代表地点 10 点（p.12　図 2-3（2））において坪刈り採取した藻場構成種（植物）の分析結果（種別湿重量）を示した。

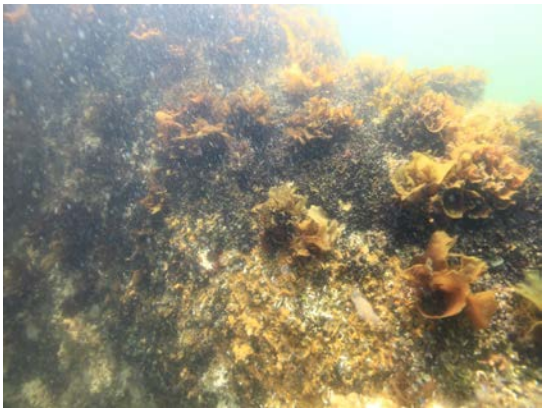
10 地点全体で 24 種の海藻類が確認され、各地点では 8～14 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（3 地点）、シダモク（10 地点）、タマハハキモク（7 地点）の 3 種が確認され、ワカメの湿重量は 72.70～351.60 g/0.25 ㎡、シダモクは 17.60～987.10 g/0.25 ㎡、タマハハキモクは 12.90～782.10 g/0.25 ㎡であった。

藻場構成種以外では、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻の湿重量が多くなっていた（図 3-14）。



ベニスナゴ



フダラク

図 3-14　藻場構成種以外の主な海藻類　（　大阪沖処分場　）

表 3-24　定量採取分析結果　大阪沖処分場　代表地点 10 点　海藻類湿重量

No.	門	綱	目	科	種名	項目	C-4	C-5	O-1	O-2	O-3	O-4	O-5	O-6	O-7	O-13
						調査地点	大阪沖									
						枠番号	C-4	C-5	O-1	O-2	O-3	O-4	O-5	O-6	O-7	O-13
						項目	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属										
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属		9.90	+		0.30					
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+	+	+		+		+			+
4	緑色植物	緑藻	ﾐﾙ	ﾐﾙ	Codium fragile	ﾐﾙ										
5	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾜｸﾛﾉﾘ								+		
6	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲﾒ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ	72.70						285.50	351.60		
7	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ	98.10	545.80	125.60	17.60	226.80	987.10	348.60	491.70	93.90	211.50
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾉﾊｷﾓｸ		159.70	15.10		37.90	782.10	12.90		21.60	98.00
9	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Amphiroa sp.	ｶﾆﾉﾃ属										0.70
10	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Corallinaceae	ｻﾝｺﾞﾓ科										
11	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ	6.00	2.40	0.40							
12	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	2.40	13.30	14.10	52.00	74.80	7.60			3.00	
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ					0.70			1.60		
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ							0.40	5.70		
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属										
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiatica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			0.20		0.70	0.80				
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia elliptica	ﾀﾝﾊﾞﾉﾘ										
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾜﾀﾞﾗｸ	42.40	74.90	1.20		10.50	1.80	97.10	50.20	338.30	101.50
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ	0.10	57.00	8.10	+	+		18.50	30.20	31.20	93.00
1	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ｲﾜﾉｶﾜ科										
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵｷﾂﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵｷﾂﾉﾘ									0.30	0.10
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	99.00	78.90	185.60	76.20	194.10	294.10	188.70	78.20	43.50	125.40
22	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ	68.00	28.20	33.00		12.10	3.50		4.10	11.70	1.40
23	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾌｼﾂﾅｷﾞ	Lomentaria hakodatensis	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ									+	
24	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ｸｵﾔｷﾞｿｳ	+		1.20	6.90						
25	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ								0.50		
26	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属	+						+	+	+	+
27	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾈ属										
28	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属	+	+		+						+
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia linearis	ﾎﾝﾉｺｻﾞﾈﾓ			+	+			+			
					種類数		13	12	14	8	12	8	11	12	11	11
					湿重量(g)合計		388.70	970.10	384.50	152.70	557.90	2077.00	951.70	1013.80	543.50	631.60

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

3-6-3 藻場構成種等の化学組成（CNP）分析結果

(1) 神戸沖処分場

神戸沖処分場周囲の代表地点 10 点および護岸周囲の目視観察時に採取した藻場構成種および主要出現種の合計 8 種について、湿重量および乾燥重量の計測とＣＮＰ組成分析（炭素含有量（Ｃ）、窒素含有量（Ｎ）、りん含有量（Ｐ））を行った。表 3-25 にこれらの分析結果を示した。

藻場構成種の大型褐藻として、ワカメ、シダモク、タマハハキモクの 3 種、神戸沖処分場において出現頻度の高いその他の主要海藻類として、アオサ属、マクサ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、ムカデノリ、ベニスナゴ、カバノリの 8 種、合計 11 種について分析を行った。

表 3-25　藻場構成種を含む主要海藻類の化学組成分析結果　（神戸沖処分場）

区　分	種　名	湿重量 W.W.(g)	乾重量 D.W.(g)	炭素含有量 C(mg/g)	窒素含有量 N(mg/g)	りん含有量 P(mg/g)
藻場構成種	ﾜｶﾒ	1064.7	108.66	303.0	29.3	1.5
	ｼﾀﾞﾓｸ	204.9	13.24	334.0	29.3	0.9
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	1275.4	153.22	268.0	16.8	1.5
その他 主要な海藻類	ｱｵｻ属	5.3	0.80	278.0	28.5	1.3
	ﾏｸｻ	52.6	10.94	360.0	29.3	1.3
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	0.5	0.06	300.0	31.7	1.0
	ﾌﾀﾞﾗｸ	37.4	3.18	296.0	29.0	1.0
	ﾂﾙﾂﾙ	5.5	0.38	293.0	17.8	1.5
	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	314.3	44.59	272.0	31.7	2.1
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	156.4	19.68	310.0	26.2	1.1
	ｶﾊﾞﾉﾘ	101.5	11.99	310.0	34.7	1.2

(2) 大阪沖処分場

大阪沖処分場周囲の代表地点 10 点および護岸周囲の目視観察時に採取した藻場構成種および主要出現種の合計 10 種について、湿重量および乾燥重量の計測とＣＮＰ組成分析（炭素含有量（Ｃ）、窒素含有量（Ｎ）、りん含有量（Ｐ））を行った。表 3-26 にこれらの分析結果を示した。

藻場構成種の大型褐藻として、シダモク、タマハハキモク、ワカメの 3 種、大阪沖処分場において出現頻度の高いその他の主要海藻類として、アオサ属、マクサ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリの 7 種、合計 10 種について分析を行った。

表 3-26　藻場構成種を含む主要海藻類の化学組成分析結果　（大阪沖処分場）

区　分	種　名	湿重量 W.W.(g)	乾重量 D.W.(g)	炭素含有量 C(mg/g)	窒素含有量 N(mg/g)	りん含有量 P(mg/g)
藻場構成種	ﾜｶﾒ	709.8	78.19	183.0	19.2	2.7
	ｼﾀﾞﾓｸ	3146.7	282.33	322.0	33.5	1.7
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	1127.3	150.67	252.0	22.7	2.2
その他 主要な海藻類	ｱｵｻ属	10.2	1.81	285.0	27.8	1.5
	ﾏｸｻ	8.8	1.66	346.0	34.7	1.3
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	167.2	21.84	289.0	30.9	1.1
	ﾌﾀﾞﾗｸ	717.9	92.12	267.0	22.4	1.5
	ﾂﾙﾂﾙ	238.1	22.23	291.0	27.0	1.5
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	1363.7	199.72	304.0	27.5	1.1
	ｶﾊﾞﾉﾘ	162	19.64	266.0	33.0	1.2

3-6-4 藻場分布状況

(1) 神戸沖処分場

神戸沖処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-15～27 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 24 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、タマハハキモク、ヒジキ、ヨレモクモドキの 6 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、ヒジキの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-15）

ワカメは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に南護岸の-3～-5m 付近で分布が確認された。今回の調査では南護岸の広い範囲と東護岸の一部の±0～-5m で分布が確認され、濃密域がみられるなど分布範囲と被度の増加がみられた。

② カジメ（図 3-16）

カジメは、平成 21 年度に南護岸の 1 箇所で分布が確認されたが、平成 22 年度、平成 24 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

③ シダモク（図 3-17）

シダモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲の減少がみられた。今回の調査では、各護岸の-3～-4m で分布が確認されたが、平成 24 年度に引き続き分布範囲は減少傾向にあった。

④ タマハハキモク（図 3-18）

タマハハキモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-4m 付近で分布が確認された。今回の調査でも各護岸で分布が確認され、分布範囲も前回までとほぼ同様の傾向がみられた。

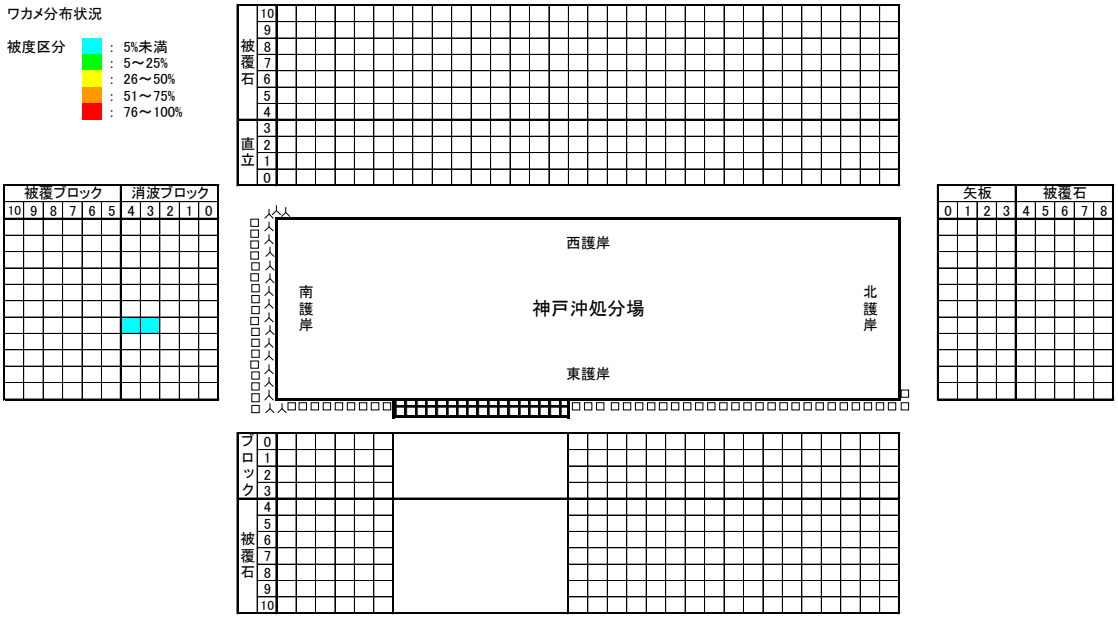
⑤ ヒジキ（図 3-19）

ヒジキは、平成 21～22 年度に西護岸の 1 箇所で確認されたが、平成 24 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

⑥ ヨレモクモドキ（図 3-20）

ヨレモクモドキは平成 22 年度に南護岸と東護岸の各 1 箇所、平成 24 年度に南護岸の 1 箇所で分布が確認された。今回の調査では、南護岸の 2 箇所で分布が確認された。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

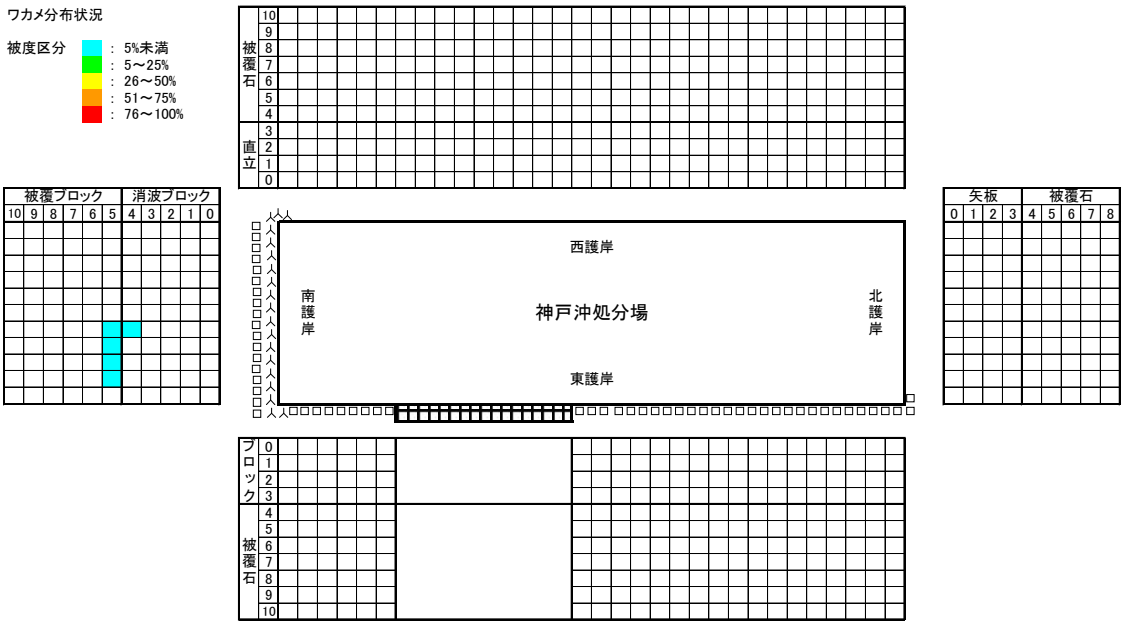
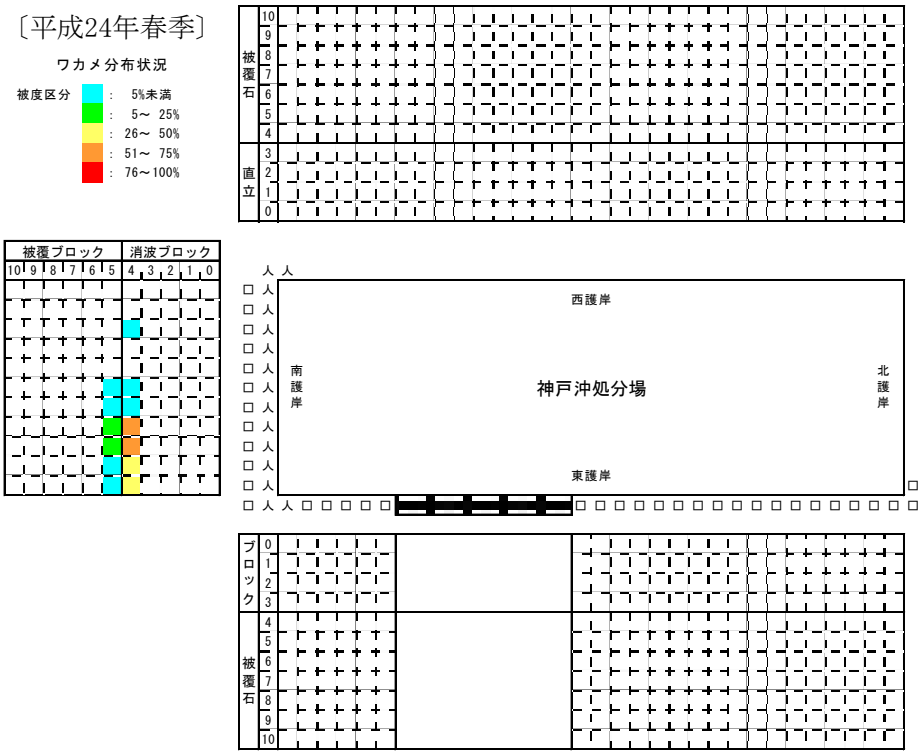


図 3-15（1）分布状況の推移　（ワカメ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



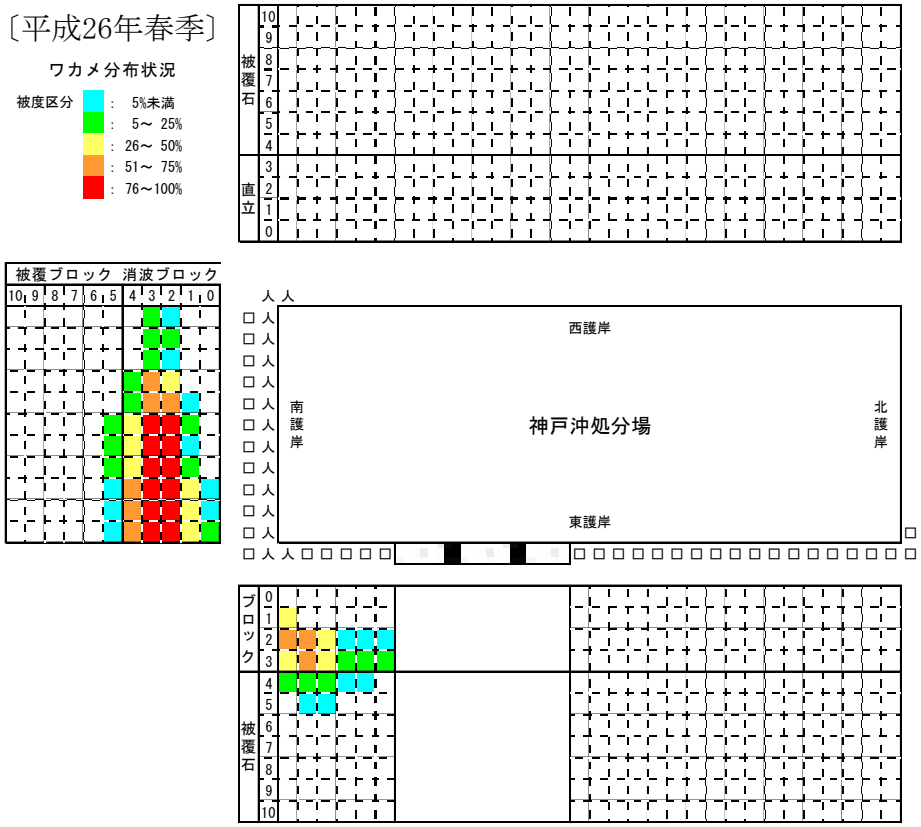
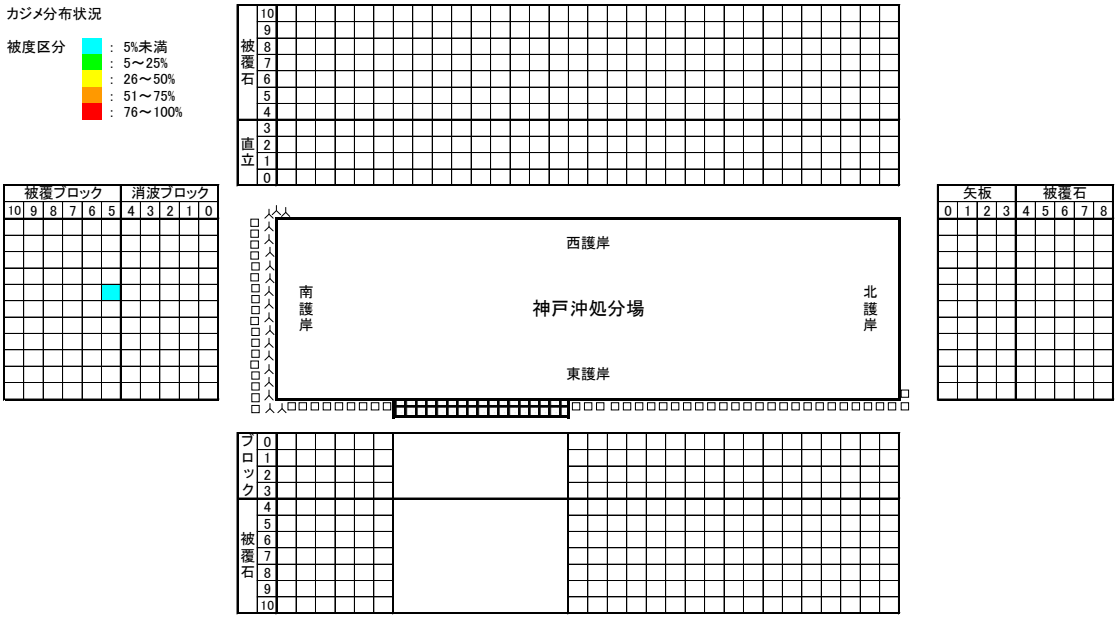


図 3-15（2）分布状況の推移　（ワカメ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

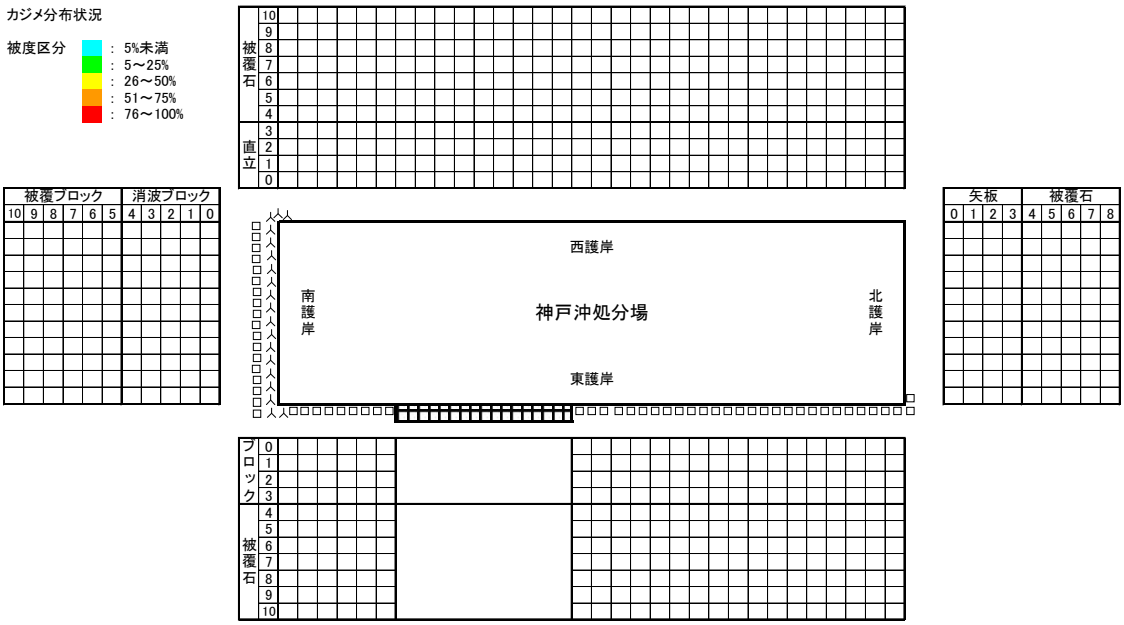
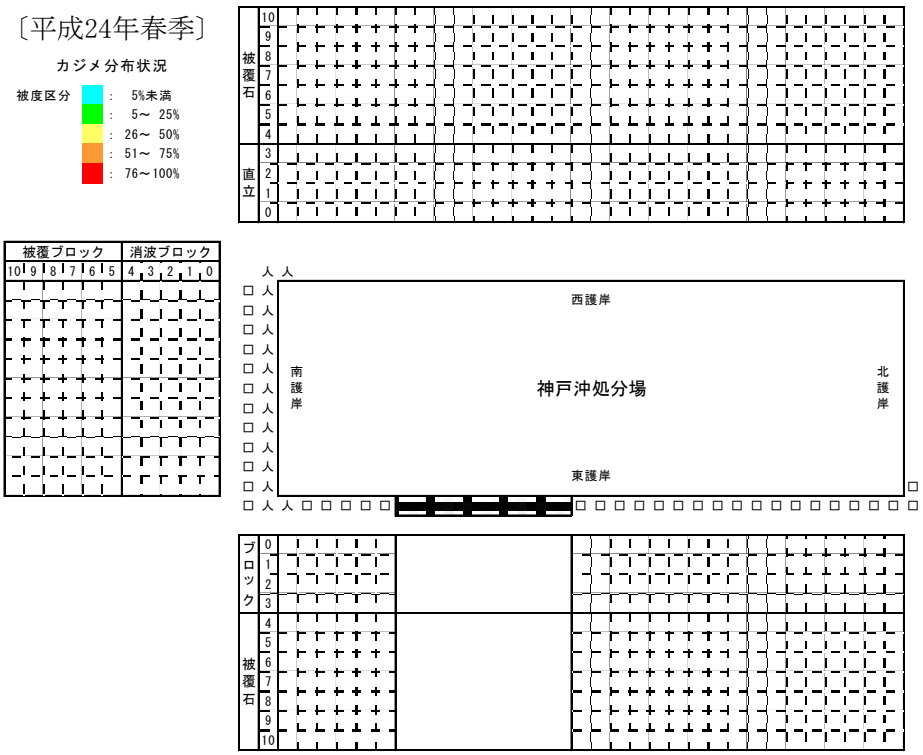


図 3-16（1）分布状況の推移　（カジメ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



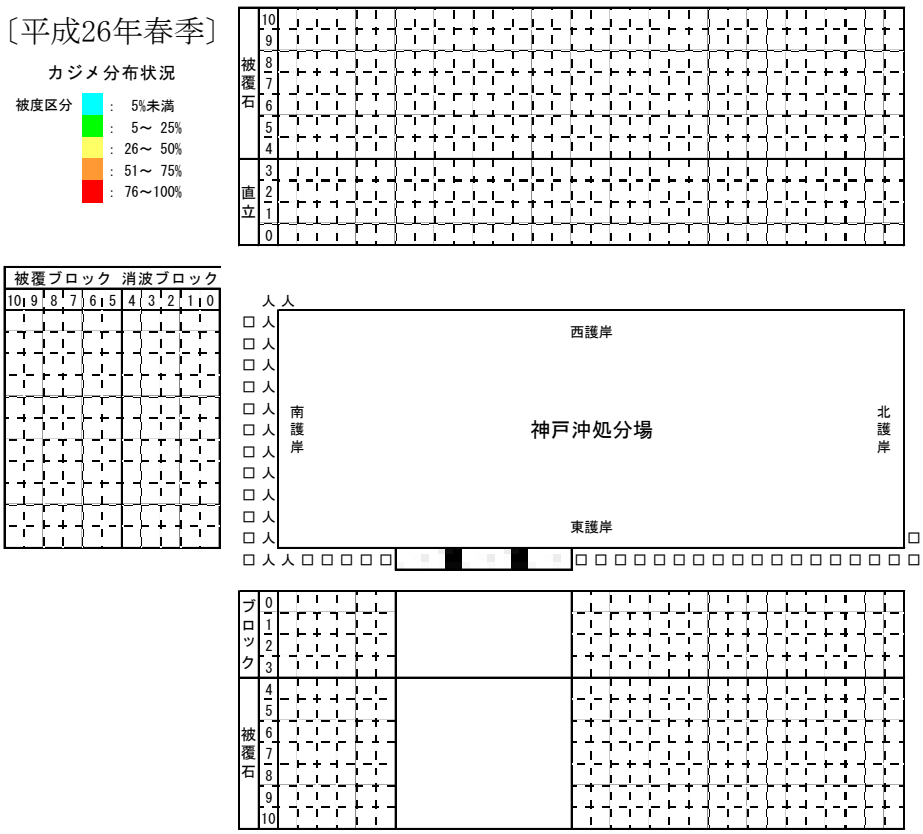
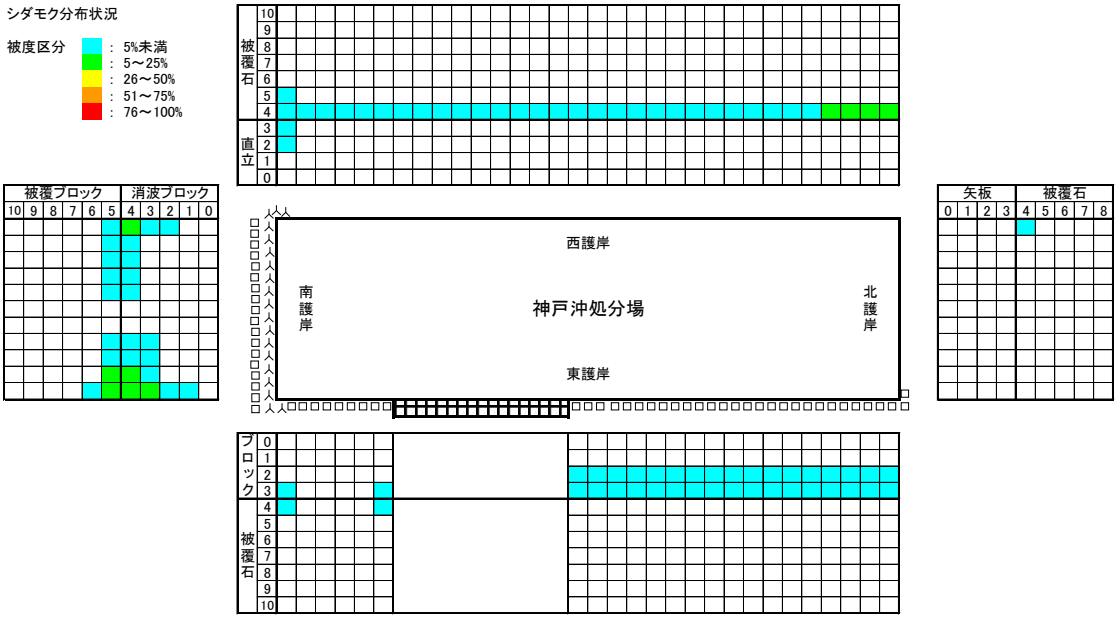


図 3-16（2）分布状況の推移　（カジメ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

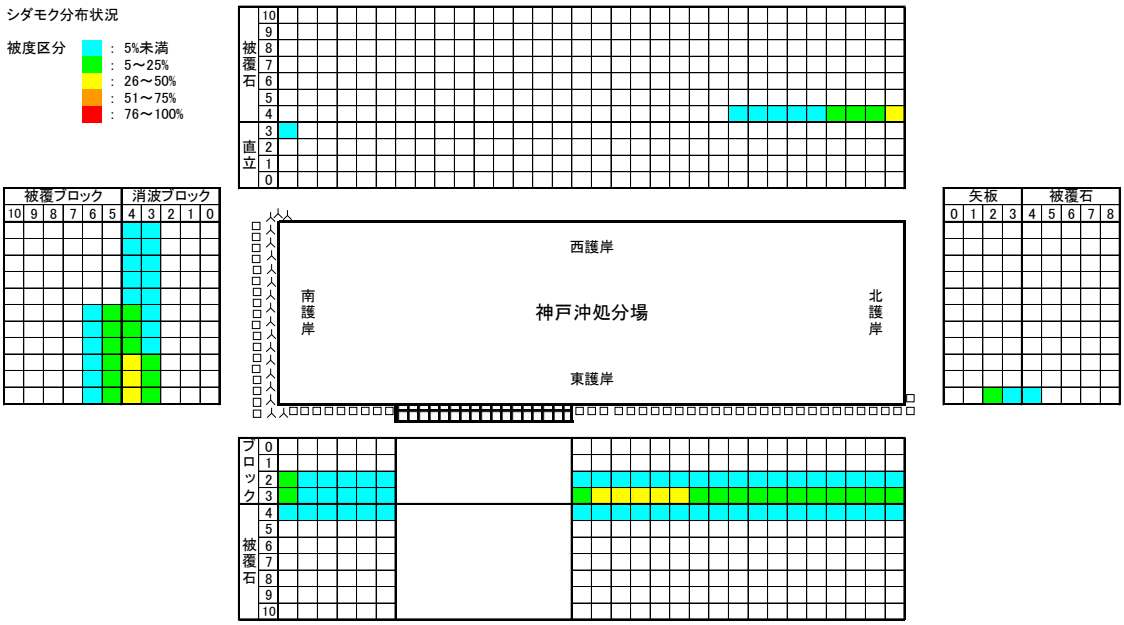
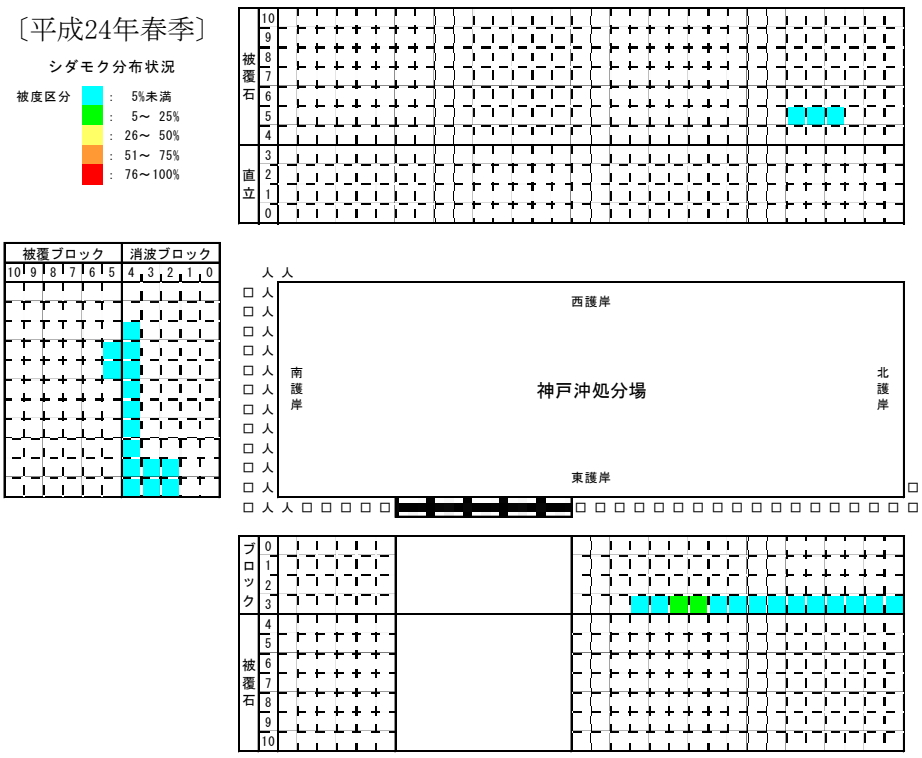


図 3-17（1）分布状況の推移　（シダモク）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



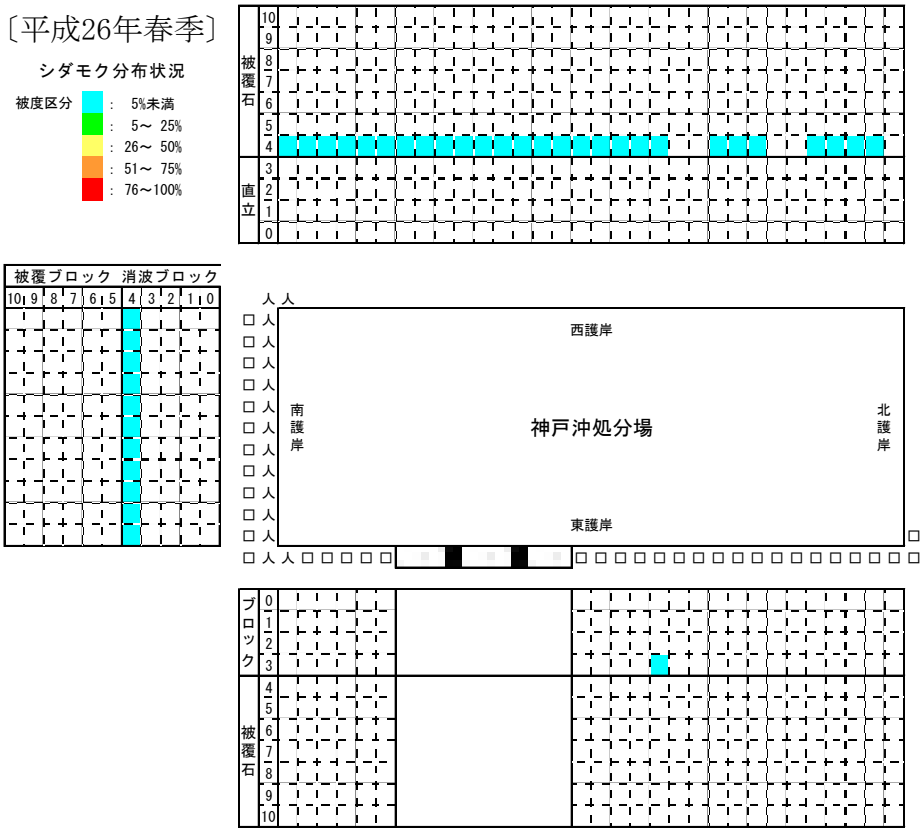
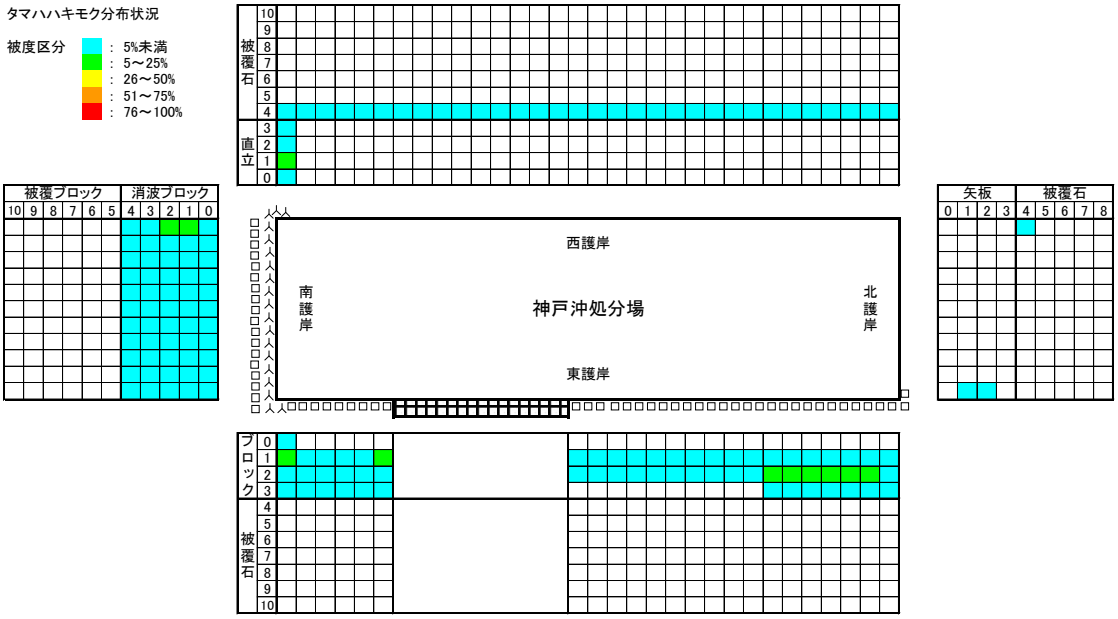


図 3-17（2）分布状況の推移　（シダモク）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

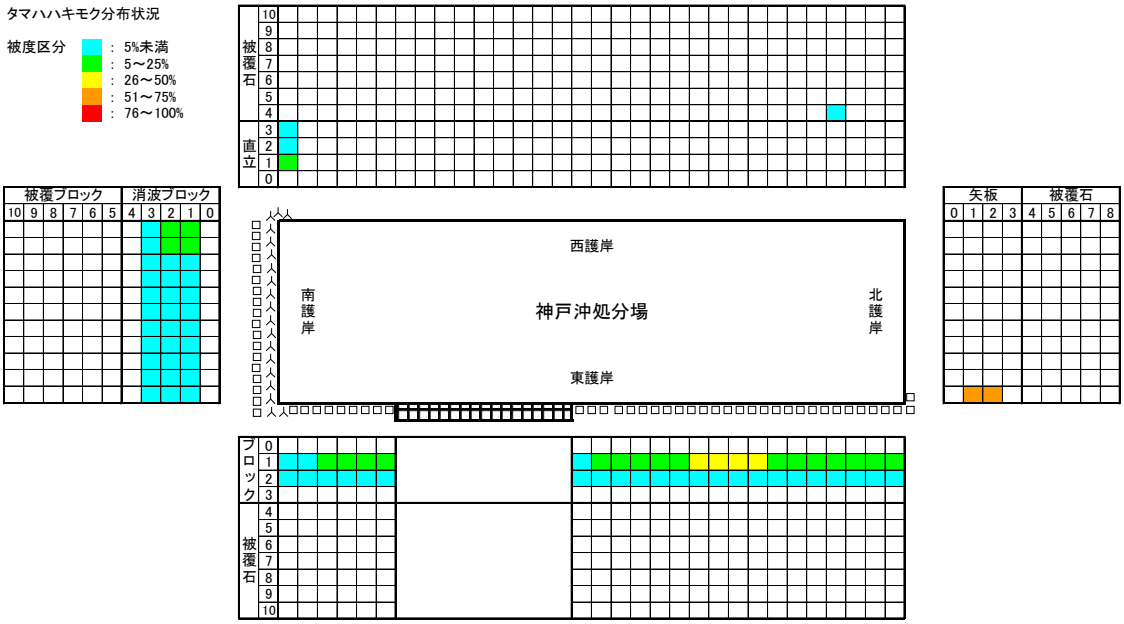
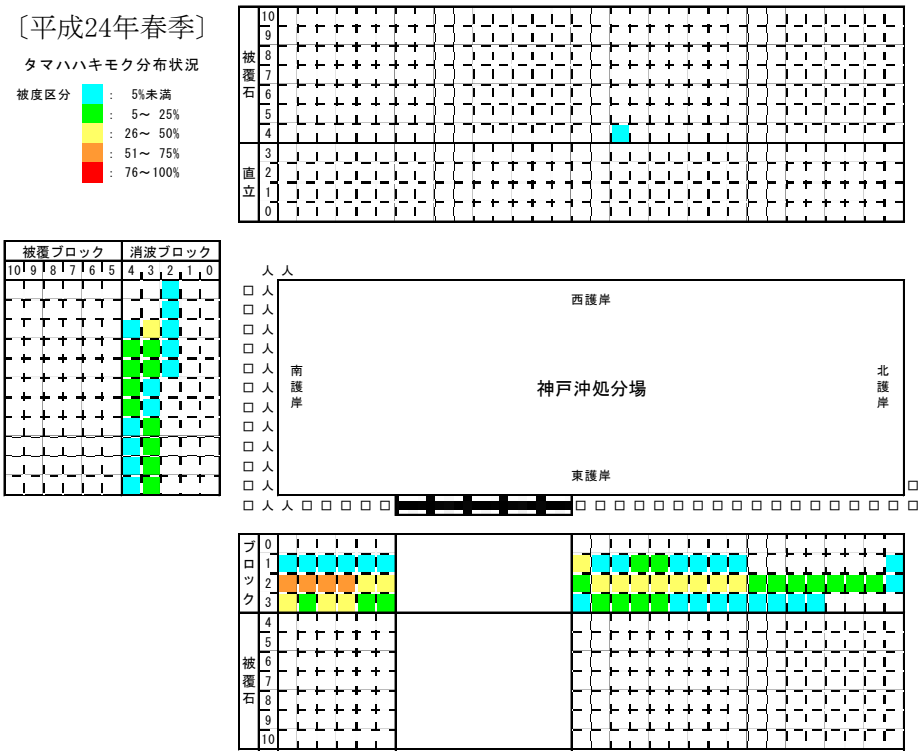


図 3-18（1）分布状況の推移　（タマハハキモク）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



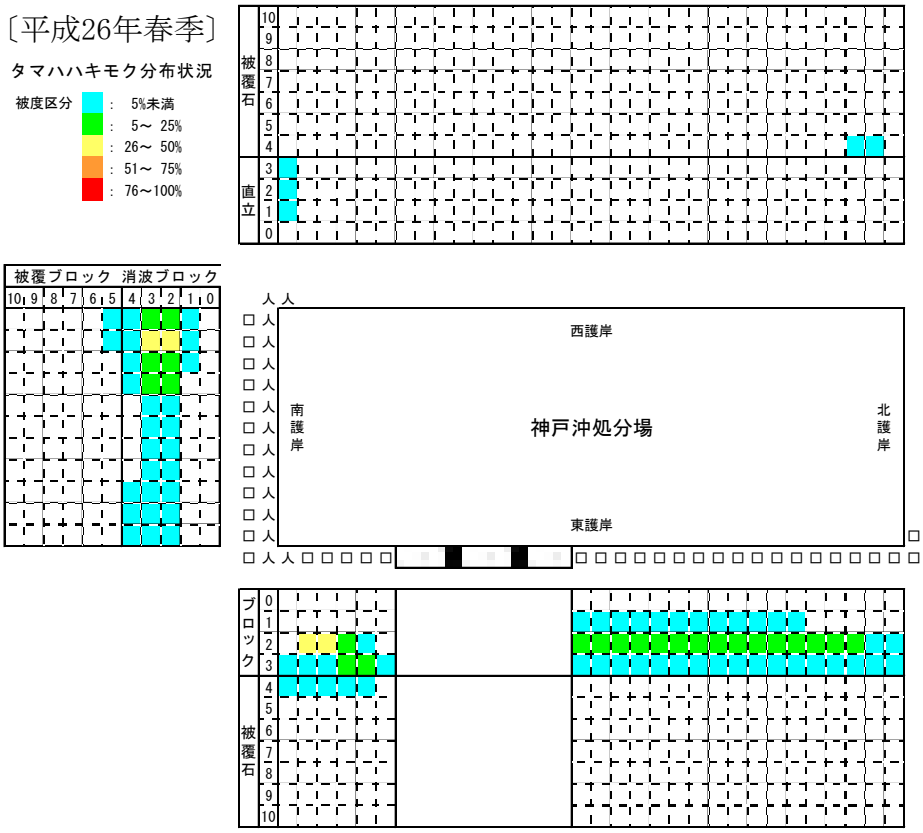
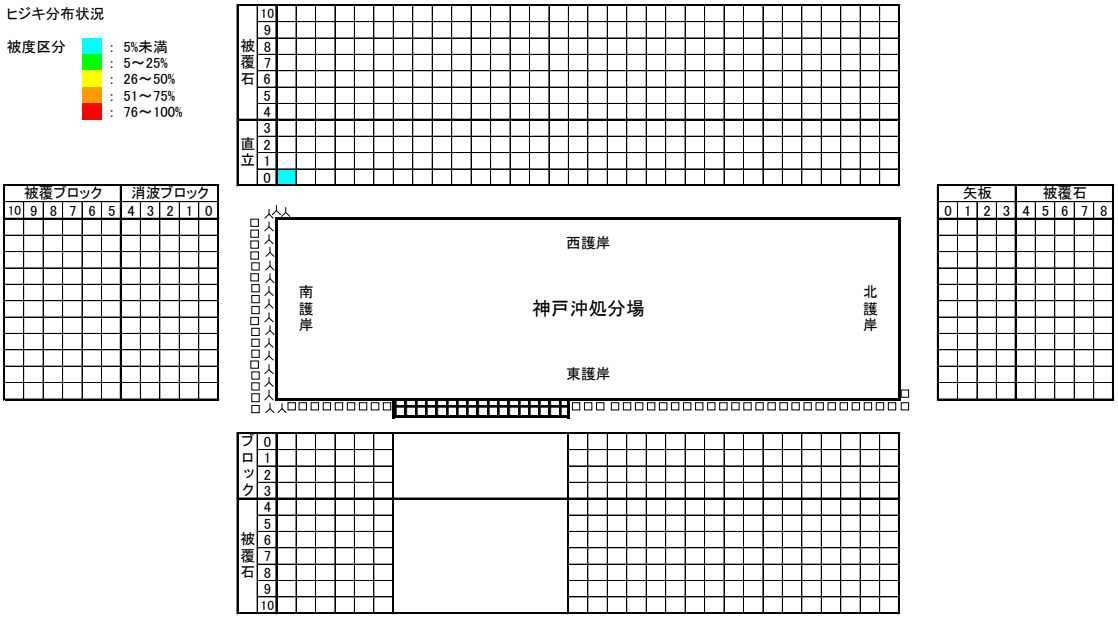


図 3-18（2）分布状況の推移　（タマハハキモク）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

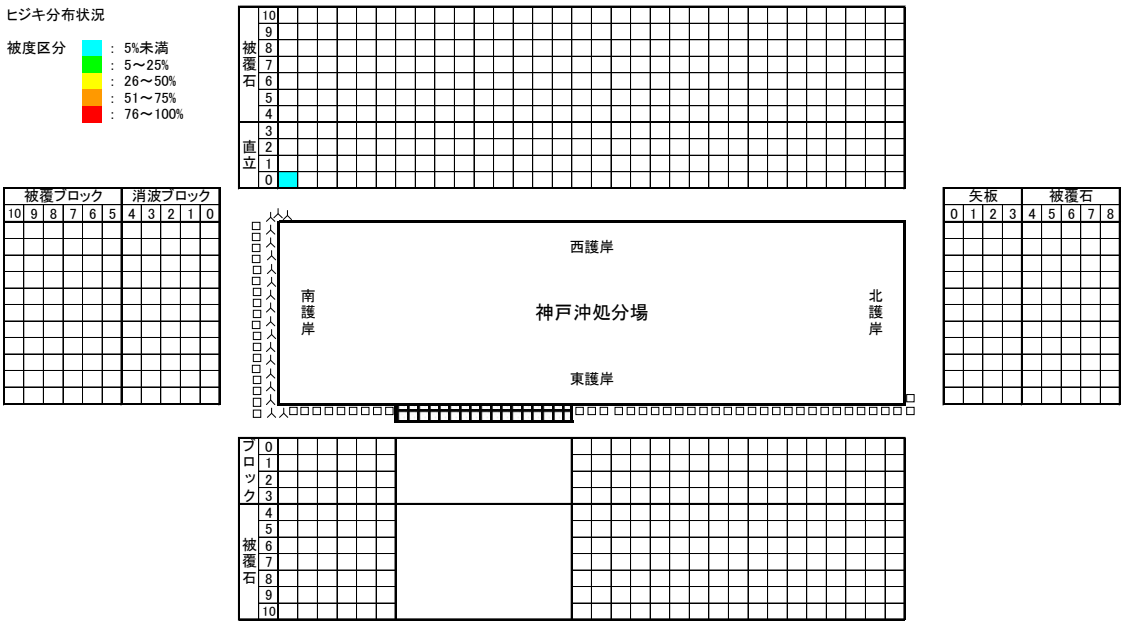
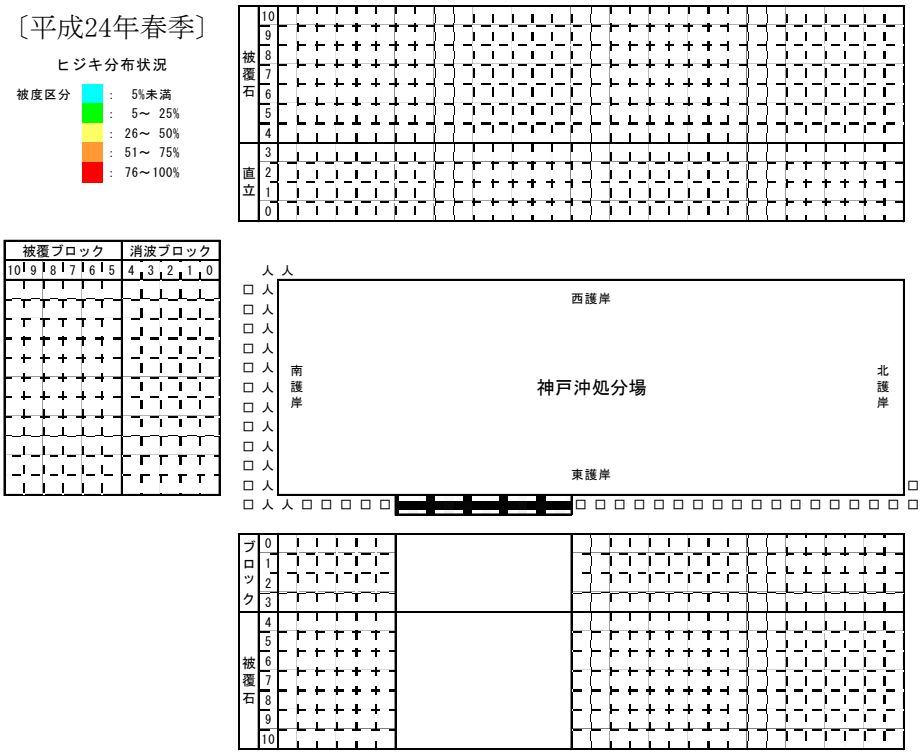


図 3-19（1）分布状況の推移　（ヒジキ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



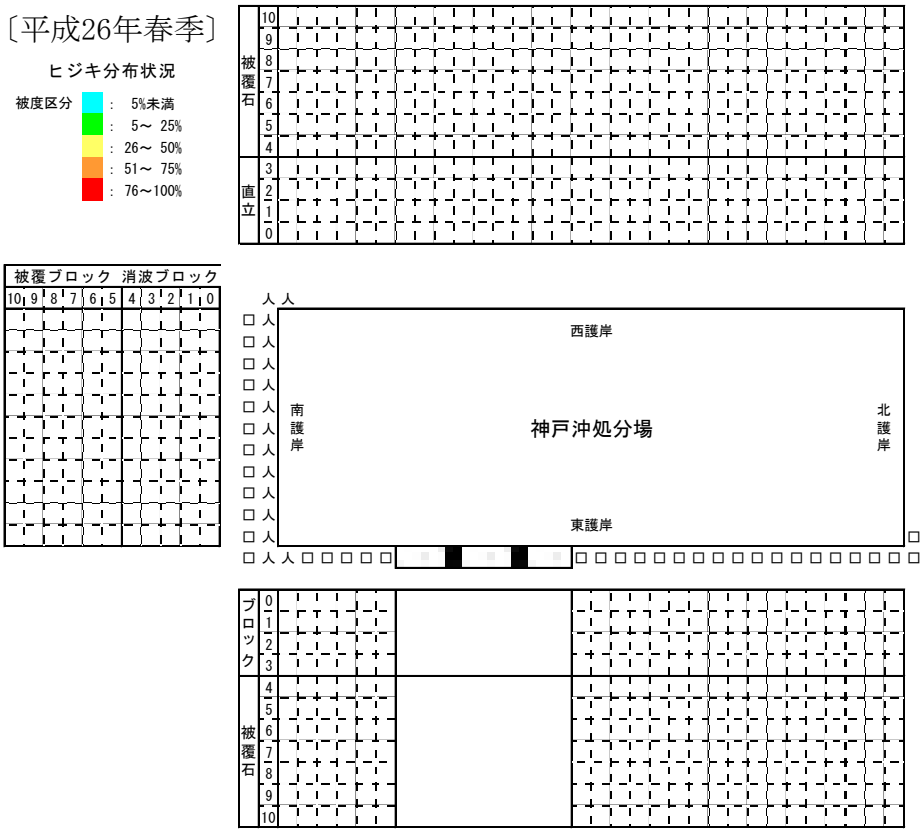
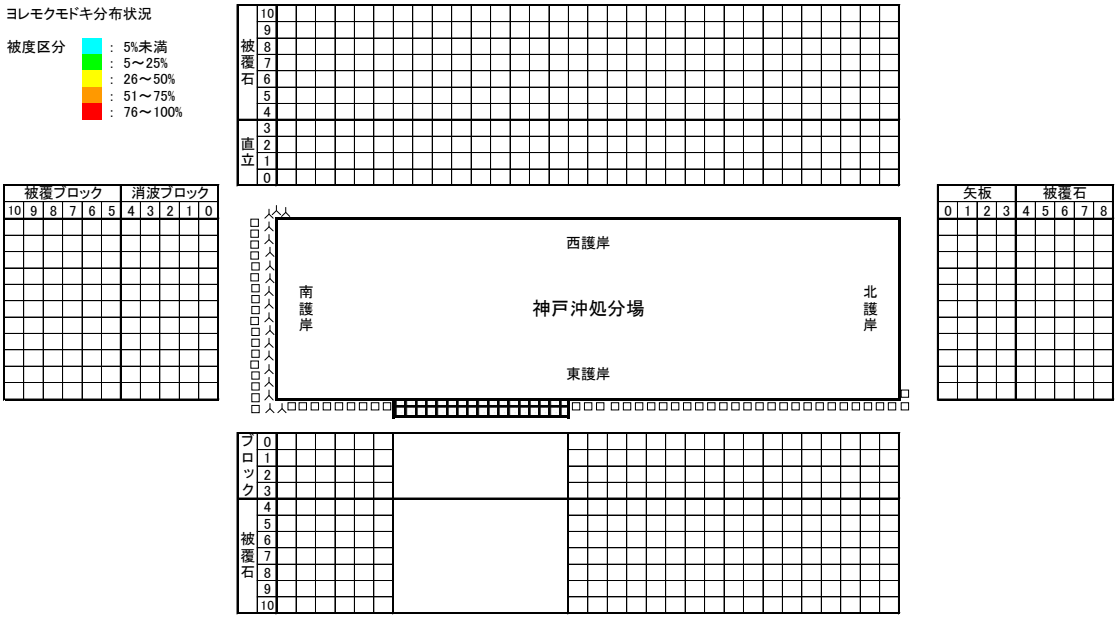


図 3-19（2）分布状況の推移　（ヒジキ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

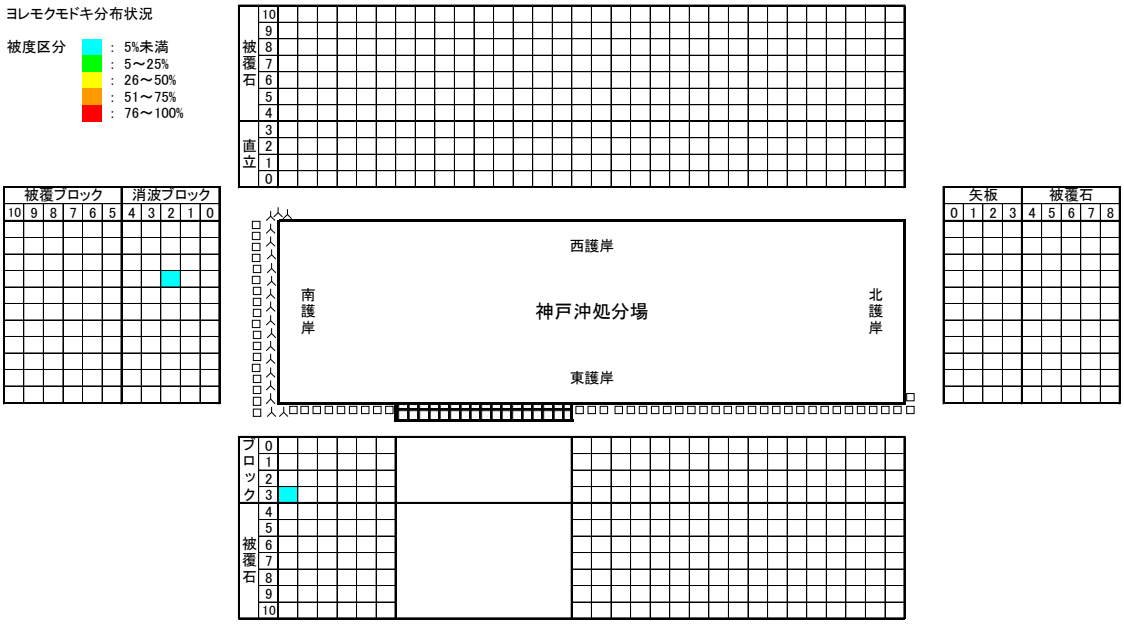
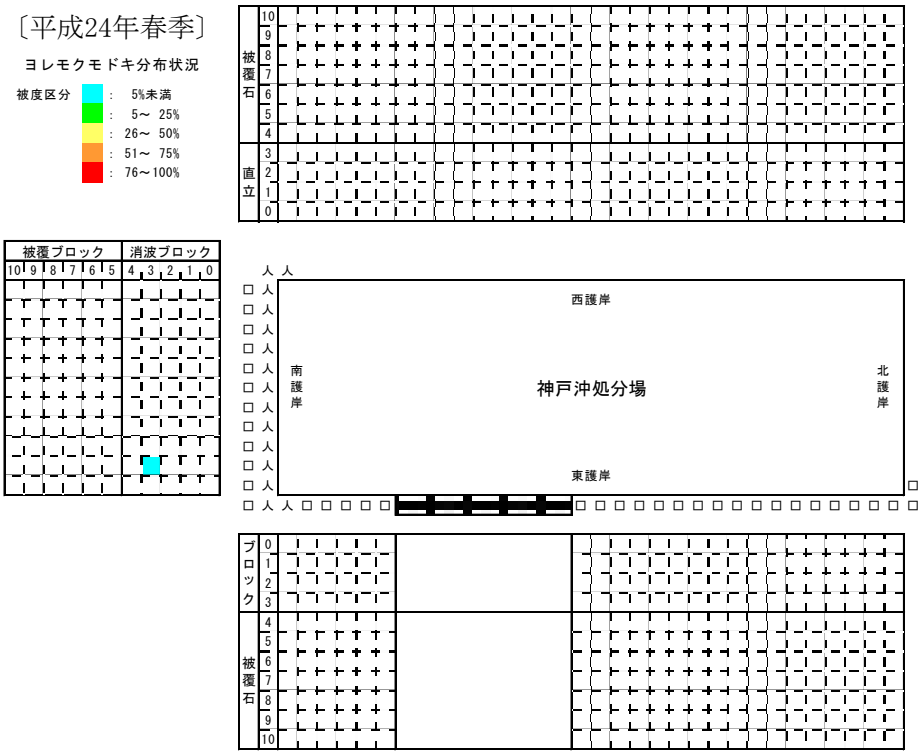


図 3-20（1）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



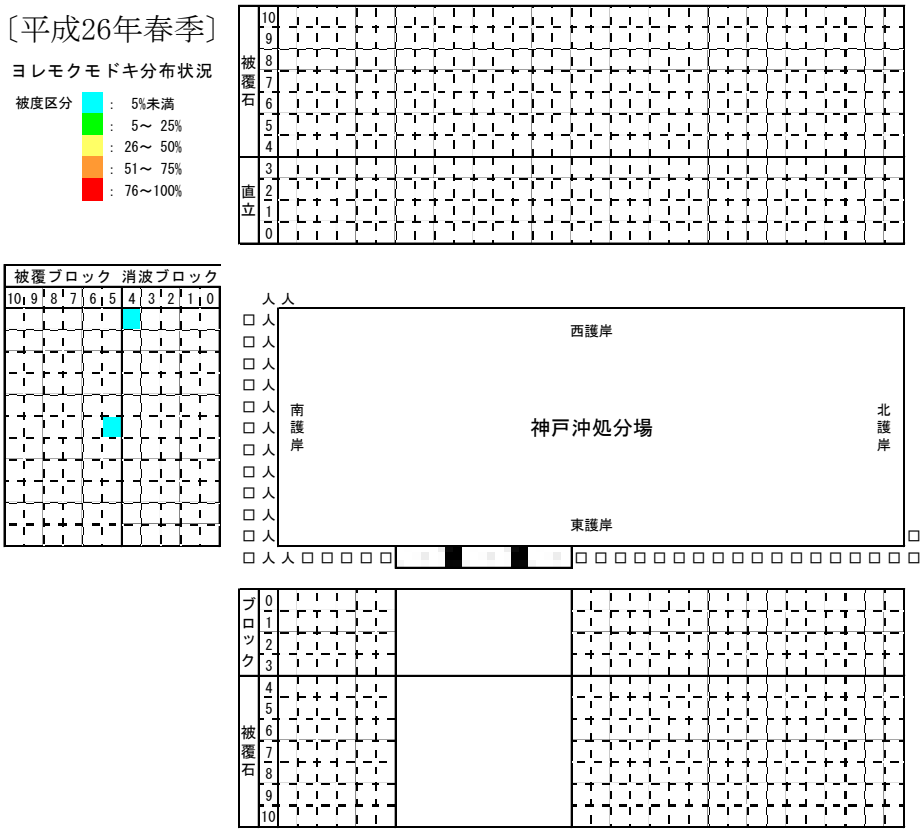


図 3-20（2）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

【その他　主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 24 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、マクサ、ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ、ツルツルの 7 種について分布図を作成した。

① アオサ属（図 3-21）

アオサ属は、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-7m 付近に広く分布が確認されたが、平成 22 年度は平成 21 年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。今回の調査では前回までの調査と同様に広く分布が確認されたが、各護岸で被度の減少がみられた。

② マクサ（図 3-22）

マクサは、平成 21～22 年度に南護岸、東護岸の-2～-6m 付近で広く分布が確認され、西護岸においても 2 箇所で分布が確認された。平成 24 年度は前回までの調査でほとんど分布が確認されなかった西護岸を含む、各護岸の-1～-8m 付近で広く分布していた。今回の調査では、前回の調査と同様に各護岸で広く分布が確認され、西護岸と南護岸では分布範囲が拡大していた。

③ ススカケベニ（図 3-23）

ススカケベニは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に、各護岸の-2～-10m 付近で広く分布が確認された。今回の調査では、西護岸、東護岸の-3～-10m 付近で分布が確認されたが、南護岸では分布がみられず、東護岸の分布範囲は前回までと比較して減少していた。

④ フダラク（図 3-24）

フダラクは、平成 21～22 年度に各護岸の±0～-4m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、西護岸では分布範囲の減少がみられた。今回の調査では、平成 24 年度で分布範囲の減少がみられた西護岸で分布範囲が増加し、各護岸で広く分布が確認された。

⑤ ベニスナゴ（図 3-25）

ベニスナゴは、平成 21～22 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、東護岸で分布範囲の減少、西護岸で分布範囲の増加がみられた。今回の調査でも、各護岸の-1～-7m で広く分布が確認され、被度の減少はみられたが、前回の調査と同様に各護岸で広く分布が確認された。

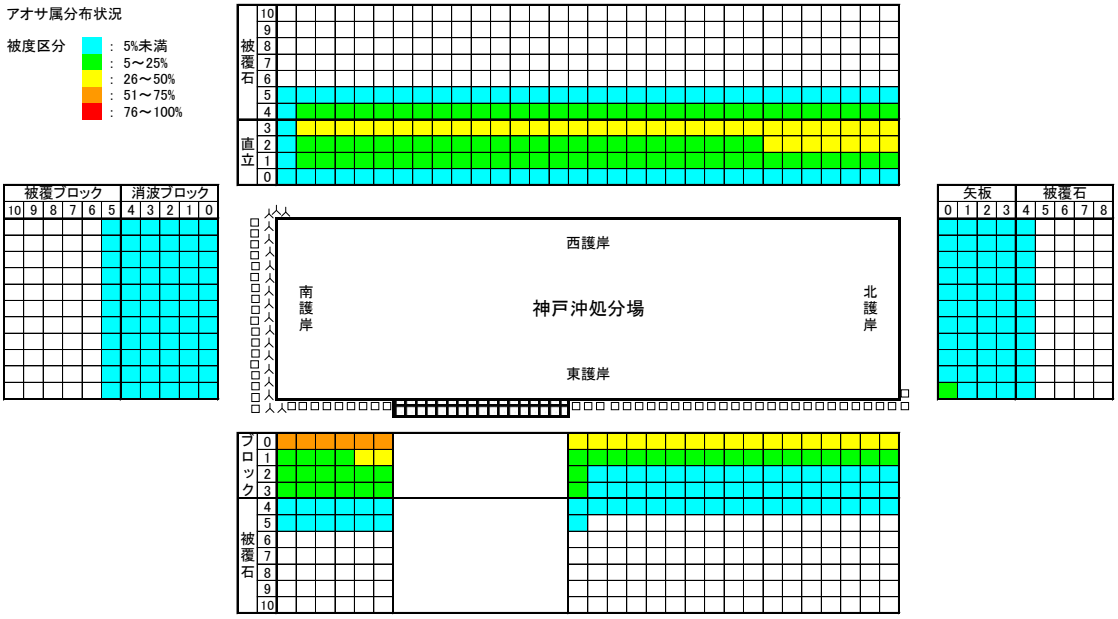
⑥ カバノリ（図 3-26）

カバノリは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度、平成 24 年度に各護岸の-2～-8m 付近で分布が確認された。平成 24 年度は平成 22 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。今回の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認されたが、平成24年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。

⑦ ツルツル（図 3-27）

ツルツルは平成 21～22 年度には分布が確認されなかったが、平成 24 年度に、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認された。今回の調査では、東護岸と西護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して分布範囲と被度の減少がみられた。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

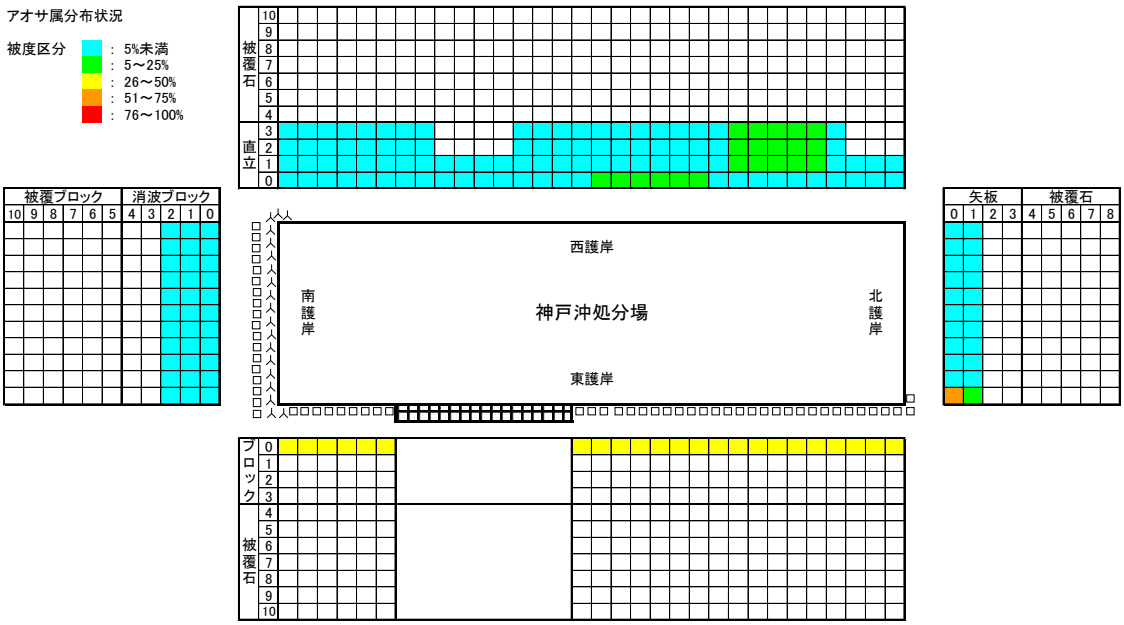
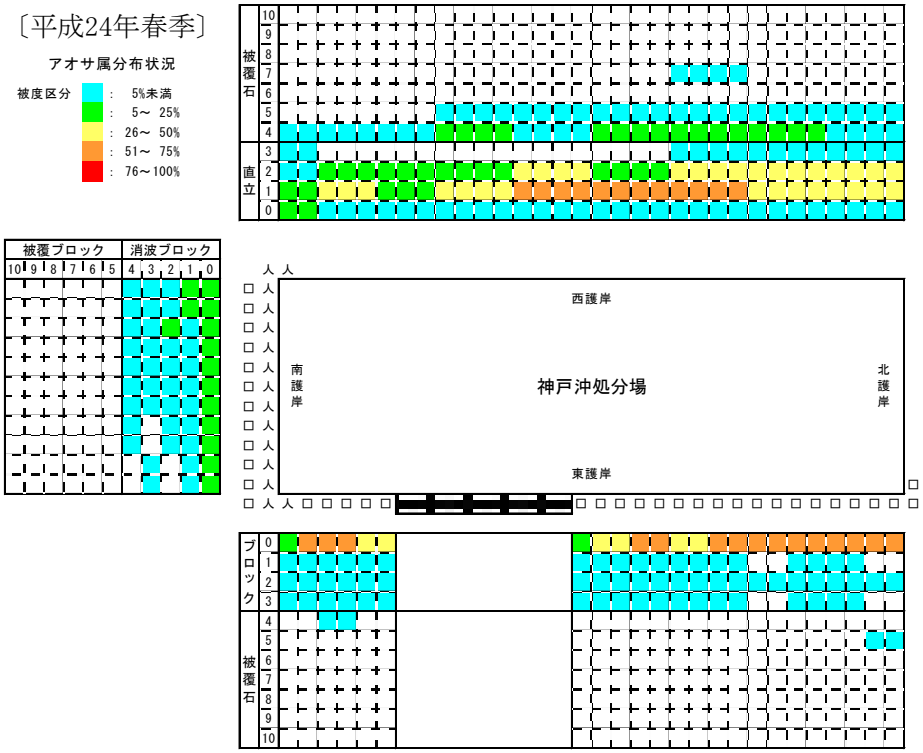


図 3-21（1）分布状況の推移　（アオサ属）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



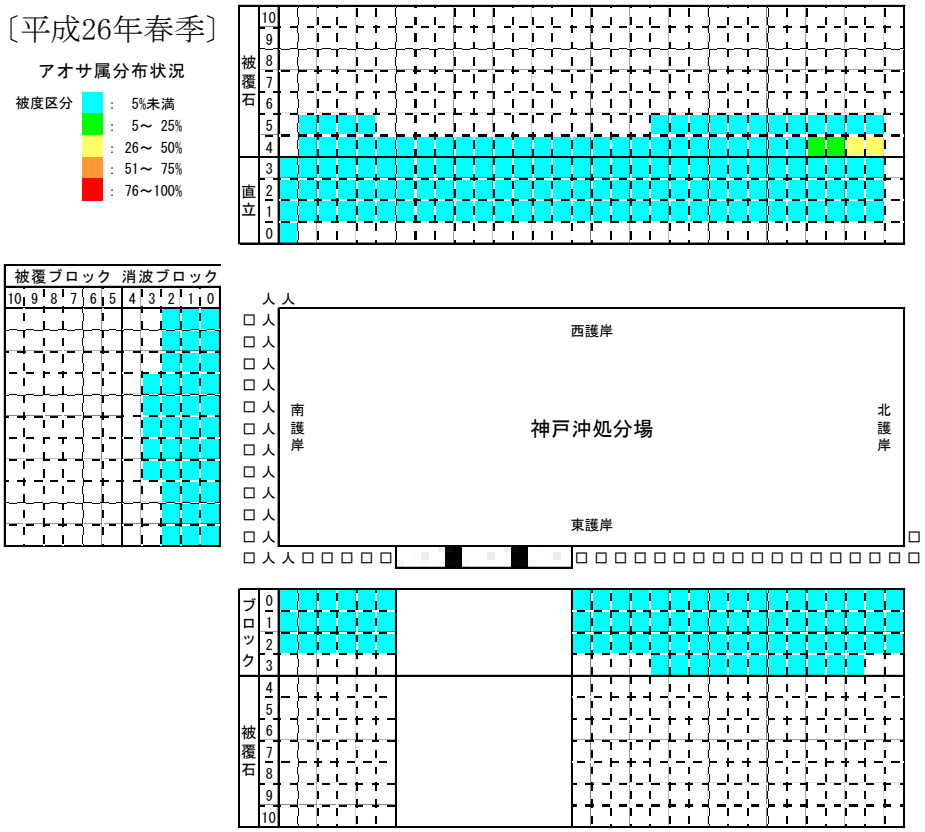
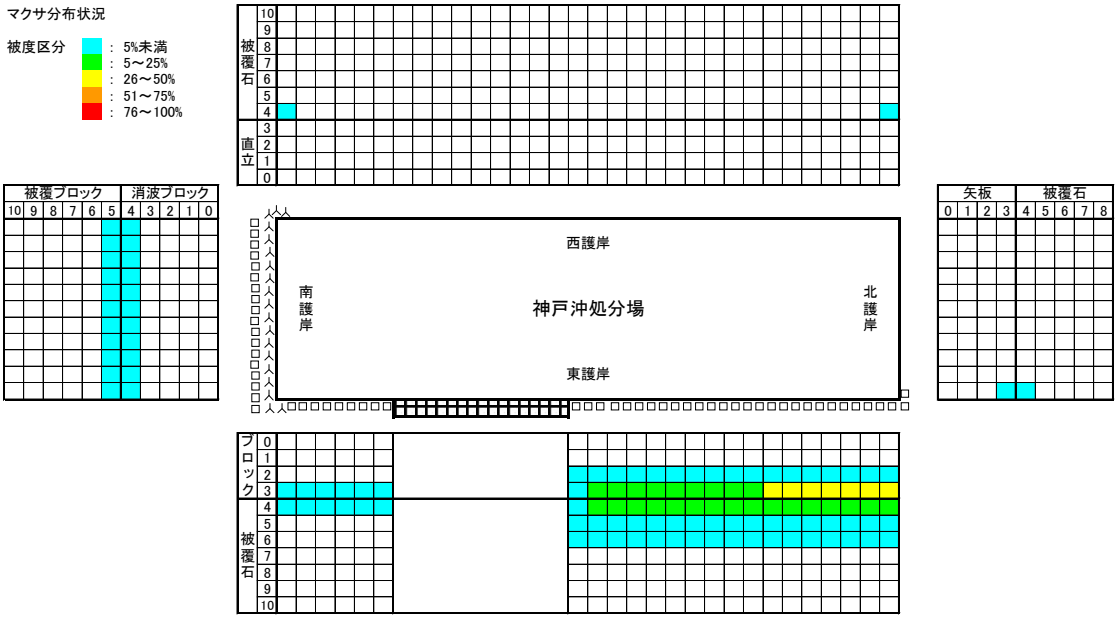


図 3-21（2）分布状況の推移　（アオサ属）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

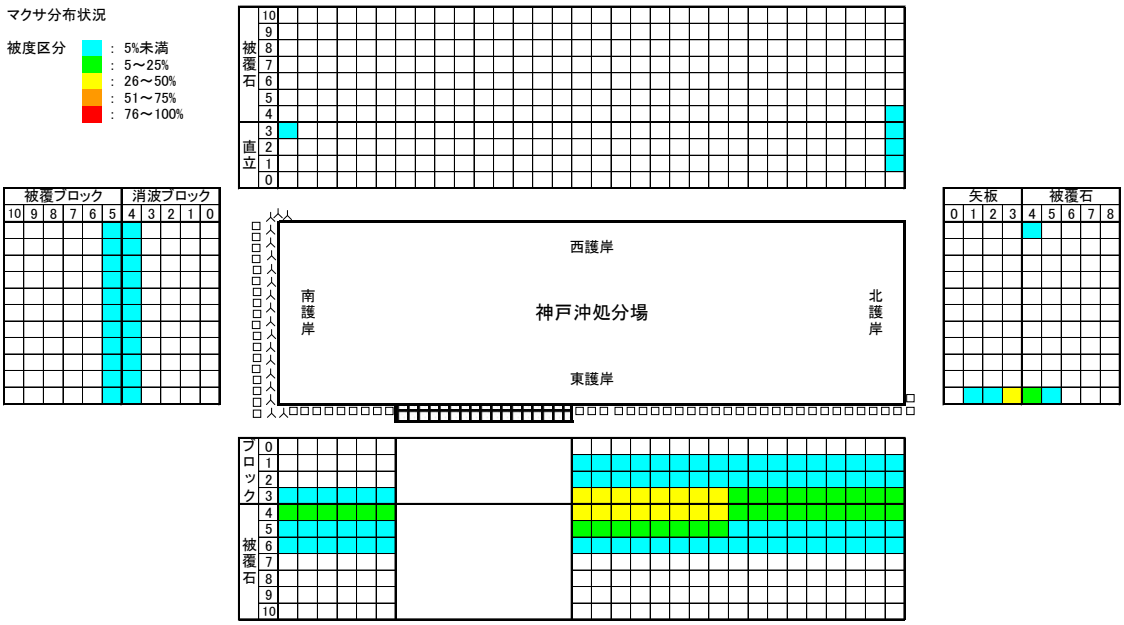
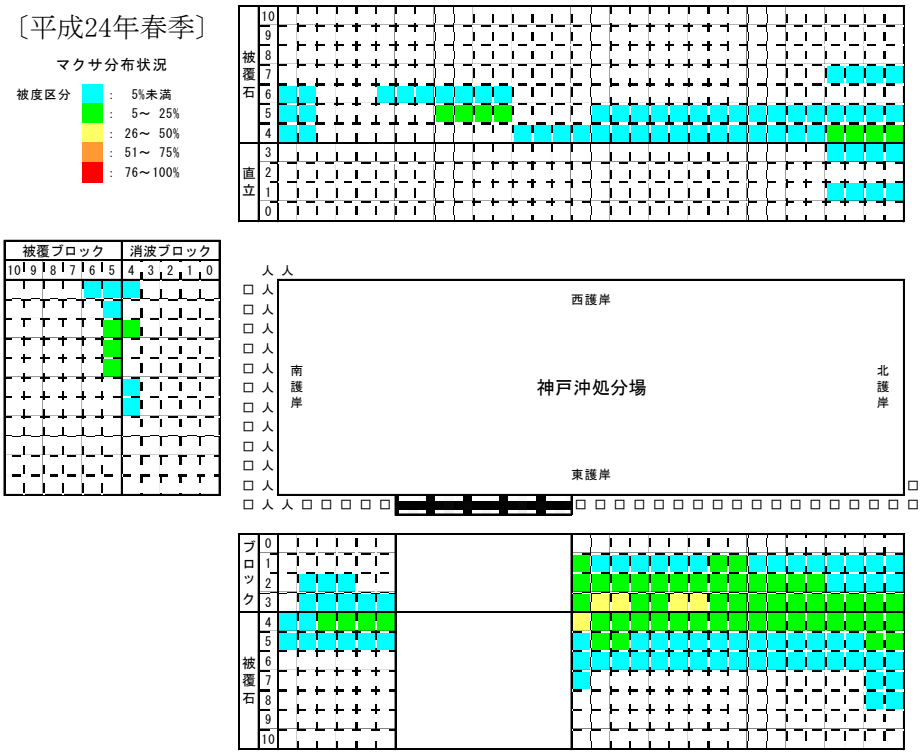


図 3-22（1）分布状況の推移　（マクサ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



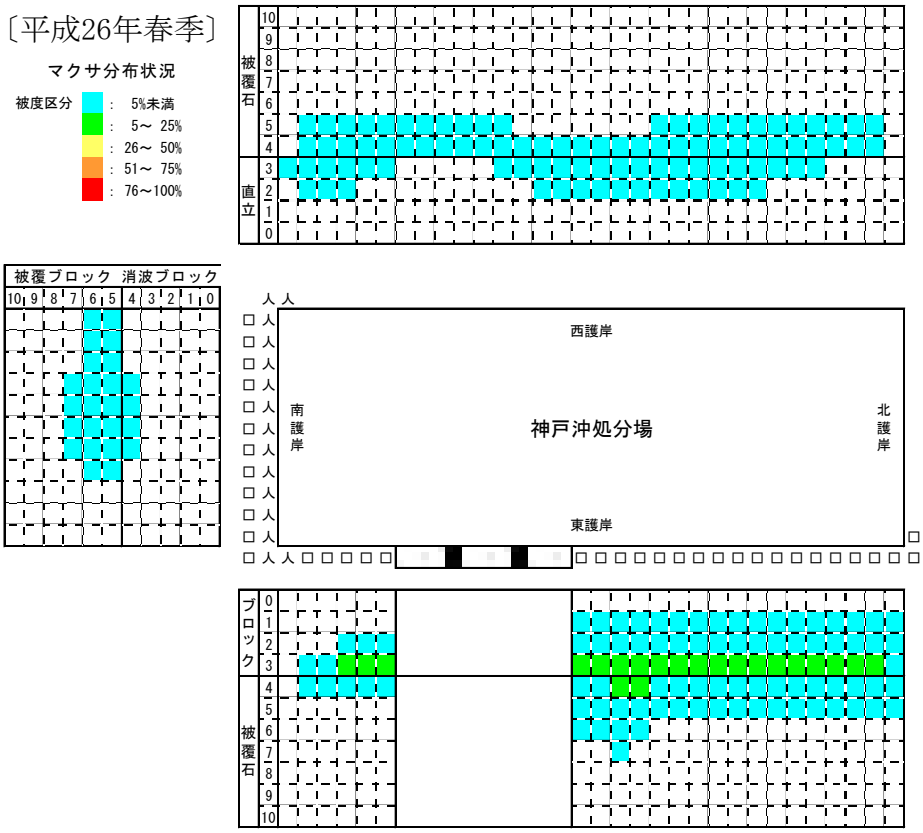
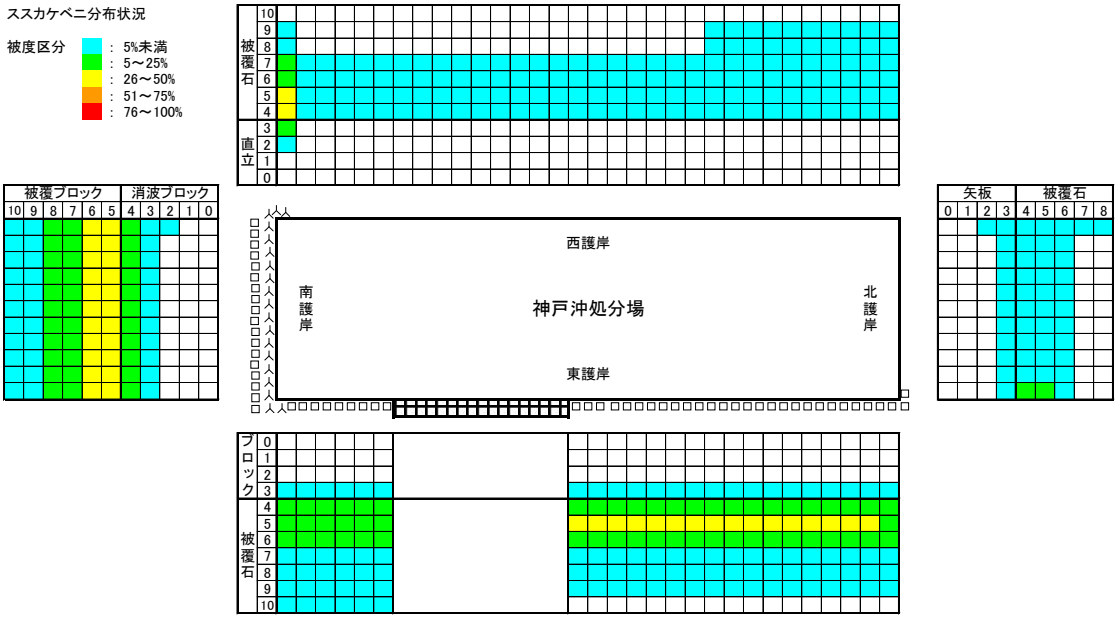


図 3-22（2）分布状況の推移　（マクサ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

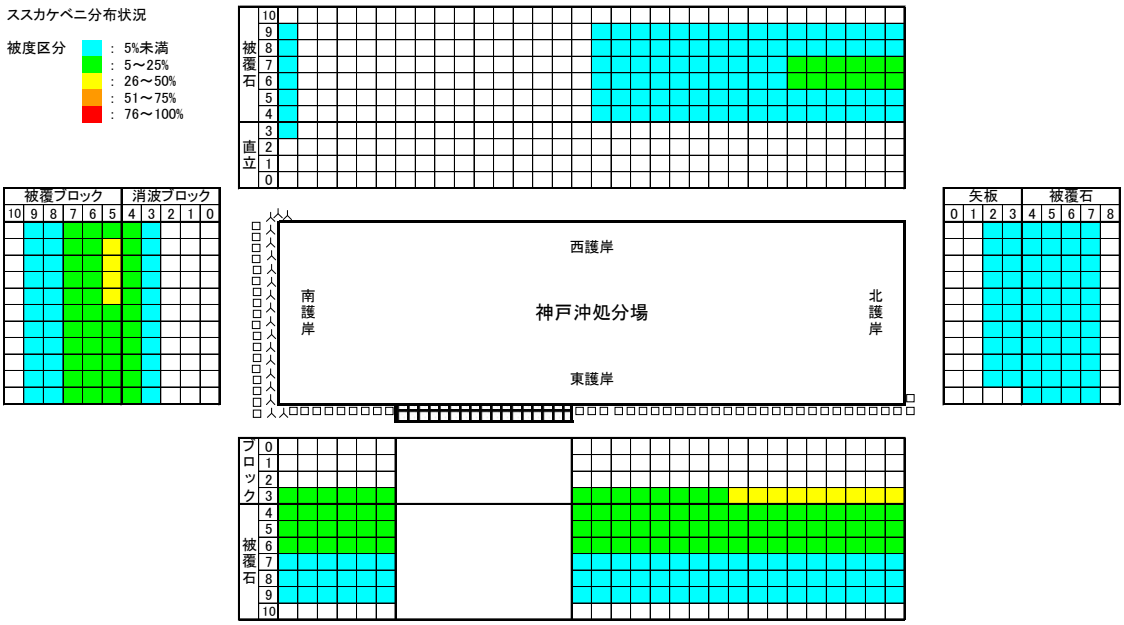


図 3-23（1）分布状況の推移　（スズカケベニ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査

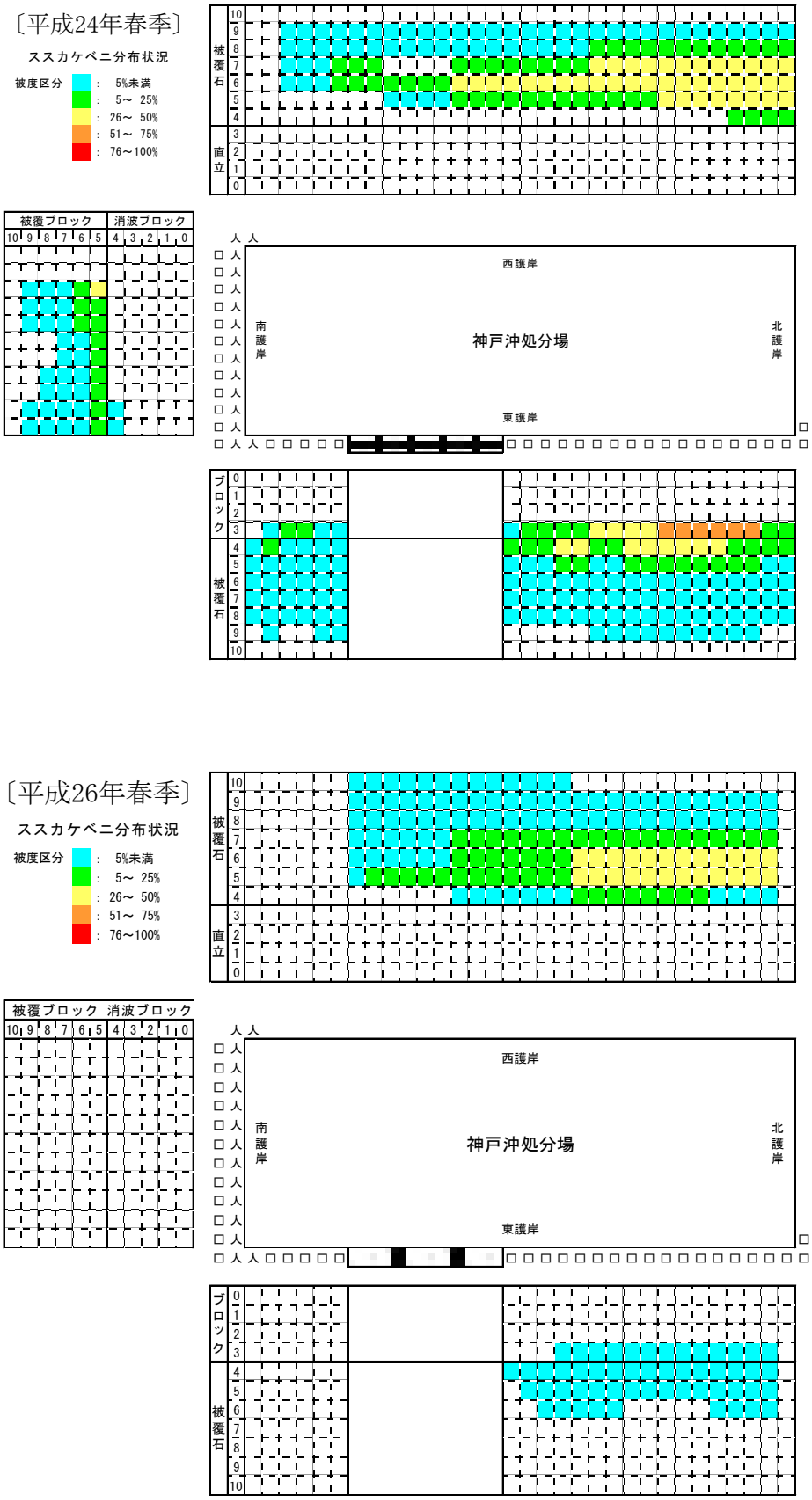
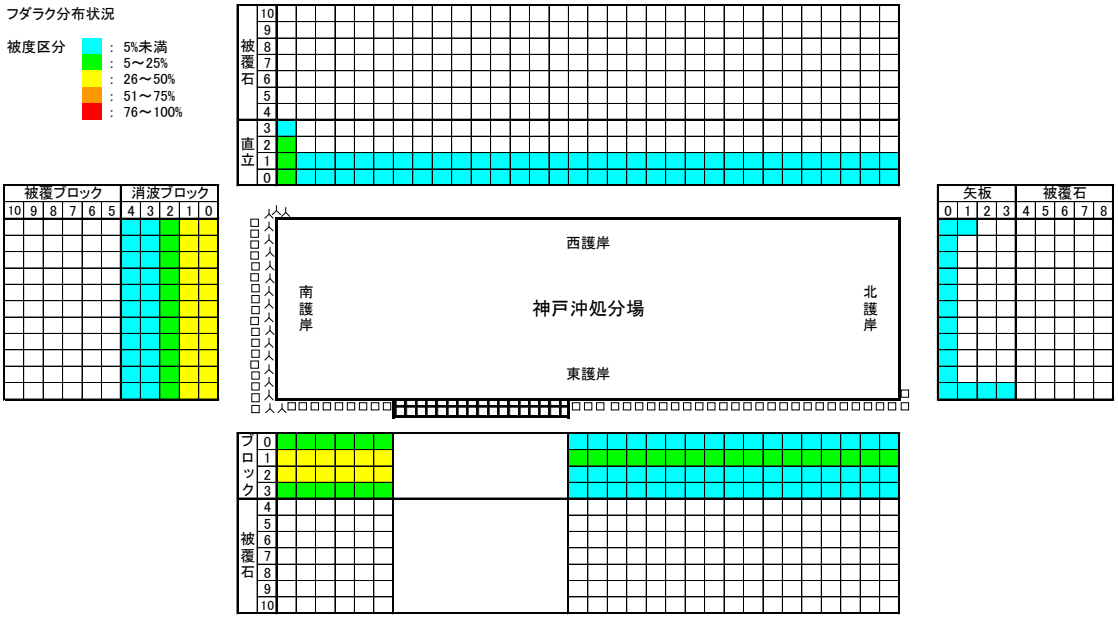


図 3-23（2）分布状況の推移　（スズカケベニ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

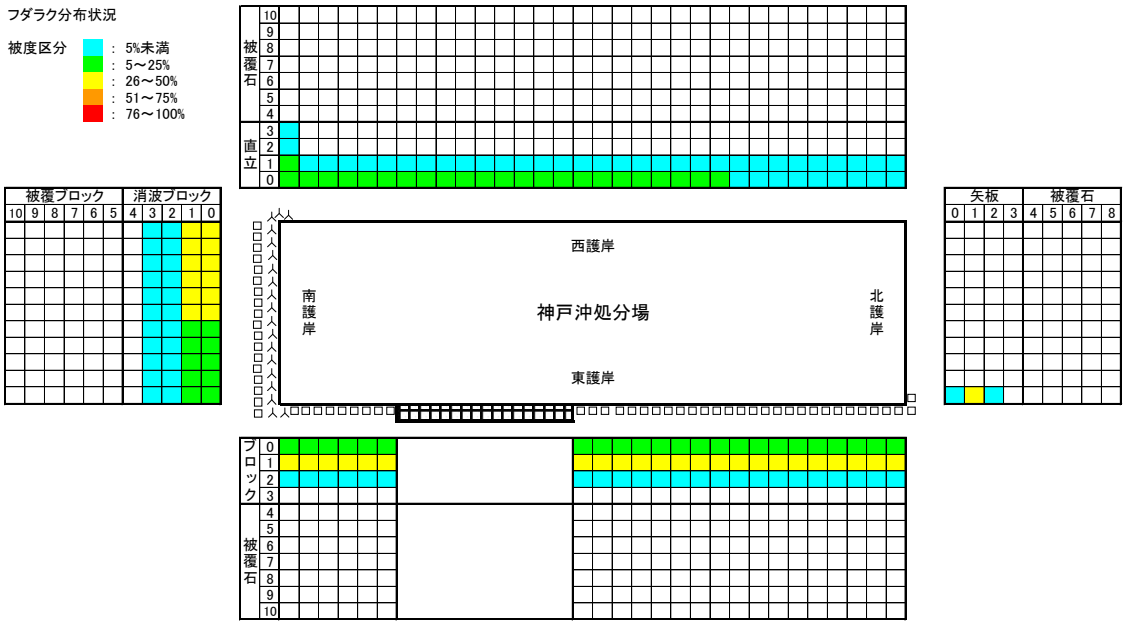
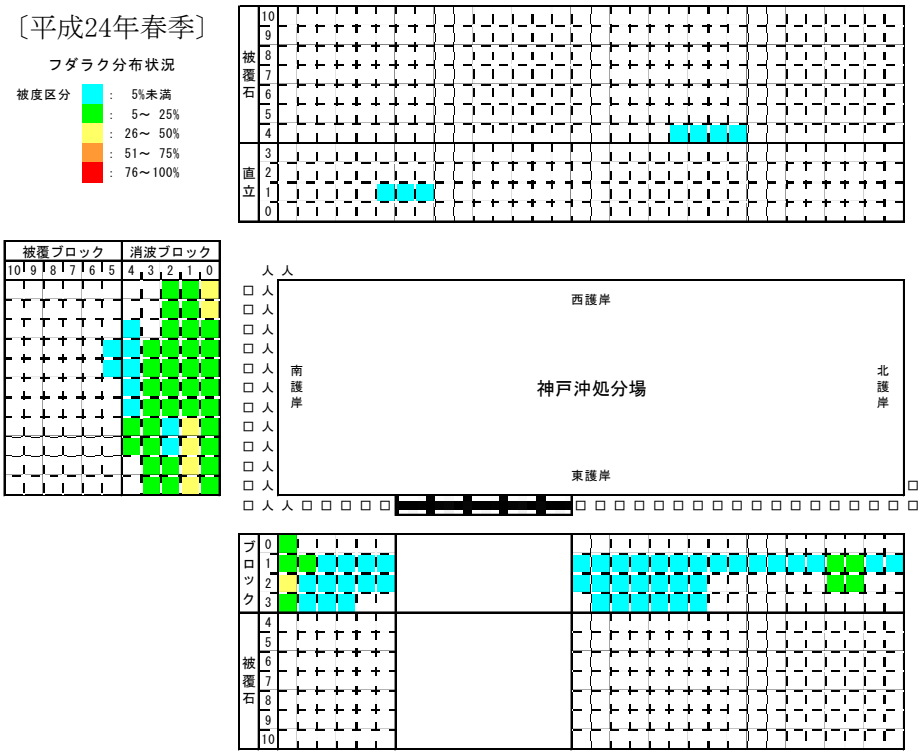


図 3-24（1）分布状況の推移　（フダラク）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



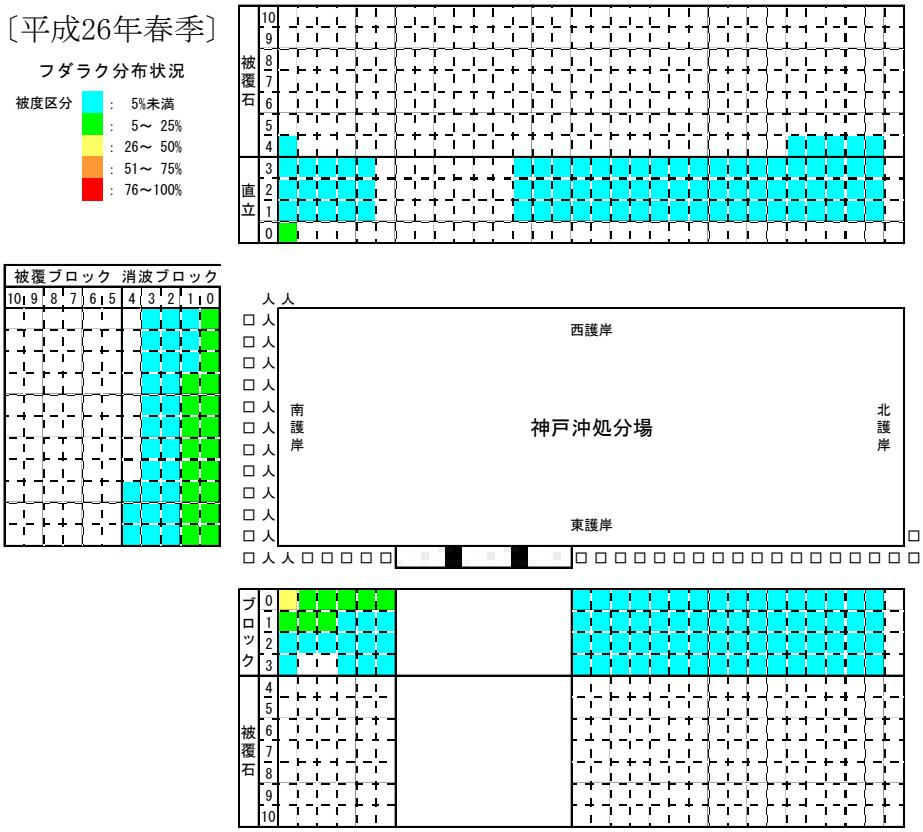
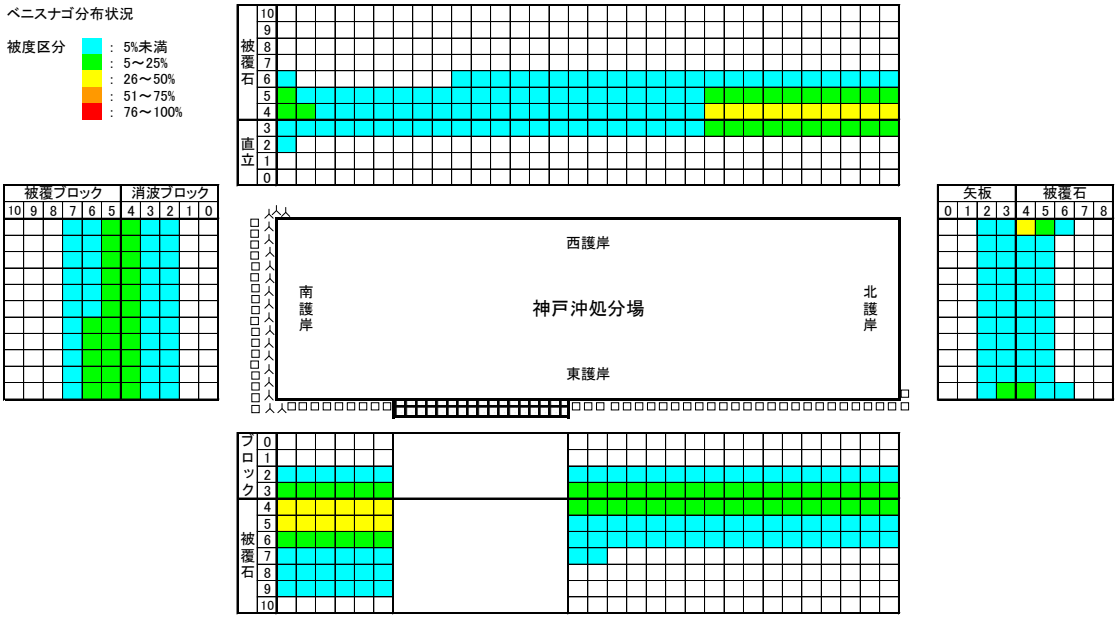


図 3-24（2）分布状況の推移　（フダラク）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

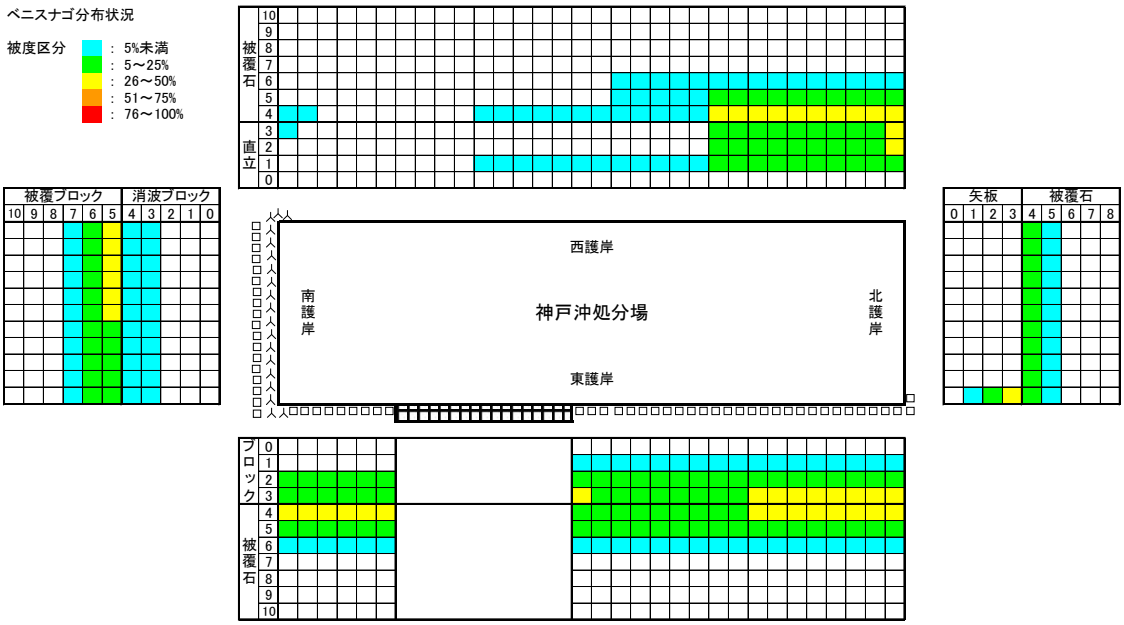


図 3-25（1）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査

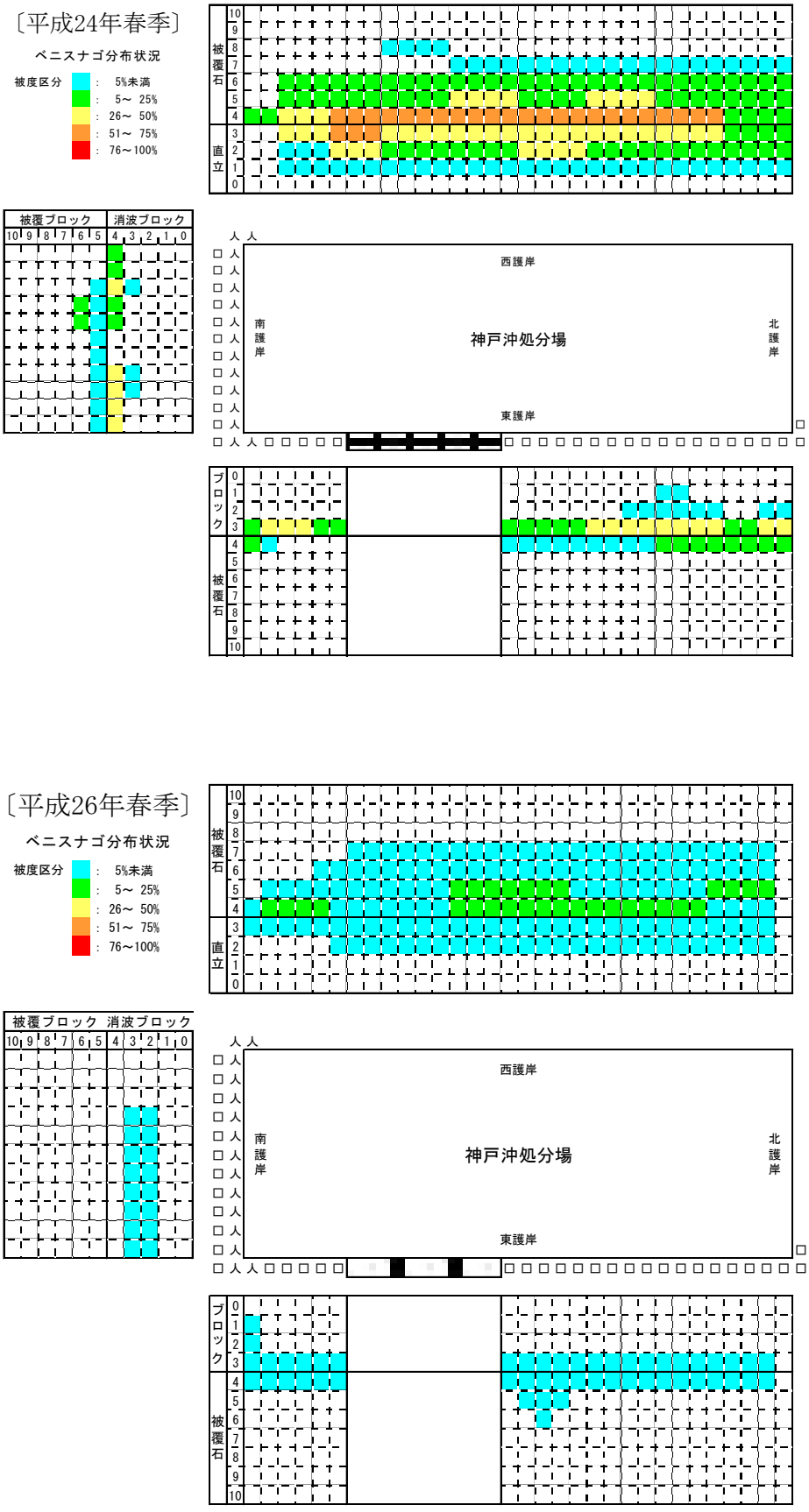
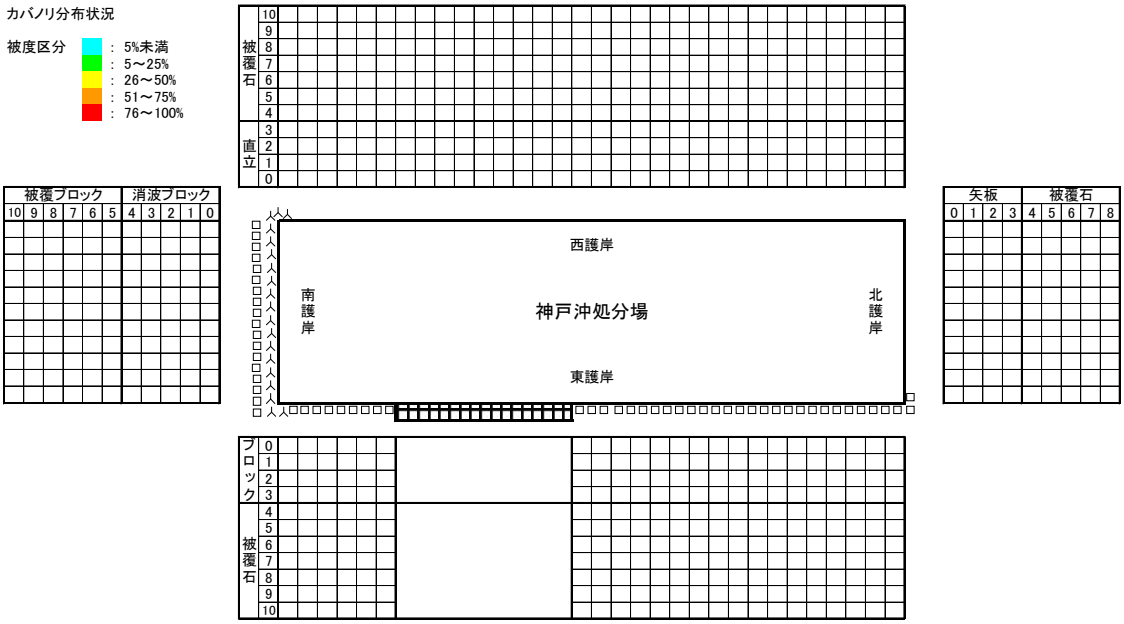


図 3-25（2）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

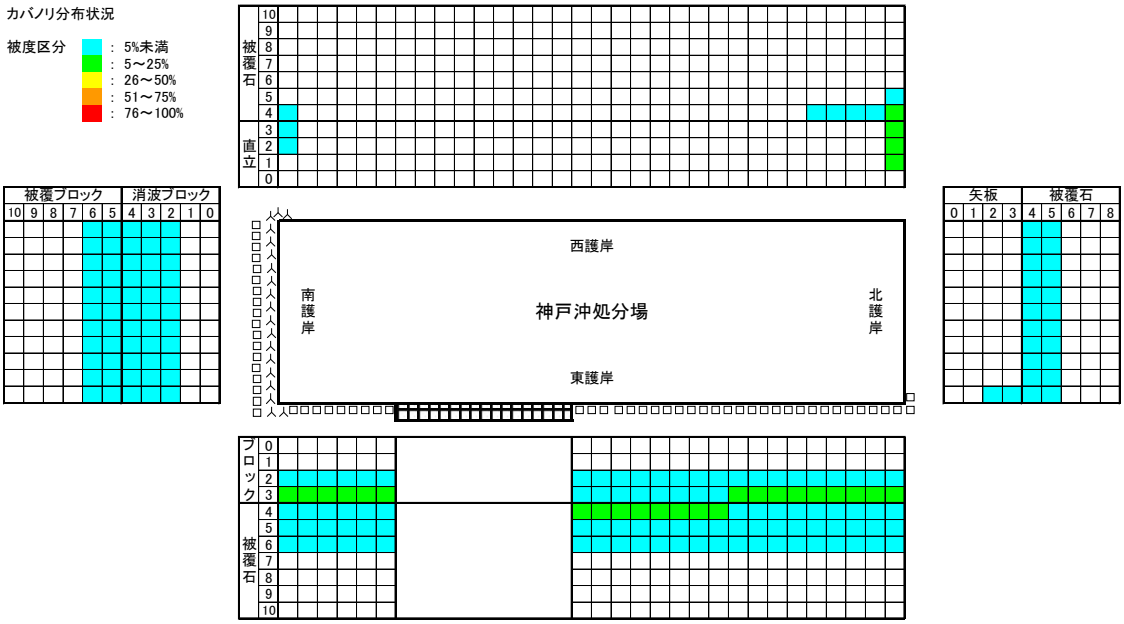
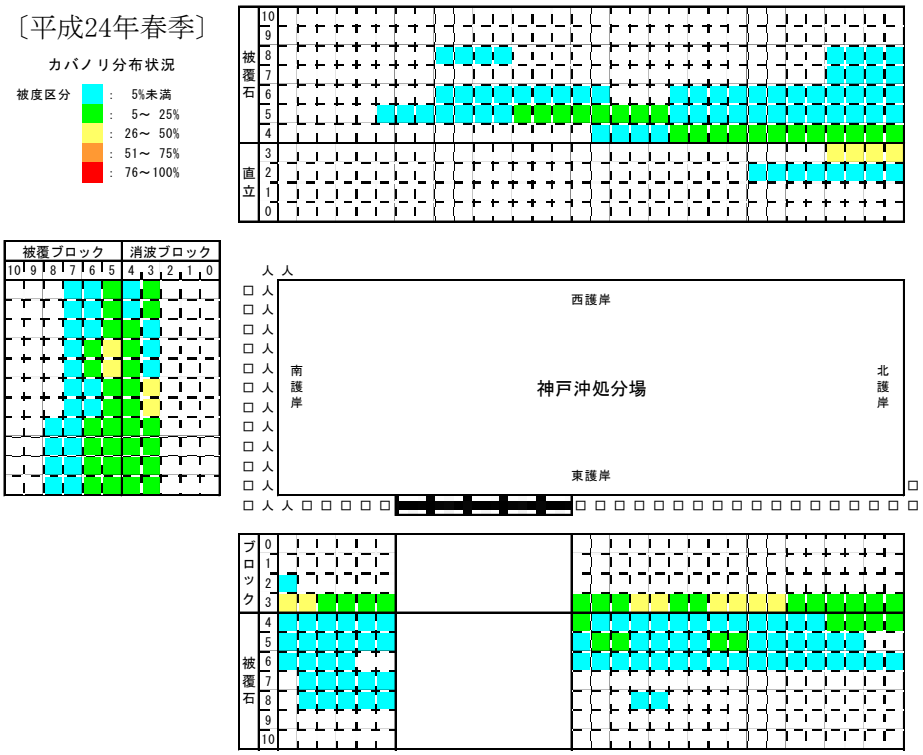


図 3-26（1）分布状況の推移　（カバノリ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



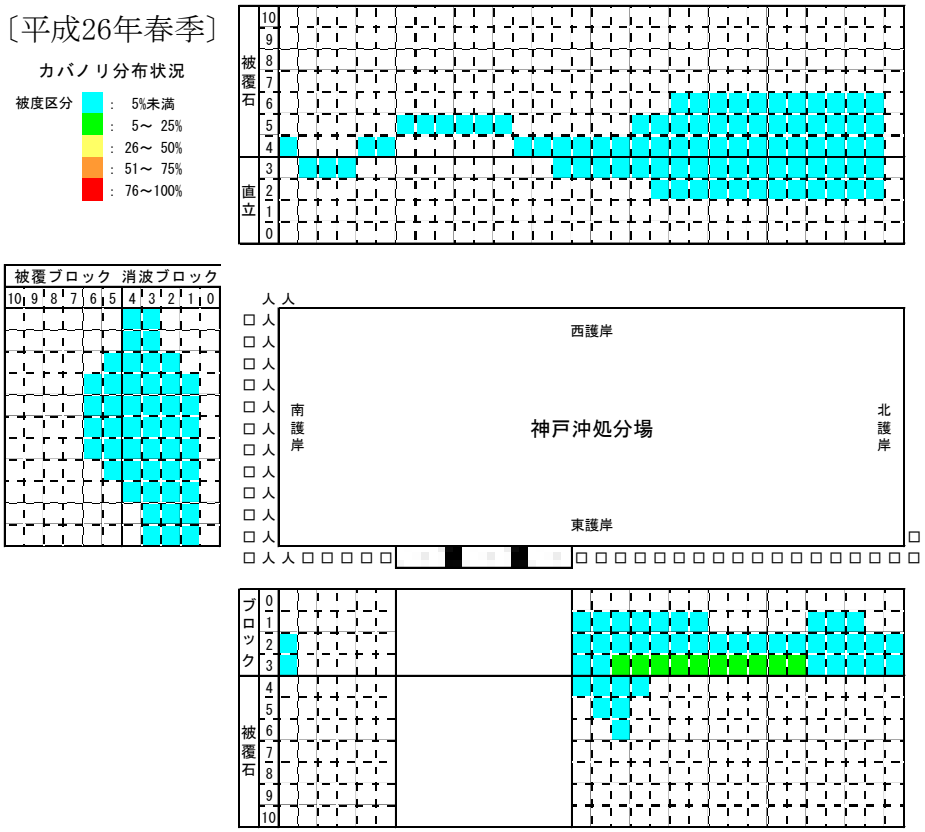
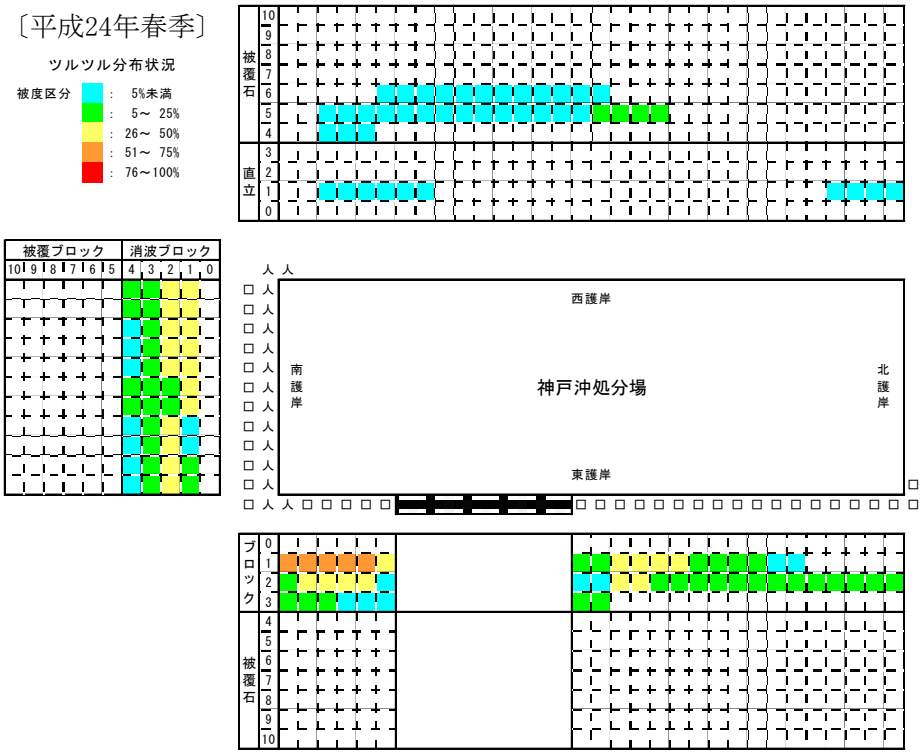
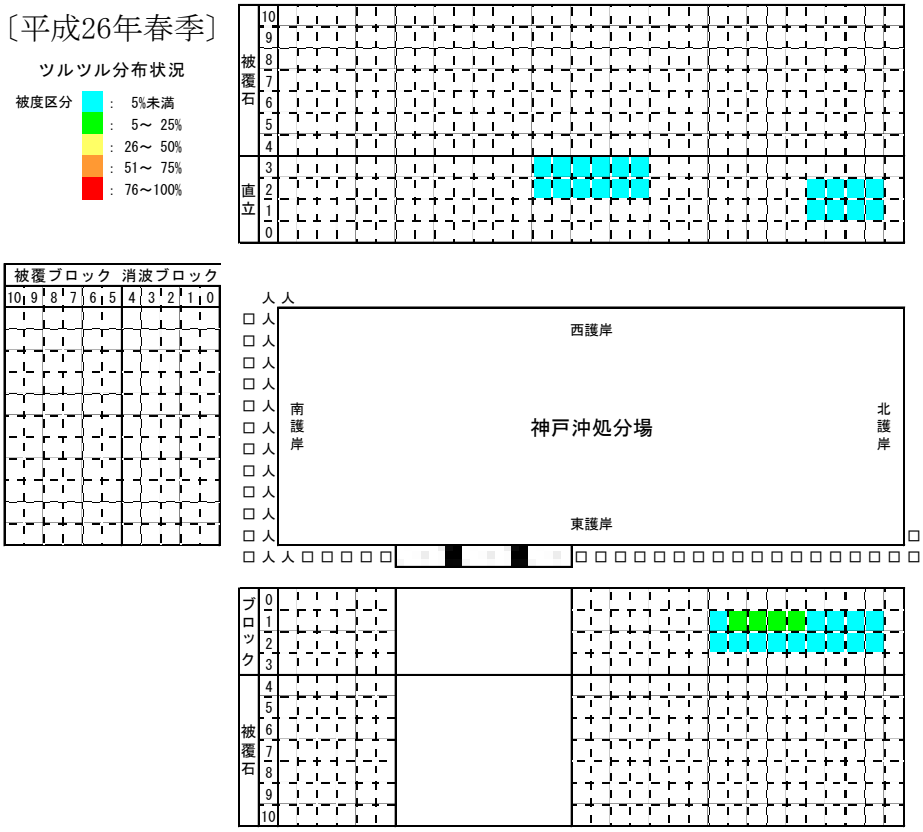


図 3-26（2）分布状況の推移　（カバノリ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査





※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-27　分布状況の推移　（ツルツル）　神戸沖　平成 24～26 年度調査

(2) 大阪沖処分場

大阪沖処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-28～40 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 24 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、アカモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキの 6 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、アカモク、ヨレモクモドキの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-28）

ワカメは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度は北護岸と西護岸の各 1 箇所で、平成 24 年度は各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認された。今回の調査では、各護岸の±0～-6m 付近で分布が確認され、平成 24 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。

② カジメ（図 3-29）

カジメは、平成 21 年度は分布が確認されなかったが、平成 22 年度は南護岸に 1 箇所、平成 24 年度は南護岸、西護岸の各 2 箇所で分布が確認された。今回の調査では分布が確認されなかった。

③ シダモク（図 3-30）

シダモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-1～-6m 付近で広く分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲が減少傾向にあった。今回の調査では、-2～-6m 付近で広く分布が確認され、平成 24 年度と比較して北護岸、西護岸で分布範囲の増加がみられた。

④ アカモク（図 3-31）

アカモクは、平成 21 年度は北護岸と西護岸、平成 22、24 年度は南護岸と西護岸の-2～-5m 付近に分布が確認されたが、今回の調査では分布が確認されなかった。

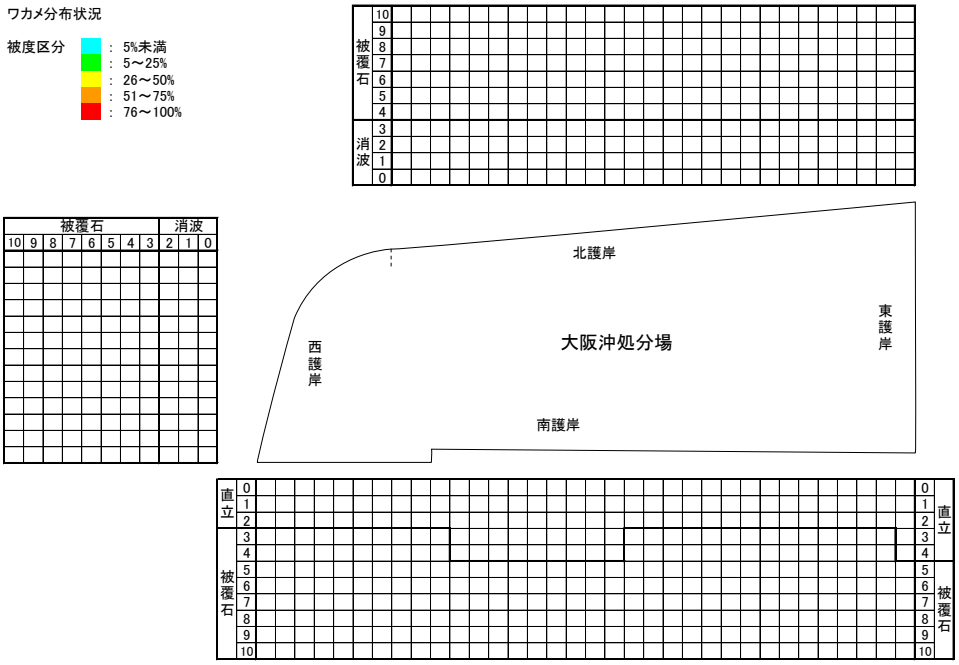
⑤ タマハハキモク（図 3-32）

タマハハキモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-1～－5m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲は減少傾向にあった。今回の調査では、平成 24 年度と比較して北護岸、西護岸で分布範囲、北護岸では被度の増加がみられた。

⑥ ヨレモクモドキ（図 3-33）

ヨレモクモドキは平成 22 年度に南護岸で 1 箇所の分布が確認されたが、今回の調査では平成 24 年度と同様に分布が確認されなかった。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

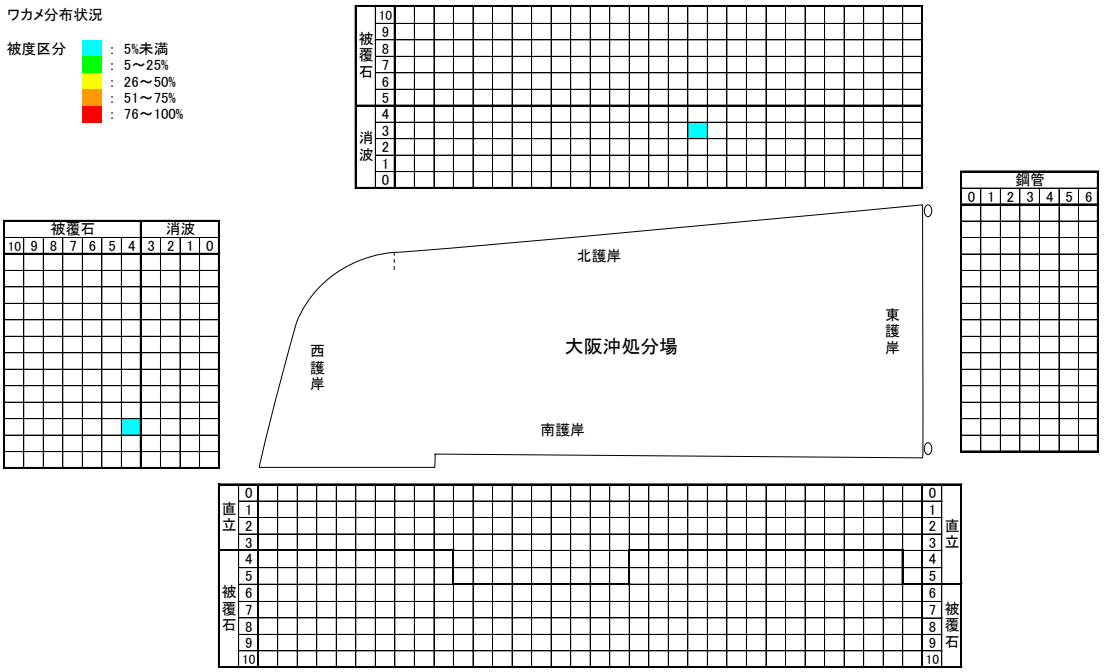
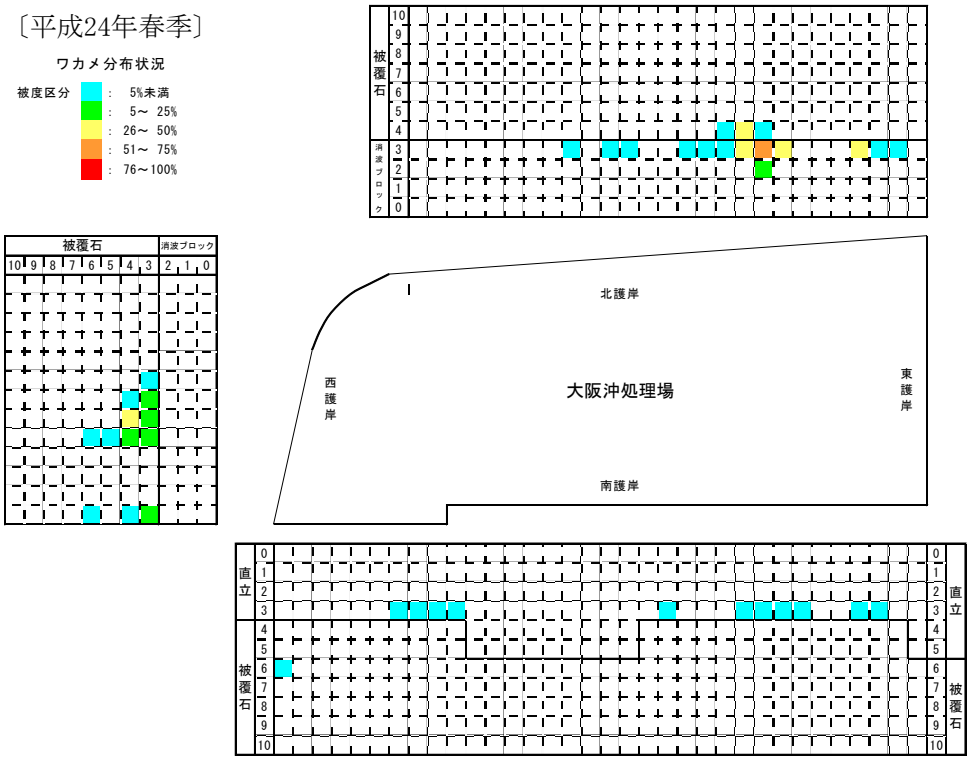


図 3-28（1）分布状況の推移　（ワカメ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕



〔平成26年春季〕

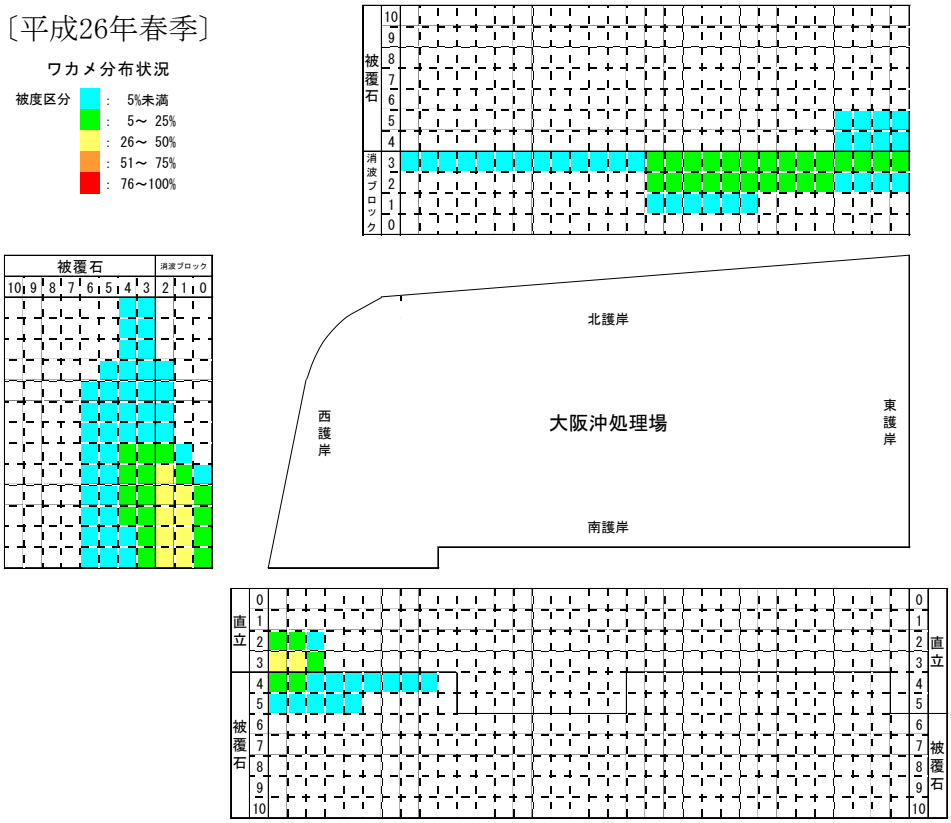
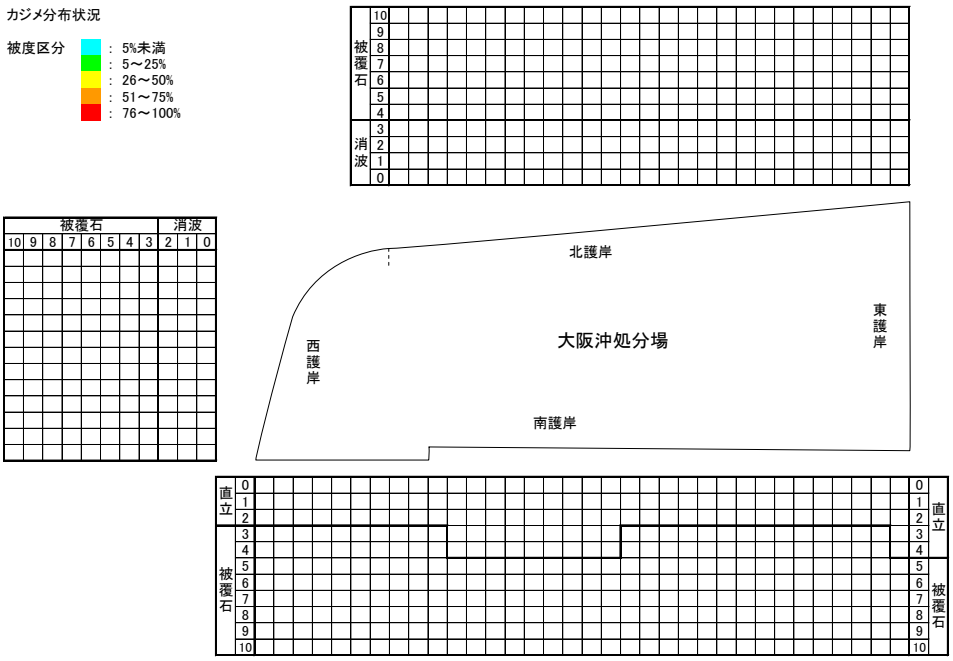


図 3-28（2）分布状況の推移　（ワカメ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

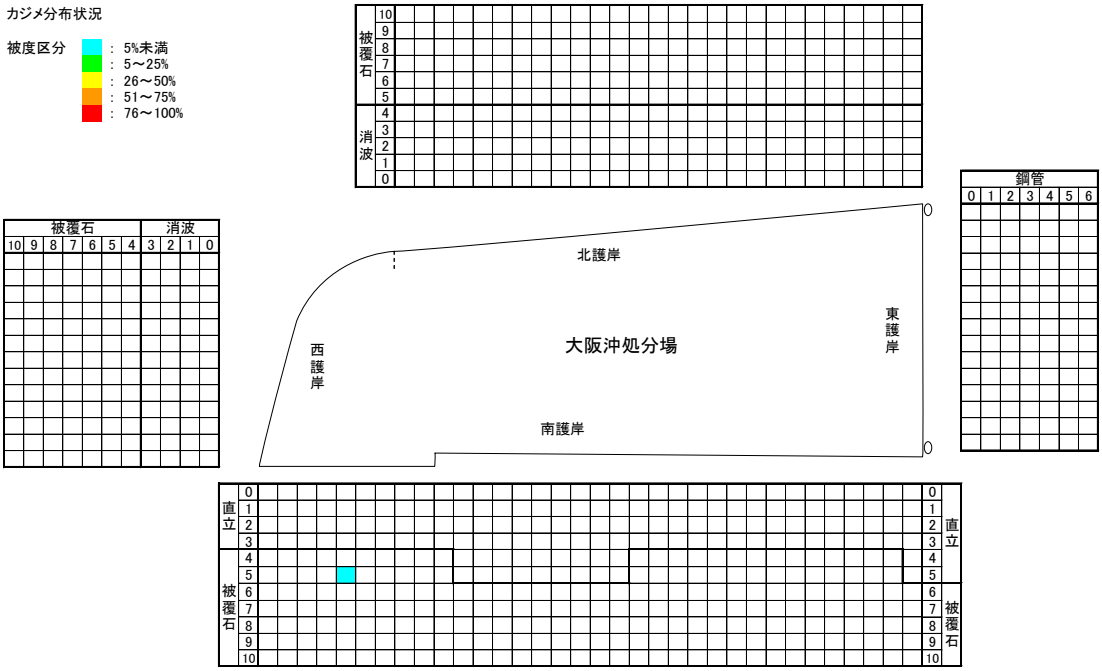
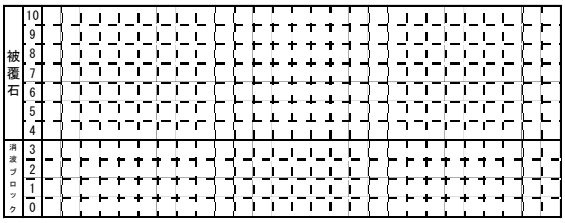


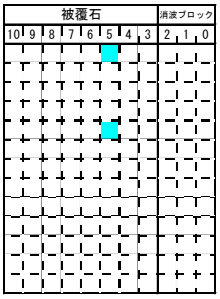
図 3-29（1）分布状況の推移　（カジメ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

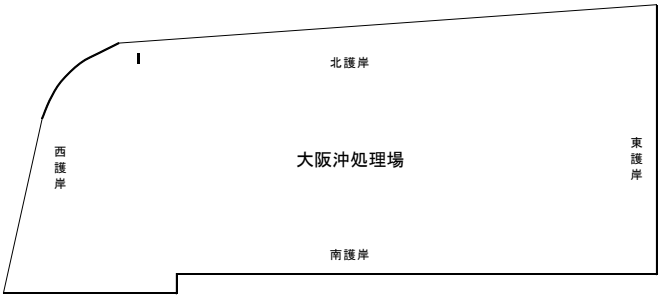
〔平成24年春季〕

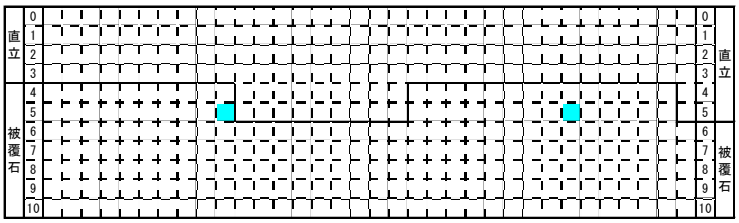
カジメ分布状況

被度区分
: 5%未満
: 5～ 25%
: 26～ 50%
: 51～ 75%
: 76～100%





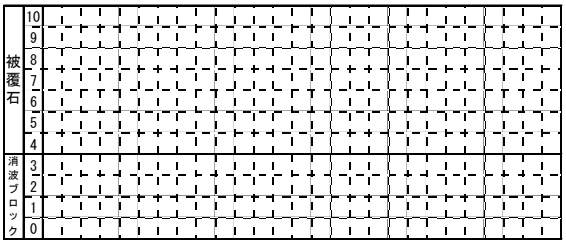


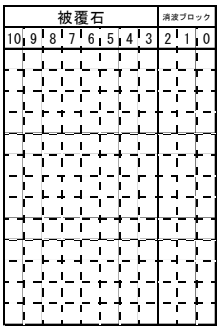


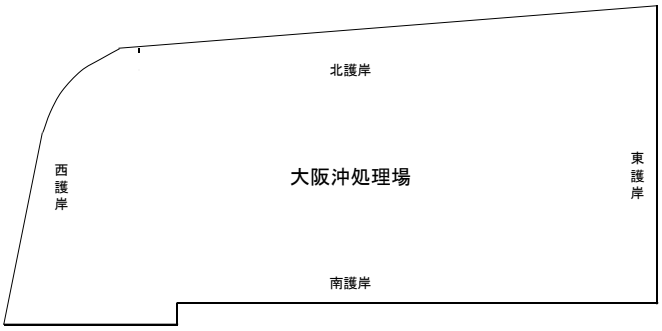
〔平成26年春季〕

カジメ分布状況

被度区分
: 5%未満
: 5～ 25%
: 26～ 50%
: 51～ 75%
: 76～100%







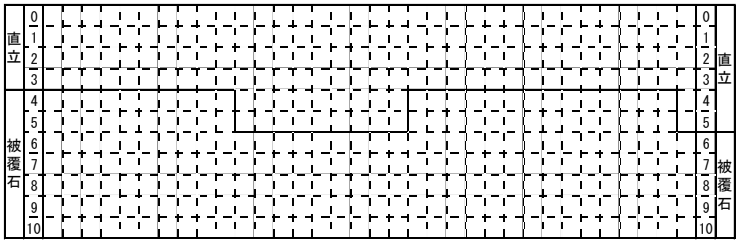
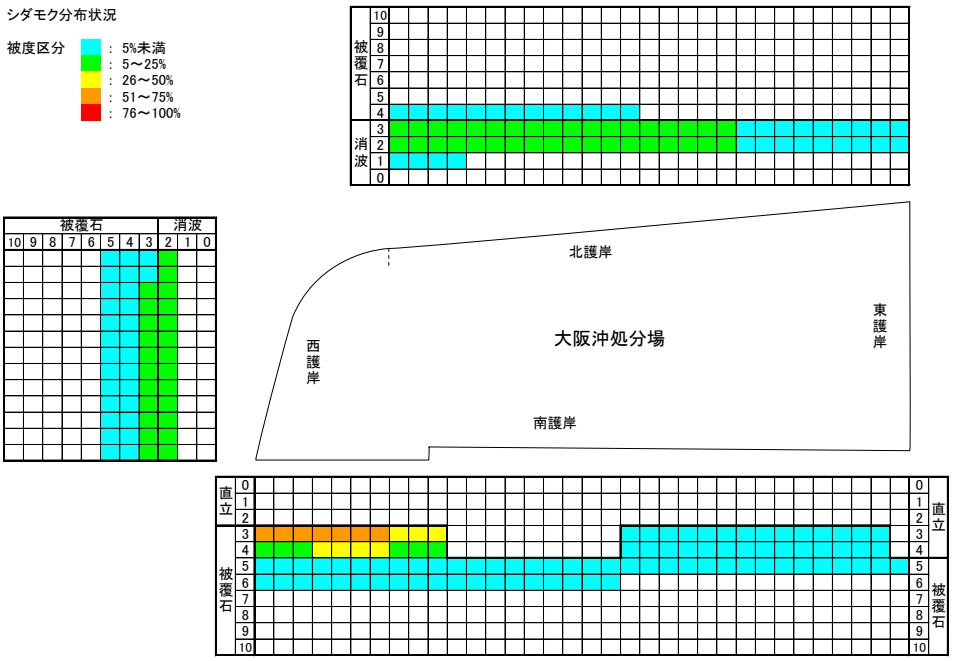


図 3-29（2）分布状況の推移　（カジメ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

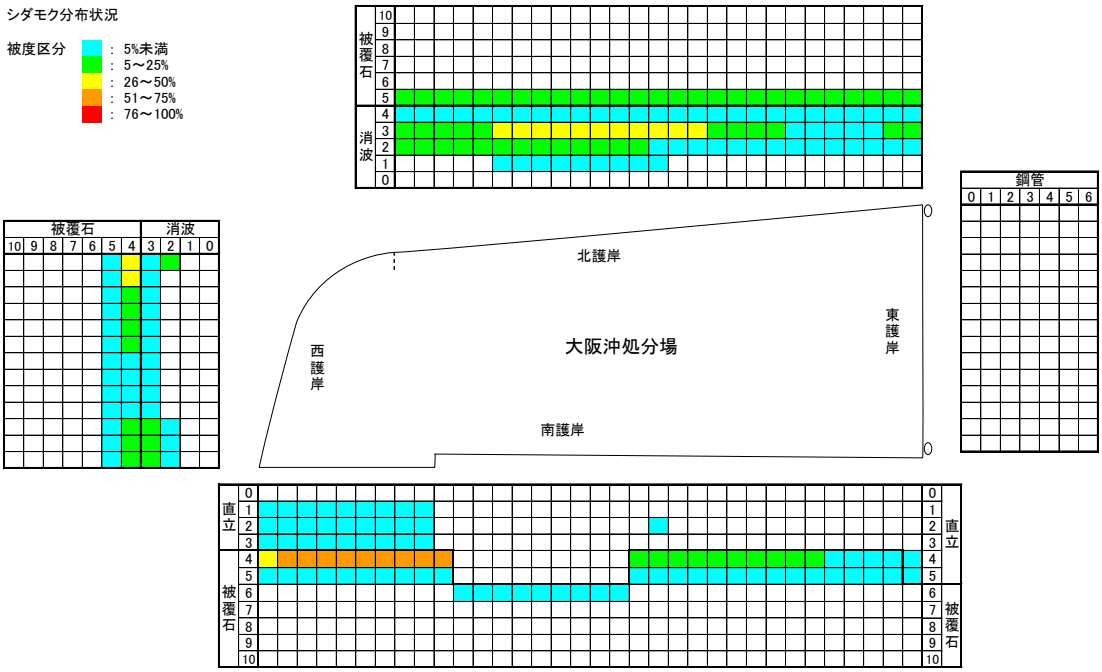
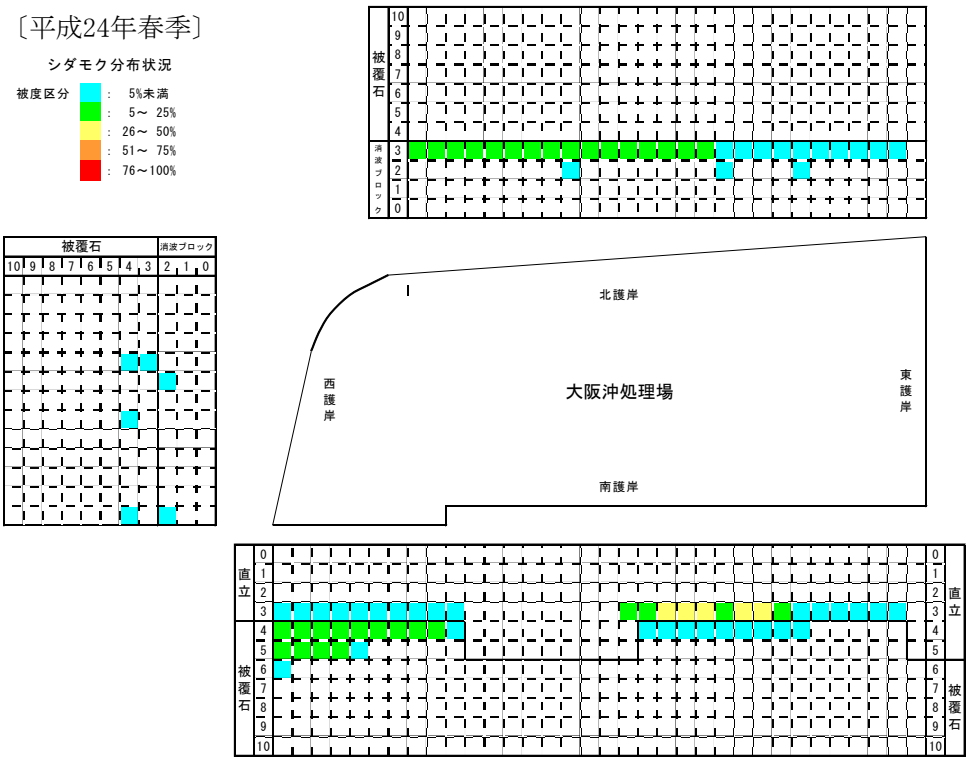


図 3-30（1）分布状況の推移　（シダモク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



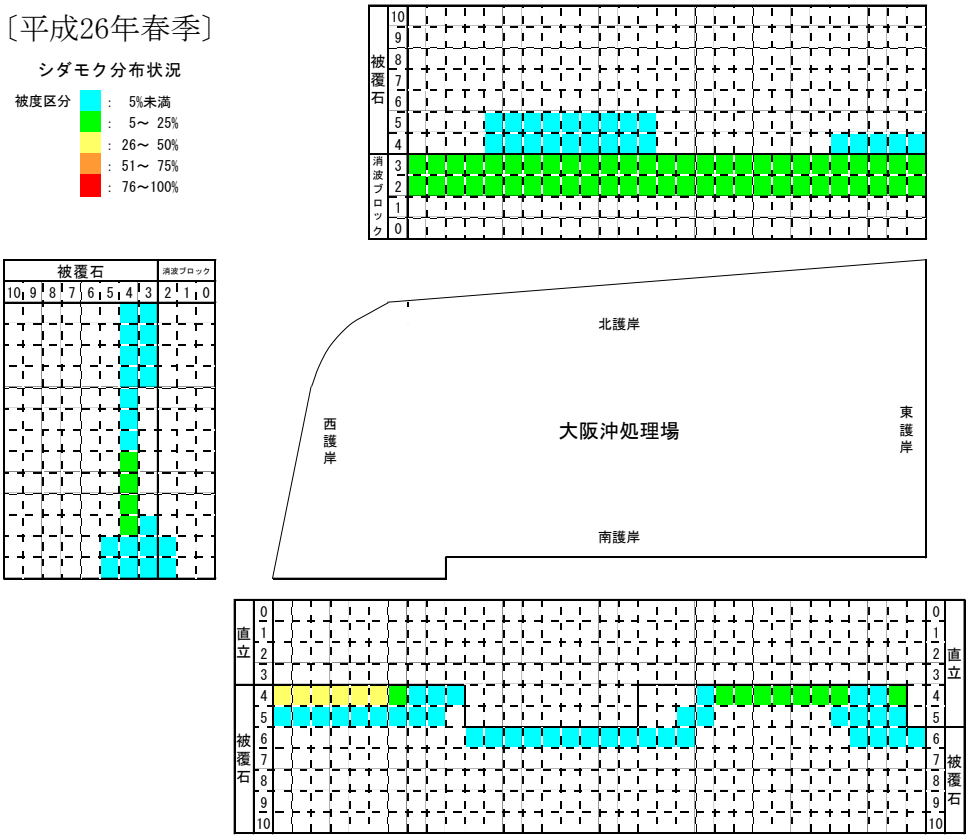
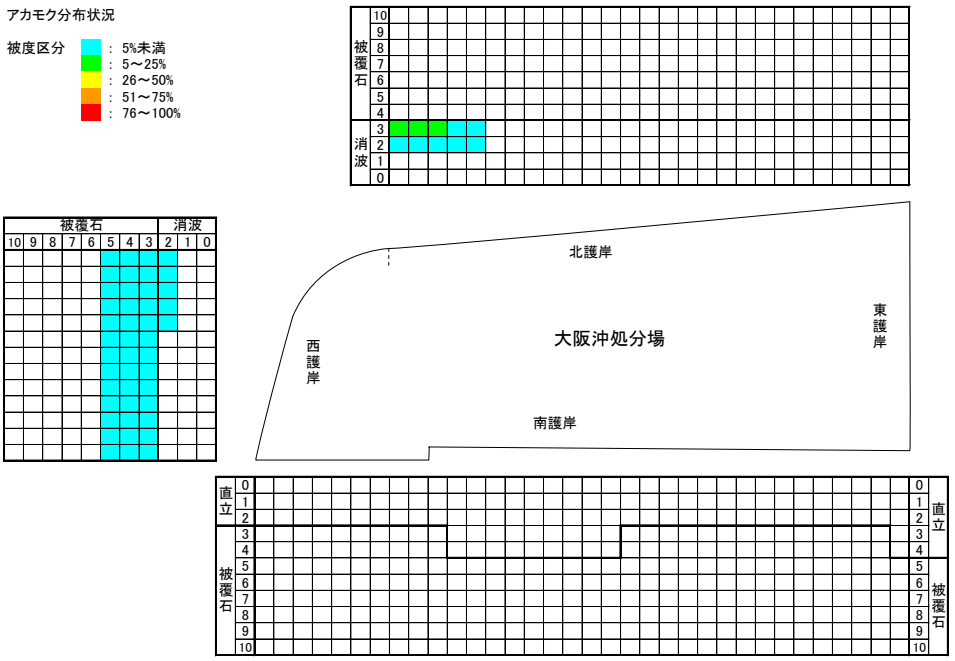


図 3-30（2）分布状況の推移　（シダモク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

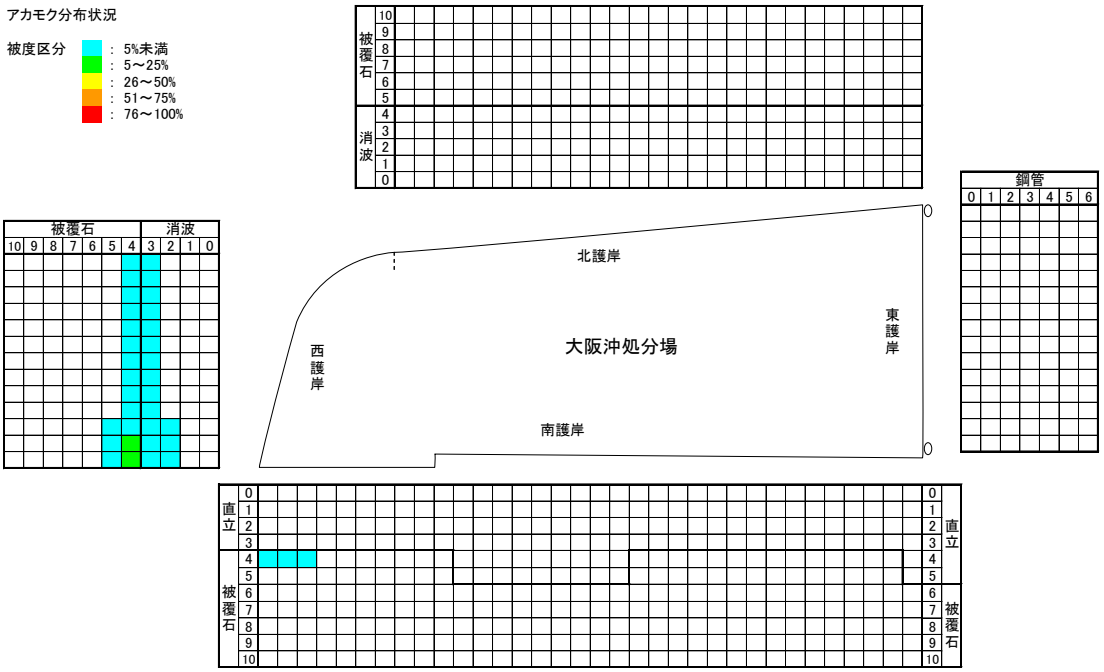
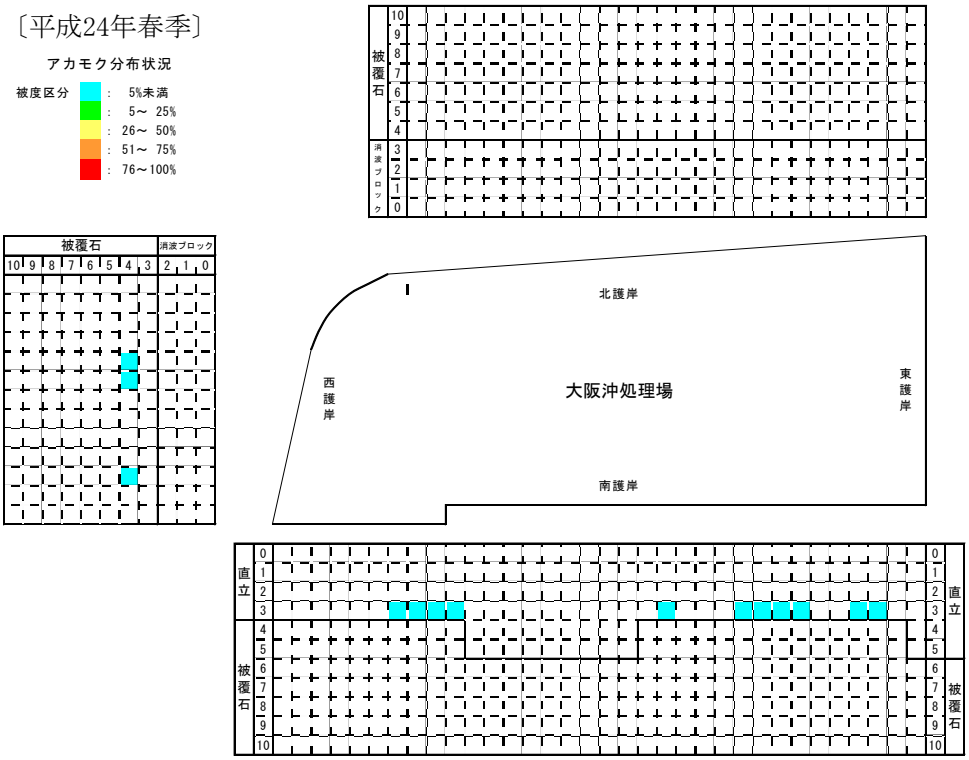


図 3-31（1）分布状況の推移　（アカモク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕



〔平成26年春季〕

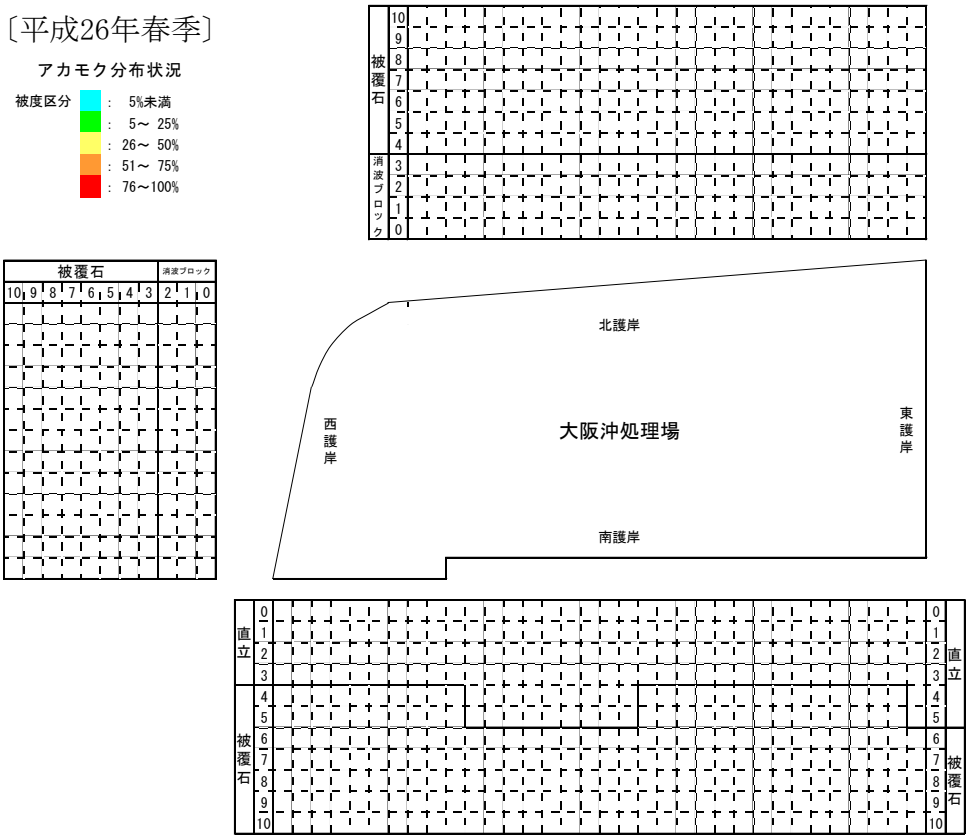
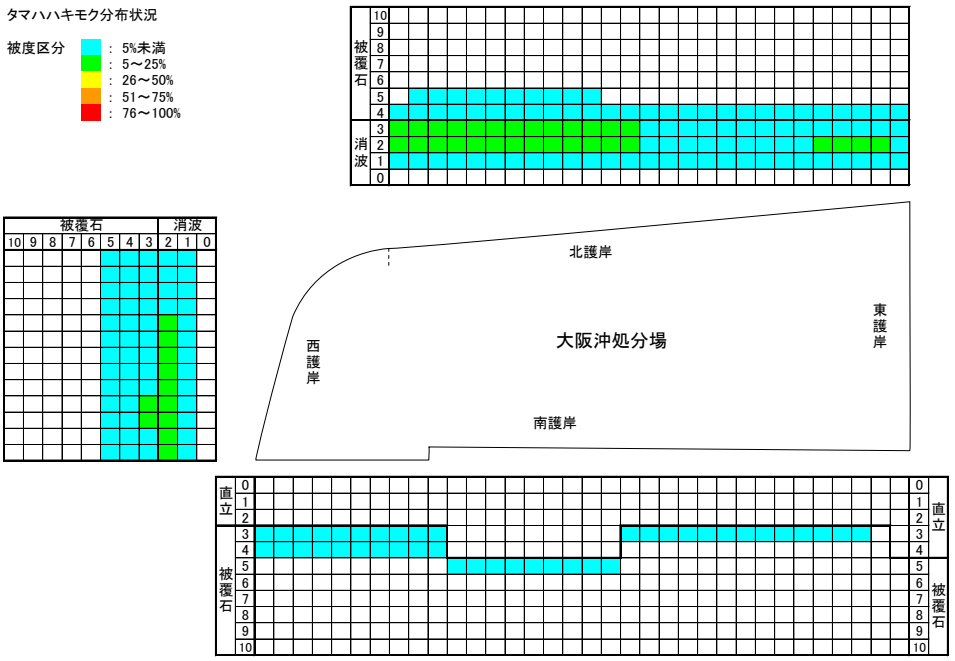


図 3-31（2）分布状況の推移　（アカモク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

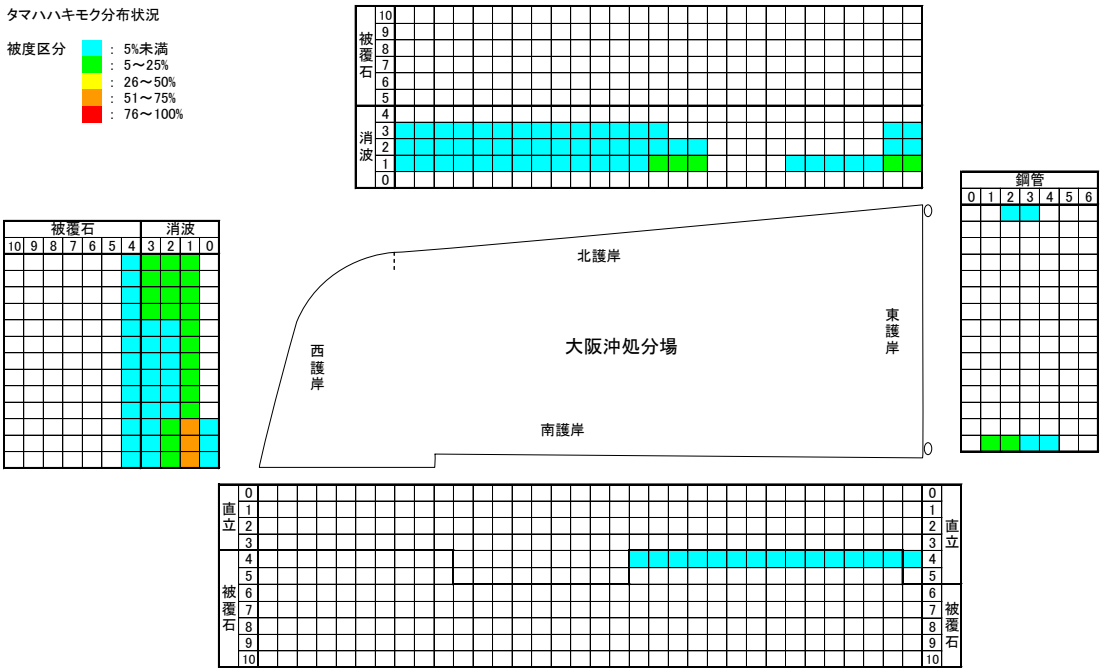
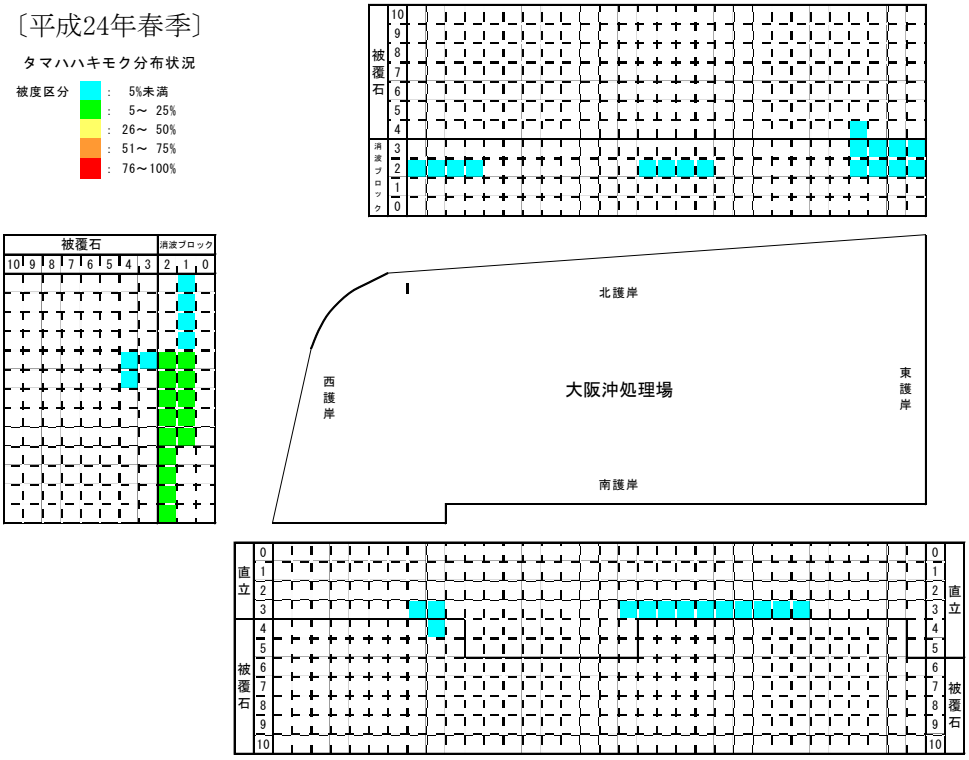


図 3-32（1）分布状況の推移　（タマハハキモク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



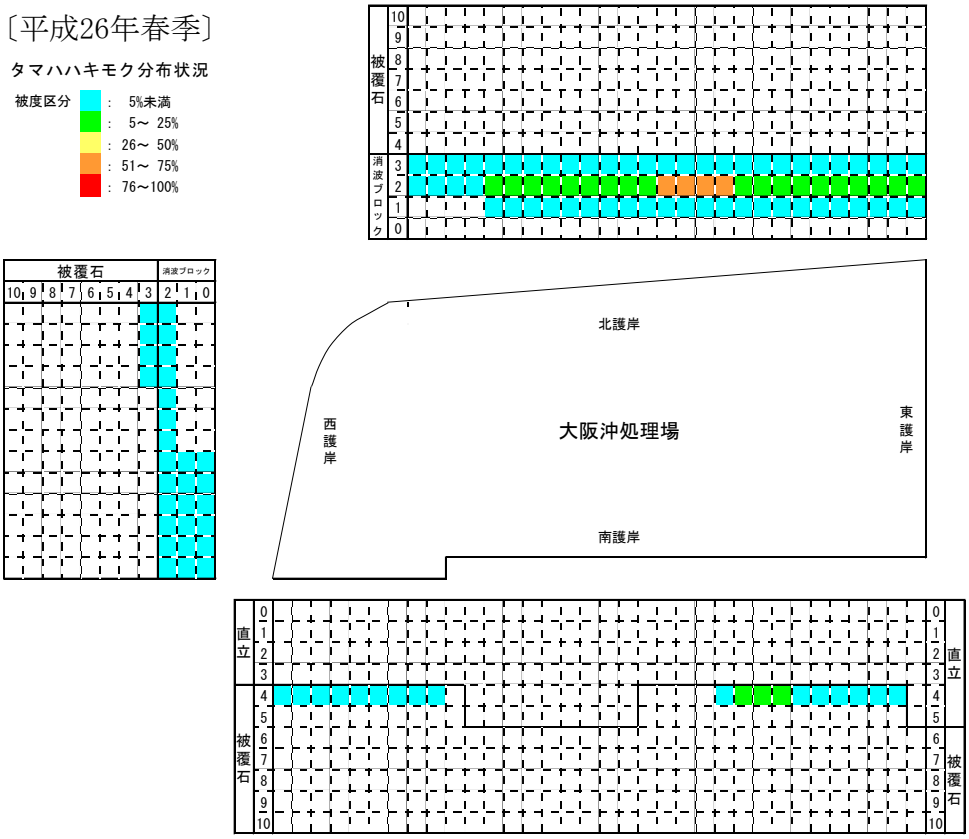
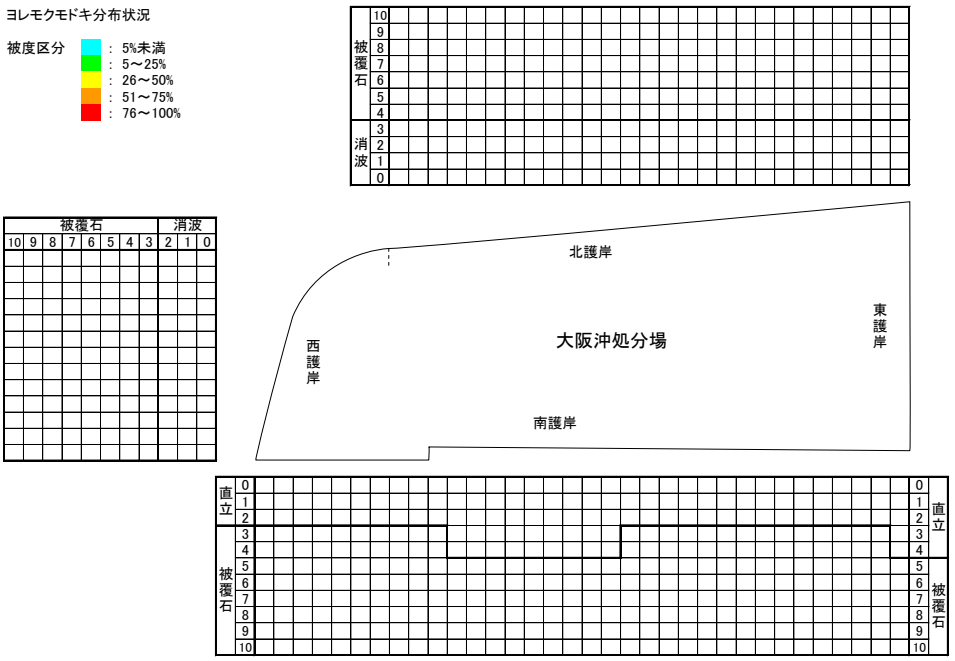


図 3-32（2）分布状況の推移　（タマハハキモク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

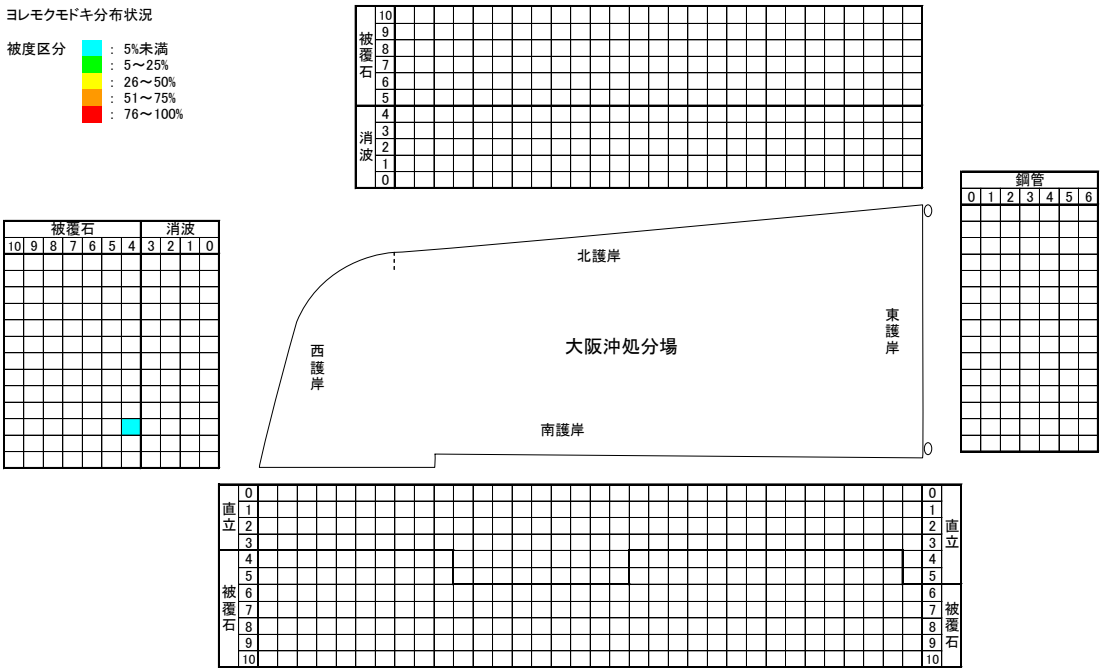
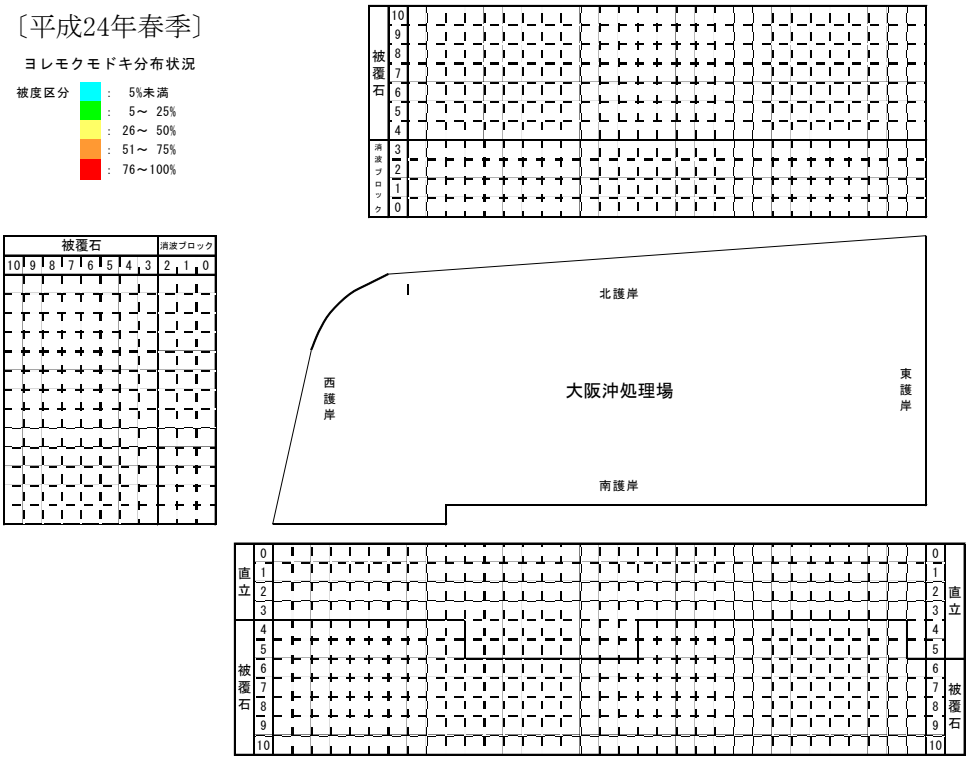


図 3-33（1）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕

ヨレモクモドキ分布状況

被度区分
: 5%未満
: 5～ 25%
: 26～ 50%
: 51～ 75%
: 76～100%



〔平成26年春季〕

ヨレモクモドキ分布状況

被度区分
: 5%未満
: 5～ 25%
: 26～ 50%
: 51～ 75%
: 76～100%

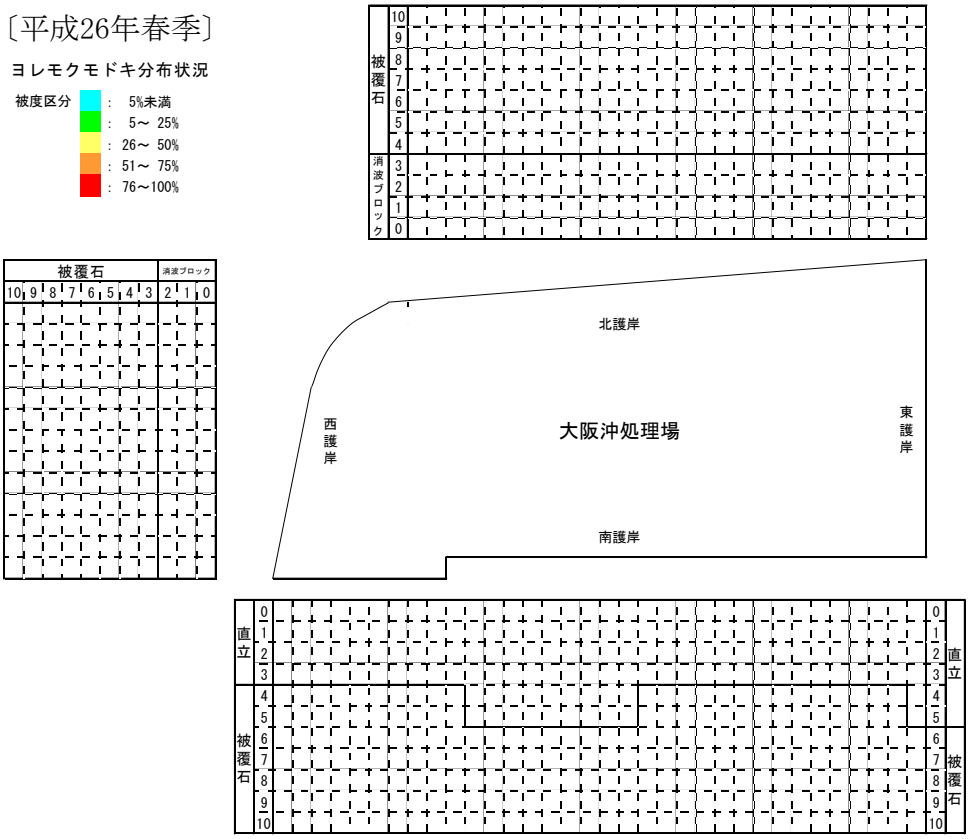


図 3-33（2）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

【その他　主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 24 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ、マクサ、ツルツルの 7 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、マクサの分布は確認されなかった。

①アオサ属（図 3-34）

アオサ属は、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-7m の範囲で広く分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて各護岸の分布範囲は減少傾向にあった。今回の調査では、各護岸の±0～-3m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して南護岸の分布範囲が減少傾向にあった。

② ススカケベニ（図 3-35）

ススカケベニは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-10m 付近で広く分布が確認されたが、平成 24 年度は北護岸で分布範囲の減少がみられた。今回の調査では、各護岸の-2～-10m で広く分布が確認され、北護岸では平成 24 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。

③ フダラク（図 3-36）

フダラクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-9m 付近で広く分布が確認された。今回の調査では、各護岸の±0～-4m 付近で広く分布が確認された。

④ ベニスナゴ（図 3-37）

ベニスナゴは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度、平成 24 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度は平成 22 年度と比較して分布範囲と被度の増加がみられた。今回の調査では、各護岸の-1～-8m で広く分布が確認され、被度が高い箇所も多数みられた。

⑤ カバノリ（図-38）

カバノリは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度に北護岸、西護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度は分布が確認されなかった。今回の調査では、各護岸の-2～-6m 付近で広く分布が確認された。

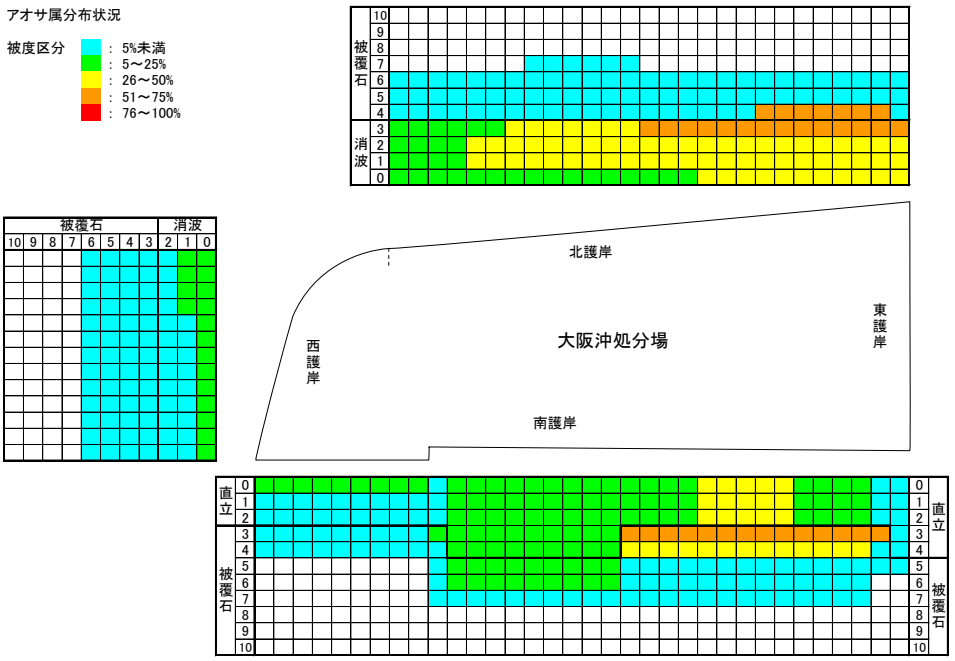
⑥ マクサ（図 3-39）

マクサは、平成 21～22 年度の調査では分布が確認されなかったが、平成 24 年度に北護岸と南護岸に各 1 箇所で分布が確認された。今回の調査では分布が確認されなかった。

⑦ ツルツル（図 3-40）

ツルツルは、平成 21～22 年度の調査で分布は確認されなかった。平成 24 年度は各護岸の-1～-5m で広く分布が確認された。今回の調査では、各護岸に分布が確認されたが、平成24年度と比較して南護岸、西護岸で分布範囲の減少がみられた。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

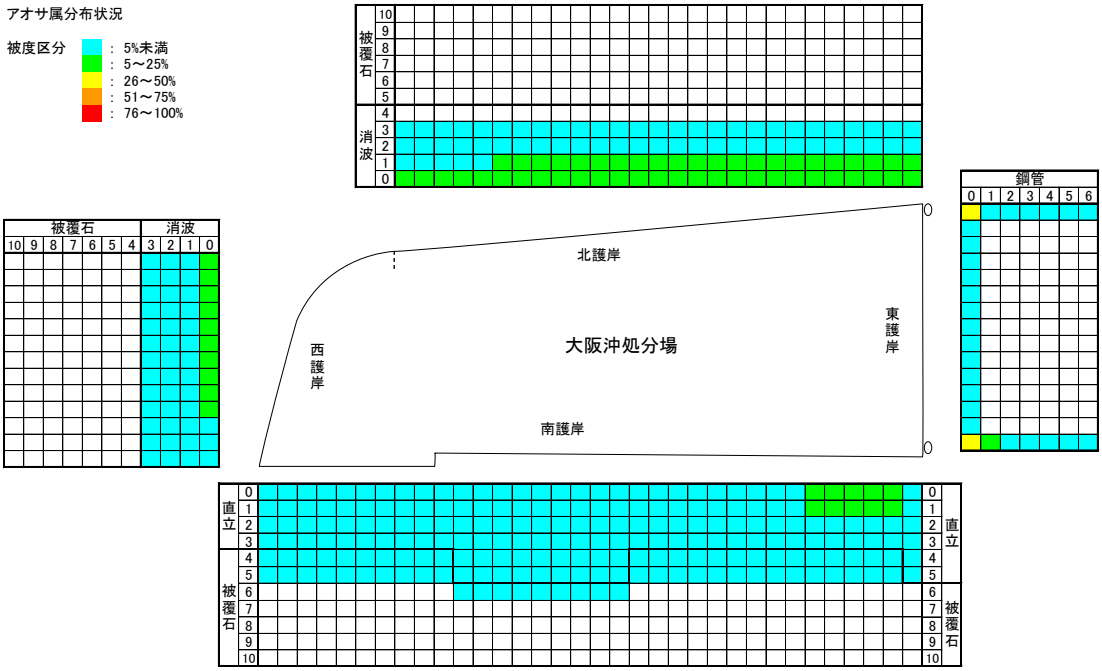
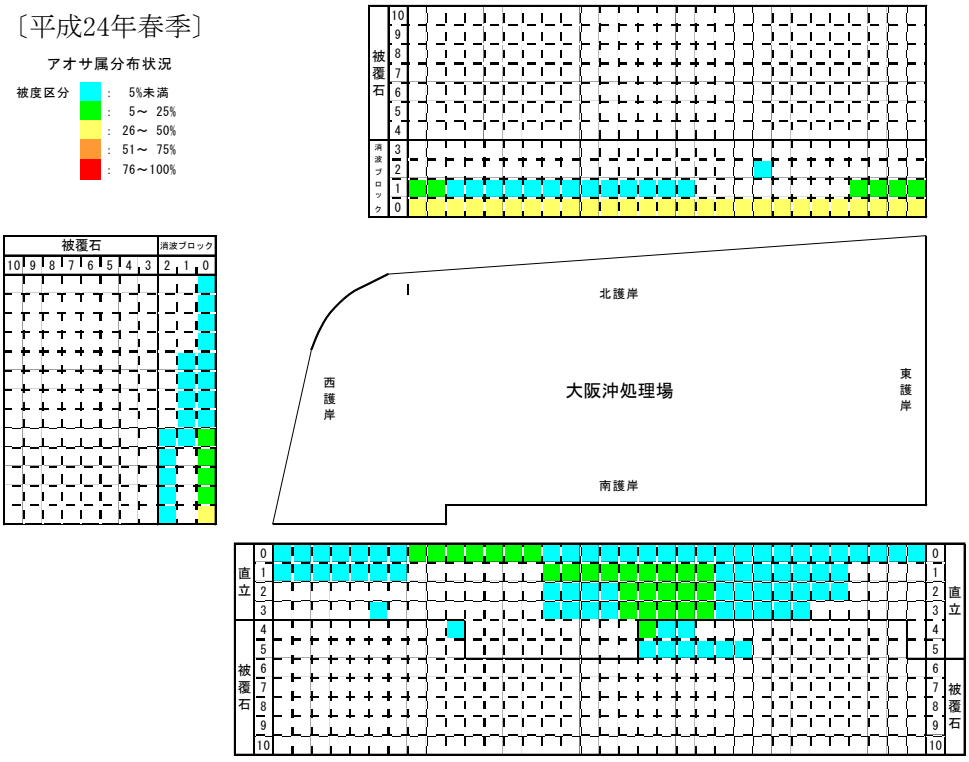


図 3-34（1）分布状況の推移　（アオサ属）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



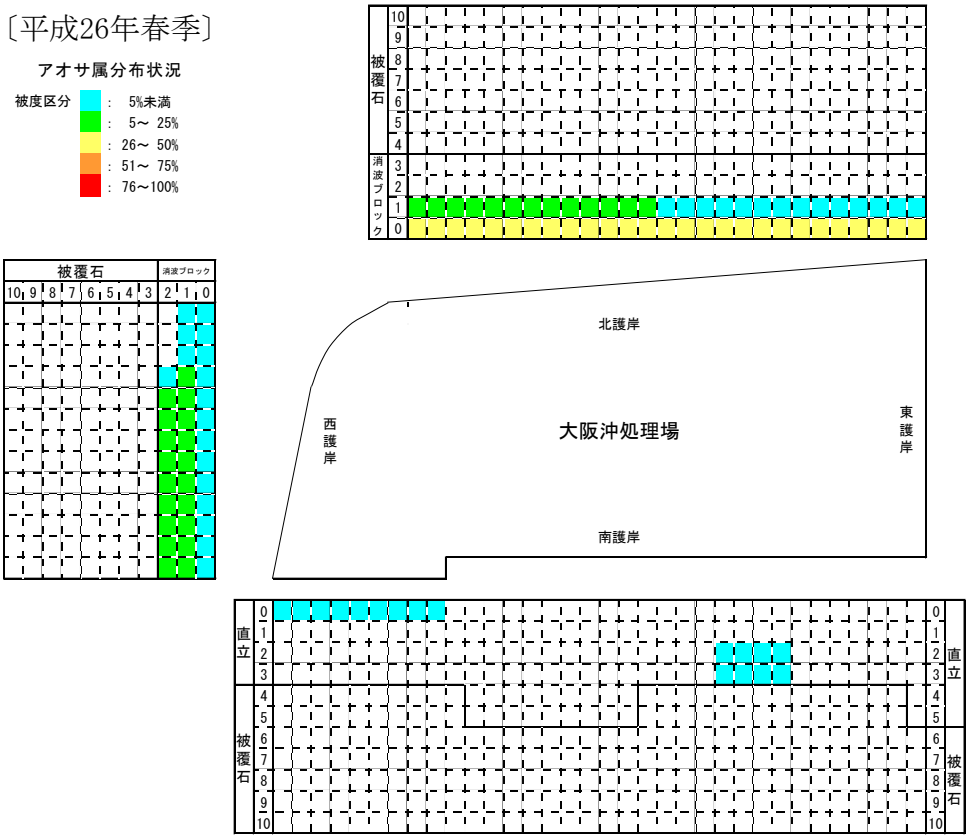
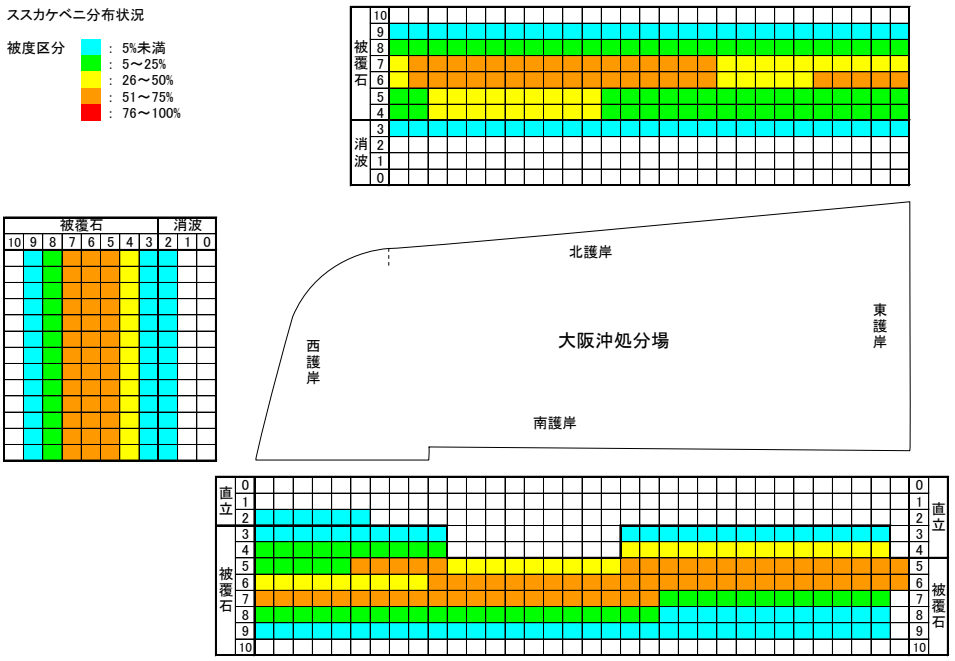


図 3-34（2）分布状況の推移　（アオサ属）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

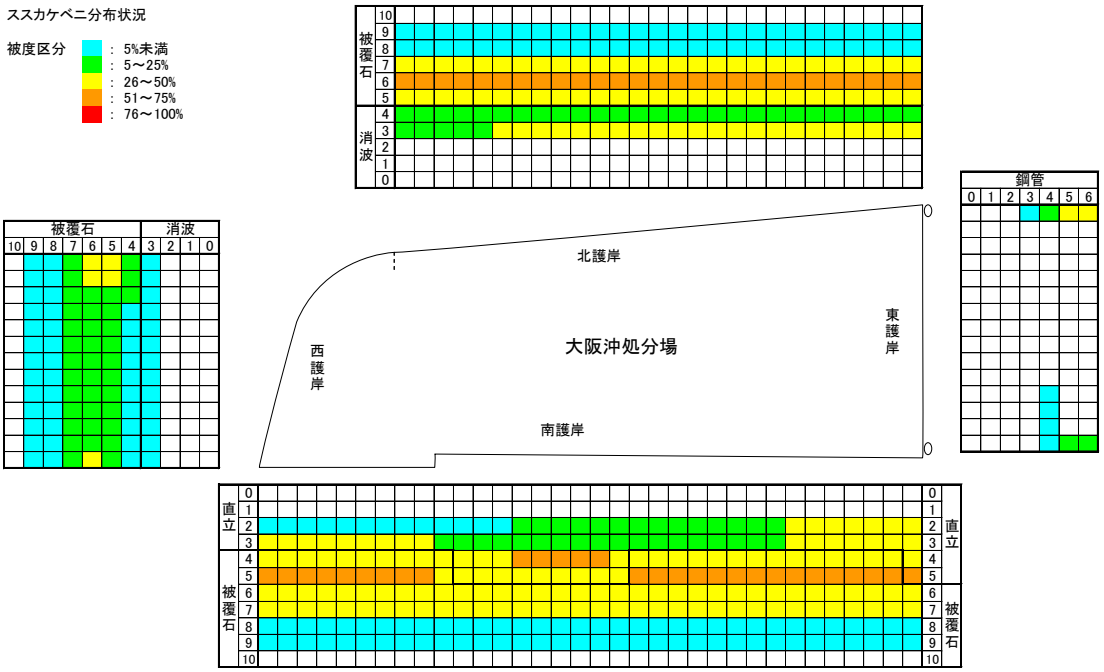
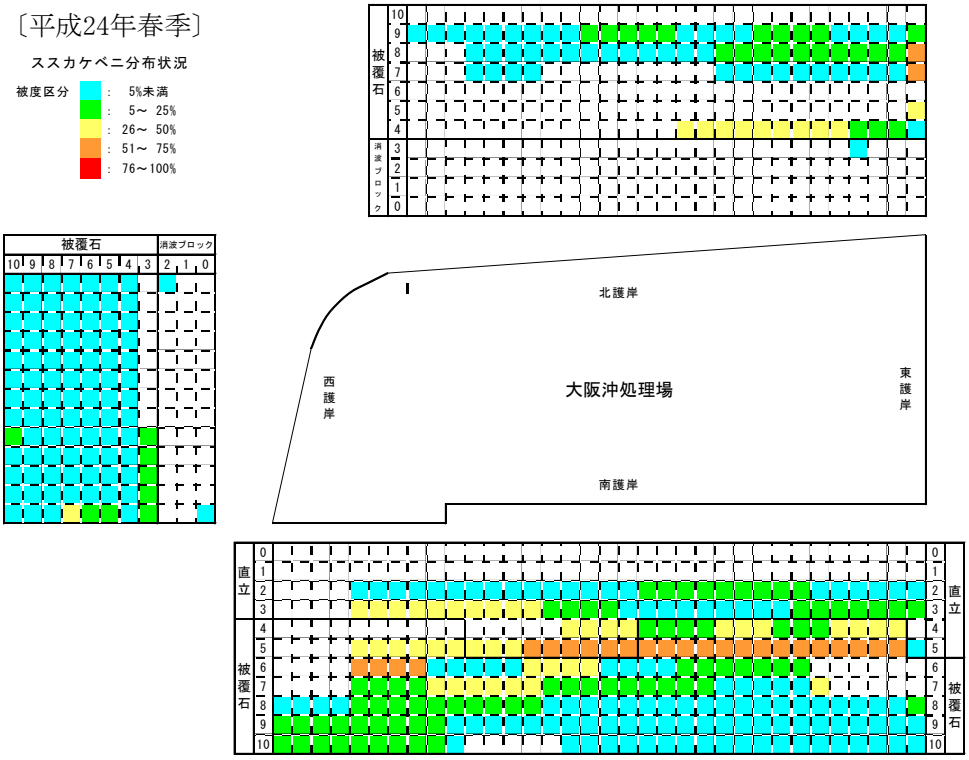


図 3-35（1）分布状況の推移　（ススカケベニ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



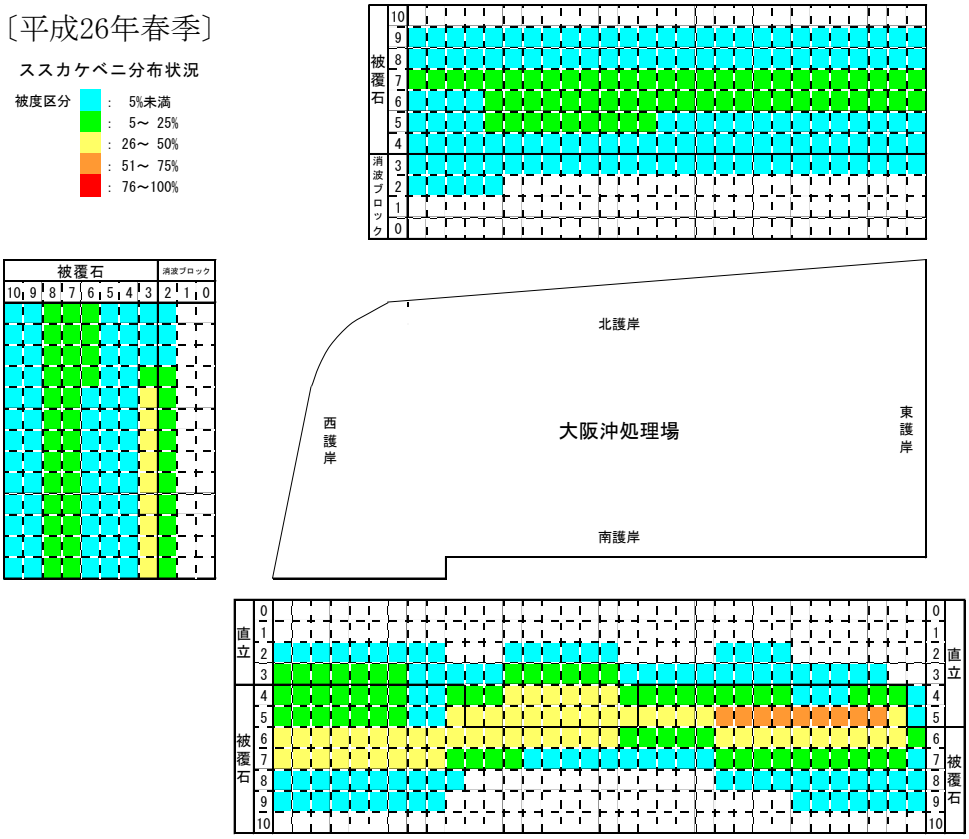
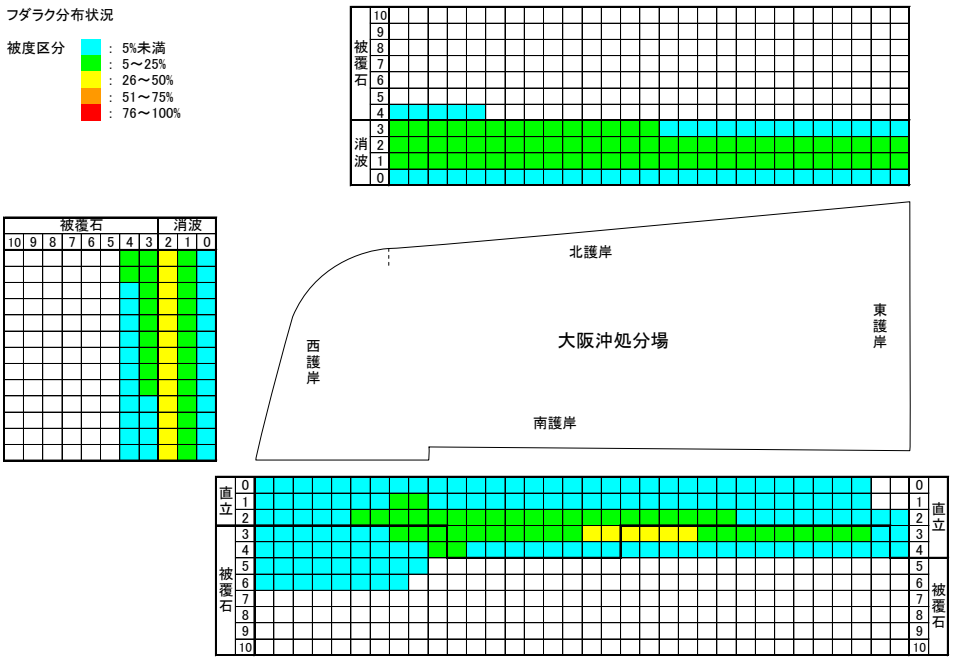


図 3-35（2）分布状況の推移　（ススカケベニ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

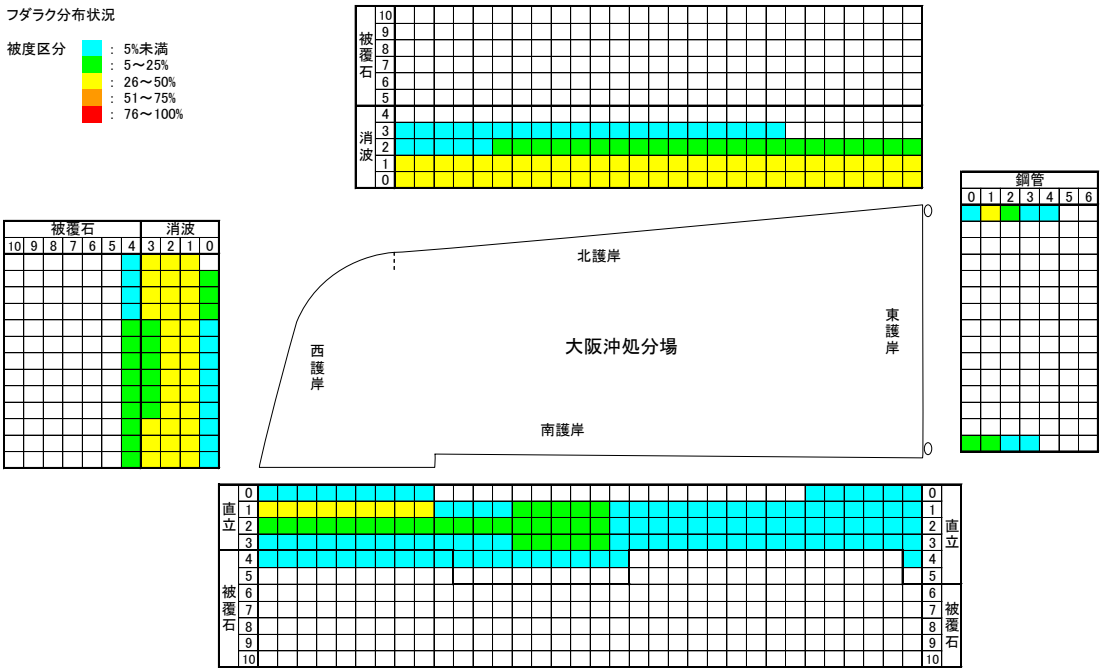
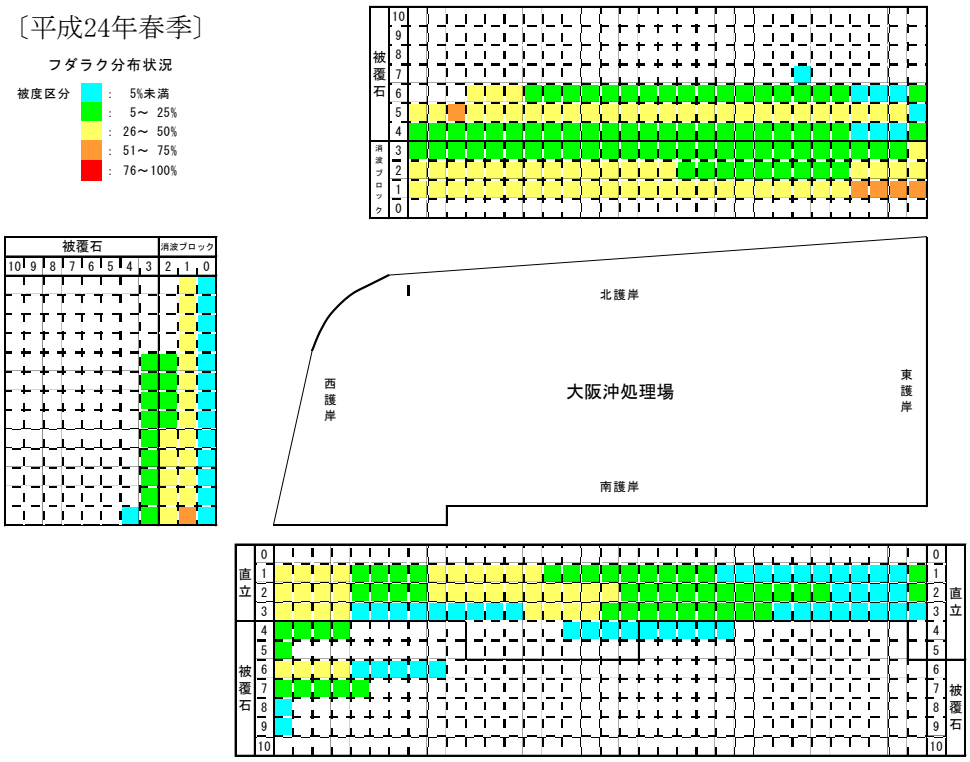


図 3-36（1）分布状況の推移　（フダラク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



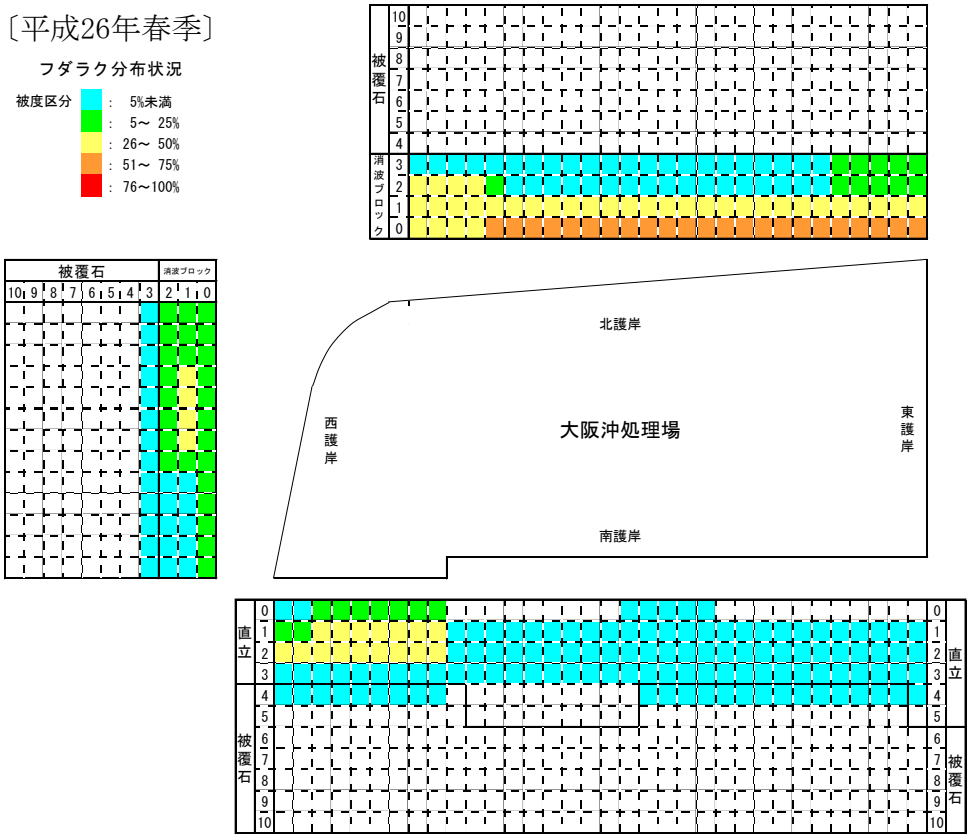
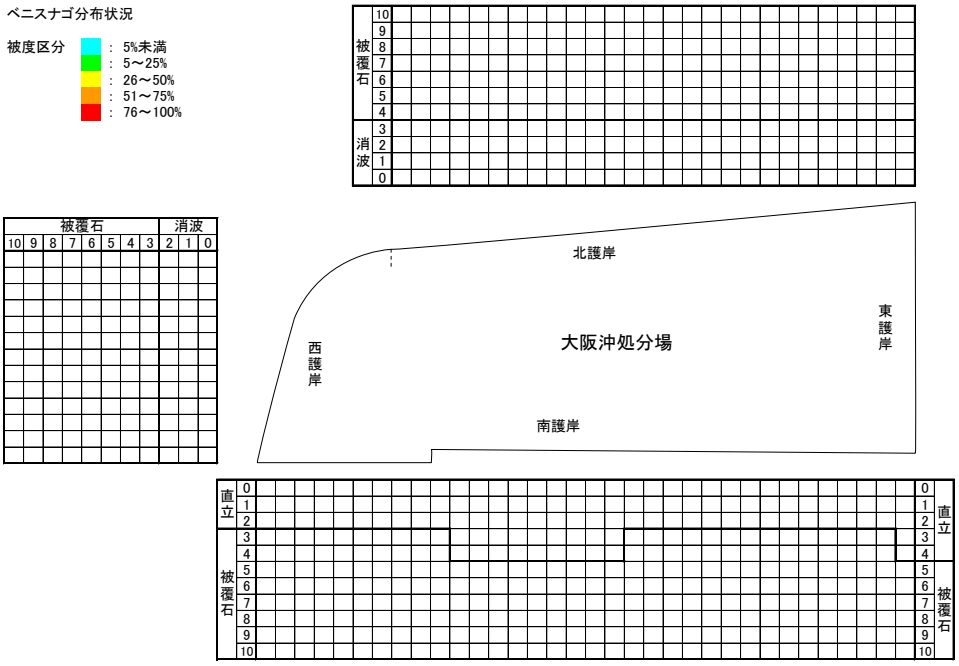


図 3-36（2）分布状況の推移　（フダラク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

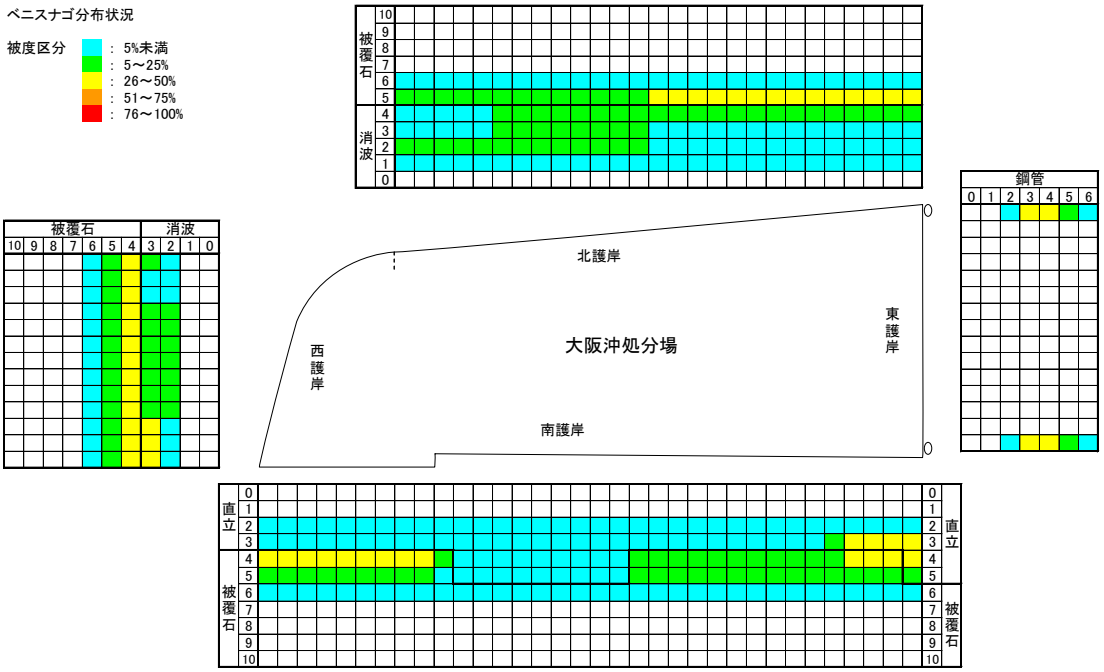
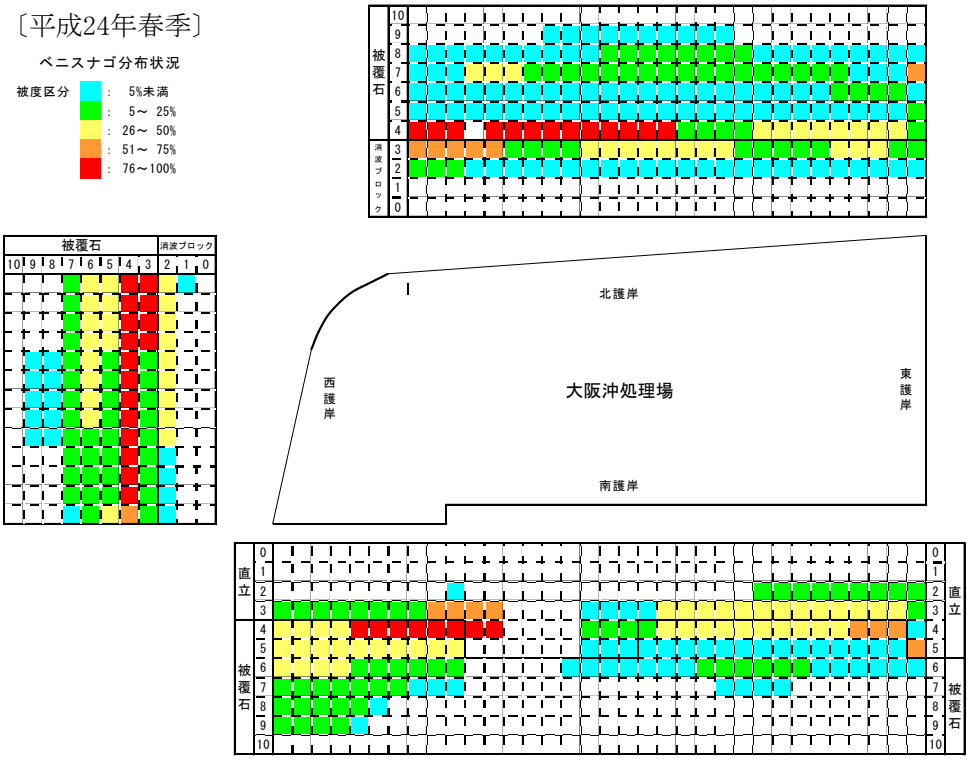


図 3-37（1）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



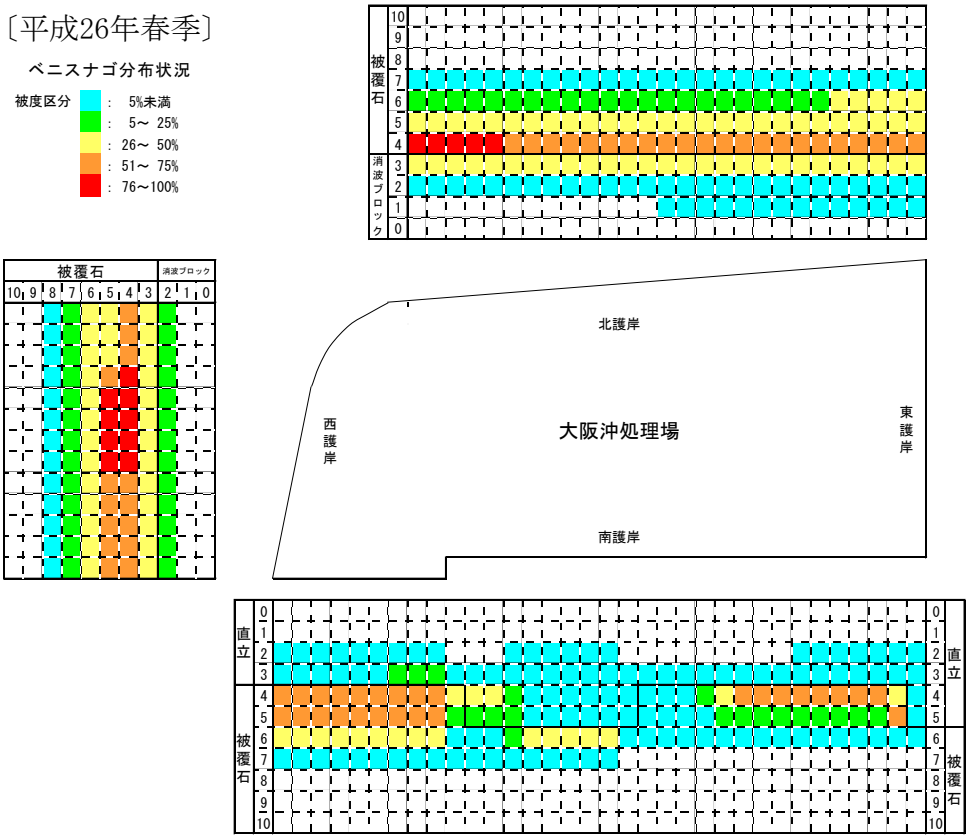
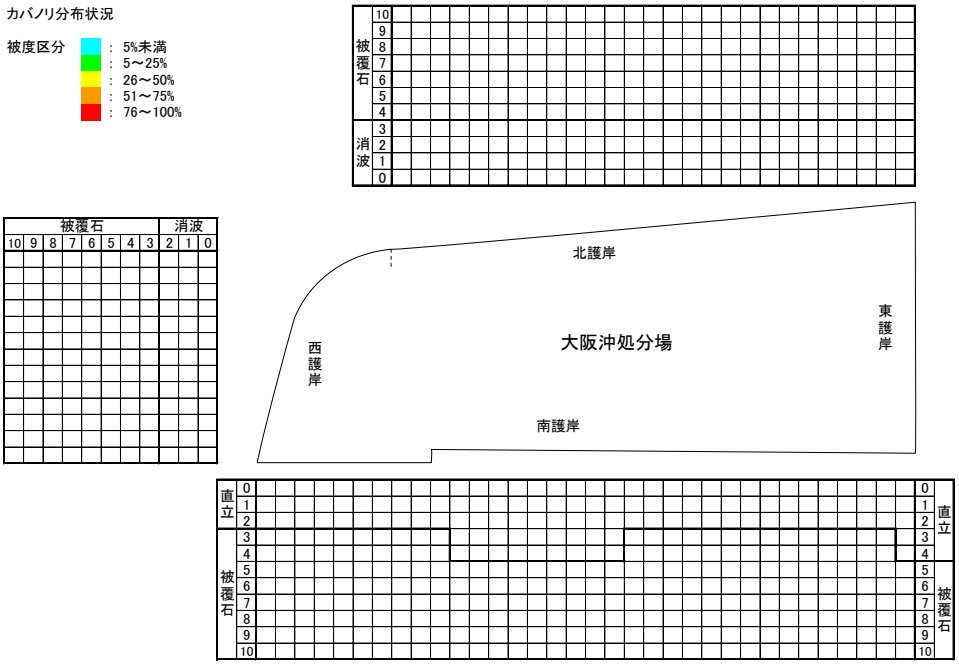


図 3-37（2）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

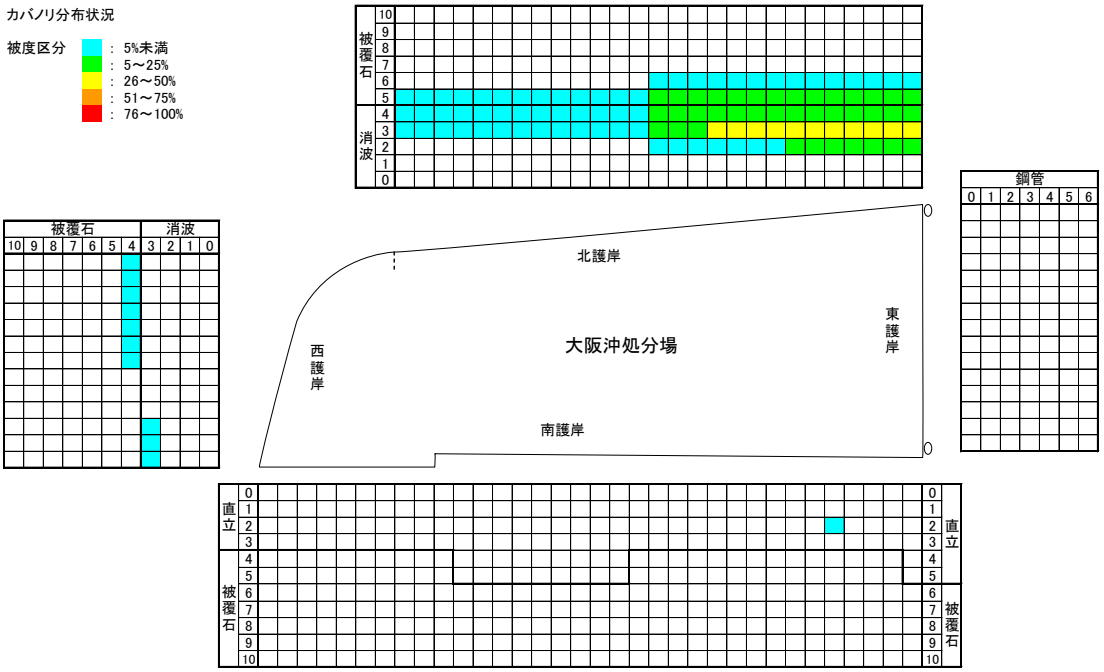
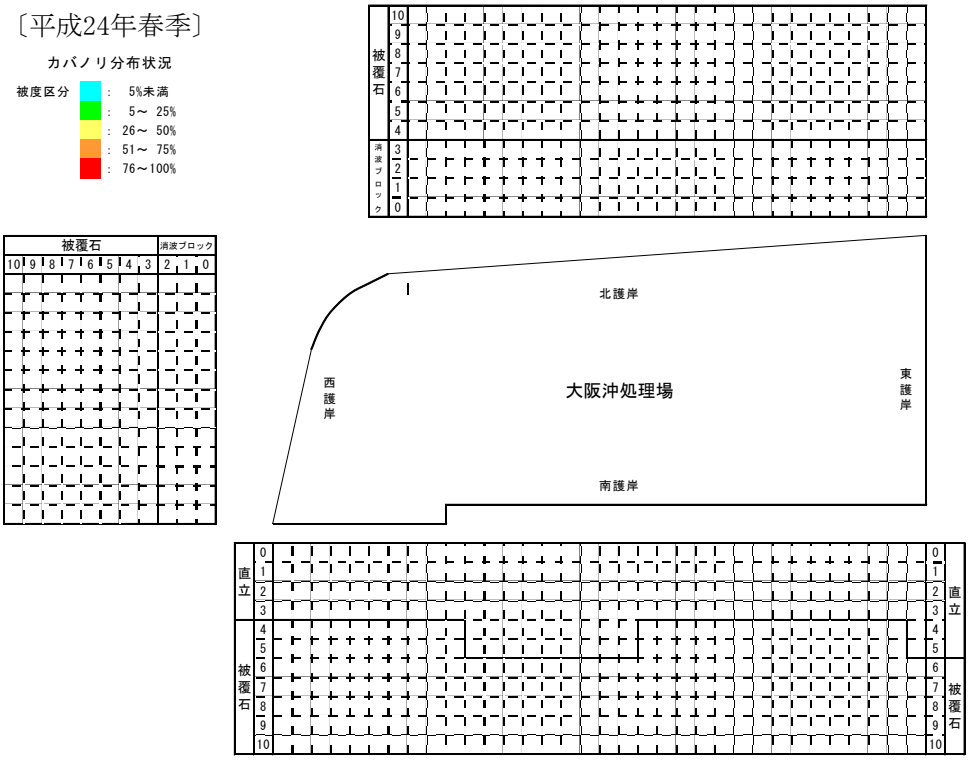


図 3-38（1）分布状況の推移　（カバノリ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



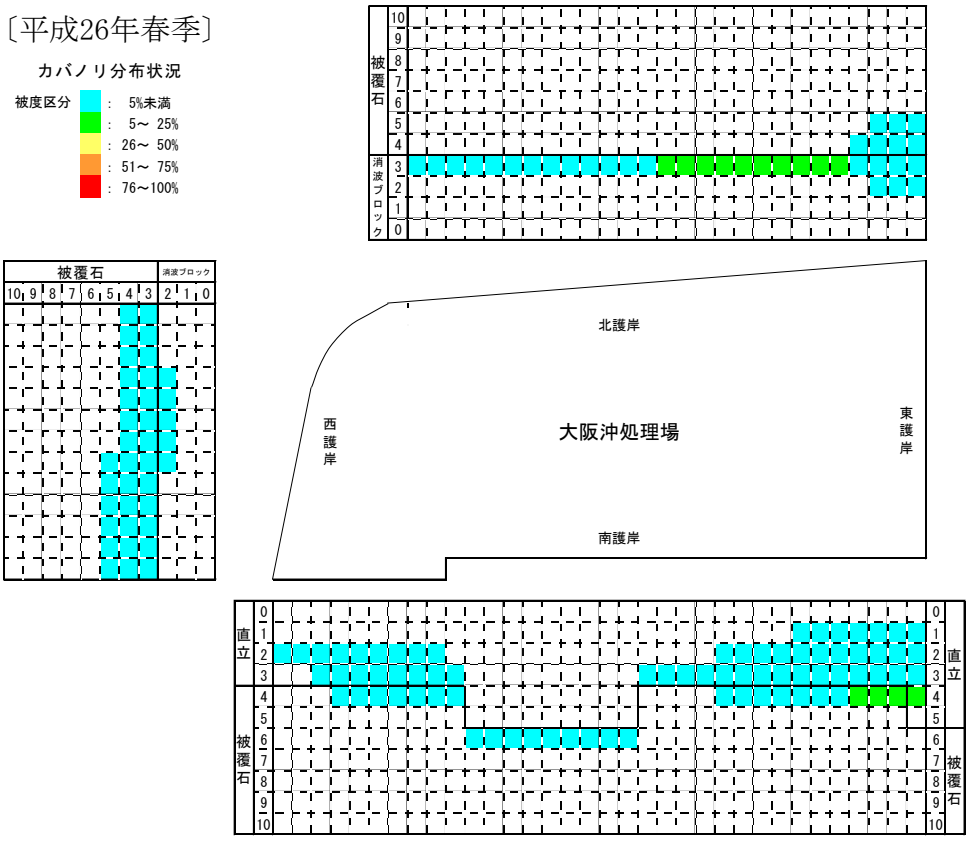
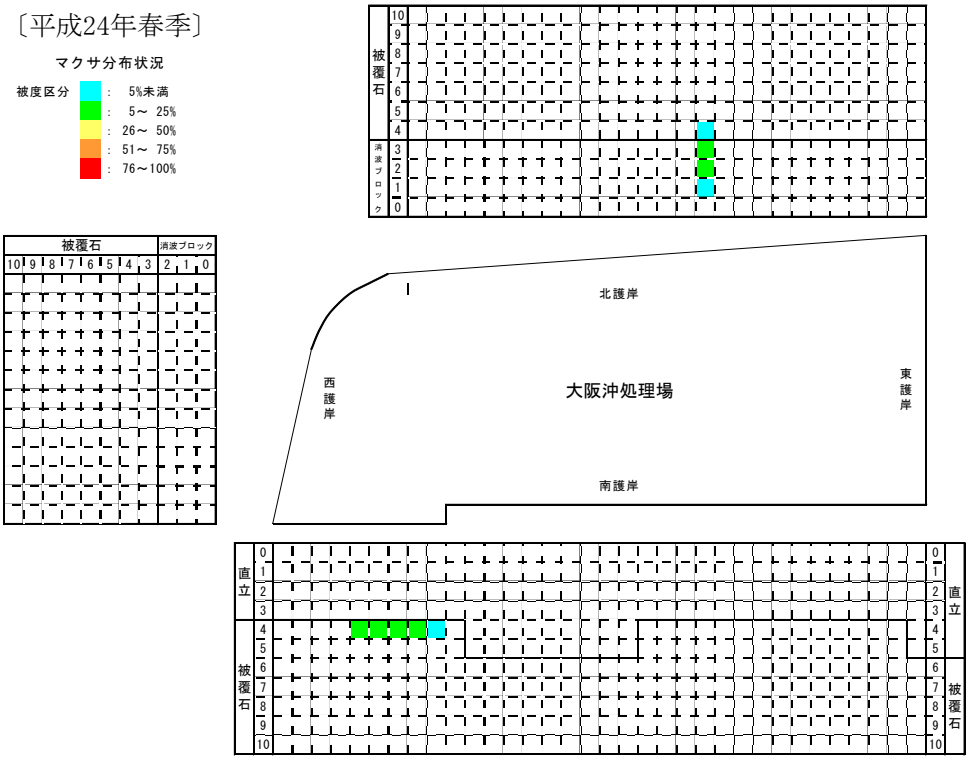
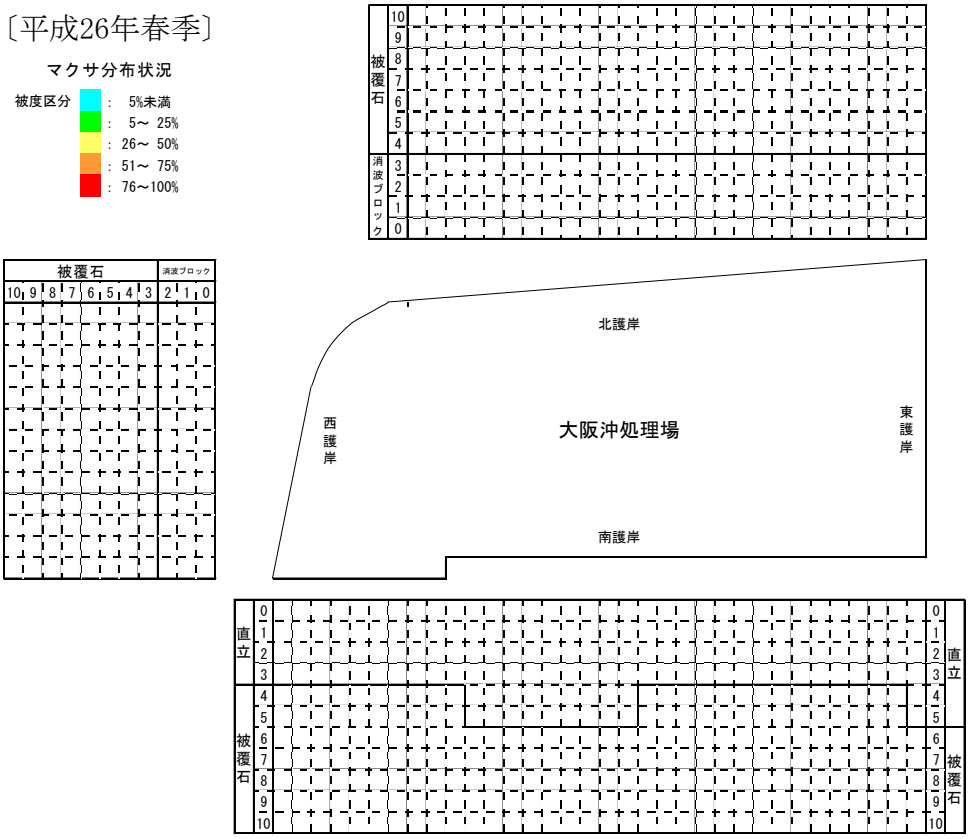


図 3-38（2）分布状況の推移　（カバノリ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

〔平成24年春季〕



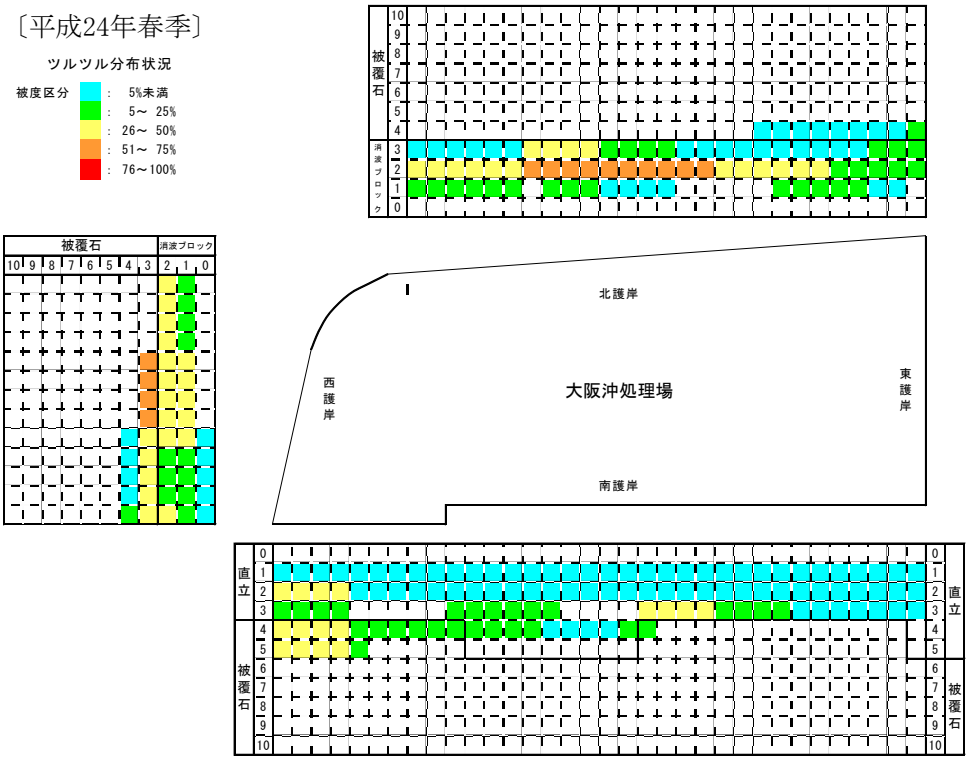
〔平成26年春季〕



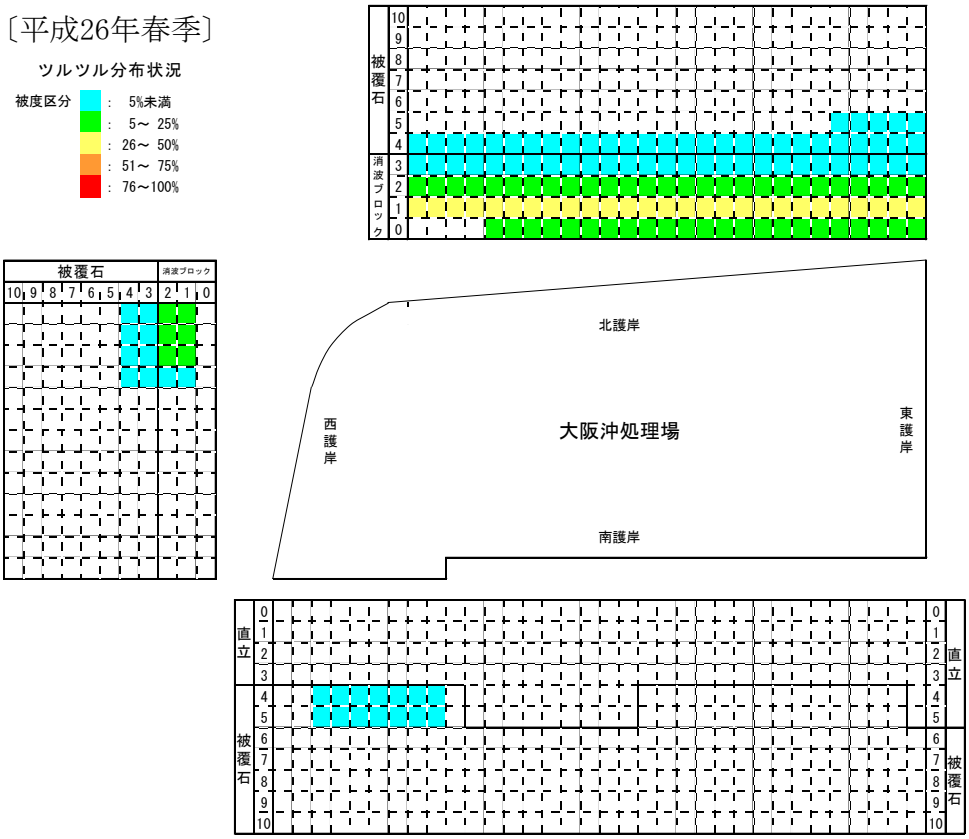
※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-39　分布状況の推移　（マクサ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

〔平成24年春季〕



〔平成26年春季〕



※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-40　分布状況の推移　（ツルツル）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

4 結果のまとめ

4-1 付着動植物の状況

(1) 神戸沖処分場

・坪刈りによる調査結果

［ 植 物 ］

表 4-1 に神戸沖処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層でアオサ属が湿重量の 100%を占め、中層では紅藻のムカデノリが 60%、次いでタマハハキモク（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 30%を占めていた。下層ではマクサが 38%、次いでムカデノリが 27%を占め、紅藻類が優占する状況であった。

平成 22 年度の調査では上層でシオグサ属がアオサ属よりも多くなっており、中層でタマハハキモクの優占度が紅藻類より高かったものの、平均水面付近（上層）の波当たりの大きい水深帯で緑藻等の小型藻類が優占し、中層付近でタマハハキモク（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が出現し、下層でマクサやススカケベニなどの紅藻類が優占する帯状分布に大きな変化はみられなかった。

表 4-1　坪刈り調査結果概要（植物）　神戸沖処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L -2m）	下層 （M.W.L -4m）
神戸沖 Ａ－２	平成22年 5月30日	出現種類数		11	13	12
		総湿重量 （g/0.25m^2）		28.96	130.83	202.92
		優占種	第1位	シオグサ属　43%	タマハハキモク 84%	マクサ　51%
			第2位	ツノマタ属　36%	イトグサ属　5%	カバノリ　22%
			第3位	アオサ属　18%	フダラク　4%	ススカケベニ　13%
	平成24年 5月26日	出現種類数		4	13	12
		総湿重量 （g/0.25m^2）		254.04	74.91	722.72
		優占種	第1位	アオサ属　99%	ムカデノリ　33%	ススカケベニ　55%
			第2位	シオグサ属　＜0.1%	タマハハキモク 30%	ベニスナゴ　26%
			第3位	アオノリ属　＜0.1%	イトグサ属　22%	マクサ　14%
	平成26年 6月1日	出現種類数		4	17	11
		総湿重量 （g/0.25m^2）		32.53	125.78	71.83
		優占種	第1位	アオサ属　100%	ムカデノリ　60%	マクサ　38%
			第2位	シオグサ属　0.1%	タマハハキモク 30%	ムカデノリ　27%
			第3位	アオノリ属　＜0.1% イソダンツウ　＜0.1%	フダラク　5%	カバノリ　24%

［ 動 物 ］

表 4-2 に神戸沖処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層でムラサキイガイ（固着性）が個体数において 91%、湿重量において 88%を占めていた。中層では、二枚貝類のキヌマトイガイ（固着性）が個体数において 45%、湿重量において 56%と出現数の半分ほどを占めていた。下層では Caprella 属（移動性）が個体数において 22%を占め、次いでキヌマトイガイが 18%を占めていた。湿重量においてはキヌマトイガイが 27%、次いでキヒトデが 9%を占めていた。

これまでの調査と比較して、上層ではムラサキイガイの占める割合が高くなっており、中層～下層ではキヌマトイガイ、海藻に付着するワレカラ類（移動性）、ヒトデ類（移動性）が優占している状況に大きな変化はみられないが、これまでの調査で湿重量の 10～23%を占めていたレイシガイ（移動性）は今回の調査ではあまりみられなかった。

表 4-2　坪刈り調査結果概要（動物）　神戸沖処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
神戸沖 Ａ－２	平成22年 5月30日	出現種類数		24	63	65
		総個体数 （個体/0.25m^2）		246	13662	3296
		総湿重量 （g/0.25m^2）		2.38	237.47	103.7
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 33%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 49%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 38%
			第2位	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属 18%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ 23%	ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ 16%
			第3位	ﾕｽﾘｶ科幼虫 13%	キヌマトイガイ 11%	ムギガイ 13%
		優占種 （湿重量）	第1位	カラマツガイ 35%	イトマキヒトデ 34%	イトマキヒトデ 28%
			第2位	ムラサキイガイ 13%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ 32%	レイシガイ 23%
			第3位	チゴケムシ 13%	ムギガイ 9%	ムギガイ 17%
	平成24年 5月26日	出現種類数		20	37	48
		総個体数 （個体/0.25m^2）		2105	15472	7178
		総湿重量 （g/0.25m^2）		21.13	126.97	95.2
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 41%	キヌマトイガイ 50%	Zeuxo属 17%
			第2位	ﾕｽﾘｶ科幼虫 24%	Zeuxo属 33%	トゲワレカラ 17%
			第3位	タマキビ 7%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 4%	キヌマトイガイ 13%
		優占種 （湿重量）	第1位	カラマツガイ 34%	キヌマトイガイ 29%	イトマキヒトデ 28%
			第2位	マガキ 24%	レイシガイ 17%	キヌマトイガイ 11%
			第3位	ムラサキイガイ 18%	イトマキヒトデ 15%	レイシガイ 10%
	平成26年 6月1日	出現種類数		17	70	92
		総個体数 （個体/0.25m^2）		3401	5434	7175
		総湿重量 （g/0.25m^2）		72.14	45.32	64.2
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 91%	キヌマトイガイ 45%	Caprella属 22%
			第2位	ﾕｽﾘｶ科幼虫 3%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 15%	キヌマトイガイ 18%
			第3位	イワフジツボ 2%	トゲワレカラ 10%	Monocorophium属 11%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 88%	キヌマトイガイ 56%	キヌマトイガイ 27%
			第2位	マガキ 6%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 8%	キヒトデ 10%
			第3位	カラマツガイ 2%	ムギガイ 7%	Cirratulus属 9%

・目視観察による調査結果

［ 植 物 ］

表 4-3 に神戸沖処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点では、平均水面付近の主要種はアオサ属、アオノリ属などの小型の緑藻類であった。これまでの調査では水深-1m で主要種となっていたタマハハキモク（藻場を構成する一年生の大形褐藻類）は、今回の調査では-2m 以深においても多くみられた。また、-2m 以深ではムカデノリ、カバノリ、マクサ、イトグサ属などの紅藻も主要種となっていた。

A-4 の地点では、これまでの調査で平均水面付近に緑藻のアオサ属やシオグサ属、紅藻のツノマタ属やフダラクなどが主要種としてみられたが、今回の調査では目立った海藻はみられなかった。また、平成 22 年度調査で-2m において主要種であったタマハハキモク（藻場を構成する一年生の大形褐藻類）が、今回の調査では-2～-4m までワカメ（藻場を構成する一年生の大形褐藻類）及び緑藻のアオサ属、フダラク、ツノマタ、カバノリなどの紅藻とともに主要種となっていた。

A-5 の地点では前回調査と同様に-1m 付近でアオサ属が確認され、-2m 以深でベニスナゴやサビ亜科などの紅藻が多くみられた。また、これまでの調査ではあまりみられなかったシダモク（藻場を構成する一年生の大形褐藻類）が、-4m 付近で紅藻とともに主要種となっていた。

表 4-3　目視調査結果概要（植物）　神戸沖処分場

A－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	転石	転石	転石	転石	転石	転石	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	藍藻綱	アオサ属 珪藻綱	タマハハキモク ツルツル フダラク	ムカデノリ属 イギス科 マクサ ベニスナゴ	シダモク イギス科 マクサ ベニスナゴ	マクサ ベニスナゴ カバノリ	イギス科 マクサ カバノリ ススカケベニ	イギス科 タオヤギソウ ススカケベニ	イギス科 ススカケベニ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	アオノリ属	アオサ属	タマハハキモク	ツルツル イギス目	ツルツル	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ タオヤギソウ	-	イギス目	-	-	-
	平成26年6月1日	-	アオサ属	-	タマハハキモク ムカデノリ カバノリ	タマハハキモク マクサ カバノリ	タマハハキモク マクサ	ムカデノリ イトグサ属	イトグサ属	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	6	8	8	7	8	7	6	3	2	1	0	-
	平成24年5月26日	1	8	11	10	8	6	5	8	7	3	1	2	-
	平成26年6月1日	1	2	7	10	9	7	7	6	4	1	2	1	0

A－4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	-	シオグサ属 ツノマタ属 フダラク	シオグサ属 フダラク	アオサ属 タマハハキモク フダラク	アオサ属 フダラク ベニスナゴ イギス科 カバノリ	ベニスナゴ イギス科	ベニスナゴ サンゴモ目 ススカケベニ	サンゴモ目 ススカケベニ	ススカケベニ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	-	アオサ属	ツルツル	ツルツル イギス目	ツルツル カバノリ イギス目	フダラク ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ イギス目	-	-	-
	平成26年6月1日	-	-	フダラク	アオサ属 タマハハキモク フダラク ツノマタ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	-	マクサ	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	0	5	7	11	11	6	6	5	2	2	0	0	-
	平成24年5月26日	0	5	8	9	8	12	6	5	5	5	1	0	-
	平成26年6月1日	0	2	5	9	8	7	11	6	4	4	2	2	1

A－5	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫巨礫	大礫巨礫	大礫巨礫	大礫巨礫	大礫巨礫	大礫巨礫	巨礫岩礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	-	アオノリ属 珪藻綱	アオサ属 珪藻綱	アオサ属 シオグサ属	-	サンゴモ目 イワノカワ科	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	-	-	-
	平成24年5月26日	-	-	アオサ属	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	イギス目	イギス目	-	-
	平成26年6月1日	-	-	アオサ属 フダラク	ベニスナゴ	ベニスナゴ	シダモク サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	サビ亜科	ススカケベニ	-
種類数	平成22年5月30日	0	3	7	5	2	4	3	2	3	2	1	0	-
	平成24年5月26日	0	0	5	6	5	6	6	8	7	4	3	4	-
	平成26年6月1日	0	0	6	3	6	8	8	6	5	3	3	2	0

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

［ 動 物 ］

表 4-4 に神戸沖処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点では平均水面+1m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のアラレタマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面以深では二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）や、カンザシゴカイ科（固着性）が多く出現した。これまでの調査と比較して、ヒトデ類（移動性）があまりみられなかった。

A-4 の地点では平均水面付近の主要種はタマキビ、アラレタマキビ、キクノハナガイなどの移動性の貝類、イワフジツボ（固着性）、前回までの調査では見られなかったムラサキイガイであった。-2～-3m 付近でカンザシゴカイ科、海綿動物門（固着性）が多くなっていた。-4m 以深では主要種はみられなかった。

A-5 の地点では平均水面付近の主要種はアラレタマキビ、コモレビコガモガイ、ヨメガカサ、カラマツガイなどの移動性の貝類であり、前回確認されたイワフジツボ（固着性）も多くみられた。-1～-2m でレイシガイ（移動性）、カンザシゴカイ科の他、これまでの調査ではあまりみられなかった二枚貝類のムラサキイガイが多くみられた。また、前回までの調査で-2m 以深に多くみられたヨーロッパフジツボやサンカクフジツボなどはあまりみられなかった。

表 4-4　目視調査結果概要（動物）　神戸沖処分場

A－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	転石	転石	転石	転石	転石	転石	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ	-	カンザシゴカイ科 レイシガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	-	-	-
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ	イボニシ カラマツガイ	イボニシ	イボニシ	イボニシ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	ムギガイ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	キヒトデ	イトマキヒトデ	-	イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	カラマツガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱	-	キヒトデ	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	7	5	3	4	4	4	5	3	1	2	0	-
	平成24年5月26日	4	4	5	4	4	11	7	11	6	4	4	3	-
	平成26年6月1日	3	5	5	6	7	7	8	6	5	5	4	5	0

A－4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イボニシ	チギレイソギンチャク カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	-	キヒトデ	キヒトデ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ イワフジツボ	レイシガイ イボニシ キクノハナガイ	レイシガイ サンカクフジツボ	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科	-	レイシガイ	-	キヒトデ	イトマキヒトデ	-	-
	平成26年6月1日	タマキビ アラレタマキビ	キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	海綿動物門 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	8	7	5	3	5	1	2	1	0	0	1	-
	平成24年5月26日	4	5	9	9	6	9	11	7	7	4	4	1	-
	平成26年6月1日	3	8	6	7	8	8	5	4	4	2	2	1	1

A－5	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫㊀礫	大礫㊀礫	大礫㊀礫	大礫㊀礫	大礫㊀礫	大礫㊀礫	巨礫㊁礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	タマキビ アラレタマキビ	-	レイシガイ イトマキヒトデ	レイシガイ ヨーロッパフジツボ	ヨーロッパフジツボ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	-	イワフジツボ クロフジツボ	レイシガイ カンザイゴカイ科 イトマキヒトデ	レイシガイ サンカクフジツボ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 サンカクフジツボ イトマキヒトデ	サンカクフジツボ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	サンカクフジツボ	カゴメガイ イトマキヒトデ キヒトデ	イトマキヒトデ	キヒトデ	-	-
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	ヨメガカサガイ コモレビコガモガイ カラマツガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	苔虫綱	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	4	6	5	3	6	6	6	4	5	2	1	0	-
	平成24年5月26日	1	5	7	9	8	5	5	5	8	8	5	6	-
	平成26年6月1日	1	9	8	12	13	13	13	13	10	6	6	6	1

※主要種：観察時の個体数が 3 個体以上または出現被度が 10%以上の種を抽出

(2) 大阪沖処分場

・坪刈りによる調査結果

［ 植 物 ］

表 4-5 に大阪沖処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で緑藻のアオサ属が 98%を占めており、中層ではワカメが 42%、次いでタマハハキモクが 40%と、藻場を構成する一年生の大型褐藻類が優占していた。下層では、紅藻のベニスナゴが 81%を占めていた。

これまでの調査と比較すると、中層ではススカケベニやフダラクなどの紅藻類に変わり、藻場を構成する一年生の大型褐藻類のワカメやタマハハキモク等が優占する状況であった。上層では緑藻のアオサ属など小型藻類が優占し、下層でベニスナゴなどの紅藻が優占する状況に変化はみられなかった。

表 4-5　坪刈り調査結果概要（植物）　大阪沖処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
大阪沖 C－2	平成22年 5月29日	出現種類数		6	17	16
		総湿重量 （g/0.25m^2）		0.98	132.22	368.18
		優占種	第1位	アオサ属　89%	ススカケベニ　51%	ススカケベニ　93%
			第2位	アオノリ属　8%	ベニスナゴ　15%	フダラク　7%
			第3位	シオグサ属　3%	フダラク　14%	ツノマタ属　＜0.1%
	平成24年 6月3日	出現種類数		5	14	16
		総湿重量 （g/0.25m^2）		7.46	1819.04	849.48
		優占種	第1位	アオサ属　95%	フダラク　89%	ベニスナゴ　61%
			第2位	ツノマタ属　2%	オオバツノマタ　8%	ワカメ　21%
			第3位	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ　1%	タマハハキモク　3%	オオバツノマタ　3%
	平成26年 5月31日	出現種類数		3	14	15
		総湿重量 （g/0.25m^2）		1.45	626.89	362.29
		優占種	第1位	アオサ属　98%	ワカメ　42%	ベニスナゴ　81%
			第2位	藍藻綱　2%	タマハハキモク　40%	ツルツル　13%
			第3位	シオグサ属　＜0.1%	ムカデノリ属　6%	ワカメ　4%

［ 動 物 ］

表 4-6 に大阪沖処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が個体数において 94%、湿重量において 96%を占めていた。中層では、マルエラワレカラ（移動性）が個体数において 40%、ムラサキイガイが湿重量において 36%を占めていた。下層では、Caprella 属（移動性）が個体数において 42%、シマメノウフネガイ（移動性）が湿重量において 52%と半分ほどを占めていた。

これまでの調査と比較して、ムラサキイガイやワレカラ類等が優占種となっている状況に大きな変化はみられないが、中層で優占種であったカンザシゴカイ類が今回の調査ではほとんどみられなかった。下層の湿重量においてシマメノウフネガイがコシダカガンガラに変わり優占種となっていた。

表 4-6　坪刈り調査結果概要（動物）　大阪沖処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
大阪沖 C−2	平成22年 5月29日	出現種類数		18	60	56
		総個体数 （個体/0.25m^2）		11998	5541	348
		総湿重量 （g/0.25m^2）		201.84	127.1	72.77
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 99%	キヌマトイガイ 16%	ムギガイ 14%
			第2位	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ ＜0.1%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 15%	ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ 14%
			第3位	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属 ＜0.1%	ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ 14%	Thelepus属 11%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 100%	Thelepus属 38%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 53%
			第2位	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ ＜0.1%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ 17%	ｺﾍﾞﾙﾄﾌﾈｶﾞｲ 13%
			第3位	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ ＜0.1% ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ ＜0.1%	キヌマトイガイ 8%	Thelepus属 8%
	平成24年 6月3日	出現種類数		15	35	49
		総個体数 （個体/0.25m^2）		788	7094	179
		総湿重量 （g/0.25m^2）		72.06	55.73	7.97
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 77%	Monocorophium属 42%	Caprella属 20%
			第2位	Ampithoe属 7%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 36%	トゲワレカラ 13%
			第3位	イボニシ 4%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 9%	ｳｴﾊﾞﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ 4% Melita属 4%
		優占種 （湿重量）	第1位	イボニシ 62%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 40%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 30%
			第2位	ヨメガカサ 23%	Thelepus属 10%	レイシガイ 26%
			第3位	ムラサキイガイ 3%	マサゴゴカイ 9%	ムギガイ 8%
	平成26年 5月31日	出現種類数		23	59	54
		総個体数 （個体/0.25m^2）		11802	6437	784
		総湿重量 （g/0.25m^2）		653.98	53.08	22.98
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 94%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 40%	Caprella属 42%
			第2位	イワフジツボ 5%	ムラサキイガイ 25%	トゲワレカラ 11%
			第3位	キクノハナガイ 0.2%	キヌマトイガイ 13%	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ科 7%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 96%	ムラサキイガイ 36%	ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ 52%
			第2位	ヒザラガイ 1%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 16%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 19%
			第3位	キクノハナガイ 1%	キヌマトイガイ 11%	ムギガイ 10%

・目視観察による調査結果

［ 植 物 ］

表 4-7 に大阪沖処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点では、-1～-5m まで、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、サビ亜科、イトグサ属などの紅藻と、前回までの調査でも主要種であったシダモクや、これまでの調査でみられなかったワカメなどの藻場を構成する一年生の大型褐藻類が主要種となっていた。-6m 以深では、ベニスナゴ、タオヤギソウ、イトグサ属、ススカケベニなどの紅藻が主要種となっていた。

C-2 の地点では、-1～-10m まで、多種の紅藻が主要種となっており、-1～-3m、-6m では紅藻に加えてワカメ、タマハハキモク、シダモクなどの藻場を構成する一年生の大型褐藻類が共に主要種となっていた。

C-3 の地点では、±0m で緑藻のアオサ属の被度が 60%で前回の調査と同様に高かった。-1m 以深ではフダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリ、サビ亜科が深くなるにつれて順に出現する傾向は同様であるが、前回主要種ではなかった紅藻のイワノカワ科が今回は多く出現している。また、-3～-4m はタマハハキモク、ワカメ、シダモクなどの藻場を構成する一年生の大型褐藻が紅藻と共に主要種となっていた。

表 4-7　目視調査結果概要（植物）　大阪沖処分場

C－1	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日　基質	ｹｰｿﾞ	ｹｰｿﾞ	ｹｰｿﾞ	ｹｰｿﾞ	ｹｰｿﾞ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	-	フダラク	フダラク	イギス科 ススカケベニ	シダモク ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	-	-	-
	平成24年6月3日	-	-	イギス目	ムカデノリ	ムカデノリ	シダモク ツルツル	ツルツル ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	-
	平成26年5月31日	-	-	フダラク	ワカメ フダラク	ワカメ フダラク	シダモク ツルツル フダラク ベニスナゴ	ワカメ サビ亜科 フダラク ベニスナゴ イトグサ属	ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	-
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	4	2	5	5	3	3	2	1	1
	平成24年5月26日	0	2	5	6	5	12	6	5	4	4	1	1
	平成26年5月31日	0	3	3	4	4	8	12	10	10	6	3	3

C－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	アオサ属	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	ススカケベニ イギス科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科 ススカケベニ サンゴモ目	イワノカワ科 ススカケベニ	イワノカワ科 ススカケベニ	-	-
	平成24年6月3日	-	-	アオサ属 ツノマタ属 フダラク ツルツル	ツノマタ属 フダラク	ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツルツル ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ カバノリ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ススカケベニ	サンゴモ科
	平成26年5月31日	-	-	ワカメ フダラク オオバツノマタ ツノマタ	ワカメ タマハハキモク フダラク	ワカメ フダラク オオバツノマタ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ カバノリ	シダモク サビ亜科 ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ亜科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ亜科
種類数	平成22年5月30日	0	1	7	6	5	7	5	5	4	3	1	0
	平成24年5月26日	0	0	6	7	7	8	7	4	3	4	5	2
	平成26年5月31日	0	2	8	9	7	7	7	11	7	5	5	3

C－3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	アオサ属	アオサ属 シオグサ属 フダラク	フダラク ベニスナゴ	シダモク	シダモク イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科	ススカケベニ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	-
	平成24年6月3日	-	アオサ属	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル カバノリ	フダラク ツルツル ベニスナゴ カバノリ	ベニスナゴ	ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	サビ亜科 ススカケベニ
	平成26年5月31日	-	アオサ属	ツルツル フダラク	シオグサ属 ツルツル フダラク	タマハハキモク ツルツル フダラク カバノリ	ワカメ シダモク ツルツル ベニスナゴ カバノリ	サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	-
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	6	4	4	2	4	5	4	3	1
	平成24年5月26日	0	2	6	7	9	7	3	3	3	4	4	2
	平成26年5月31日	0	2	5	6	7	10	6	6	5	5	5	3

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

［ 動 物 ］

表 4-8 に大阪沖処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点では+1m で主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝類のアラレタマキビ（移動性）が多くみられた。±0m 付近ではアラレタマキビ、キクノハナガイ（移動性）、ムラサキイガイ（固着性）などの貝類が多く、イワフジツボ（固着性）の被度も高くなっていた。-1～-3m 付近では前回調査と同様にカンザシゴカイ科（固着性）、ホヤ綱（固着性）が多く出現した。深所でヒトデ類（移動性）が出現しているが、前回調査と比較して出現範囲は減少していた。

C-2の地点では+1mではアラレタマキビが多く出現し、±0mではムラサキイガイ、イワフジツボ、キクノハナガイ、ヨメガカサ（移動性）、ウノアシ（移動性）などが多くみられた。-2～-3m 付近ではムギガイ（移動性）やカンザシゴカイ科が多くなっていた。

C-3 の地点では前回調査では+1m でアラレタマキビが多く確認されたが、今回調査では 1 個体のみであった。±0m では前回も多くみられたイボニシ（移動性）に加え、ムラサキイガイの被度が高くなっていた。-1m ではレイシガイ（移動性）も多くみられ、前回は-1～-3m 付近で多く出現したカンザシゴカイ科は今回は-2～-4m で多く、コケムシ綱も多くみられた。-8～-10m では苔虫綱やアミコケムシ科などの被度が高くなっており、平成 22 年度と同様の傾向がみられた。

表 4-8　目視調査結果概要（動物）　大阪沖処分場

C－1	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 レイシガイ ホヤ綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	-	-	-	苔虫綱	苔虫綱	苔虫綱
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	アラレタマキビ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	ホヤ綱	-	イトマキヒトデ	-	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ	-
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	アラレタマキビ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	-	-	-	-	-	キヒトデ	-
種類数	平成22年5月30日	1	3	8	5	8	5	3	3	4	6	2	2
	平成24年5月26日	2	11	8	6	5	7	6	7	4	3	3	3
	平成26年5月31日	3	8	8	8	9	5	6	3	3	4	3	2

C－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	コシダカガンガラ イトマキヒトデ	コシダカガンガラ サンカクフジツボ	-	-	-	-	-
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ イワフジツボ	イボニシ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	-	-	イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-	-
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	ヨメガカサ ウノアシ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ	ムギガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	1	2	3	8	5	4	6	4	5	6	5	2
	平成24年5月26日	2	10	4	7	7	6	7	6	4	3	7	4
	平成26年5月31日	3	10	7	7	10	4	4	2	3	2	1	3

C－3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ヤドカリ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱	-	苔虫綱	苔虫綱	-
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 苔虫綱 ムギガイ	コシダカガンガラ	イトマキヒトデ	-	-	-	-
	平成26年5月31日	-	イボニシ ムラサキイガイ	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科	-	-	-	苔虫綱	苔虫綱	アミコケムシ科
種類数	平成22年5月30日	1	5	1	3	5	6	4	6	5	5	3	3
	平成24年5月26日	1	7	3	6	4	5	4	4	3	4	2	3
	平成26年5月31日	3	6	6	9	8	7	7	5	3	3	3	3

※主要種：観察時の個体数が 3 個体以上または出現被度が 10%以上の種を抽出

(3) 泉大津沖処分場

・坪刈りによる調査結果

［ 植 物 ］

表 4-9 に泉大津沖処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要を示した。

D-2 では、上層ではムカデノリ属が 50%、次いでフダラクが 34%と紅藻が優占していた。中層ではワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 85%を占め、下層では、カバノリが 46%、次いでワカメが 33%を占めていた。

D-3 では、上層で紅藻のコスジフシツナギが 100%を占め、中層ではワカメが 94%を占めていた。下層では紅藻のタオヤギソウが 97%を占めていた。

D-2、D-3 ともに、上層と下層で紅藻が、中層では藻場を構成する一年生の大型褐藻類が優占する状況であった。

表 4-9　坪刈り調査結果概要（植物）　泉大津沖処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
泉大津沖 D－2	平成26年 6月2日	出現種類数		11	17	11
		総湿重量 （g/0.25m^2）		19.88	242.82	475.51
		優占種	第1位	ムカデノリ属　50%	ワカメ　85%	カバノリ　46%
			第2位	フダラク　34%	ムカデノリ　5%	ワカメ　33%
			第3位	アオサ属　12%	アオサ属　3%	タオヤギソウ　17%
泉大津沖 D－3	平成26年 6月2日	出現種類数		2	8	6
		総湿重量 （g/0.25m^2）		0.04	475.27	99.13
		優占種	第1位	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ　100%	ワカメ　94%	タオヤギソウ　97%
			第2位	シオグサ属　＜0.1%	タオヤギソウ　6%	ススカケベニ　3%
			第3位	出現なし	ススカケベニ　0.2%	イギス科　0.3%

［ 動 物 ］

表 4-10 に泉大津沖処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要を示した。

D-2 の地点では、上層でムラサキイガイ(固着性)が個体数において 99%、湿重量において 94%を占め、中層でも個体数において 49%、湿重量において 68%を占めていた。下層では、個体数においてキヌマトイガイ（移動性）が 24%、次いでヨーロッパフジツボ（固着性）が 12%、Jassa 属が 8%と、1～3 位で約半数を占めていた。湿重量においてはコシダカガンガラ（移動性）が 40%、次いでヒラコケムシ科が 27%を占めていた。

D-2 全体で、二枚貝類のムラサキイガイやキヌマトイガイ、巻貝類のコシダカガンガラなど、軟体動物が優占していた。

D-3 の地点では、上層ではムラサキイガイが個体数において 99%、湿重量において 98%を占めていた。中層では、Phoronis 属が個体数において 58%を占めていた。湿重量においても Phoronis 属が 20%を占め、次いでキヌマトイガイが 18%、フサコケムシ科が 13%と、1～3 位で約半数を占めていた。下層では、Pugettia 属が個体数において 25%、次いでキヌマトイガイが 16%を占め、湿重量においてフサコケムシ科が 33%、次いでムラサキイガイが 15%を占めていた。

D-3 地点では、ムラサキイガイやキヌマトイガイなどの軟体動物に加え、ホウキムシ類の Phoronis 属、モガニ類の Pugettia 属なども優占していた。

表 4-10 坪刈り調査結果概要（動物） **泉大津沖処分場**

調査地点	調査時期	項 目		上層（M.W.L ±0m）	中層（M.W.L -2m）	下層（M.W.L -4m）
泉大津沖 D－2	平成26年 6月2日	出現種類数		31	53	54
		総個体数（個体/0.25m^2）		16584	2425	432
		総湿重量（g/0.25m^2）		1242.48	37.92	30.13
		優占種（個体数）	第1位	ムラサキイガイ 99%	ムラサキイガイ 49%	キヌマトイガイ 24%
			第2位	イボニシ 0.3%	キヌマトイガイ 20%	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ 12%
			第3位	Acanthochitona属 0.2%	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ 6%	Jassa属 8%
		優占種（湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 94%	ムラサキイガイ 68%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 40%
			第2位	イボニシ 5%	キヌマトイガイ 10%	ﾋﾗｺｹﾑｼ科 27%
			第3位	Acanthochitona属 1%	レイシガイ 8%	レイシガイ 6%
泉大津沖 D－3	平成26年 6月2日	出現種類数		35	89	92
		総個体数（個体/0.25m^2）		38999	13938	7910
		総湿重量（g/0.25m^2）		3736.04	216.08	178.95
		優占種（個体数）	第1位	ムラサキイガイ 99%	Phoronis属 58%	Pugettia属 25%
			第2位	キヌマトイガイ 0.4%	キヌマトイガイ 22%	キヌマトイガイ 16%
			第3位	紐形動物門 0.1%	Dodecaceria属 7%	Caprella属 10%
		優占種（湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 98%	Phoronis属 20%	フサコケムシ科 33%
			第2位	イボニシ 1%	キヌマトイガイ 18%	ムラサキイガイ 15%
			第3位	Ostrea属 1%	フサコケムシ科 13%	ﾊｸﾞﾁｺｹﾑｼ科 13%

・目視観察による調査結果

［ 植 物 ］

表 4-11 に泉大津沖処分場における目視調査結果（植物）の概要を示した。

D-2 の地点では、±0m で緑藻のシオグサ属が主要種となっており、-1～-4m ではワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）とともに、フダラク、ムカデノリ、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻、緑藻のアオサ属が主要種となっていた。-5m 以深ではカバノリ、イトグサ属、ススカケベニなどの紅藻が主要種となっていた。

D-3 の地点では、-2m でワカメが主要種であり、-3m 以深ではタオヤギソウ、ススカケベニ、カバノリ、タオヤギソウ、イトグサ属などの紅藻が主要種となっていた。

D-5 の地点では、+1m で藍藻が主要種となっていたが、±0m 以深では海藻がみられなかった。

D-6 の地点では、壁面では±0m で緑藻のアオサ属、-1m で紅藻のツルツル、－3～-4m でタオヤギソウとワカメ、-5m でススカケベニが主要種となっていた。遊水室では紅藻がわずかにみられたのみであった。

表 4-11　目視調査結果概要（植物）　泉大津沖処分場

D－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
主要種※	平成26年6月2日	-	ｼｵｸﾞｻ属	ﾜｶﾒ ﾌﾀﾞﾗｸ	ｱｵｻ属 ﾜｶﾒ ﾑｶﾃﾞﾉﾘ ｶﾊﾞﾉﾘ	ﾜｶﾒ ｶﾊﾞﾉﾘ ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	ﾜｶﾒ ｶﾊﾞﾉﾘ ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	ｶﾊﾞﾉﾘ	ｶﾊﾞﾉﾘ ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	ｶﾊﾞﾉﾘ ﾀｵﾔｷﾞｿｳ ｲﾄｸﾞｻ属	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ ｶﾊﾞﾉﾘ ｲﾄｸﾞｻ属	ｲﾄｸﾞｻ属	-	-	-	-
種類数	平成26年6月2日	0	4	7	7	8	6	4	4	5	4	2	3	2	1	0

D－3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成26年6月2日	-	-	-	ﾜｶﾒ	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	-	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ ｶﾊﾞﾉﾘ ﾀｵﾔｷﾞｿｳ ｲﾄｸﾞｻ属	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ ｲﾄｸﾞｻ属	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ ｲﾄｸﾞｻ属	ｲﾄｸﾞｻ属	ｲﾄｸﾞｻ属	-	-
種類数	平成26年6月2日	0	3	1	1	3	2	2	2	4	4	2	2	1	1	0

		エコ岩壁							
		壁面					遊水室		
D-5	平均水面	+1	0	-1	-2	-3	-		
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石 網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日	藍藻網	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成26年6月2日	1	0	0	0	0	0	0	0

		エコ岩壁												
		壁面							遊水室					
D-6	平均水面	+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石 網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日		ｱｵｻ属	ﾂﾙﾂﾙ	-	ﾜｶﾒ ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	ﾜｶﾒ ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	-	-	-	-	-	-
種類数	平成26年6月2日	0	1	4	4	7	3	2	0	0	2	0	0	3

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

［ 動 物 ］

表 4-12 に泉大津沖処分場における目視調査結果（動物）の概要を示した。

D-2 の地点では、+1m で主に潮間帯上部から飛沫帯に生息するアラレタマキビ（移動性）、±0～-1m ではヨメガカサ（移動性）、イボニシ（移動性）、ムラサキイガイ（固着性）などの貝類が多くみられた。-2m 以深ではカンザシゴカイ科、苔虫綱、アミコケムシ科の被度が高かった。また、-6m ではシマメノウフネガイ（移動性）、-10～-11m ではキヒトデ（移動性）などが多くみられた。

D-3 の地点では、+1m でアラレタマキビ、±0m ではタテジマイソギンチャク（固着性）、コモレビコガモガイ（移動性）、カラマツガイ（移動性）、キクノハナガイ（移動性）、イボニシなどの巻貝が多くみられ、ムラサキイガイやイワフジツボ（固着性）などの被度も高くなっていた。また、2m 以深では、巻貝のレイシガイ（移動性）、二枚貝のムラサキイガイ、海綿動物門、イボニシが多くみられたほかは、カンザシゴカイ科、キヒトデ、フサコケムシ科、ホヤ綱（群体性）、アミコケムシ科などが多くみられた。

D-5 の地点では、壁面では+1～-3m まで、イボニシ、レイシガイ、シマメノウフネガイなどの巻貝が多くみられ、-1m ではキヒトデも多くみられた。また、±0～-3m でカンザシゴカイ科、コケムシ綱、アミコケムシ科などの被度が高くなっていた。遊水室内ではレイシガイ、ムラサキイガイ、イトマキヒトデ（移動性）、キヒトデ、マナマコ（移動性）、コケムシ綱などが多くみられた。

D-6 の地点では、+1m で巻貝のアラレタマキビ、イワフジツボが多く、±0m 以深ではカンザシゴカイ科、コケムシ綱が広くみられ、また被度が高かった。-1m、-4～-5m ではイトマキヒトデ、キヒトデも多くみられた。遊水室内では、上室、下室共に、レイシガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデ、シマメノウフネガイ、マナマコなどが主要種となっていた。

表 4-12　目視調査結果概要（動物）　泉大津沖処分場

D－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
主要種※	平成26年6月2日	アラレタマキビ	ヨメガカサ イボニシ ムラサキイガイ	イボニシ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	苔虫綱	コシダカガンガラ カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱	シマメノウフネガイ	-	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	-
種類数	平成26年6月2日	2	4	8	6	7	9	7	10	6	5	6	8	7	4	0

D－3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成26年6月2日	アラレタマキビ	タテジマイソギンチャク コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	イボニシ ムラサキイガイ	海綿動物門 レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ	フサコケムシ科 ホヤ綱(群体性)	フサコケムシ科 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 苔虫綱	イボニシ 苔虫綱 キヒトデ	-	-	キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-
種類数	平成26年6月2日	2	7	7	12	11	12	9	14	5	5	6	6	6	7	0

D-5		エコ岩壁							
		壁面					遊水室		
	平均水面	+1	0	-1	-2	-3	-		
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石 網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	シマメノウフネガイ レイシガイ カンザシゴカイ科 アミ目虫科 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ムラサキイガイ イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ
種類数	平成26年6月2日	1	5	9	11	11	10	8	11

D-6		エコ岩壁												
		壁面							遊水室					
	平均水面	+1	0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石 網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日	アラレタマキビ イワフジツボ	イボニシ カンザシゴカイ科	ムラサキイガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	シマメノウフネガイ レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ	シマメノウフネガイ レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ
種類数	平成26年6月2日	2	4	7	7	10	8	10	11	11	13	10	10	14

※主要種：観察時の個体数が 3 個体以上または出現被度が 10%以上の種を抽出

4-2 遊泳魚類の状況

(1) 神戸沖処分場

今回の調査では、遊泳魚類としてメジナ、クロダイ、スズメダイ、コブダイ、ホシササノハベラ、キュウセン、メバル、カサゴ、アイナメ、ウマヅラハギの計 10 種が目視確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

前回調査ではクロダイ、カサゴ、クサフグ、ヒガンフグ、キュウセン、イソギンポ科、メバル、クジメの 8 種が目視確認されており、種類数の増加がみられた。

これら確認された魚類の殆どは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロックがこれら魚類の良好な生息環境となっていると考えられる。

(2) 大阪沖処分場

今回の調査では遊泳魚類としてボラ、スズキ、クロダイ、イシダイ、スズメダイ、コブダイ、ホシササノハベラ、キュウセン、メバル、カサゴ、アイナメの 11 種が確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

前回調査では、ボラ、ホシササノハベラ、キュウセン、メバル、スズメダイ、カサゴ、アサヒナハゼ、コブダイの 8 種のみが確認されており、種類数の増加がみられた。

これら確認された魚類の殆どは（ボラは回遊）、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっており、ボラなど回遊魚にとっても餌場などとして利用されているものと考えられる。

(3) 泉大津沖処分場

今回の調査では遊泳魚類としてクジメ、スズキ、キジハタ、メジナ、クロダイ、ウミタナゴ、スズメダイ、ホシササノハベラ、キュウセン、メバル、カサゴ、アイナメの計 12 種が確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類の殆どは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっているものと考えられる。

4-3 水質等の状況

(1) 神戸沖処分場

表 4-13 に神戸沖処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

地点A-2において他の2地点より透明度が低くなっていたが、各地点において水温、塩分、溶存酸素（ＤＯ）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。相対光量が1%以下になる水深は8～11mであり、概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

平成 22 年、平成 24 年と比較すると、今回の調査では各地点とも最高水温がやや高くなっていたが、大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-13　水質等調査結果の概要（神戸沖処分場）

調査地点	地点	調査年度	透明度	水温 (℃)	塩分 (-)	相対光量 (%)	DO (mg/ml)
神戸沖	A-2	平成22年5月30日	3.0	15.7 ～ 17.6	27.1 ～ 32.1	0.1 ～ 62.5	4.6 ～ 10.6
		平成24年5月26日	4.1	15.4 ～ 19.4	25.8 ～ 32.2	0.1 ～ 29.8	3.4 ～ 10.7
		平成26年6月1日	1.8	16.0 ～ 22.0	24.1 ～ 32.2	0.0 ～ 100.0	3.8 ～ 11.7
	A-4	平成22年5月30日	2.8	15.8 ～ 17.3	27.6 ～ 32.1	0.1 ～ 73.3	4.7 ～ 11..2
		平成24年5月26日	3.8	15.6 ～ 19.0	25.5 ～ 32.1	0.1 ～ 31.8	3.6 ～ 10.3
		平成26年6月1日	3.0	16.5 ～ 24.5	25.5 ～ 32.2	0.0 ～ 100.0	4.3 ～ 11.6
	A-5	平成22年5月30日	2.3	16.1 ～ 16.8	29.1 ～ 31.8	0.1 ～ 59.8	5.5 ～ 10.3
		平成24年5月26日	3.5	15.7 ～ 18.2	23.4 ～ 32.1	0.1 ～ 73.5	5.1 ～ 9.6
		平成26年6月1日	5.5	16.8 ～ 21.5	29.4 ～ 32.2	0.0 ～ 100.0	4.7 ～ 9.2

(2) 大阪沖処分場

表 4-14 に大阪沖処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（ＤＯ）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。相対光量が 1%以下となる水深は 6～7m であり、海藻類の生育水深帯より浅い水深で 1%以下となっていた。

平成22年、平成24年と比較すると、今回の調査では各地点とも透明度がやや低く、最高水温がやや高くなっていたが、その他に大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-14　水質等調査結果の概要（大阪沖処分場）

調査地点	地点	調査年度	透明度	水温 (℃)	塩分 (-)	相対光量 (%)	DO (mg/ml)
大阪沖	C-1	平成22年5月29日	3.6	15.8 ～ 16.5	27.2 ～ 32.1	0.3 ～ 72.1	4.8 ～ 7.2
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ～ 20.4	24.3 ～ 32.2	0.1 ～ 40.6	5.5 ～ 13.5
		平成26年5月31日	2.3	16.3 ～ 23.2	26.2 ～ 32.2	0.0 ～ 100.0	3.9 ～ 11.6
	C-2	平成22年5月29日	3.3	16.2 ～ 16.6	28.5 ～ 32.0	0.4 ～ 66.5	5.6 ～ 8.0
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ～ 19.4	17.3 ～ 32.4	0.1 ～ 61.7	5.2 ～ 10.9
		平成26年5月31日	2.5	16.5 ～ 24.5	26.5 ～ 32.0	0.2 ～ 100.0	5.0 ～ 12.4
	C-3	平成22年5月29日	5.3	16.0 ～ 19.0	22.4 ～ 32.1	0.1 ～ 59.9	5.3 ～ 8.6
		平成24年6月3日	5.5	16.7 ～ 18.7	30.1 ～ 32.2	0.5 ～ 67.2	6.4 ～ 9.1
		平成26年5月31日	2.5	16.1 ～ 24.4	26.8 ～ 32.2	0.0 ～ 100.0	3.4 ～ 12.6

(3) 泉大津沖処分場

表 4-15 に泉大津沖処分場における水質等の調査結果の概要を示した。溶存酸素（ＤＯ）において、地点 D-5 でやや低い値がみられたが、透明度、水温、塩分、相対光量、溶存酸素（ＤＯ）に地点間での大きな傾向の違いはみられなかった。相対光量が 1%以下になる水深は 9～11m 以下であり、概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

表 4-15　水質等調査結果の概要（泉大津沖処分場）

調査地点	地点	調査年度	透明度	水温 (℃)	塩分 (-)	相対光量 (%)	DO (mg/ml)
泉大津沖	D-2	平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	0.4 ～ 100.0	3.2 ～ 12.5
	D-5	平成26年6月2日	3.2	16.5 ～ 21.9	30.2 ～ 32.0	1.6 ～ 100.0	2.6 ～ 9.4
	D-6	平成26年6月2日	2.5	17.3 ～ 25.8	25.5 ～ 31.6	0.1 ～ 100.0	3.4 ～ 11.3

4-4 藻場分布の状況

(1) 神戸沖処分場

付着動植物調査、代表地点（10 点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、タマハハキモク等からなる藻場の分布が確認された。

表 4-16 に確認された藻場構成種ごとに過年度調査からの変化状況について整理した。前回と比較してワカメなどの藻場が拡大する傾向がみられた。確認された多年生のヨレモクモドキは前回と同様に僅かであった。マクサ、フダラクなどの紅藻で増加の傾向がみられた。

表 4-16　確認された藻場構成種と分布状況の変化　神戸沖処分場

区　分	種　　類	分布域の変化	被度の変化（生育密度）	備　　考
藻場構成種	ワカメ	徐々に増加	前回より増加	南護岸、東護岸で確認
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H21 年のみ南護岸で確認
	シダモク	減少傾向	前回と同程度	東護岸で減少、西護岸で増加
	タマハハキモク	前回と同程度	前回よりやや減少	東護岸で被度がやや減少
	ヒジキ	今回未確認	今回未確認	H21 年のみ西護岸の 1 箇所で確認
	ヨレモクモドキ	前回と同程度	前回と同程度	南護岸の 2 箇所で確認
その他主要海藻	アオサ属	前回と同程度	前回より減少	特に西護岸で被度が減少傾向
	マクサ	前回よりやや増加	前回と同程度	南護岸、西護岸でやや増加
	ススカケベニ	前回より減少	前回と同程度	南護岸では確認されなかった
	フダラク	前回より増加	前回と同程度	東護岸、西護岸で増加
	ベニスナゴ	前回と同程度	前回より減少	特に東護岸で被度が減少傾向
	カバノリ	前回よりやや減少	前回よりやや減少	東護岸で減少傾向
	ツルツル	前回より減少	前回より減少	東護岸、西護岸で確認

※：カジメ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）

図 4-1　神戸沖処分場　護岸配置

(2) 大阪沖処分場

付着動植物調査、代表地点（10 点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、タマハハキモクからなる藻場の分布が確認された。

表 4-17 に確認された藻場構成種ごとに過年度調査からの変化状況について整理した。前回と比較してワカメ、シダモク、タマハハキモクの分布域が拡大する傾向がみられた。また、ススカケベニ、カバノリなどの海藻で増加傾向がみられた。

表 4-17　確認された藻場構成種と分布状況の変化　大阪沖処分場

区　分	種　　類	分布域の変化	被度の変化（生育密度）	備　　考
藻場構成種	ワカメ	前回より増加	前回より増加	北護岸、西護岸で大きく増加
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H22、H24 にわずかに確認
	シダモク	前回よりやや増加	前回と同程度	北護岸、西護岸で増加傾向
	アカモク	今回未確認	今回未確認	H21～H24 にかけて減少傾向にあった
	タマハハキモク	前回より増加	前回より増加	北護岸で大きく増加
	ヨレモクモドキ	今回未確認	今回未確認	H22 に 1 箇所でのみ確認
その他主要海藻	アオサ属	前回より減少	前回と同程度	南護岸で減少傾向が大きい
	ススカケベニ	前回より増加	前回と同程度	北護岸で増加傾向が大きい
	フダラク	前回と同程度	前回と同程度	南護岸で被度が若干減少
	ベニスナゴ	前回と同程度	前回と同程度	分布、密度ともに前回と同程度
	カバノリ	前回より増加	前回より増加	前回は未確認であった
	マクサ	今回未確認	今回未確認	H24 に初確認
	ツルツル	前回より減少	前回より減少	特に南護岸、西護岸で減少

※：カジメ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）

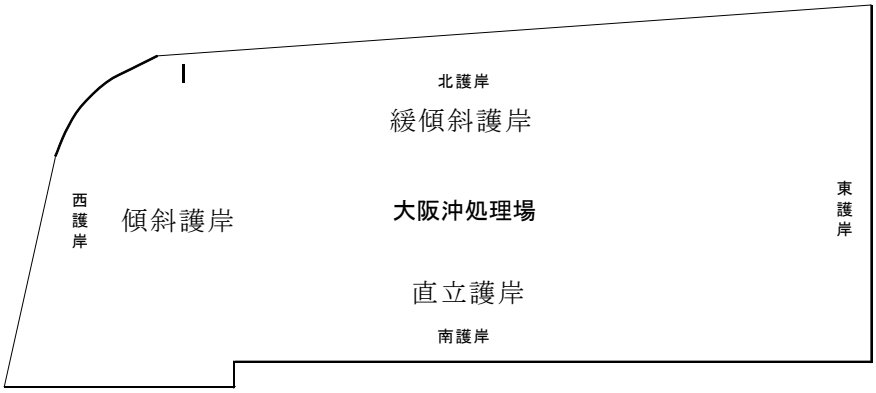


図 4-2　大阪沖処分場　護岸配置

4-5 まとめ(要約)

フェニックス埋立処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として、神戸沖処分場・大阪沖処分場において、坪刈りと目視による付着動植物調査、遊泳魚類調査、水質調査、藻場分布調査を平成 26 年春季に実施した。

4-5-1 神戸沖処分場

神戸沖処分場護岸では、付着植物（海藻）として平均水面付近では緑藻のアオサ属が多くみられ、藻場構成種となる大型褐藻では-3～-4m でワカメ、シダモク、-2～-5m でタマハハキモクが確認された。この他、-1～-3m 付近の緩傾斜および傾斜護岸ではフダラク、カバノリなどの紅藻が多くみられ、-4m 以深ではマクサ、カバノリなどの紅藻が多くみられた。

付着動物は平均水面より上部では移動性の貝類であるアラレタマキビやタマキビが多く確認された。平均水面付近では固着性の貝類であるムラサキイガイ、移動性の貝類であるカラマツガイ、固着性のイワフジツボなど多様な生物が多くみられた。-1～-3m では、ムラサキイガイや固着性のカンザシゴカイ科が多くみられた。-4m 以深ではカンザシゴカイ科や移動性のキヒトデが多くみられた。

魚類ではカサゴ、メバル、スズメダイ、ホシササノハベラなどの定住性の魚類が各護岸の-2～-11m 付近で確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸が設置されている水深帯 10～11m 以浅では何れも 5mg/L 前後であり、海藻類の生育制限因子となる光量については護岸上の 8m 以浅の水深帯では相対光量が 1.0%以上となっていた。また、河川の影響等による塩分の低下もみられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、タマハハキモク、多年生のヨレモクモドキの分布が確認された。藻場としては一年生のタマハハキモクが緩傾斜護岸の東護岸を中心に最も広範囲で確認され、傾斜護岸の南護岸では一年生のワカメが増加している状況が確認された。多年生のヨレモクモドキは南護岸で僅かにみられたのみで、増加は確認されなかった。

4-5-2 大阪沖処分場

大阪沖処分場護岸では、付着植物（海藻）として平均水面付近では緑藻のアオサ属が多くみられ、藻場構成種となる大型褐藻類では-1～-6m でワカメ、タマハハキモク、シダモクが確認された。この他、-1～-3m 付近の緩傾斜および傾斜護岸や直立護岸ではフダラクなどの紅藻類が多く、-4m 以深ではサビ亜科、ベニスナゴなどの紅藻類が多くみられた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の貝類であるアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近では固着性貝類のムラサキイガイ、移動性の貝類であるキクノハナガイなどの貝類の他、固着性のイワフジツボなど多様な生物が多くみられた。-1～-3m のケーソンや護岸ブロック表面ではムラサキイガイや移動性の貝類であるレイシガイ、固着性のカンザシゴカイ科などが多くみられた。

魚類ではスズメダイ、キュウセン、アイナメ、メバルなどの定住性の魚類が各護岸の-2～-7m 付近で多く確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸が設置されている水深 10m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、海藻類の生育制限因子となる光量については護岸上の 5m 以浅の水深帯で相対光量が 1.0%以上となっていた。また、河川の影響等による塩分の低下もみられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、タマハハキモクの分布が確認された。藻場としては一年生のワカメ、シダモク、タマハハキモクが各護岸で広範囲に確認され、前回調査と比較して分布域の増加傾向がみられた。

4-5-3 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場護岸では、付着植物（海藻）として平均水面付近では緑藻のアオサ属やシオグサ属、藍藻網が多くみられ、藻場構成種となる大型褐藻では-1～-5m でワカメが確認された。この他、-1～-3m 付近の緩傾斜および傾斜護岸や護岸ブロックではタオヤギソウなどの紅藻が多くみられ、-4m 以深ではタオヤギソウ、ススカケベニ、などの紅藻が多くみられた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の貝類であるアラレタマキビが多く確認された。平均水面付近では固着性の貝類であるムラサキイガイ、移動性の貝類であるイボニシなどが多く確認された。-1～-3m のケーソンや護岸ブロック表面ではムラサキイガイや固着性のカンザシゴカイ科、苔虫綱や移動性のキヒトデが多くみられ、-4m 以深では、苔虫綱や固着性のアミコケムシ科などが多くみられた。遊水室内では、移動性の巻貝であるレイシガイ、移動性のイトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなどが多くみられた。

魚類ではカサゴやメバル、スズメダイなどの定住性の魚類が各護岸の-2～-11m 付近及び遊水室内で多く確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸が設置されている水深 10m 以浅では何れも 3mg/L 以上であり、海藻類の生育制限因子となる光量について、護岸上の 8m 以浅の水深帯において相対光量が 1.0%以上となっていた。また、河川の影響等による塩分の低下みられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。